FUJIFILM

Apeos™

リファレンスガイド

操作編

Apeos C7070　Apeos C6570
Apeos C5570　Apeos C4570
Apeos C3570　Apeos C3070
Apeos C2570

2026年9月 GM1047J1-8 第1版
©富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

1 はじめに

タッチパネルディスプレイで操作できるさまざまな機能（コピー、ファクス、スキャンなど）について記載しています。

なお、このマニュアルでは、すべてのオプション装置、オプション商品が取り付けられている状態の画面で説明しています。

補足

- 本機の設定値は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

参照

- 機械管理者モードへのログインについては、「認証モードへのログイン」(P.34) を参照してください。
- インターネットサービスについては、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

- このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

商標やマニュアルの表記については、『リファレンスガイド 本体編』を参照してください。

1.1 最新ソフトウェアの入手

プリンタードライバー、ファクスドライバー、スキャナードライバー、ユーティリティーなどの、最新版のソフトウェアは、弊社公式サイトから入手できます。

https://www.fujifilm.com/fb/ja/support

2 セットアップ

2.1 機械管理者情報の変更

設定変更の抑止やセキュリティ確保のために、機械管理者のユーザー ID とパスワードの変更をおすすめします。

参照

- 機械管理者のユーザー ID とパスワードの初期値は『取扱説明書』を参照してください。
- 設定方法については、「[機械管理者情報の設定]」(P.222) を参照してください。

2.2 インターネットサービスの利用

インターネットサービスは、Web ブラウザーを使用して、本機の状態やジョブの履歴を表示したり、設定を変更したりするためのサービスです。

TCP/IP 環境で、本機とネットワーク接続されたクライアントコンピューターで使用できます。

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力して、< Enter >キーを押します。

補足

- ネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使用して本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を設定する場合は、IP アドレス、またはインターネットアドレスのあとの「:」に続けて、ポート番号を入力してください。

参照

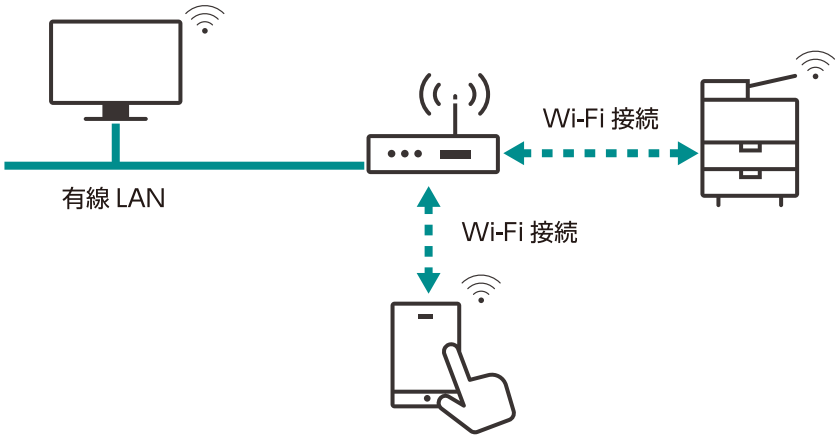
- IP アドレスについては、「[インターネットサービスの接続先]」(P.43) を参照してください。
- 操作方法については、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

2.3　無線ネットワークの利用

無線 LAN を利用してネットワークに接続するときは、本機に無線キットを取り付けます。
無線 LAN の設定は、機械管理者へのログインが必要です。

Wi-Fi

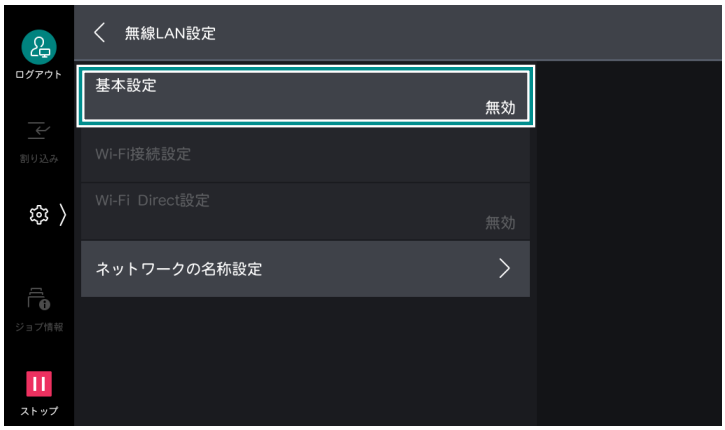
本機とモバイル機器を無線 LAN アクセスポイント経由で接続します。



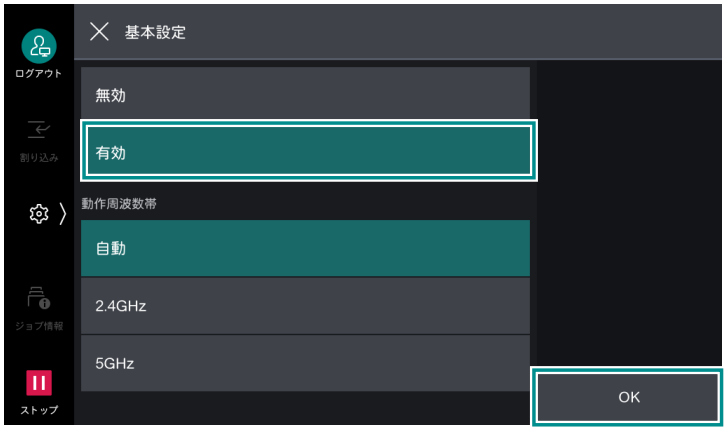
Wi-Fi 接続の設定

1. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［無線 LAN 設定］をタップします。

2. ［基本設定］をタップします。



3. ［有効］＞［OK］をタップします。



補足

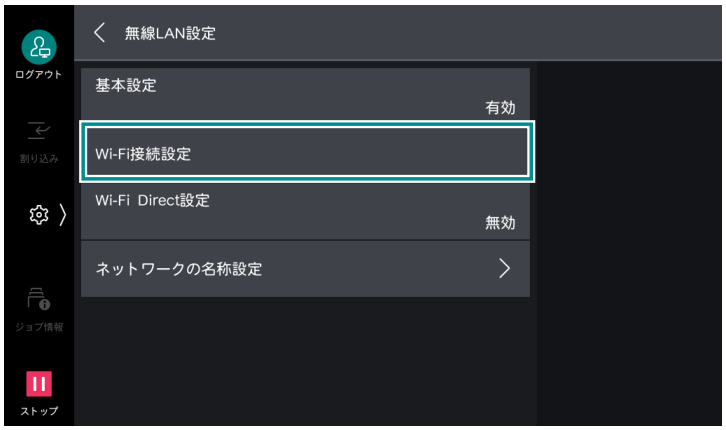
- RADIUS サーバー認証（IEEE802.1X 認証）を使用する無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、インターネットサービスで証明書を設定する必要があります。

4. ［確認］をタップします。

本機が再起動します。

5. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［無線 LAN 設定］をタップします。

6. ［Wi-Fi 接続設定］をタップします。



7. 次のどれかの方法で、無線ネットワークに接続します。

- 「一覧から選択」(P.6)
- 「手動設定」(P.7)
- 「WPS（プッシュボタン）」(P.7)
- 「WPS（PIN コード）」(P.8)

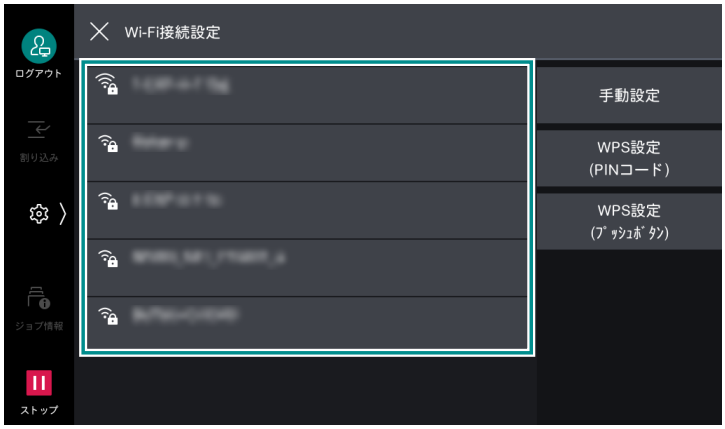
補足

- 無線 LAN アクセスポイントの SSID と、認証情報（WEP キー、パスフレーズなど）が必要になります。

一覧から選択

1. 接続するアクセスポイントをタップします。

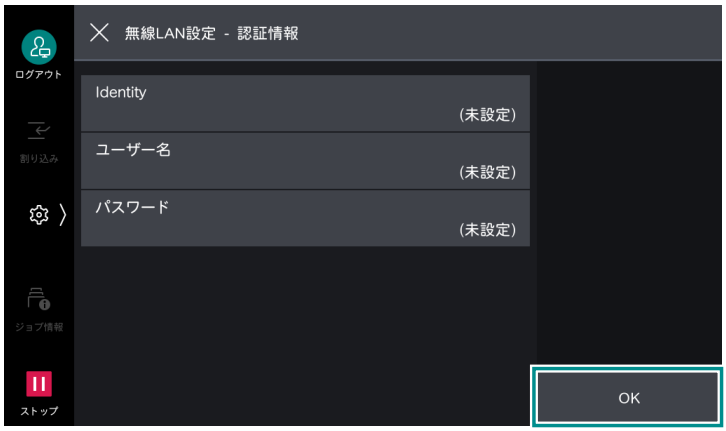
アクセスポイントにセキュリティが設定されていない場合は、これで完了です。
アクセスポイントにセキュリティが設定されている場合は、手順 2 に進みます。



補足

- 一覧に表示される無線 LAN アクセスポイントは、電波が強いものから順に 5 台までです。
- ほかのアクセスポイントと接続中の場合は、接続解除の確認画面が表示されます。

2. 必要な情報を入力して、[OK] をタップします。



3. 設定が更新されたことを確認して、[確認] をタップします。

本機が再起動して、設定が有効になります。

手動設定

1. **［手動設定］をタップします。**

2. **各項目を設定して、［OK］をタップします。**

設定項目	設定内容
［SSID］	無線ネットワークを識別する名前を設定します。32 文字以内の英数字を入力できます。
［暗号化設定］	暗号化の方式を設定します。 **補足** • 「［セキュリティーレベル］」(P.208) を［高（推奨）］に設定した場合、［WEP］/［WPA/WPA2 Personal］/［WPA/WPA2 Enterprise］は表示されません。
［暗号化なし］	暗号化を設定しません。
［WEP］	WEP キーは、4 つまで登録できます。［送信キー］で、その中から使用する WEP キーを選択します。
［WPA3 Personal］	パスフレーズを設定します。
［WPA2/WPA3 Personal］	
［WPA2 Personal］	
［WPA/WPA2 Personal］	
［WPA2/WPA3 Enterprise］	認証方式を設定します。 PEAP を選択した場合は、さらに［Identity］、［ユーザー名］、［パスワード］を設定します。 EAP を使用する場合は、インターネットサービスで証明書を設定したり、認証方式の詳細設定をしたりする必要があります。
［WPA3 Enterprise］	
［WPA2 Enterprise］	
［WPA/WPA2 Enterprise］	

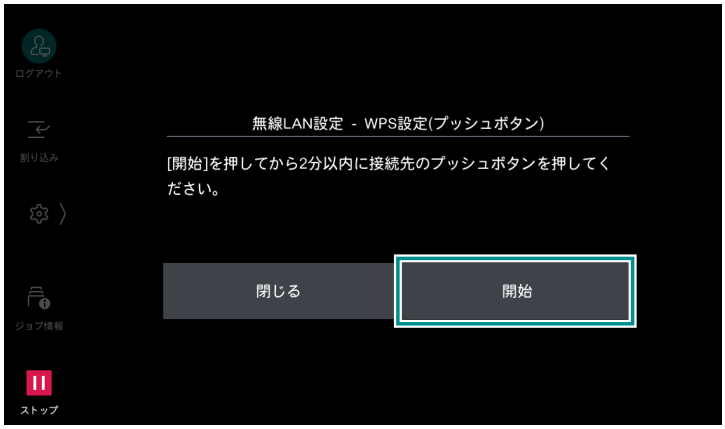
3. **設定が更新されたことを確認して、［確認］をタップします。**

本機が再起動して、設定が有効になります。

WPS（プッシュボタン）

1. **［WPS 設定（プッシュボタン）］をタップします。**

2. **［開始］をタップしてから 2 分以内に、無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押します。**



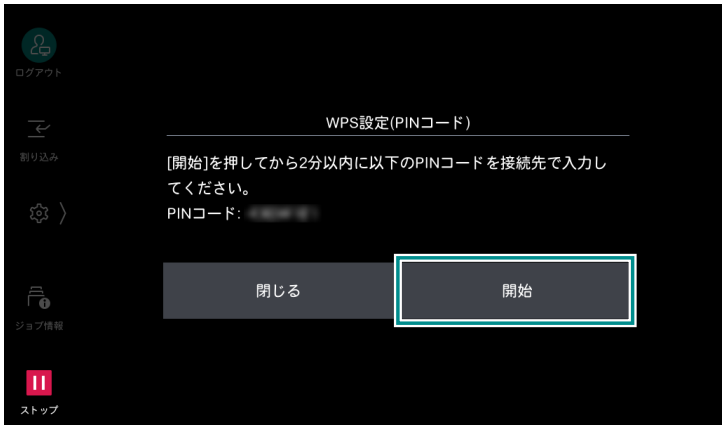
3. **本機の画面で設定が更新されたことを確認して、［確認］をタップします。**

本機が再起動して、設定が有効になります。

WPS（PIN コード）

1. **［WPS 設定（PIN コード）］をタップします。**

2. **［開始］をタップしてから 2 分以内に、表示された PIN コードを無線 LAN アクセスポイントに入力します。**



3. **本機の画面で設定が更新されたことを確認して、［確認］をタップします。**

本機が再起動して、設定が有効になります。

インターネットサービスを使用しての接続

本機の Wi-Fi 接続では、IEEE802.1X 認証を使用できます。IEEE802.1X 認証方式を使用する場合は、認証局に証明書の発行を依頼して、発行された証明書をインターネットサービスで本機にインポートします。

証明書	EAP-TLS	EAP-TTLS	PEAP
CA 証明書	必須	必須	任意 *1
クライアント証明書	必須	-	-

*1 :サーバー証明書を検証する場合に必要です。

補足

- インターネットサービスで証明書をインポートするには、HTTP の通信を暗号化する必要があります。

証明書の規格

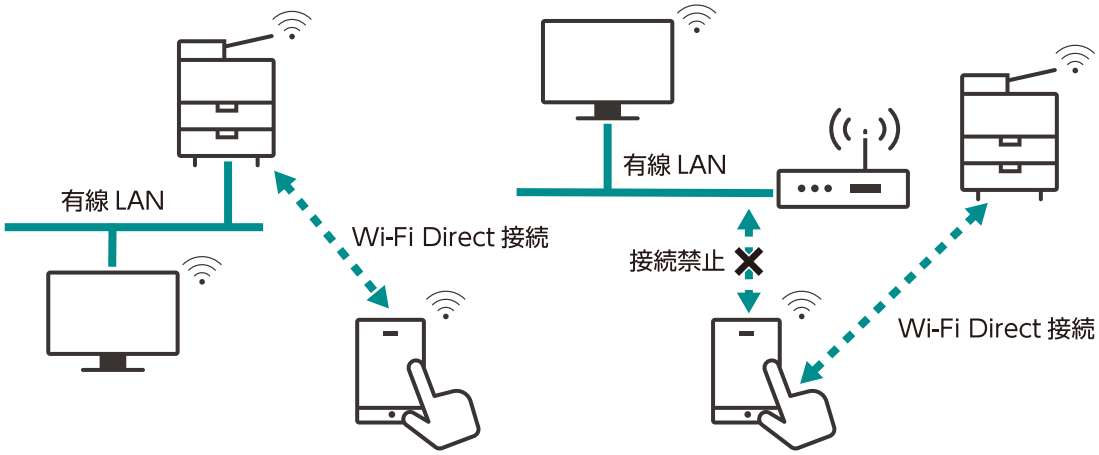
- X.509 証明書 （DER/PEM） （ルート CA 証明書）
- PKCS#7 （DER） （ルート CA 証明書）
- PKCS#12 （DER） （デバイス証明書（＝クライアント証明書）/ ルート CA 証明書）

参照

- 証明書の種類については、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

Wi-Fi Direct

無線 LAN アクセスポイントを経由せず、本機とモバイル機器を直接接続します。



補足

- Wi-Fi Direct は、IPv6 環境では使用できません。
- Wi-Fi Direct では、同時に 5 台まで接続できます。

Wi-Fi Direct 接続の設定

補足

- インターネットサービスを使用して設定することもできます。

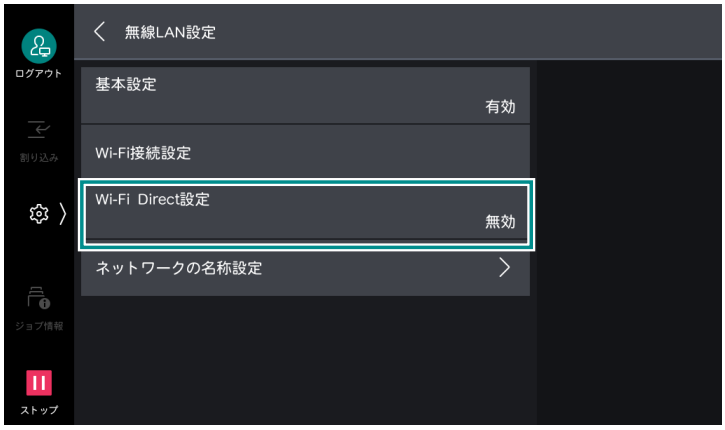
1. **無線 LAN 設定を有効にします。**

参照

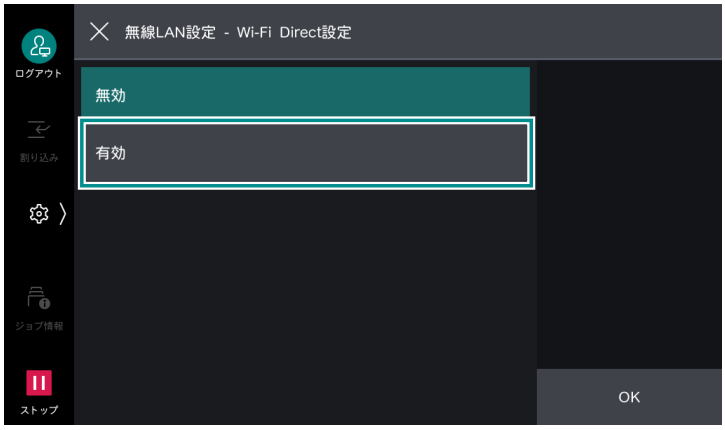
- 「Wi-Fi 接続の設定」(P.4) の手順 1 ～ 4 を参照してください。

2. **⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［無線 LAN 設定］をタップします。**

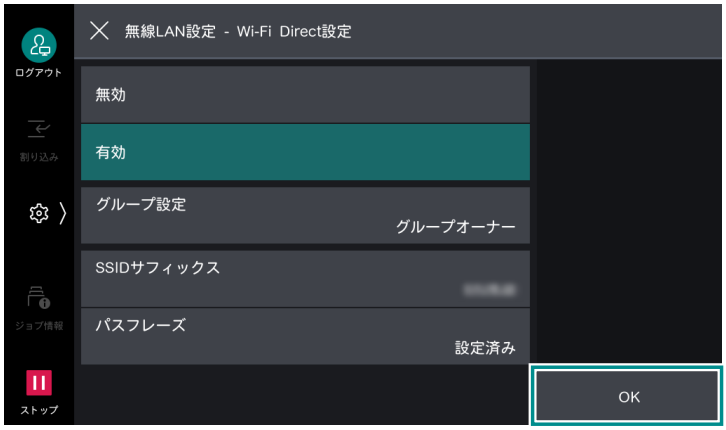
3. ［Wi-Fi Direct 設定］をタップします。



4. ［有効］をタップします。



5. 各項目を設定して、［OK］をタップします。



グループ設定

設定項目	設定内容
［自動］	本機をグループオーナーに固定しない場合に選択します。
［デバイス名］	Wi-Fi Direct ネットワークで識別する本機の名前を、32 文字以内の英数字で入力します。モバイル機器から接続先を選択するときは、ここで設定した名前が表示されます。

設定項目	設定内容
[グループオーナー]	本機を Wi-Fi ネットワークのグループオーナーに設定します。グループオーナーに設定すると、無線 LAN アクセスポイントと同様に、モバイル機器から本機を検出できます。
[SSID サフィックス]	Wi-Fi Direct で識別するネットワークの名前を表示します。 「DIRECT-」に続く部分を 23 文字以内の英数字で入力できます。モバイル機器から接続先のネットワークを選択するときは、ここで設定した名前が表示されます。
[パスフレーズ]	パスフレーズとして 8 文字以上 63 文字以内の英数字を入力します。 モバイル機器から Wi-Fi Direct ネットワークに接続するときは、ここに表示されるパスフレーズを入力します。

補足

- iOS 端末など、Wi-Fi Direct に対応していない機器を接続する場合は、[グループオーナー] に設定します。

モバイル機器の接続

自動接続（Android OS）

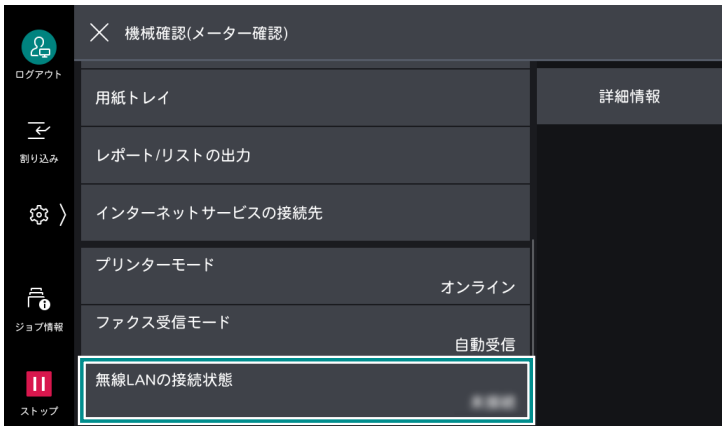
1. **モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を表示させ、Wi-Fi を有効にします。**
2. **[Wi-Fi Direct] を選択します。**
3. **一覧から本機を選択します。**
4. **本機に表示される画面で接続するモバイル機器名を確認して、[はい（開始する)] をタップします。**

手動接続（Android OS/iOS）

補足

- [Wi-Fi Direct 設定] の [グループ設定] が [グループオーナー] に設定されている必要があります。

1. **⚙ > [機械確認（メーター確認)] > [無線 LAN の接続状態] をタップします。**



2. ［Wi-Fi Direct 接続状況］の［SSID］と［パスフレーズ］を確認します。

3. モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を表示させ、Wi-Fi を有効にします。
4. 一覧から手順 2 で確認した本機の SSID を選択して、パスフレーズを入力します。

Wi-Fi Direct の切断

本機の画面

切断

1. ⚙ ＞［機械確認（メーター確認）］＞［無線 LAN の接続状態］をタップします。
2. ［Wi-Fi Direct 切断］をタップします。
   現在接続されているすべてのモバイル機器の接続が切断されます。

   補足
   - 切断したモバイル機器とは 30 秒間 Wi-Fi Direct 接続できません。

設定の解除

1. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［無線 LAN 設定］＞［Wi-Fi Direct 設定］をタップします。
2. ［SSID サフィックス］、または［パスフレーズ］を変更します。
   新しい SSID、パスフレーズで Wi-Fi Direct のグループが再構築されます。

モバイル機器の画面

切断

1. Wi-Fi 設定画面を表示させ、Wi-Fi の接続を解除します。

接続情報の削除

1. Wi-Fi 設定画面を表示させ、接続中の本機の SSID を選択します。
2. Wi-Fi 接続設定情報を削除します。

2.4　ファクス機能

設定するには、機械管理者モードへのログインが必要です。

電話回線を利用するファクス

本機に電話回線を正しく接続し、本機の操作パネルからファクスの初期設定をします。

- 自局情報
  ［自局名］と［発信元名］を入力します。詳しくは、「［自局情報］」(P.170) を参照してください。

インターネットファクス

○：設定が必要、×：設定不要、△：必要に応じて設定

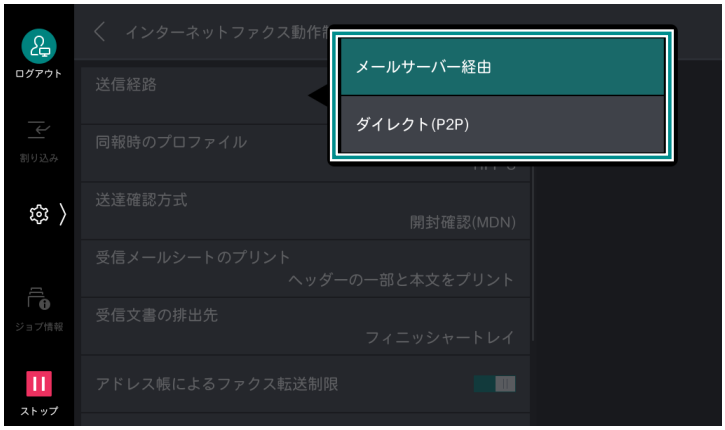
設定項目	インターネットファクス	インターネットファクスダイレクト
TCP/IP アドレス	○	○
送信経路	○	○
メールポート	○	○
サブネットマスク	△	△
ゲートウェイ	△	△
DNS サーバー	△	△
本体メールアドレス	○	○
メール受信プロトコル	○	○
POP3 サーバー	△	×
POP3 ログイン名 / パスワード	△	×
SMTP サーバー	○	×
SMTP AUTH ログイン名 / パスワード	△	×

1. ⚙ ＞［設定］をタップします。

2. 送信経路を設定します。

1) ［アプリ設定］＞［インターネットファクス設定］＞［インターネットファクス動作制御］をタップします。

2) ［送信経路］で、インターネットファクスの場合は［メールサーバー経由］をタップ、インターネットファクスダイレクトの場合は、［ダイレクト（P2P)］をタップします。



3. メールポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］＞［ポート設定］をタップします。

2) ［メール受信］＞［メール受信 - ポート］をタップします。

3) ［起動］をタップします。

4) ［<］をタップします。

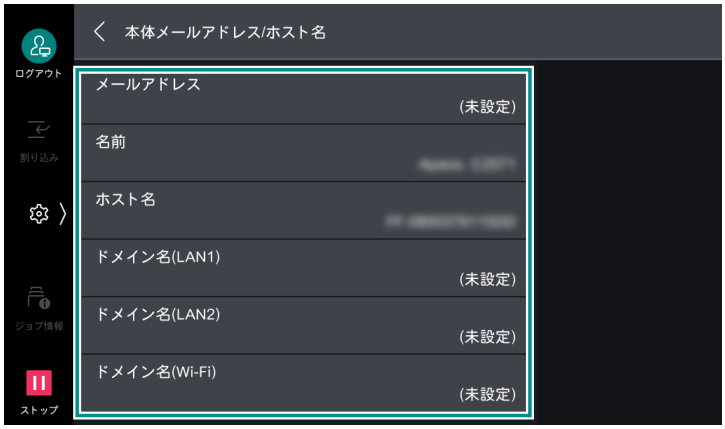
5) ［メール送信］＞［メール送信 - ポート］をタップします。

6) ［起動］をタップします。

4. 本機のメールアドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］＞［本体メールアドレス / ホスト名］をタップします。

2) 各項目を設定します。



参照

- 「[本体メールアドレス / ホスト名]」(P.195) を参照してください。

5. 受信プロトコルを設定します。

1) ［ネットワーク設定］＞［その他の設定］＞［メール受信プロトコル］をタップします。

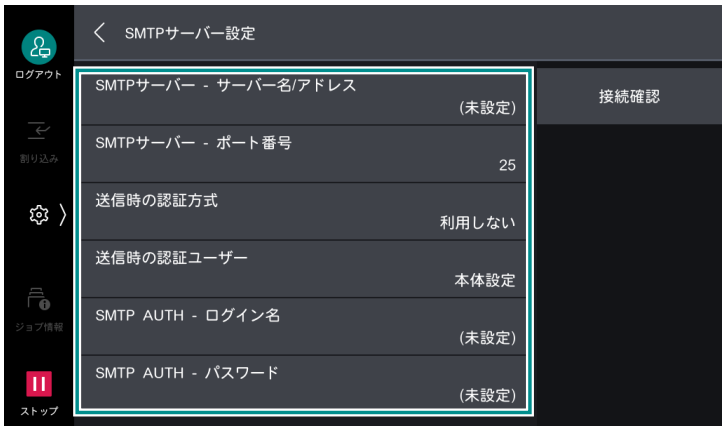
2) ［SMTP］、または［POP3］をタップします。

6. 受信と送信の設定をします。

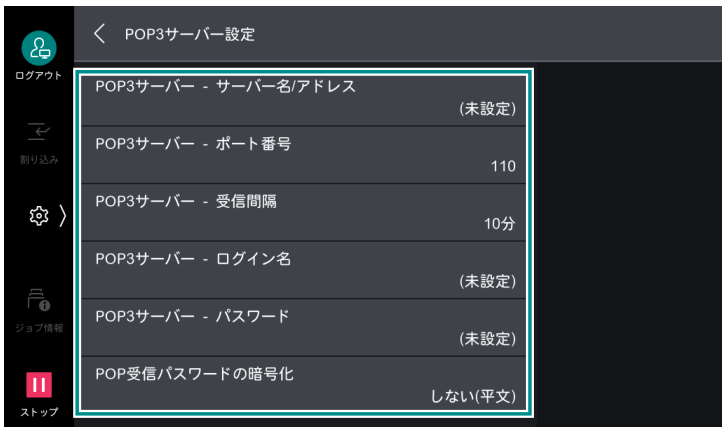
1) ［ネットワーク設定］＞［メール送受信設定］をタップします。

2) SMTP サーバー、または POP3 サーバーの設定をします。

SMTP



POP3



参照

- 「[メール送受信設定]」(P.201) を参照してください。

IP ファクス（SIP）

- TCP/IP アドレス
  「[プロトコル設定]」(P.191) を参照してください。
- SIP ポート
  ［SIP - ポート］を［起動］に設定します。詳しくは、「[SIP]」(P.185) を参照してください。
- SIP 本体アドレス
  ［SIP 本体アドレス］を設定します。詳しくは、「[SIP 設定]」(P.199) を参照してください。
- 自局情報
  ［自局名］と［発信元名］を入力します。詳しくは、「[自局情報]」(P.170) を参照してください。
- SIP サーバー（必要に応じて設定）
  ［SIP サーバーの使用］、［SIP サーバーアドレス取得方法］、［SIP プロキシサーバー設定］、［SIP レジストラサーバー設定］を設定します。詳しくは、「[SIP 設定]」(P.199) を参照してください。
- VoIP ゲートウェイ（必要に応じて設定）
  ［VoIP ゲートウェイ登録］で設定します。詳しくは、「[SIP 設定]」(P.199) を参照してください。

NGN の設定

補足

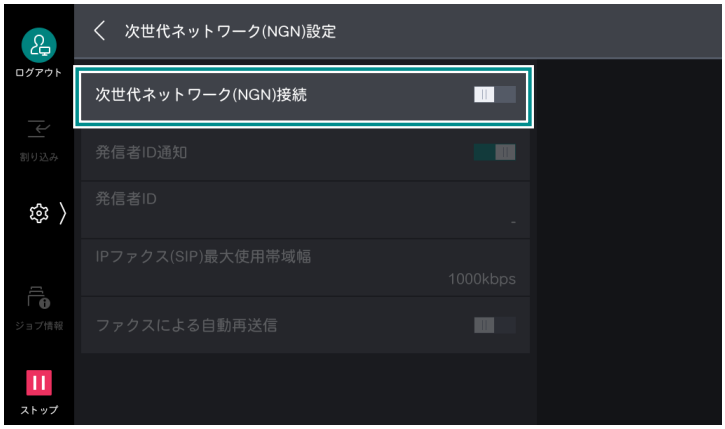
- NTT と NGN 契約が必要です。

利用するには、IP ファクス（SIP）の設定のほかに、次の設定が必要です。

- 次世代ネットワーク（NGN）接続
- 発信者 ID 通知（必要に応じて設定）
- 最大使用帯域幅
- 自動再送信（必要に応じて設定）

1. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［次世代ネットワーク（NGN）設定］をタップします。

2. ［次世代ネットワーク（NGN）接続］をタップして、有効にします。



3. ［発信者 ID 通知］を利用する場合は、タップして有効にします。

4. ［IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅］をタップし、最大使用帯域幅を入力して［OK］をタップします。

補足

- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して設定してください。

5. ［ファクスによる自動再送信］を利用する場合は、タップして有効にします。

2.5 スキャン機能

設定するには、機械管理者モードへのログインが必要です。

ボックス保存

- TCP/IP アドレス
  「［プロトコル設定］」(P.191) を参照してください。
- ポートの起動
  ［SNMP］、［SOAP］、［WebDAV］それぞれのポートを［起動］に設定します。詳しくは、「［ポート設定］」(P.181) を参照してください。
- ボックスの登録
  「ボックスの登録」(P.110) を参照してください。

スキャン送信（PC 保存）

- TCP/IP アドレス
  「[プロトコル設定]」(P.191) を参照してください。
- ポートの起動
  [FTP クライアント]、[SFTP クライアント]、[SMB クライアント］それぞれのポートを［起動］に設定します。詳しくは、「[ポート設定]」(P.181) を参照してください。
- 転送先フォルダーの作成
  - FTP/SFTP 転送
    ログインするサーバーに転送先のフォルダーを作成して、書き込み権限を設定します。
  - SMB 転送
    クライアントコンピューターにフォルダーを作成して、共有フォルダーに設定します。共有フォルダーに書き込み権限を設定します。

補足

- FTP/SFTP 転送を使用するには、サーバーのアカウント（ログイン名とパスワード）が必要です。
- macOS で SMB を使用する場合は、［システム設定］＞［一般］＞［共有］＞［ファイル共有］を設定する必要があります。

スキャン送信（メール送信）

「メール機能」(P.18) を参照してください。

マイフォルダー保存

「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を［外部認証 / 集計］に設定しているときに利用できます。

補足

- 弊社商品（別売）を外部認証先として使用する場合は、［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞「[認証システムの設定]」(P.203) で［Authentication Agent］を選択してください。

- TCP/IP アドレス
  「[プロトコル設定]」(P.191) を参照してください。
- ポートの起動
  [SMB クライアント］のポートを［起動］に設定します。詳しくは、「[ポート設定]」(P.181) を参照してください。
- サービス開始と転送方法の設定
  インターネットサービスを使用して、マイフォルダー機能を設定します。

USB 保存

インターネットサービスを使用して、USB 保存機能の有効 / 無効を切り替えます。

無効に設定すると、ホーム画面の［USB］に［USB 保存］が表示されなくなるか、［USB］の代わりに［文書プリント］が表示されます。

WSD スキャン

補足

- Windows Server では、初期設定のままではスキャン機能を使用できません。

- TCP/IP アドレス
  「[プロトコル設定]」(P.191) を参照してください。
- ポートの起動
  [WSD］のポートを［起動］に設定します。詳しくは、「[ポート設定]」(P.181) を参照してください。

2.6 メール機能

設定するには、機械管理者モードへのログインが必要です。

設定項目	参照先
TCP/IP アドレス	「[プロトコル設定]」(P.191)
メールポート	「[メール受信]」(P.186) 「[メール送信]」(P.186) 「[メール通知サービス]」(P.187)
本体メールアドレス	「[本体メールアドレス / ホスト名]」(P.195)
メール受信プロトコル	「[その他の設定]」(P.215) > [メール受信プロトコル]
SMTP サーバーアドレス（必要に応じて設定）	「[メール送受信設定]」(P.201)
SMTP AUTH ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）	
POP3 サーバーアドレス（必要に応じて設定）	
POP3 ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）	
サブネットマスク（必要に応じて設定）	「[TCP/IP - ネットワーク設定]」(P.193)
ゲートウェイアドレス（必要に応じて設定）	
DNS サーバーアドレス（必要に応じて設定）	
S/MIME（必要に応じて設定）	「[S/MIME 設定]」(P.209)

補足

- S/MIME で暗号化したり、デジタル署名をつけたりしてメールを送受信するには、あらかじめ証明書が必要です。

2.7 用紙トレイの設定

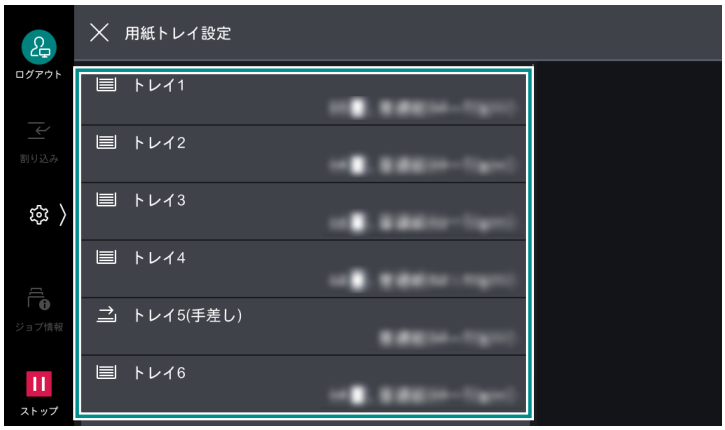
用紙トレイに用紙をセットしたら、セットした用紙サイズ、用紙の種類、用紙の色などを設定します。

参照

- 用紙のセット方法については、『リファレンスガイド 本体編』の「本機の基本操作」を参照してください。

1. ⚙ > [設定] > [用紙トレイ設定] をタップします。

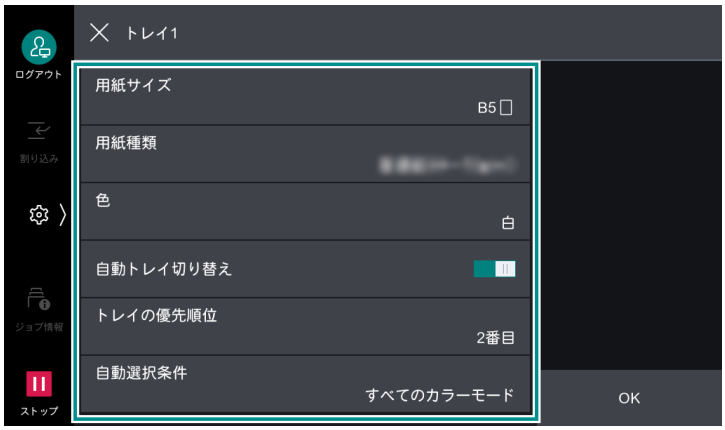
2. 用紙設定を変更するトレイをタップします。



参照

- 機械管理者モードで表示される［共通設定］については、「[共通設定]」(P.130) を参照してください。

3. 必要に応じて、各項目を設定します。



項目	設定内容
[封筒トレイ]	封筒 / はがきトレイを使用するときに有効にします。この項目は、[封筒トレイの使用] を有効にすると表示されます。詳しくは、「[その他の設定]」(P.146) を参照してください。
[用紙サイズ]	[自動サイズ検知]：用紙サイズを機械が特定します。 [サイズ入力]：使用する用紙サイズを入力します。
[用紙種類]	用紙の種類を設定します。
[色]	用紙の色を設定します。
[自動トレイ切り替え]	ユーザーが指定した用紙がセットされているとき、または使用中のトレイの用紙がジョブの途中でなくなったときに、自動的に本トレイを使用するかどうかを設定します。 補足 • 機械管理者モードで設定できます。
[トレイの優先順位]	[自動トレイ切り替え] が有効の場合、切り替え対象のトレイが複数あるときの本トレイの優先順位を設定します。 補足 • 機械管理者モードで設定できます。
[自動選択条件]	選択条件を設定します。 補足 • 機械管理者モードで設定できます。
[定形サイズボタン設定]	トレイ 5（手差し）を選択した場合、機能リストの［用紙選択］のトレイ 5 に表示される用紙サイズを設定します。 補足 • 機械管理者モードで設定できます。

4. [OK] をタップします。

2.8 IC カード登録

ユーザーが個人の IC カードとユーザー情報の関連付けを行うことができます。

IC カード登録を設定すると、本機のメニュー画面に［IC カード登録］が表示されます。

補足

- ユーザー ID とは異なるカード ID を使用しているユーザーだけが使用できます。
- 次の機能やサービスは本機能と併用できません。
  - 指静脈認証
  - 本体認証モード / 外部認証モード以外の運用を前提とするサービス
- 次のユーザー ID は、使用できません。
  - 半角スペースだけのユーザー ID
  - 「"」、「+」、「;」、「<」、「>」、「?」、「[」、「]」、「`」、「{」、「|」、「}」、「:」、「#」、「(」、「)」、「¥」、「,」、「*」、「/」、「=」の記号のうちどれかを含むユーザー ID
  - 「'」で始まるユーザー ID
- 一度登録したユーザーを、認証先を変えて再登録することはできません。

環境設定

IC カード登録を利用するための環境を設定します。

項目	設定内容
［ポート設定］	⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［SOAP］ • ［SOAP - ポート］：［起動］ • ［SOAP - ポート番号］：80
［プロトコル設定］	⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［プロトコル設定］＞［TCP/IP - ネットワーク設定］ • IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP 環境で本機を使用するための設定

認証モードが本体認証の場合は、999 人以内で IC カード情報を登録できます。外部認証の場合は、Active Directory サーバーの制限に依存します。

認証先として Active Directory を利用する場合は、Active Directory の管理者に次のことを確認してください。

- IC カード登録を利用するユーザーの認証情報が登録されていること。
- 認証方式が外部認証の場合は、IC カード登録を利用するユーザー自身に、書き込み許可の権限が設定されていること。

補足

- Active Directory サーバーを利用する場合は、Active Directory サーバーに保存された認証情報が本機に複製保存されます。

⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［集計管理］＞［認証 / 集計の設定］で［認証しない］、または［本体認証 / 集計］を設定します。認証方式が外部認証の場合、集計管理の設定は任意です。

また、⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］で次のように設定します。

項目	設定内容
［認証 / 集計の設定］	［本体認証 / 集計］、または［外部認証 / 集計］

項目		設定内容
[認証情報の設定]	[IC カードの使用]	[する]
	[IC カード認証時のユーザー登録]	[自動登録する] 補足 • 本体認証の場合に設定します。 • [サービスの利用制限] は仮登録ユーザーの利用を制限する場合に設定します。
	[IC カード連携モード]	[パスワード入力不要] 補足 • 外部認証の場合に設定します。

Active Directory サーバー設定

Active Directory サーバーの認証情報を使用する場合は、Active Directory サーバーの設定をしてください。

操作パネルの ⚙ > [設定] > [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定] で設定します。

- [認証用ユーザー名の属性]：ユーザー ID に使用されます。
- [メールアドレスの属性型]：メールアドレスに使用されます。

補足
- ユーザー名は、操作パネル、またはインターネットサービスでは設定できません。ActiveDirectory サーバーに設定されている「displayName」属性を取得し、ユーザー情報に設定します。

ユーザー登録

本機に登録されたユーザーが本機能を使用する場合は、操作パネル、または Device Setup（デバイス設定ツール）で、本機にユーザー情報（ユーザー ID、パスワード）を登録してください。

補足
- ユーザー本人に ID、パスワード、および認証先が [本体] であることを通知してください。

機械管理者情報の設定

IC カード登録に、機械管理者の情報を設定します。

補足
- 機械管理者 ID、機械管理者パスワードを変更した場合は、本機能の設定も変更してください。本機能が正常に動作しなくなります。

1. 本機の操作パネルから、機械管理者モードにログインします。

2. [IC カード登録] をタップします。

3. [機械管理者 ID]、[パスワード] に、機械管理者の ID とパスワードを入力して、[登録] をタップします。

4. 認証方式に応じて、次の操作をします。

認証方式が [本体認証] の場合

1) 運用する構成に合わせて、[認証先] を選択します。

2) [標準認証先] が表示される場合は、ユーザーが IC カード登録するときに標準で表示する認証先を選択します。

3) [IC カード ID の照合] を有効にします。

4) ［保存］をタップします。

認証方式が［外部認証］の場合

1) 本機で認証する場合に IC カード登録の画面を表示するときは、［外部認証時の IC カード登録］を有効にします。

2) ［保存］をタップします。

3) ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［認証に使用するカスタムサービス］で［IC カード登録］を選択します。

5. 本機を再起動します。

2.9 追加型アプリケーション更新

追加型アプリケーションと証明書を、自動、または手動で更新できます。

本機の設定

本機の機械管理者モードにログインし、次のように設定します。

項目	設定内容
［ポート設定］	⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［SOAP］ • ［SOAP - ポート］：［起動］ • ［SOAP - ポート番号］：80
［プラグイン設定］	⚙ ＞［設定］＞［システム設定］＞［プラグイン設定］ • ［組み込みプラグイン機能］：有効

自動更新を設定する

1. 本機の操作パネルで、機械管理者モードにログインします。
2. アプリ画面で［追加型アプリケーション更新］をタップします。
3. ［設定］をタップします。
4. 更新内容の重要度（A）ごとに、更新方法（B）を設定します。

補足

- 追加型アプリケーションのバージョンを固定して運用している場合は、すべての重要度を［自動更新しない］に設定してください。
- 追加型アプリケーションの更新内容に機能追加や変更が含まれる場合、設定や機能に影響が生じることがあります。
- 自動更新が実行される日程は、複合機のシリアル番号ごとに異なります。複数の複合機の追加型アプリケーションを同時に更新する場合は、手動更新を実行してください。

（A）更新内容の重要度

項目	説明
［緊急メンテナンス］	セキュリティ対策や動作安定化のためにすべてのお客様に適用いただきたい重要な更新です。
［重要な更新］	機能追加・変更を含む安定版の更新です。
［通常メンテナンス］	機能改善による安定版の更新です。

(B) 更新方法

項目	説明
[自動更新する]	自動更新で指定した曜日と時刻に新しいバージョンが確認できれば、更新を実行します。
[自動更新しない]	更新するためには、[手動更新] を実行する必要があります。

5. 自動更新の詳細を設定します。

項目	説明
[実施する曜日]	自動更新を実行する曜日を選択します。
[更新開始時刻]	自動更新の開始時刻を指定します。 補足 • 重要度ごとに設定を変更することはできません。 • 本機の電源が入っていない場合は、次回の更新日に更新されます。
[リトライの設定]	更新が失敗した場合の、リトライの動作について設定します。 補足 • 更新内容の重要度ごとに設定を変更することはできません。 • 本機を操作している場合、ジョブを実行している場合、またはそのほかのエラーが発生している場合に、更新が失敗します。 • [リトライ強制終了時刻] を設定すると、指定した時刻を過ぎた場合に、リトライ動作が終了します。

自動更新の結果の確認

1. 本機の操作パネルで、機械管理者モードにログインします。

2. アプリ画面で [追加型アプリケーション更新] をタップします。

3. [最新の処理結果] をタップします。

自動更新の結果が表示されます。

追加型アプリケーションを手動で更新

1. 本機の操作パネルで、機械管理者モードにログインします。

2. アプリ画面で [追加型アプリケーション更新] をタップします。

3. [手動更新] をタップします。

4. 更新する追加型アプリケーション、またはシステムアプリをタップし、[更新] をタップします。

補足

- システムアプリには複数のアプリケーションや証明書が含まれることがありますが、個々の更新はできません。本機の安定稼働のため、システムアプリが表示された場合は更新を行ってください。
- 手動更新画面から [追加型アプリケーション更新] と他のアプリケーションを選択し更新すると、他のアプリケーションのみ更新されないことがあります。この場合は、再度手動で更新を行ってください。

2.10　ペーパーレスファクス設定

ファクス受信した文書を用紙にプリントせずに、任意のコンピューターに転送したり、メールに添付して送信したりできます。ファクス文書を出力するファイル形式には、PDF、DocuWorks、および TIFF を選択できます。

本機の設定

本機の機械管理者モードにログインし、次のように設定します。

項目	設定内容
[ポート設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [ネットワーク設定] ＞ [ポート設定] ＞ [SOAP] • [SOAP - ポート]：[起動] • [SOAP - ポート番号]：80
[Web ブラウザー設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [アプリ設定] ＞ [Web ブラウザー設定] • [終了時のキャッシュ削除]：無効 • [キャッシュの使用]：有効 補足 • [Web ブラウザー設定] が表示されない場合は、ソフトウェアオプションのパスワード設定、またはカスタムサービスの有効化が必要です。
[プラグイン設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [システム設定] ＞ [プラグイン設定] • [組み込みプラグイン機能]：[有効]

また、1 つ以上のファクス回線を有効に設定します。

2.11　スキャンオート

本機の設定

補足
- 本機能を使用するには、カスタムサービスと組み込みプラグイン機能を有効にしてください。

項目	設定内容
[ポート設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [ネットワーク設定] ＞ [ポート設定] ＞ [SOAP] • [SOAP - ポート]：[起動] • [SOAP - ポート番号]：80
[プロトコル設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [ネットワーク設定] ＞ [プロトコル設定] ＞ [TCP/IP - ネットワーク設定] • IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP 環境で本機を使用するための設定
[Web ブラウザー設定]	⚙ ＞ [設定] ＞ [アプリ設定] ＞ [Web ブラウザー設定] • [外部アクセスバージョンの選択]：[V5] • [終了時のキャッシュ削除]：無効 • [キャッシュの使用]：有効 補足 • [Web ブラウザー設定] が表示されない場合は、ソフトウェアオプションのパスワード設定、またはカスタムサービスの有効化が必要です。

なお、認証機能を利用する場合は、次のように設定されているか確認してください。

項目	設定内容
［認証方式の設定］	⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［認証 / 集計の設定］ • ［認証 / 集計の設定］：［本体認証 / 集計］、または［ネット認証 / 集計］ 本体認証の場合は、⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［ユーザー登録 / 集計確認］ • ユーザーの登録 補足 • 外部認証の場合は、ユーザー登録は必要ありません。
［アクセス制御］	⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［アクセス制御］ • ［デバイスへのアクセス］：［制限する］

補足
- Web ブラウザーで、JavaScript を有効にしてください。

HTTP 接続の設定

- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［インターネットサービス（HTTP）］＞［インターネットサービス - ポート］を［起動］に設定する。

スキャナー（メール送信）の設定

- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［メール送信］＞［メール送信 - ポート］を［起動］に設定する。
- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［プロトコル設定］＞［TCP/IP - ネットワーク設定］で、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP 環境で本機を使用するための項目を設定する。
- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［本体メールアドレス / ホスト名］で、本体メールアドレスやホスト名などを設定する。
- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［その他の設定］＞［メール受信プロトコル］を［SMTP］、または［POP3］に設定する。
- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［メール送受信設定］＞［SMTP サーバー設定］で、SMTP サーバーの設定をする。
- 受信プロトコルが POP3 の場合は、⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［メール送受信設定］＞［POP3 サーバー設定］で、POP3 サーバーの設定をする。

スキャナー（PC 保存）の設定

- コンピューターでスキャンしたデータを保存する共有フォルダーを作成する。
- SMB プロトコルを使用する場合は、⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［SMB クライアント］＞［SMB クライアント - ポート］を［起動］に設定する。
- FTP プロトコルを使用する場合は、⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［FTP クライアント］＞［FTP クライアント - ポート］を［起動］に設定する。
- ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［プロトコル設定］＞［TCP/IP - ネットワーク設定］で、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP 環境で本機を使用するための項目を設定する。

認証ユーザーのメールアドレスの設定

- 認証機能を利用している場合は、本機能を使用するユーザーを登録し、ユーザーのメールアドレスを設定する。

2.12 複合機追加型アプリケーション設定複製

複合機追加型アプリケーションの設定情報を、ほかの複合機に複製できます。

参照

- 詳しくは、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

2.13 ジョブ履歴配信

ジョブ履歴配信は、コピーやプリントなど複合機が実行した処理の記録（ジョブ履歴）を、Web ブラウザーを使ってエクスポートしたり、自動でファイルサーバーに配信したりするための機能です。

本機能を利用すると、複合機のジョブ履歴を定期的に取得して管理できます。

補足

- ジョブ履歴配信機能を利用するには、インストールが必要です。インストール手順については、『複合機追加型アプリケーションインストールガイド』を参照してください。

参照

- 詳しくは、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

2.14 FUJIFILM IWpro

FUJIFILM IWpro は、文書の取り込みからデータ化、管理、活用、出力までを一元管理するクラウド型文書管理サービスです。データ化した文書をクラウドサービス上で共有し、フォーマットを意識することなく、社内外から閲覧、編集、出力ができます。

文書に属性を付与して管理したり、登録されている機器の利用実績のログを閲覧したりすることもできます。

参照

- 詳しくは、『FUJIFILM IWpro ユーザーガイド』を参照してください。

3 基本操作

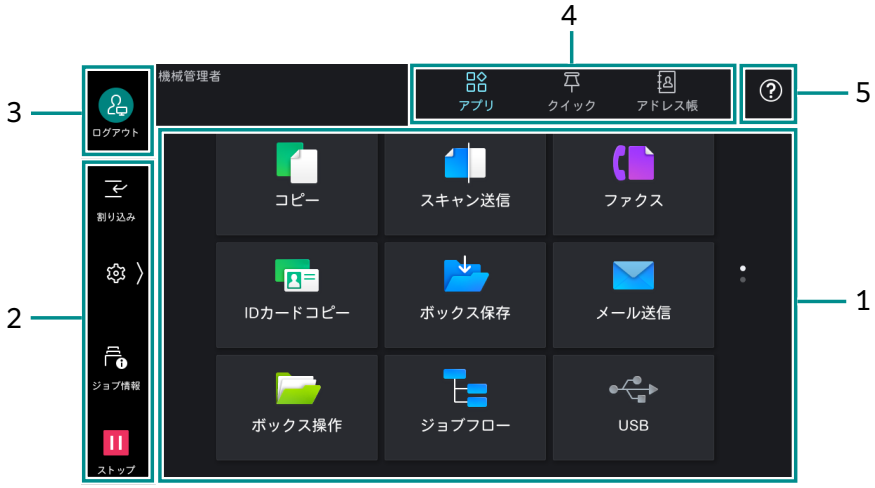
3.1 タッチパネルディスプレイ

ホーム画面

本機のさまざまな機能の入り口となる画面です。
よく利用する機能だけを表示させたり、配置を変更したりできます。

補足

- ホーム画面の初期設定を変更できます。詳しくは、「[画面 / ボタンの設定]」(P.135) を参照してください。



1. アプリの表示エリア

ホームタブで［アプリ］を選択すると、利用できるアプリが表示されます。
機械管理者、または認証ユーザーとしてログインしている場合は、表示するアプリや配置を変更できます。
詳しくは、「ホーム画面のカスタマイズ」(P.44) を参照してください。

アプリ名	機能の概要	参照先
[コピー]	コピー機能を操作します。	「コピー」(P.65)
[スキャン送信]	スキャンしたデータをネットワーク上のクライアントコンピューターに転送します。 [URL 送信]、[メール送信]、および［マイフォルダー保存］も実行できます。	「スキャン送信」(P.99)
[ファクス]	電話回線を利用したファクス機能を操作します。	「ファクス」(P.73)
[ID カードコピー]	ID カードのように原稿サイズを自動で検知できない原稿を、おもてとうらの両面を 1 枚の用紙に並べてコピーします。	「ID カードコピー」(P.67)
[ボックス保存]	スキャンしたデータを本機のボックスに保存します。	「ボックス保存」(P.98)
[メール送信]	スキャンしたデータをメールに添付して送信します。	「基本操作（メール送信）」(P.94)

アプリ名	機能の概要	参照先
[ボックス操作]	本機のボックスに保存されている文書を操作します。	「ボックス」(P.110)
[ジョブフロー]	本機に登録したジョブフロー（一連の作業内容）を使用してスキャンします。	「ジョブフロー」(P.115)
[USB]	スキャンしたデータを USB メモリーに保存したり、USB メモリーに保存されている文書をプリントしたりします。 補足 • USB 保存と文書プリントのどちらかの機能が利用できない場合、[USB 保存]、または［文書プリント］が表示されます。	「USB 保存」(P.100) 「文書プリント」(P.63)
[インターネットファクス]	インターネットファクス機能を操作します。	「インターネットファクス」(P.79)
[ポーリング予約]	原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信します。	「ポーリング予約」(P.86)
[WSD スキャン]	スキャンしたデータを指定したクライアントコンピューターに保存します。	「WSD スキャン」(P.101)
[外部アクセス]	本機に組み込まれたブラウザーから、ネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり、表示したりします。	『リファレンスガイド 付録編』
[リモートアシスタンス]	オペレーターと画面を共有しながら、問題を解決できます。初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約に同意する必要があります。 補足 • 利用規約が更新された場合、機械管理者が利用規約に再度同意する必要があります。	-
[プライベートプリント]	プライベートプリント文書をプリントします。	「プライベートプリント」(P.62)
[セキュリティープリント]	セキュリティープリント文書（パスワードを設定した文書）をプリントします。	「セキュリティープリント」(P.61)
[サンプルプリント]	サンプルプリント（試しに 1 部だけプリント）に指定した文書の残りの部数をプリントします。	「サンプルプリント」(P.60)
[時刻指定プリント]	時刻指定プリント文書（プリント時刻が指定された文書）を、指定時刻より前にプリントできます。	「時刻指定プリント」(P.60)
[認証プリント]	認証プリント文書をプリントします。	「認証プリント」(P.61)
[ボックス N]	受信回線ごとに設定した文書の保存先のボックスへのショートカットです。 補足 • アプリ名の「N」部分は、該当するボックス番号です。ボックス名称が設定されている場合は、ボックス番号とボックス名が表示されます。	「[ファクス動作制御]」(P.165) ＞［受信回線別ボックスセレクター]
[ID カードスキャン]	ID カードなどのおもてとうらの両面を 1 ページにまとめてスキャンします。	「ID カードスキャン」(P.101)
[Print Utility 接続]	接続用の QR コードを表示します。	-
[スキャンオート]	原稿をセットして［スタート］をタップするだけで、最適に設定されたスキャン文書を送信できます。	「スキャンオートの操作」(P.107)

アプリ名	機能の概要	参照先
[設定バックアップ]	複合機の設定情報をコンピューターやクラウドに保存したり、ほかの複合機に複製したりできます。	-
[追加型アプリケーション更新]	追加型アプリケーションと証明書を、自動、または手動で更新できます。	「追加型アプリケーション更新」(P.22)
[プライベートプリント（一括出力)]	認証ユーザーがプライベートプリントとして蓄積している、まだプリントしていない文書を、一度にプリントできます。	-
[IC カード登録]	認証用 IC カードを、ユーザー自身が簡単に複合機に登録できます。	「IC カードの登録」(P.268)
[IC カード ID 確認]	IC カードに登録されている情報を確認できます。	-
[FUJIFILM IWpro セットアップ]	FUJIFILM IWpro を使用するための機能をインストールできます。	-

2. コントロールタブ

をタップすると、コントロールメニューが開きます。閉じるときは、画面右端の をタップします。

機能名	参照先 / 説明
[割り込み]	「割り込み」(P.48)
[ジョブ情報]	「ジョブ情報」(P.36)
[ストップ]	「実行中ジョブの一時停止」(P.35)
[設定]	「設定」(P.129)
[アプリの表示カスタマイズ]	「アプリの表示カスタマイズ」(P.47)
[機械確認（メーター確認)]	「機械確認（メーター確認)」(P.37)
[言語切り替え Language]	表示される言語とキーボードのレイアウトを切り替えます。
[ショートカット一覧]	「[ショートカット一覧]」(P.30)
[自動プリントの許可 / 禁止]	[禁止する] を選択すると、一時的にプリントを禁止できます。[許可する] を選択すると、プリントが可能になります。

補足

- 左端の列に表示する機能は、コントロールメニューを閉じた状態でもアイコンが表示され、タップできます。
- 「[画面 / ボタンの設定]」(P.135) の [コントロールメニューの機能配置] から、表示する機能や配置を変更できます。ただし、[ストップ] は常に左端列の最下部に表示され、カスタマイズできません。
- [自動プリントの許可 / 禁止] をコントロールメニューに表示するには、「[システム時計 / タイマー設定]」(P.133) の [プリント禁止の設定] が [手動で禁止する] に設定されている必要があります。

[ショートカット一覧]

よく使用する機能をショートカットに登録しておき、⚙ > [ショートカット一覧] から呼び出せます。

補足

- 機械管理者モードで各機能の右に表示される ⋮ をタップすると、機能の並び順を変更したり、機能を一覧から削除したりできます。工場出荷時の状態に戻すには、[リセット] をタップします。
- 登録できる機能の画面で、右上に表示される [ショートカット作成] をタップすると、[ショートカット一覧] に追加されます。

登録できる機能	参照先
[通信管理レポート]	「[レポート / リストの出力]」(P.41)
[保守レポートの出力]	「[保守レポートの出力]」(P.229)
[総合画質調整]	「[画質調整]」(P.234)
[自動階調補正]	
[カラーレジ補正]	
[面内ムラ調整]	
[定着器クリーニング]	「[定着器クリーニング]」(P.248)
[紙折り位置の調整]	「[フィニッシャーの調整]」(P.246)
[画面輝度調整]	「[画面 / ボタンの設定]」(P.135)

3. 認証情報の表示エリア（ログインボタン / ログアウトボタン）

認証状態や認証ユーザーに応じたアイコンが表示されます。

機械管理者モードや認証機能を利用する場合、ログイン / ログアウトするときに、このエリアをタップします。

補足

- ⚙ > [設定] > [認証 / 集計管理] > [認証 / セキュリティー設定] > [認証の設定] > [認証情報の設定] > [認証解除時の確認画面表示] が有効な場合は、ログアウトする前に確認画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.34) を参照してください。

4. ホームタブ

ホーム画面を切り替えます。

補足

- 最初に表示するタブは、「[画面 / ボタンの設定]」(P.135) の［ホームの初期表示画面］で変更できます。

タブ名	参照先
[アプリ]	「1. アプリの表示エリア」(P.27)
[クイック]	「クイック」(P.49)
[アドレス帳]	「アドレス帳」(P.120)

5. ヘルプアイコン

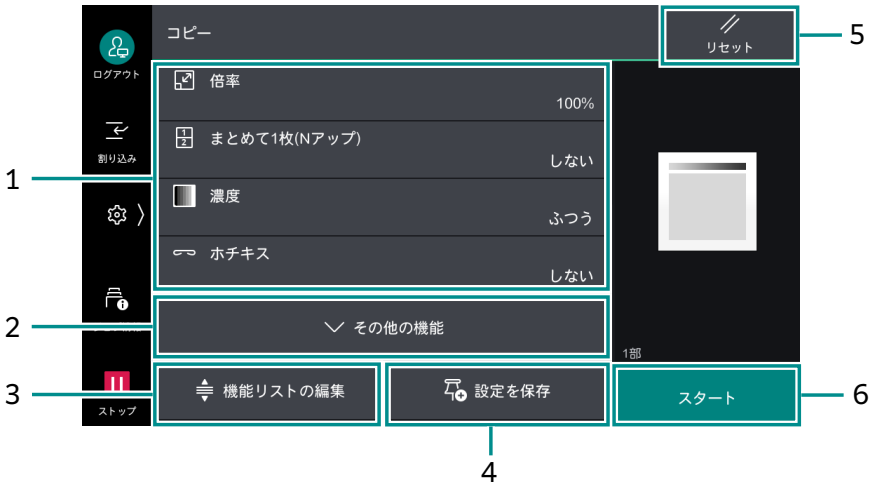
操作方法を確認できます。初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約に同意する必要があります。

アプリの機能リスト画面

ここでは、コピーの機能リスト画面を例に説明します。

補足

- 認証ユーザーの権限の設定や、「[画面 / ボタンの設定]」(P.135) の設定によって、表示内容が異なる場合があります。



1. 機能リスト

よく使用する機能が表示されます。

タップして設定を変更できます。

2. ［その他の機能］

機能リストに表示されていない機能を表示します。

3. ［機能リストの編集］

機能リストに表示する機能を編集します。

参照

- 編集方法については、「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) の［機能リストの編集］を参照してください。

4. ［設定を保存］

現在の設定をホーム画面の［クイック］に保存（ピン留め）します。

参照

- 詳しくは、「アプリからピン留め」(P.51) を参照してください。

5. ［リセット］

設定した機能の内容をすべてリセットします。

6. ［スタート］

ジョブを開始します。

基本の操作方法

補足

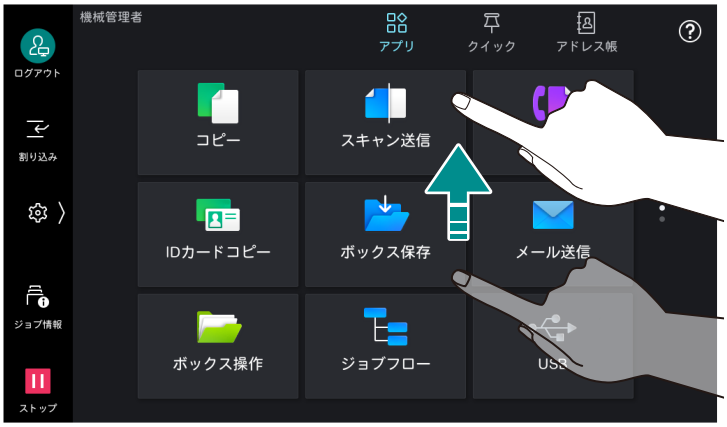
- プレビュー画面以外では、ピンチイン（2 本の指で画面をつまむように動かして縮小する操作）とピンチアウト（2 本の指で画面を広げるように動かして拡大する操作）はできません。

タップ

タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。

スワイプ

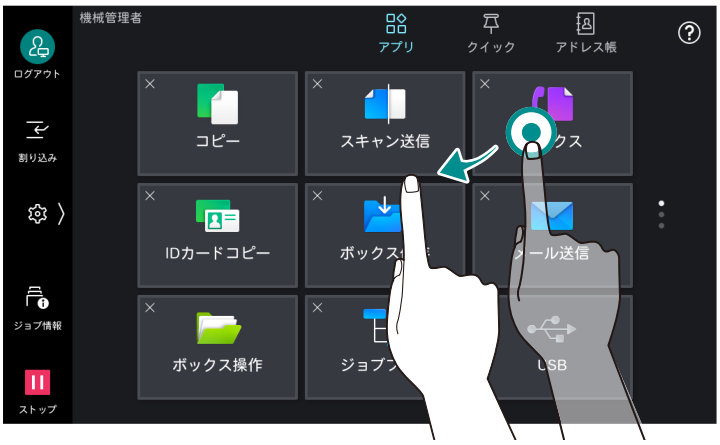
タッチパネルディスプレイに軽く触れたまま、上下に動かすと、画面をスクロールできます。



フリック（目的の方向に画面を指で軽く払う）もできます。

ロングタップ

アプリケーションアイコンやメニュー項目に触れたままにします。ロングタップしたまま、目的の位置まで移動させると、アイコンの位置を変更できます。



キーボード

をタップすると、入力方法、入力言語を変更できます。

補足

- 入力画面、入力言語によって、表示されるボタンは異なります。

3.2 認証モードへのログイン

認証ユーザーや機械管理者として本機を使用するときは、認証モードにログインします。

認証モードにログインすると、認証情報の表示エリアのアイコンが変わり、ホーム画面やコントロールメニューに認証ユーザー名が表示されます。

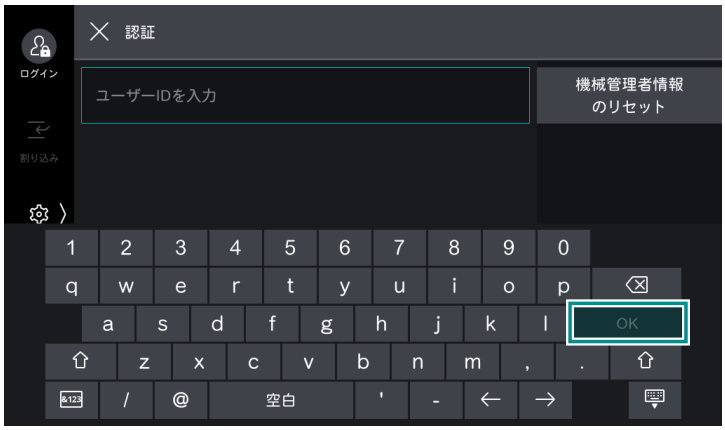
補足

- マニュアル内では、機械管理者が認証モードにログインしている状態を「機械管理者モード」と表記しています。

認証

1. 認証情報の表示エリア（ログインボタン）をタップします。

2. ユーザー ID を入力して、[OK] をタップします。



補足

- パスワード入力欄が表示されている場合は、パスワードを入力してください。
- パスワード入力時にパスワードの変更画面が表示された場合、セキュリティー強度が変更されています。パスワードのセキュリティー強度を確認して、パスワードを変更してください。
- Microsoft Entra ID 連携の場合、ユーザー ID は、ユーザー名の@より前を入力してください。
  たとえば、fujitaro@example.com の場合、「fujitaro」を入力します。
- 外部認証（LDAP 以外）の場合は、[認証先] をタップしてドメインを選択できます。
- インターネットサービスでユーザー ID の指定方法が [一覧から選択] に設定されている場合は、[ユーザー選択] 画面からユーザー ID を指定できます。
- [機械管理者情報のリセット] が表示されている場合、リセットコードを取得して機械管理者のユーザー ID とパスワードをリセットできます。

認証の解除

1. **認証情報の表示エリア（ログアウトボタン）をタップします。**

3.3　実行中ジョブの一時停止

1. **原稿の読み込み中やプリントジョブの実行中に、画面左下の ⏸ （[ストップ]）をタップします。**

表示される画面で、ジョブを継続するか、中止するかを選択できます。

補足

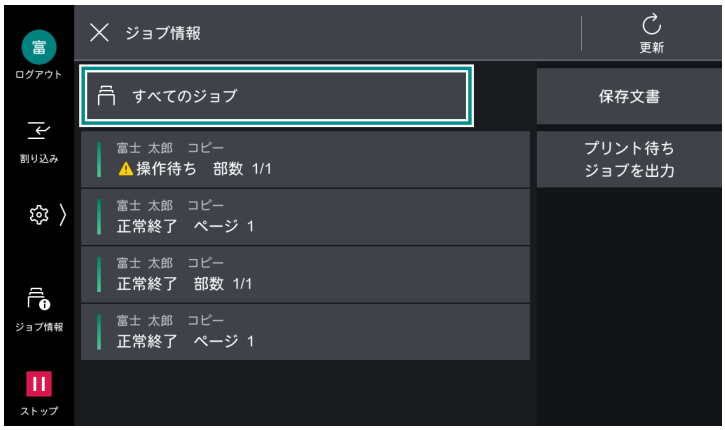
- 複数のジョブを実行中の場合は、[ジョブ情報] 画面が表示され、操作するジョブを選択できます。

3.4 ジョブ情報

実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

1. **（[ジョブ情報]）をタップします。**

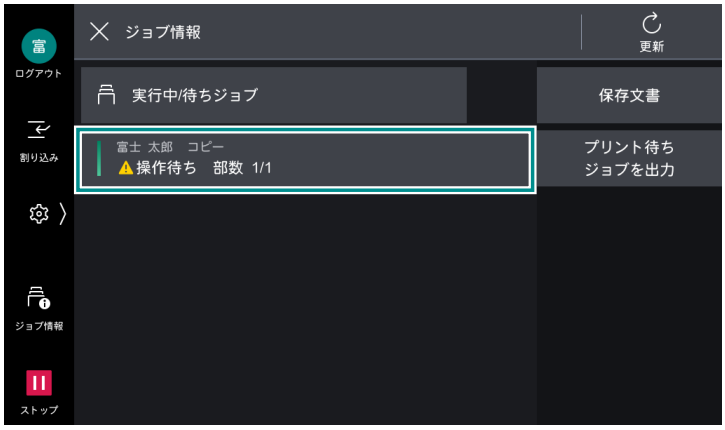
2. **[すべてのジョブ] をタップして、表示するジョブの種類を切り替えます。**



参照

- [保存文書] については、「蓄積データのプリント」(P.60) を参照してください。

3. **操作するジョブをタップします。**



4. **表示された画面で、次に実行する操作を選択します。**

- 実行中のジョブや、一時停止中のジョブの場合は、ジョブの中止や再開などの指示ができます。また、［優先］をタップすると、そのジョブを優先的に実行できます。
- 完了したジョブの場合は、ジョブの結果を確認したり、レポートを出力したりできます。
- ジョブフローや蓄積プリントのジョブなどで、［関連ジョブ］をタップすると、関連ジョブの一覧が表示されます。

3.5 機械確認（メーター確認）

ホーム画面で ⚙ ＞［機械確認（メーター確認）］をタップすると、［機械確認（メーター確認）］画面を表示できます。本機の状態を確認したり、レポートを出力したりできます。

［詳細情報］

機械構成などの本機のさまざまな情報を画面で確認できます。

ファクス認定番号の表示方法

本機のファクス認定番号（電気通信端末機器の技術基準適合認定番号等）を確認できます。

補足

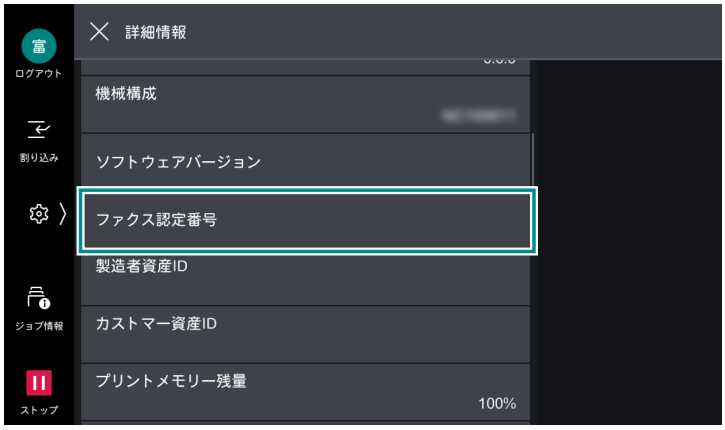
- ファクス機能を搭載した機種をご使用の場合に表示されます。

1. **⚙ をタップします。**

2. **［機械確認（メーター確認）］をタップします。**

3. ［詳細情報］をタップします。

4. ［ファクス認定番号］をタップします。



［メーター確認］

メーター別に、出力ページ数を確認できます。

項目	説明
［シリアル番号］	本機のシリアル番号が表示されます。

項目	説明
[メーター 1]	白黒コピー、白黒プリント、およびファクスの合計ページ数が表示されます。 補足 • 次の場合に、白黒プリントと認識されます。 - カラーモードで［白黒］や［グレースケール］を設定したとき - カラーモードを指定しなかった場合は、データが黒 1 色と判断されたとき
[メーター 2]	通常は使用されません。
[メーター 3]	カラーコピーとカラープリントの合計ページ数が表示されます。 補足 • 次の場合に、カラープリントと認識されます。 - カラーモードで［フルカラー］を設定したとき - カラーモードを指定しなかった場合は、データに黒以外の色が使用されていると判断されたとき
[ユーザー別メーター確認]	ユーザー別のページ数を確認できます。 集計管理機能が有効に設定されている場合に、現在認証されているユーザー ID のメーターを確認できます。
[機能別カウンターのリセット]	機能別に集計したスキャン、プリント数や稼動状況の累積時間などのカウントをリセットできます。

■ 白紙ページのカウント

白紙ページがプリントされた場合、メーターはカウントされます。

補足

- プリンタードライバーで白紙節約を設定すると、描画のない白紙ページはプリントされません。ただし、次の場合は、白紙ページがプリントされることがあります。
  - ページ内に改行だけが存在する場合
  - ページ内にスペース（空白）だけが存在する場合
  - ページ内に改行とスペースだけが存在する場合
  - その他、アプリケーションから白い背景描画命令などが渡された場合

■ 長尺用紙のカウント

A3（297.2×420.4 mm）の面積サイズを基準にして、1 ページあたりの各メーターの値は次のとおりです。

- 1.5 倍以上～ 2 倍以下（たて：330.0 mm の場合、よこ：568.0 ～ 757.2 mm）：2
- 2 倍超～ 3 倍以下（たて：330.0 mm の場合、よこ：757.3 ～ 1135.8 mm）：3
- 3 倍超（たて：330.0 mm の場合、よこ：1135.9 mm 以上）：4

[消耗品確認]

消耗品の状態を確認できます。

[通知]

障害の状態、交換時期やそのほかの重要なメッセージなどの本機からの通知を重要度順に表示します。
通知を選択すると、詳細や関連するページを確認できます。

[用紙トレイ]

用紙トレイの状態と設定を確認できます。

[レポート / リストの出力]

レポート、またはリストをプリントできます。

補足

- 一部の項目は、機械管理者モードだけで表示されます。

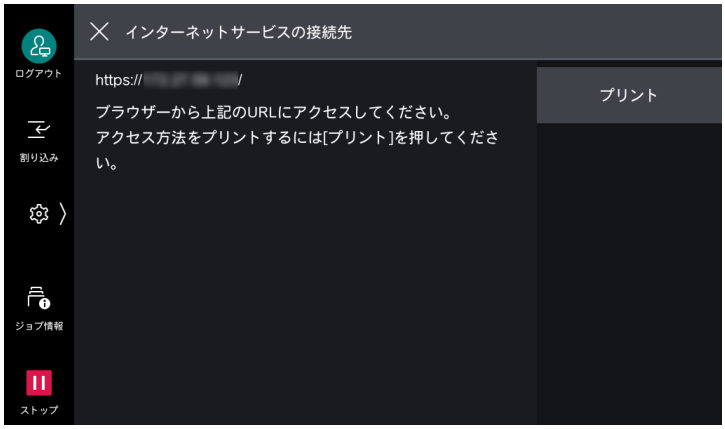
項目		説明
[PostScript フォントリスト]		PostScript で使用できるフォントがプリントされます。
[PCL フォントリスト]		PCL で使用できるフォントがプリントされます。
[ジョブ確認 / 通信管理レポート]		
	[ジョブ履歴レポート]	最新の 200 件まで、ジョブの実行結果がプリントされます。ジョブの種類ごとにプリントすることもできます。 [関連ジョブを含める] を有効にすると、関連ジョブそれぞれを 1 行ずつプリントします。無効にすると、複数の関連ジョブ（ジョブフローのジョブなど）を 1 行にまとめてプリントします。
	[エラー履歴レポート]	本機に発生したエラーに関する情報が、最新の 50 件までプリントされます。
	[通信管理レポート]	相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けてプリントされます。
	[蓄積文書リスト]	ボックスに保存されている未完了ジョブ（送受信が完了していない文書、ポーリング予約文書）の一覧がプリントされます。
[コピー設定]		本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態を確認できる機能設定リストがプリントされます。
[プリンター設定]		
	[機能設定リスト（共通項目）]	本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態を確認できる機能設定リストがプリントされます。
	[ART EX フォーム登録リスト]	オーバーレイ印字機能で、フォームとして登録した文書の一覧がプリントされます。 **参照** • ART EX プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
	[PCL 設定リスト]	PCL プリンターモードの各設定がプリントされます。
	[PCL マクロ登録リスト]	PCL プリンターモード用に登録したフォームの一覧がプリントされます。
	[PDF 設定リスト]	PDF プリンターモードの各設定がプリントされます。
	[TIFF/JPEG 設定リスト]	TIFF プリンターモードと JPEG プリンターモードの各設定がプリントされます。

項目	説明
[TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト]	TIFF プリンターモードと JPEG プリンターモードで作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。 補足 • TIFF 論理プリンターと JPEG 論理プリンターは、インターネットサービスで設定します。
[PostScript 論理プリンター登録リスト]	PostScript で作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。 補足 • PostScript 論理プリンターは、インターネットサービスで設定します。
[ESC/P 設定リスト]	ESC/P エミュレーションモードの各設定がプリントされます。
[ESC/P メモリー登録リスト]	ESC/P エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。
[ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]	ART IV、ESC/P、PC-PR201H で利用できるフォーム、ロゴ、パターンの登録内容がプリントされます。 参照 • それぞれのモードの詳細な内容については、『リファレンスマニュアル』（別売）を参照してください。
[HP-GL/2 設定リスト]	HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードの各設定がプリントされます。
[HP-GL/2 メモリー登録リスト]	HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。
[HP-GL/2 パレットリスト]	HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションのペン属性で設定できる 256 色の見本リストをプリントします。
[PC-PR201H 設定リスト]	PC-PR201H エミュレーションモードの各設定がプリントされます。
[PC-PR201H メモリー登録リスト]	PC-PR201H エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。
[フォントリスト]	使用できるフォントの一覧がプリントされます。
[PCL フォントリスト]	PCL で使用できるフォントがプリントされます。
[PostScript フォントリスト]	PostScript で使用できるフォントがプリントされます。
[DocuWorks プリント設定リスト]	DocuWorks ダイレクトプリントのための設定がプリントされます。
[送受信ドメイン制限リスト]	送受信を制限するドメインの設定状況がプリントされます。
[スキャナー設定]	
[機能設定]	
[機能設定リスト（共通項目）]	本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態を確認できる機能設定リストがプリントされます。
[拡張機能設定リスト]	スキャナー機能やファクス機能に関する設定状態がプリントされます。
[送受信ドメイン制限リスト]	送受信を制限するドメインの設定状況がプリントされます。
[連絡先リスト]	アドレス帳の登録内容がプリントされます。 補足 • [詳細情報の出力] を有効にすると、宛先種別や通信モードなどの情報もプリントされます。
[グループリスト]	アドレス帳のグループの登録内容がプリントされます。

項目	説明
[ファクス設定]	
[機能設定]	
[機能設定リスト（共通項目）]	本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態を確認できる機能設定リストがプリントされます。
[拡張機能設定リスト]	ファクス機能やスキャナー機能に関する設定状態がプリントされます。
[ボックスセレクターリスト]	ボックスへの振り分け機能の設定状況がプリントされます。
[ファクス受信制限リスト]	ファクス受信を禁止している G3-ID（電話番号）の設定状況がプリントされます。
[送受信ドメイン制限リスト]	送受信を制限するドメインの設定状況がプリントされます。
[VoIP ゲートウェイ登録リスト]	VoIP ゲートウェイの登録状況がプリントされます。
[連絡先リスト]	アドレス帳の登録内容がプリントされます。 **補足** • [詳細情報の出力] を有効にすると、宛先種別や通信モードなどの情報もプリントされます。
[グループリスト]	アドレス帳のグループの登録内容がプリントされます。
[コメント登録リスト]	送信シートで使用するコメントの登録内容を確認できます。
[課金データリスト]	指定した宛先番号の課金データの登録状況を確認できます。
[機能別カウンターレポート]	各機能別に実際に利用した内訳（プリント枚数や使用回数など）や利用していない時間（待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、電源オフ時間など）の累計が分単位でプリントされます。
[エラー履歴レポート]	本機に発生したエラーに関する情報が、最新の 50 件までプリントされます。

[インターネットサービスの接続先]

インターネットサービスの URL を確認できます。



補足

• [プリント] をタップすると、インターネットサービスの URL をプリントできます。

そのほかの設定

項目	参照先 / 説明
[プリンターモード]	「オンライン / オフラインの切り替え」(P.48) 『リファレンスガイド 付録編』の「エミュレーション」
[ファクス受信モード]	「受信」(P.78)
[ストレージの上書き消去]	ストレージの上書き消去の状態が表示されます。上書き回数は機械管理者が「[ストレージの上書き消去設定]」(P.227) で設定します。
[無線 LAN の接続状態]	Wi-Fi と Wi-Fi Direct の接続状況が表示されます。ここから Wi-Fi Direct の接続を切断できます。詳しくは、「Wi-Fi Direct の切断」(P.12) を参照してください。

3.6 カスタマイズ

ホーム画面のアプリケーションアイコンの表示や各アプリの機能リストの初期値などをカスタマイズできます。

認証機能を利用していない場合は、機械管理者モードでカスタマイズした内容が、すべてのユーザーに反映されます。

認証機能を利用している場合は、それぞれのユーザーごとにカスタマイズでき、カスタマイズした内容は個人用の設定になります。一度もカスタマイズしていない認証ユーザー、または未認証ユーザーの場合は、機械管理者モードでカスタマイズした内容が反映されます。

ホーム画面のカスタマイズ

アプリケーションアイコンの表示・非表示を切り替えたり、配置を変更したりできます。

1. アプリの表示エリアをロングタップします。

2. 次の操作をします。

アイコンの非表示

1) 非表示にするアイコンの ✕ をタップします。

アイコンの表示

1) アイコンを表示させたいページで、⊕ をタップします。

2) [アプリ] をタップします。

補足

- この手順の選択肢は、ホーム画面に配置するピン留めボタンを 1 つ以上作成している場合だけ表示されます。ピン留めボタンを表示する場合は、[共有ピン留め]、または [ピン留め] をタップして、追加するボタンを選択します。

3) 追加するアプリをタップします。

アイコンの位置の変更

1) アイコンをロングタップしたまま目的の位置まで移動します。

補足

- アイコンはページをまたいで移動できます。

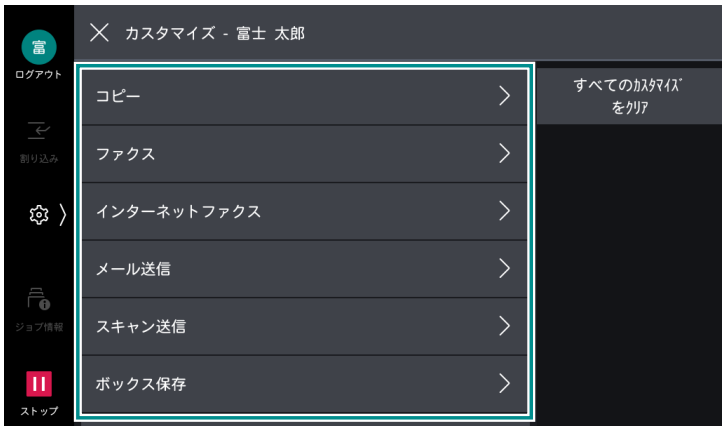
3. カスタマイズが終わったら、アイコンの外側の領域をタップします。

アプリの表示カスタマイズ

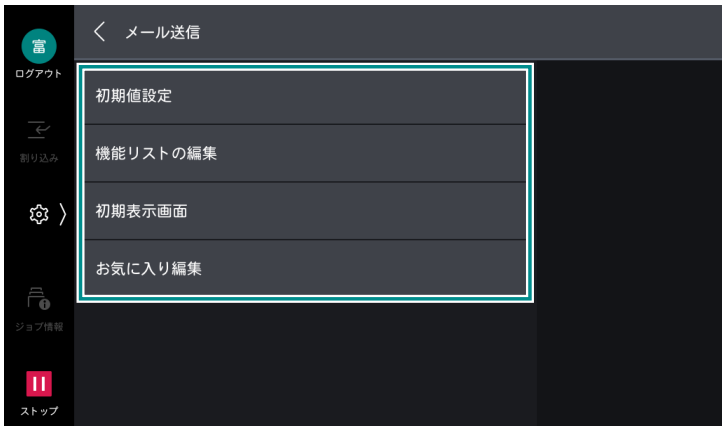
コピー、ファクス、スキャンなどの画面表示をカスタマイズできます。

1. ⚙ > ［アプリの表示カスタマイズ］をタップします。

2. カスタマイズするアプリをタップします。



3. 項目を選択して、カスタマイズします。



補足

- 認証状態やアプリによって、表示される項目は異なります。

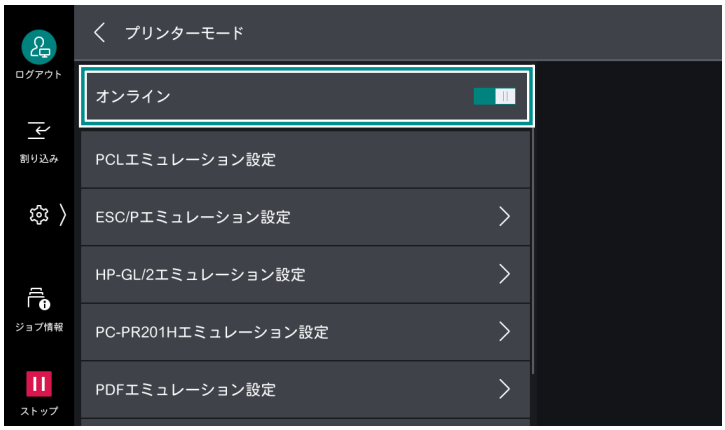
項目	機能
［初期値設定］	アプリを起動したときの初期値を設定します。
［機能リストの編集］	機能リストに表示する機能を設定します。 • ☑ に設定した機能は、機能リストのよく使用する機能の一覧に表示されます。 • ☐ に設定した機能は、機能リストの［その他の機能］をタップしたときに表示されます。 ロングタップすると表示順を移動できます。 **補足** • 「［画面 / ボタンの設定］」(P.135) の［機能リストの［その他の機能］の表示］を無効に設定している場合、機能リストの［その他の機能］は表示されません。
［シンプル表示の使用］	［コピー］アプリを起動したときに最初に表示される画面を「シンプル表示」に変更するかどうかを設定します。シンプル表示では、機能リストに表示される項目が少なくなります。
［初期表示画面］	アプリを起動したときに表示される画面を設定します。

項目	機能
[お気に入り編集]	お気に入りに表示する連絡先を設定します。
[すべてのカスタマイズをクリア]	すべてのカスタマイズの設定を削除します。

3.7 オンライン / オフラインの切り替え

オフラインになるとコンピューターからのデータを受信できません。
設定変更やメンテナンスをするときなどは、オフラインになります。

⚙ ＞［機械確認（メーター確認）］＞［プリンターモード］で、オンライン / オフラインの切り替えができます。



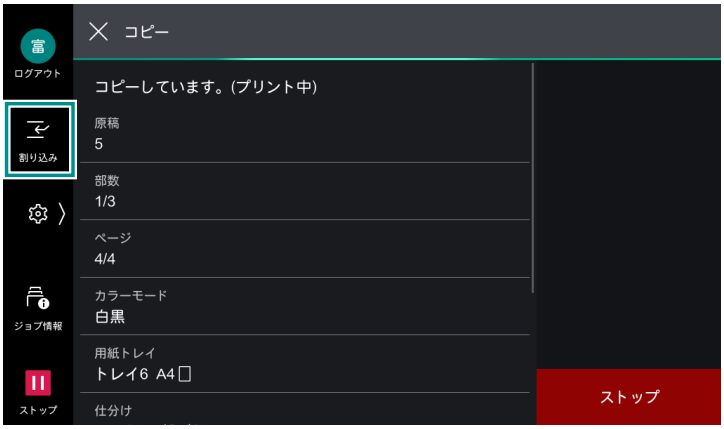
3.8 割り込み

連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させることができます。ここでは、連続コピー中に割り込み機能を使用してコピーする手順を例に説明します。

補足

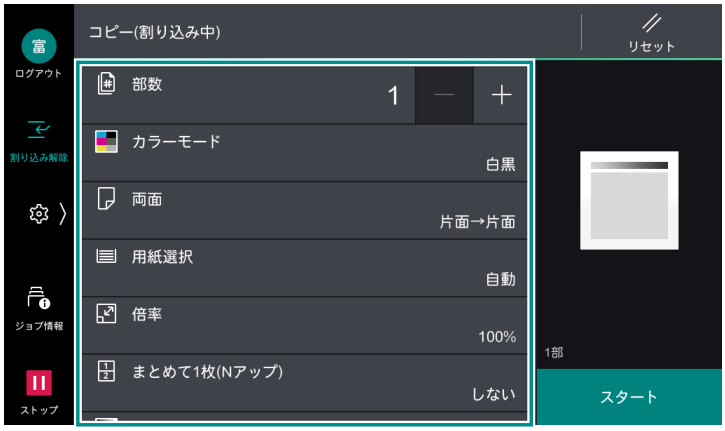
- 原稿ガラスを使用した 10 部以下のコピー動作中は、割り込みが受け付けられないことがあります。
- 原稿の読み込み中や、予約中のジョブがある場合、［割り込み］は利用できません。

1. 連続コピー中に、（［割り込み］）をタップします。



2. 割り込んでコピーする原稿をセットします。

3. **必要に応じて、各機能を設定します。**



4. **[スタート] をタップします。**

5. **割り込みコピーが終了したら、 ([割り込み解除]) をタップします。**

割り込み前のジョブが再開されます。

3.9 クイック

([クイック]) には、コピー、スキャン、ファクス、およびインターネットファクスのジョブ履歴が保存されます。また、アプリの機能リストの [設定を保存] から設定を保存 (ピン留め) できます。

[クイック] では、次の操作ができます。

- ジョブ履歴からアプリを起動してジョブを再実行する
- ジョブ履歴に [ピン留め] を設定して、ジョブを再実行する
- アプリの機能リストで保存 (ピン留め) した設定を使ってジョブを実行する

補足

- [ピン留め] されたジョブ履歴と、アプリの機能リストで保存 (ピン留め) した設定は、アプリを起動せずにジョブを直接実行することもできます。
- 認証機能を使用している場合は、ユーザーごとにジョブ履歴やアプリの機能リストで保存 (ピン留め) した設定が保存されます。
- 機械管理者が設定したピン留めは、すべてのユーザーに表示されます。

参照

- [クイック] の利用制限については、「[クイックの設定]」(P.137) を参照してください。

ピン留め設定

[ピン留め] されたジョブ履歴や、アプリの機能リストで保存 (ピン留め) した設定は次の操作ができます。

- [今すぐ実行]：ジョブ履歴の設定のまま直接再実行します。

補足

- ファクスやインターネットファクスの場合は、誤送信防止のため [今すぐ実行] の操作はできません。

- [編集]：保存名や、アプリボタンの設定を変更できます。
- [先頭に移動]：リストの最上段に移動します。
- [削除]：リストから削除します。

ジョブ履歴をピン留め

1. ［クイック］をタップします。

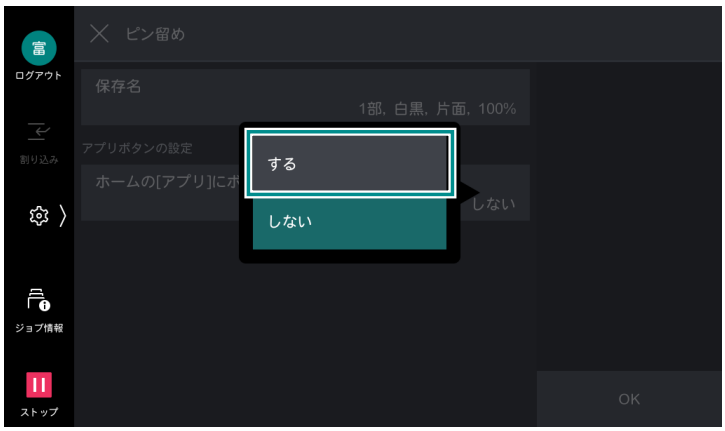
2. ジョブ履歴の ⋮ ＞［ピン留め］をタップします。

［削除］をタップすると、ジョブ履歴が削除されます。

3. 保存名を入力して、［OK］をタップします。

4. ホーム画面（［アプリ］画面）にピン留めボタンを作成する場合は、次の操作をします。

1) ［ホームの［アプリ］にボタンを作成］をタップして、［する］を選択します。



2) ［ボタンを押したときの動作］をタップして、ピン留めボタンがタップされたときの動作を選択します。

補足

- ファクスやインターネットファクスの場合は、誤送信防止のため［ジョブを実行する］を選択できません。

3) ［アイコンの変更］をタップします。

4) 配置するアイコンを選択して［OK］をタップします。

5. ［OK］をタップして、ピン留めを保存します。

ジョブ履歴に が表示されます。

補足

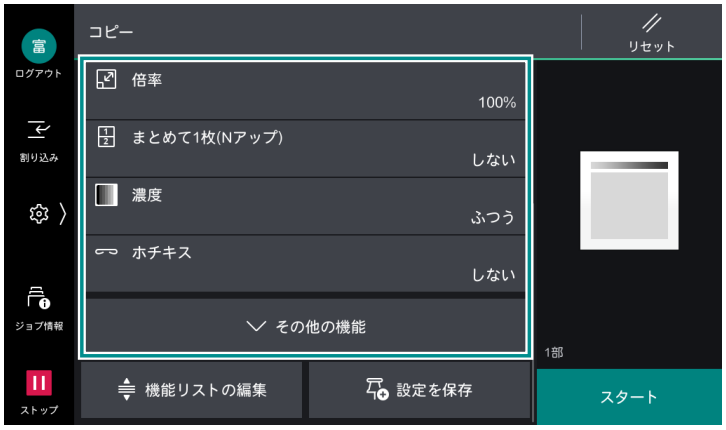
- もとになったジョブ履歴は、ピン留めに置き換わります。
- 機械管理者モードで作成したピン留めは「共有ピン留め」となり、すべてのユーザーの［クイック］画面やホーム画面に表示されます。

アプリからピン留め

補足

- 認証していないユーザーの場合、「[クイックの設定]」(P.137) の［未認証時の履歴 / ピン留め保存］が無効に設定されているアプリからはピン留めできません。
- 設定内容によっては、ピン留めできないことがあります。

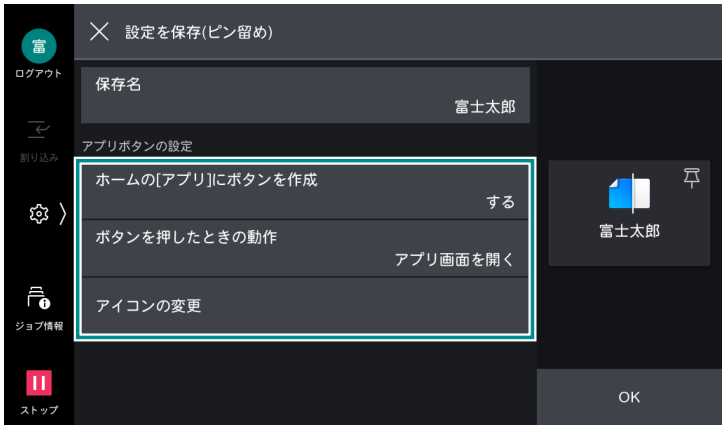
1. アプリの機能リスト画面で、各機能の設定をピン留めしたい内容に変更します。



2. ［設定を保存］をタップします。

3. 保存名を入力して、［OK］をタップします。

4. **ホーム画面（[アプリ］画面）にピン留めボタンを作成する場合は、[ホームの［アプリ］にボタンを作成］を［する］に設定し、ボタンの動作などを設定します。**



詳細は、「ジョブ履歴をピン留め」(P.50) の手順 4 を参照してください。

5. **[OK］をタップして、ピン留めを保存します。**

補足

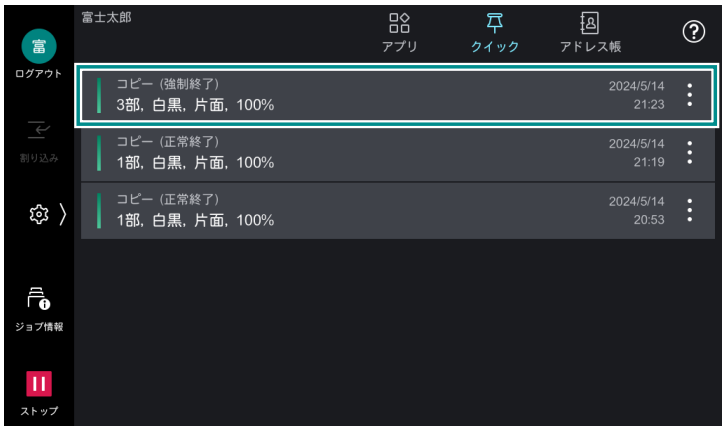
- 機械管理者モードで作成したピン留めは「共有ピン留め」となり、すべてのユーザーの［クイック］画面やホーム画面に表示されます。

アプリを起動してジョブを実行

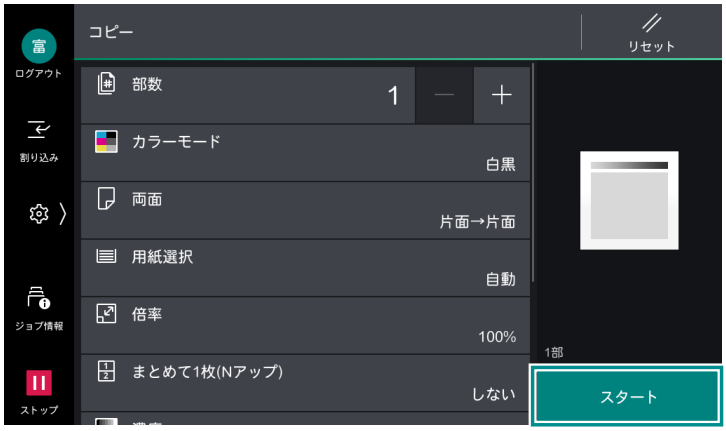
1. **原稿をセットします。**

2. **[クイック］をタップします。**

3. **使用するジョブ履歴をタップします。**



4. ［スタート］をタップします。



ピン留めから［今すぐ実行］

補足

- アプリの機能リストで保存（ピン留め）した設定に宛先がない場合、ジョブを直接再実行できません。

1. 原稿をセットします。

2. ［クイック］をタップします。

3. が付いたジョブ履歴、またはアプリの機能リストで保存（ピン留め）した設定の をタップします。

4. ［今すぐ実行］をタップします。

ホーム画面のピン留めボタンからジョブを実行

1. **ホーム画面で、実行したいジョブのピン留めボタンをタップします。**

2. **アプリ画面が表示されたら、［スタート］をタップします。**

補足

- アプリ画面で設定内容を変更してから実行することもできます。
- ［ボタンを押したときの動作］が［ジョブを実行する］に設定されているジョブは、ボタン上に が表示されます。この場合、アプリを起動せずにジョブが実行されます。

3.10 節電

電力消費量を抑えることができます。

一定時間使用しないと低電力モードに入り、設定時間が経過すると、スリープモードに移行します。

補足

- Smart WelcomEyes が人を検知している間は、節電状態に移行しません。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- 使用する機能に必要な部分（タッチパネルディスプレイ、ストレージ、出力部、原稿送り装置など）だけ、節電から復帰させることもできます。

参照

- 詳しくは、「［節電モードの設定］」(P.134) を参照してください。

節電状態

節電状態になると、〈電源 / 節電〉ボタンが点滅します。

- 〈電源 / 節電〉ボタンを押して、［節電モードに移行する］をタップしたとき
- 節電状態に移行する時間まで、本機を操作しなかったとき、ジョブが実行されなかったとき、プリントやファクスデータを受信しなかったとき
- 節電状態に移行する時間まで、本機の Smart WelcomEyes が人を感知しなかったとき

復帰

- 〈電源 / 節電〉ボタンを押したとき
- プリントやファクスなどのジョブを受信したとき
- インターネットサービスの［保存］をクリックしたとき
- 原稿送り装置に原稿をセットしたとき
- 原稿カバーを開けたとき
- 本機の Smart WelcomEyes が人を検知したとき
- 正面カバーを開けたとき

Smart WelcomEyes

センサーが本機正面から約 35 cm の範囲で人の動きを検知します。

自動解除

センサーが人の動きを検知すると、節電機能を自動解除して、節電状態から復帰します。

移行禁止

センサーが人の動きを検知している間は、節電状態までの移行時間が経過しても、節電状態に移行しません。

タイマー動作の抑止

センサーが人の動きを検知している間は、自動リセットやジョブ自動解除など、タイマーが設定されている機能は、設定時間が経過しても動作しません。

補足

- 光を反射しやすい服装（たとえば、ラメ入り、スパンコールなどが付いているもの）の場合、Smart WelcomEyes の検知が不安定になることがあります。
- IC カードリーダーが取り付けられている場合にスリープモードに移行したときは、節電状態からの復帰時間が通常より長くなることがあります。
- 検知距離を約 60 cm までの範囲に変更できます。弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

暖機モード

使用環境によっては、スリープモードから復帰するときに、本機内部の温度が上昇し結露が発生することがあります。暖機モード動作を設定すると、結露の発生を防止、または軽減できます。

季節の変わり目などに設定することをおすすめします。

補足

- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

参照

- 詳しくは、「[システム時計 / タイマー設定]」(P.133) の［暖機モード動作］を参照してください。

3.11 USB メモリー

USB メモリーに保存されたデータをプリントしたり、スキャンしたデータを保存したりできます。

参照

- USB メモリーに保存されたデータをプリントする方法は、「文書プリント」(P.63) を参照してください。

プリント対応ファイル

- PDF ファイル（拡張子：pdf）
- TIFF ファイル（拡張子：tif、MH/MMR 圧縮、8 ビットグレースケール（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮）、8 ビット RGB インデックスカラー（非圧縮、PackBits 圧縮）、24 ビット RGB カラー（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮））
- XPS ファイル（拡張子：xps、oxps）
- DocuWorks 文書（拡張子：xdw）
- DocuWorks バインダー（拡張子：xbd）
- Exif2.0 ～ Exif2.2 ファイル（拡張子：jpg、tif）
- JPEG（JFIF）ファイル（拡張子：jpg、グレースケール（8 ビット）、カラー（24 ビット、sRGB 色空間））

使用時の注意

- フォルダーの数が 900 個を超える USB メモリーは、正しく認識されないことがあります。
- ファイルのフルパス（すべての階層のフォルダー名とファイル名を含んだ文字列）が 257 文字を超える場合は、表示されません。
- プリントできるファイル数は 900 ファイルです。
- USB メモリーは、フォーマットしたものを使用してください。対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32 だけです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。
- CMYK の TIFF ファイルと JPEG（JFIF）ファイルには対応していません。
- USB メモリー内のファイル数や容量によっては、プリントに数分から数十分かかることがあります。
- USB メモリー内のデータは、破損するおそれがあります。必ずデータをバックアップしてから使用してください。
- お客様のデータ消失による直接、間接の損害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 節電中の場合は、節電状態を解除してから USB メモリーを差し込んでください。
- 複数の USB メモリーを同時に取り付けて使用することはできません。
- 次の USB メモリーは対象外です。
  - 別途ユーティリティが必要な USB メモリー
  - パーティションが複数ある USB メモリー
  - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー
- 「System Volume Information」フォルダーはコンピューター上で表示されないフォルダーです。ファイルの保存先として選択しないでください。

取り外し

補足

- 本機の電源を切るときには、USB メモリーを取り外してから行ってください。

1. **（[取り出し]）をタップします。**

2. ［確認］をタップします。

3. USB メモリーを取り外します。

3.12　エラーコード

エラーが発生してプリントが正常に終了しなかった場合や本機に故障が発生した場合は、操作パネルのディスプレイにメッセージとエラーコード（***-***）が表示されます。

ファクスの場合、［通信管理レポート］や［未送信レポート］などにもエラーコードが表示されます。

補足

- エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリーに蓄えられた情報は保証されません。
- ホーム画面で ? ＞［検索］＞［エラーコード検索］をタップすると、エラーコードの詳細をタッチパネル上で確認できます。
- エラーコードの画面に ? が表示されている場合は、そのボタンをタップすると、該当するエラーコードの詳細を確認できます。
- エラーコードの処置方法については、弊社公式サイトのエラーコード検索を参照してください。

弊社公式サイトに記載されていないエラーコードが表示された場合や、記載に従って処置をしても正常に戻らないときは、弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となることがあります。カストマーコンタクトセンターの電話番号は、本機に添付してあるラベル、またはカードに記載されています。

4 プリント

クライアントコンピューターからの指示でプリント

- プリンタードライバーを使用してプリント
- ダイレクトプリント
- メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）

本機に蓄積したデータのプリント

- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- セキュリティープリント
- 認証プリント
- プライベートプリント

USB メモリーに保存されたデータのプリント

- 文書プリント

そのほかのプリントサービス

- モバイル機器からのプリント
- エミュレーション

参照

- ダイレクトプリントとエミュレーションについては、『リファレンスガイド 付録編』を参照してください。

4.1 クライアントコンピューターからプリント

プリンタードライバーを使用してプリント

参照

- プリントの方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

メール受信プリント

宛先に本機のメールアドレスを入力して、メールを送信すると、本機の設定に応じてプリントされます。

クライアントコンピューターからのメールを受信する

メール本文がテキスト形式でも HTML 形式でも受信できます。ただし、HTML 形式で本文がプリントされるのは、HTML とテキストの両方の形式のデータを持つメール（マルチパートメール）だけです。テキスト形式のデータがない場合、本文はプリントされません。

添付ファイルの拡張子が「.tif」、「.tiff」、「.pdf」、「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」、「.jfif」、「.xps」、「.oxps」、「.xdw」、「.xbd」以外の場合は、正しくプリントされないことがあります。

添付ファイルの拡張子が「.txt」の場合は、Content-Type に「text/plain」が指定され、charset が指定されている場合だけ、プリントされます。

ジョブ属性を指定してメールプリントする

ジョブ属性を指定すると、カラーモードや用紙サイズなどを設定してプリントできます。

ジョブ属性	指定できる項目	指定方法
カラーモード	モノクロ	mono
両面 / 片面	片面	simp
	両面（長辺とじ）	dup
	両面（短辺とじ）	tumble
N-up*1*2（まとめて 1 枚）	1 アップ*3	1up
	2 アップ	2up
	4 アップ	4up
用紙サイズ*2	A3	a3
	JIS B4	b4
	A4	a4
	JIS B5	b5
	A5	a5
	レター（8.5×11″）	letter
	リーガル	legal

*1 :添付文書の拡張子が「.pdf」の文書は、インターネットサービスの［エミュレーション設定］＞［PDF 設定］で［デコンポーザーの切り替え］を［PS］に設定している場合、N-up 指定は無効となります。1 アップ以外を指定しても 1 アップでプリントされます。
*2 :メールヘッダー、メール本文、および添付文書の拡張子が「.txt」の場合、指定は無効となります。
*3 :［1 アップ］を指定した場合は、用紙サイズにイメージが収まるように、原稿を拡大縮小してプリントされます。

補足

- 本文と添付文書のジョブ属性は、個別に設定できません。転送メールの場合、本文とその添付文書、転送メールの本文とその添付文書のジョブ属性を個別に設定できません。添付文書は本文の設定に従ってプリントされます。

メールの件名の前に「@@ ジョブ属性 @@」と入力します。

ジョブ属性を複数指定する場合は、カンマ（,）で区切り、「@@ ジョブ属性，ジョブ属性，ジョブ属性 @@」と入力します。

例）件名が「参考資料」で、モノクロ、両面（長辺とじ）、2 アップでプリントする場合

@@mono,dup,2up@@ 参考資料

補足

- メール本文のプリントは、インターネットサービスの［受信メールシートのプリント］でも設定できます。

4.2 蓄積データのプリント

プリンタードライバーでプリント指示した文書を一時的に本機に蓄積させ、タッチパネルディスプレイの操作でプリントします。

補足

- サンプルプリント、時刻指定プリント、セキュリティープリントは、プリンタードライバーの［プリント種類］で指定して送信したジョブです。
- 受信したジョブを認証プリント、またはプライベートプリントに保存するには、「[認証の設定]」(P.222) ＞［認証 / プライベートプリントの設定］＞［受信制御］で設定が必要です。その場合は、プリンタードライバーでサンプルプリント、時刻指定プリント、またはセキュリティープリントを指示しても無視されます。
- カスタマイズ機能で各アプリをホーム画面に配置した場合は、アプリから直接操作できます。

サンプルプリント

サンプルプリント（試しに 1 部だけプリント）に指定した文書の残りの部数をプリントします。

1. ⚙ ＞［ジョブ情報］＞［保存文書］＞［サンプルプリント］をタップします。

2. 対象ユーザーをタップします。

3. プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。

4. 必要に応じて、部数を変更します。

補足

- 表示されている部数は、プリンタードライバーで設定した部数から 1 部差し引かれた部数です。

5. ［スタート］をタップします。

時刻指定プリント

時刻指定プリント文書（プリント時刻が指定された文書）を、指定時刻より前にプリントできます。

1. ⚙ ＞［ジョブ情報］＞［保存文書］＞［時刻指定プリント］をタップします。

2. **プリントする文書をタップします。**

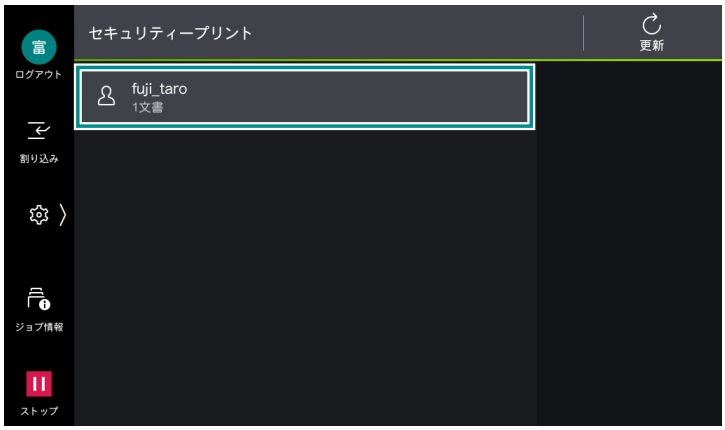
3. **［スタート］をタップします。**

セキュリティープリント

セキュリティープリント文書（パスワードを設定した文書）をプリントします。

1. **⚙ ＞［ジョブ情報］＞［保存文書］＞［セキュリティープリント］をタップします。**

2. **対象のユーザーをタップします。**



3. **プリンタードライバーで指定したパスワードを入力して、［OK］をタップします。**

4. **プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。**

5. **必要に応じて、部数を変更します。**

6. **［スタート］をタップします。**

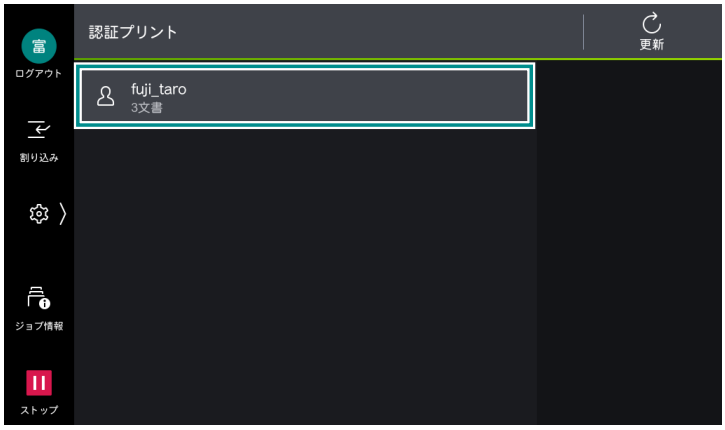
認証プリント

認証プリント文書をプリントします。認証プリント文書は、プリンタードライバーで設定した蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。蓄積用ユーザー ID を設定しない場合は、［(ユーザー ID なし)］に保存されます。

1. **認証モードにログインします。**

2. **⚙ ＞［ジョブ情報］＞［保存文書］＞［認証プリント］をタップします。**

3. **対象のユーザーをタップします。**



補足

- プリンタードライバーで暗証番号を設定した場合は、暗証番号の入力画面が表示されます。暗証番号を入力して、［OK］をタップしてください。

4. **プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。**

5. **必要に応じて、部数を変更します。**

6. **［スタート］をタップします。**

プライベートプリント

プライベートプリント文書をプリントします。プライベートプリント文書は、認証ユーザー ID ごとに保存されます。

補足

- 認証ユーザーのユーザー ID にサブユーザーを関連づける機能を利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。
- サーバーレスオンデマンドプリントで保存した文書でも利用できます。

1. **認証モードにログインします。**

2. **⚙ ＞［ジョブ情報］＞［保存文書］＞［プライベートプリント］をタップします。**

補足

- 一度の操作で、100 文書までプリントできます。

3. **プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。**

4. **必要に応じて、部数を変更します。**

5. **［スタート］をタップします。**

補足

- 使用できない状態のフィニッシャーの機能を指定してプリントすると、指定が解除されてプリントされます。
- IC カードリーダー以外の機器を接続している場合は、利用できません。

4.3 文書プリント

USB メモリーに保存されている文書をプリントできます。

基本操作

1. **USB メモリーを差し込みます。**

2. **［確認］をタップします。**

3. **［文書プリント］をタップします。**

補足

- ホーム画面の［USB］＞［文書プリント］、または［文書プリント］からでも機能を利用できます。

4. **対象フォルダーからプリントする文書をタップします。**

5. **必要に応じて、 をタップして各機能を設定します。**

6. **［スタート］をタップします。**

機能リスト

参照

- 機能リストの使い方については、「アプリの機能リスト画面」(P.31) を参照してください。

項目	説明
［部数］	部数を入力します。
［カラーモード］	フルカラー、または白黒を設定します。

項目	説明
[用紙選択]	用紙トレイを選択します。[自動] を選択すると、適切な用紙トレイが選択されます。
[両面]	用紙の両面にプリントできます。
[ホチキス]	ホチキスで留める位置を設定します。
[パンチ]	パンチ穴を開ける位置を設定します。
[まとめて 1 枚（N アップ)]	複数枚の原稿を 1 枚にまとめてプリントします。プリント時のレイアウトや原稿のセット向きを指定します。
[スムージング]	画像部分の回転と拡大縮小に伴う補正処理をして、画質を向上するかを設定します。

4.4 そのほかのプリントサービス

モバイル機器からのプリント

Print Utility（Android OS/iOS)、AirPrint（iOS)、および Mopria（Android OS）で、モバイル機器から本機にプリントできます。

NFC 機能を利用する場合は、インターネットサービスの設定が必要です。

補足

- Print Utility は、Google Play、または App Store からダウンロードできます。

参照

- Print Utility については、弊社公式サイトを参照してください。
- AirPrint については、Apple 社の公式サイトを参照してください。
- Mopria については、Mopria Alliance の公式サイトを参照してください。

QR コードで接続する

ホーム画面の［Print Utility 接続］をタップすると、接続用の QR コードが表示されます。

Chrome OS からのプリント

プリントの方法については、Google 社の公式サイトを参照してください。

Universal Print

Universal Print は、Microsoft が提供するクラウド型のプリントサービスです。プリンタードライバーや特別なソフトウェアをインストールすることなく、Microsoft Entra ID の認証を使用して、どこからでも本機でプリントできます。

参照

- Universal Print の設定を有効にする方法は、『Internet Services ヘルプ 設定・操作編』の「Universal Print」を参照してください。
- プリントの方法については、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

5 コピー

5.1 基本操作

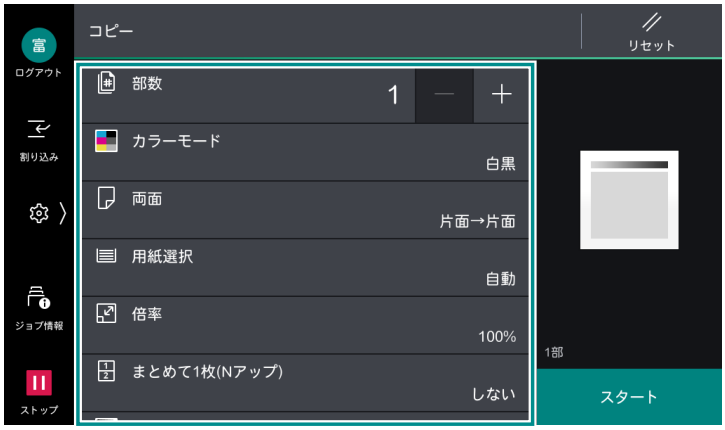
1. **原稿をセットします。**

参照

- 原稿のセット方法については、『リファレンスガイド 本体編』の「本機の基本操作」を参照してください。

2. **［コピー］をタップします。**

3. **部数と各項目を設定します。**



シンプル表示について

「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) で、［シンプル表示の使用］を［する］に設定している場合は、機能リストの項目数を少なくした「シンプル表示」画面が表示されます。シンプル表示で表示されていない機能を設定するには、画面上部の （［詳細設定］）をタップします。

補足

- 設定値を初期設定に戻すときは、（［リセット］）をタップします。

参照

- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.68) を参照してください。

4. **［スタート］をタップします。**

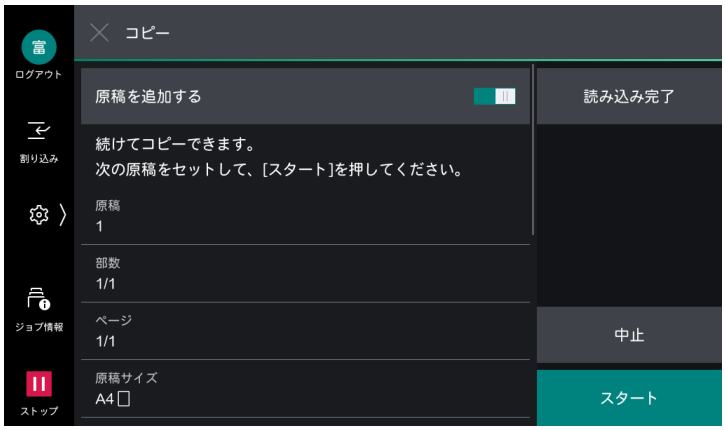
中止

1. **、または［ストップ］をタップします。**

2. **［中止］をタップします。**

続けてコピー

機能リストの［次原稿］を有効に設定すると、次の確認画面が表示されます。



1. **前の原稿の読み込みが終了したら、次の原稿をセットします。**

2. **［スタート］をタップします。**

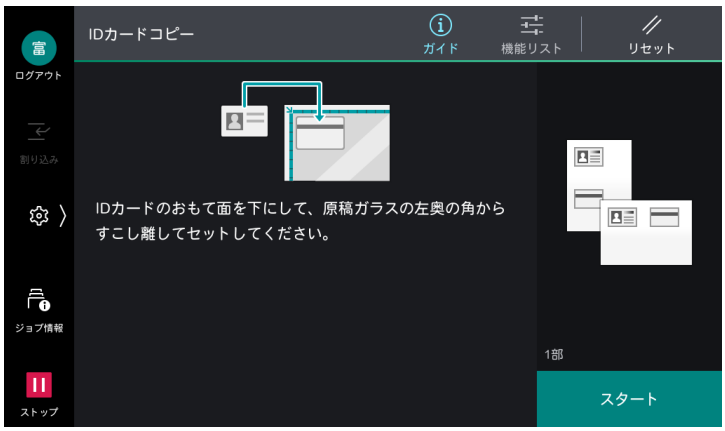
3. **すべての原稿を読み込んだら、［読み込み完了］をタップします。**

5.2 ID カードコピー

ID カードのように原稿サイズを自動で検知できない原稿を、おもてとうらの両面を 1 枚の用紙に並べてコピーできます。

1. **[ID カードコピー] をタップします。**

2. **原稿カバーを開き、ID カードのおもて面を下にして、セットします。**



補足

- ID カードは、原稿ガラスの上端と左端から最低 5 mm 離して、セットしてください。

3. **原稿カバーを閉じます。**

4. **画面上部の （[機能リスト]）をタップして、各項目を設定します。**

参照

- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.68) を参照してください。

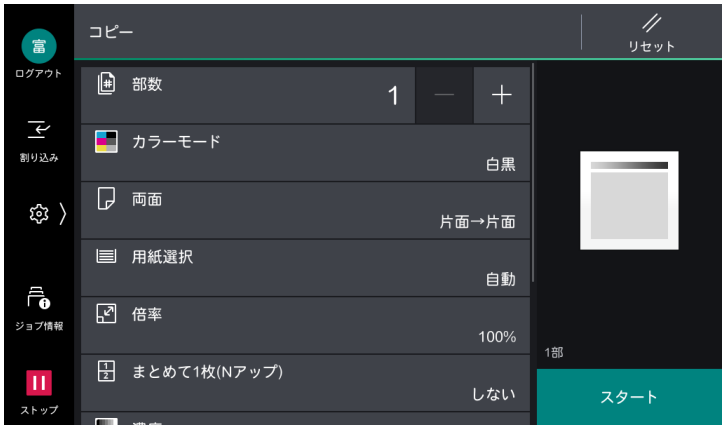
5. **[スタート] をタップします。**

6. **手順 2 と同様に、原稿カバーを開き、ID カードのうら面を下にしてセットします。**

7. **原稿カバーを閉じます。**

8. **[スタート] をタップします。**

5.3 機能リスト

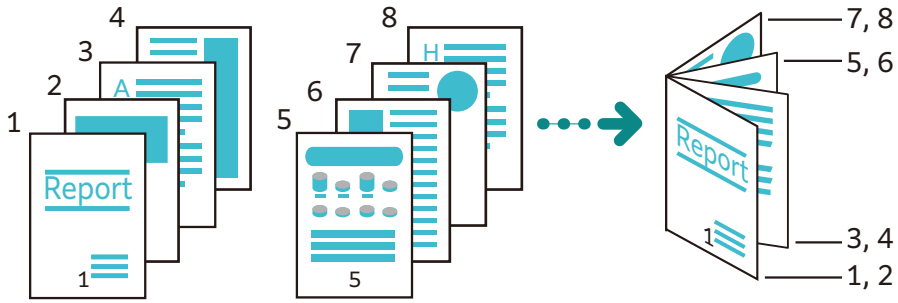
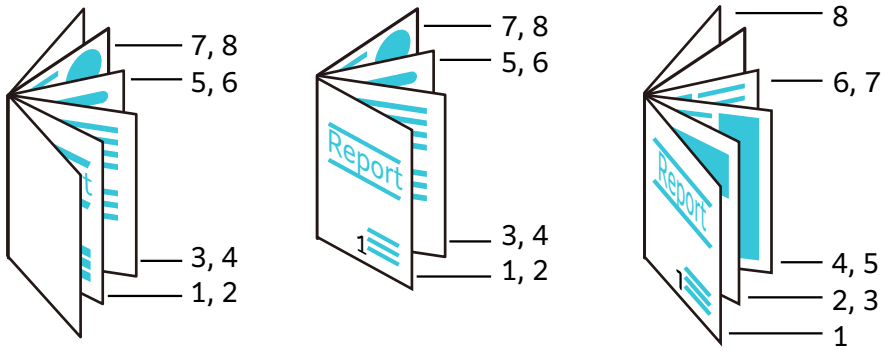


参照

- 機能リストの使い方については、「アプリの機能リスト画面」(P.31) を参照してください。

項目	説明
[部数]	部数を入力します。
[カラーモード]	コピーをするときの［カラーモード］を設定します。 **補足** • ［自動］を選択した場合、原稿が白黒であっても、イエロー、マゼンタ、シアンのドラムやトナーを消耗することがあります。 • ［2 色カラー］と［単色カラー］で［登録色］を指定できます。詳しくは、「[登録色]」(P.150) を参照してください。
[両面]	原稿の両面を読み取るかどうかと、用紙の両面に印字するかどうかを設定します。
[用紙選択]	用紙トレイを選択します。［自動］を選択すると、適切な用紙トレイが選択されます。
[倍率]	コピーする倍率を設定します。 ［自動 %］を選択すると、原稿サイズと用紙サイズから、適切な倍率を設定します。数値を入力すると、指定の倍率でコピーできます。［ちょっと小さめ］を有効にすると、画像が欠けないように、指定した倍率よりも少しだけ縮小してコピーします。
[まとめて 1 枚（N アップ)]	複数枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーします。コピー時のレイアウトや原稿のセット向きを指定します。
[濃度]	コピーの濃度を調整します。
[ホチキス]	ホチキスで留める位置を設定します。
[パンチ]	パンチ穴を開ける位置を設定します。
[紙折り]	コピーした用紙を折って排出できます。 ［印字位置］が表示された場合、印字位置を内側か外側のどちらかに設定します。 **補足** • 用紙の向きは、□(よこ置き）限定となります。
[仕分け]	用紙の排出方法を設定します。
[排出先 / オフセット排出]	排出先のトレイを選択します。また、区切りがわかるように用紙の排出位置を交互にずらして排出する設定をします。
[原稿の画質]	画質タイプを設定します。

項目	説明
[ミックスサイズ原稿送り]	いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにコピーしたり、1つのサイズにそろえてコピーしたりできます。 補足 • 推奨する組み合わせは、A4□と A3□、JIS B5□と JIS B4□です。
[原稿セット向き]	原稿ガラス、または原稿送り装置に、どの向きで原稿をセットするかを設定します。
[原稿サイズ]	非定形サイズの原稿を読み取るときや、異なるサイズでコピーするときは、サイズを指定できます。 補足 • 原稿送り装置にセットしている場合、たて方向（[Y]）の読み取るサイズの基点は、中央になります。たとえば、読み取りたいサイズを 100 mm に指定すると、原稿の半分から上方向に 50 mm、下方向に 50 mm が読み取るサイズになります。
[シャープネス]	シャープさを調整します。
[彩度]	彩度を調整します。
[地色除去 / コントラスト]	新聞や下地（背景）に色が付いている原稿の、下地の色を除いたり、コントラストを調整したりします。 補足 • [原稿の画質] の設定が [写真] の場合、地色は除去できません。 • 「[画質の設定]」(P.137) の [地色除去方式（カラーコピー)]、または [地色除去方式（白黒コピー)] が [画質優先] の場合、原稿送り装置では使用できません。
[おまかせ画質調整]	画質イメージを選択すると、[地色除去 / コントラスト]、[濃度]、[シャープネス]、[彩度]、[色合い]、[カラーバランス] を自動的に調整します。 補足 • [おまかせ画質調整] で画質イメージを選択したあと、そのほかの画質調整機能を変更すると、[おまかせ画質調整] の設定は解除されます。
[カラーバランス]	[イエロー]、[マゼンタ]、[シアン]、[ブラック] の 4 色に対して、[低濃度] / [中濃度] / [高濃度] ごとに強弱を調整します。 [濃度] では、4 色を合わせた状態の濃度を調整しますが、[カラーバランス] では、トナーの色ごとに細かく濃度を設定するので、赤み、青みなどの色のバランスを微調整できます。
[色合い]	カラー原稿の色合いを調整します。
[ページ連写]	本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順にコピーします。 補足 • この機能は、原稿送り装置では使用できません。
[ブック両面]	製本された本などの見開きページを、原稿と同じ見開き状態になるようにページを割り当てて両面コピーします。また、見開きページの左右で開始ページと終了ページを指定したり、中央のとじ部分の影を消す範囲を指定したりできます。
[わく消し]	原稿カバーを開いたままコピーしたり、冊子になっている原稿をコピーしたりするときに、用紙の周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してコピーします。 補足 • 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面には同じわく消し量が設定されます。 • [倍率] を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。 • 両面原稿を原稿ガラスを使用してコピーする場合、[おもて面と対称] の指定は無効となります。原稿送り装置を使用するか、または原稿送り装置を使用できない原稿は、[結合ジョブ] を選択して、おもて / うらでわく消し設定を変更してください。 • わく消しの幅を 0 mm に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域については、『リファレンスガイド 本体編』の「印字領域」を参照してください。

項目	説明
[コピー位置 / とじしろ]	原稿イメージの位置を上下左右に移動したり、原稿の中心を用紙の中心に移動したりしてコピーします。また、上下左右に余白（とじしろ）を付けて、コピーすることもできます。両面にプリントする場合は、[おもて面]、[うら面] それぞれに移動する位置を設定します。
[鏡像]	原稿イメージの左右を反転させてコピーします。
[ネガポジ反転]	原稿イメージを反転してコピーします。 **補足** • [カラーモード] が [白黒]、[単色カラー] の場合は、濃度（明度）を反転します。 • [カラーモード] が [フルカラー] の場合は、補色反転をします。 • [ネガポジ反転] と [わく消し] を同時に設定したとき、わく消し領域は「白」になります。
[自動画像回転]	セットした原稿と、用紙トレイにセットされている用紙のたてよこ方向が異なるときに、原稿のイメージを回転させて、原稿と用紙のたてよこを合わせてコピーします。また、たて原稿とよこ原稿が混在している場合、どこを基準に回転するかを選択できます。
[製本]	複数枚の原稿を、冊子（中とじ冊子）になるようにページ順を割り付けてコピーします。また、製本するときに、とじしろを設定したり、表紙を付けたりできます。 • [左とじ / 上とじ]  • [表紙] [コピーしない]、[両面にコピー]、[外側にコピー]  **補足** • 4 枚の原稿を 1 枚の用紙にコピーするので、原稿の枚数が 4 の倍数にならない場合は、残りのページは白紙ページになります。

項目	説明
[表紙付け]	表紙を付けてコピーします。原稿の先頭ページに別の用紙（色紙 / 厚紙など）を使用して、おもて表紙やうら表紙としてコピーできます。
[おもて表紙]	• [なし] 表紙を付けません。 • [コピーしない] 白紙や表紙用にコピーされた用紙を添付できます。添付する用紙の枚数や使用する用紙を指定します。 • [表 1 にコピー（おもて面）] 表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。 • [表 2 にコピー（うら面）] 表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。 • [表 1 と表 2 にコピー（両面）] 表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。
[うら表紙]	• [なし] 表紙を付けません。 • [コピーしない] 白紙や表紙用にコピーされた用紙を添付できます。添付する用紙の枚数や使用する用紙を指定します。 • [表 3 にコピー（おもて面）] 表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。 • [表 4 にコピー（うら面）] 表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。 • [表 3 と表 4 にコピー（両面）] 表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。 **補足** • 表紙を付ける場合は、表紙に使用する用紙トレイを選択します。 • [おもて表紙] と [うら表紙] の両方を設定した場合、うら表紙原稿を先に読み込ませてください。うら表紙原稿の次の原稿からおもて表紙原稿としてコピーします。
[ポスター]	原稿を何枚かの用紙に分割して、拡大コピーします。 分割されたコピーを貼り合わせることで、大きなサイズのポスターが作成できます。 コピーされた用紙には切り貼りができるように、のりしろ分があります。のりしろ分は、10 mm に固定されています。 **補足** • この機能は、原稿送り装置では使用できません。
[画像繰り返し]	1 枚の用紙に原稿イメージを指定した個数分だけ、繰り返してコピーします。 倍率が自動に指定されている場合、繰り返したイメージが選択した用紙に収まるようにコピーされます。また、原稿イメージの配置方法も指定できます。
[ダブルコピー]	1 枚の原稿を、1 枚の用紙上に指定した枚数に合わせて均等分割して、同じ画像を繰り返しコピーします。
[アノテーション]	用紙の任意の位置に文字列を合成してコピーします。[秘] や [禁複写] などの決められた文字列や、日付、ページ番号を付けるかどうか設定します。印字位置や大きさなどの詳細も、あらかじめ用意されている形式から選択できます。 **補足** • [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、ここで設定するアノテーションが印字されます。

項目	説明
[複製管理]	用紙の背景全体に、設定した文字列を繰り返し薄く合成してコピーします。 [管理番号] を印字する場合、たとえば、開始番号を「1」に設定すると、1 部めのすべてのページには「1」、2 部めのすべてのページには「2」が印字されます。 会議で配布する機密文書などの複写を抑止するため、配布するコピーと配布した人を関連づけるための通し番号として利用できます。 **補足** • [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、複製管理のデータが印字されます。 • [強制複製管理 - コピー] を [する] にすると、変更できなくなります。
[ペーパーセキュリティー]	コピー結果に複製抑止の情報を埋め込み、文書の複製を制限したり、デジタルコードを埋め込み、文書を解析（「いつ」「どの機械で」「誰が」コピーしたかなど）したりして、セキュリティ管理します。 **補足** • [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、複製抑止の情報が埋め込まれます。 **参照** • デジタルコードの解析には、弊社アプリケーション PaperSecurity Analyzer（別売）が必要です。PaperSecurity Analyzer の操作方法は、アプリケーションのマニュアルを参照してください。
[結合ジョブ]	原稿のページ、または束ごとに設定を変更して保存しながら、最終的に 1 つのジョブとして、異なる設定の原稿をまとめてコピーします。また、原稿の前に合紙を挿入できます。
[サンプルコピー]	コピーを複数部で設定したときに、1 部をコピーして、できあがり状態を確認してから残りをコピーします。確認してから残りの部数のコピーを続けるか、コピーを中止するか選択できます。また、部数の変更もできます。サンプルコピーの 1 部は、部数に含まれます。
[抽出 / 削除]	原稿の必要な部分だけをコピーします。原稿上の 2 点を指定して領域を設定し、その部分を抽出、または削除します。領域は、3 か所まで指定できます。また、対象とする原稿面も指定できます。
[次原稿]	原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をコピーするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてコピーするときに設定します。

6 ファクス

6.1 基本操作

1. 原稿をセットします。

参照
- 原稿のセット方法については、『リファレンスガイド 本体編』の「本機の基本操作」を参照してください。

2. ［ファクス］をタップします。

3. キーボードで宛先を入力します。

補足
- キーボードで複数の宛先を指定するときは、宛先を入力したあと、［次宛先］をタップします。
- (アドレス帳)、または (リダイヤル) をタップしても宛先を指定できます。
- 「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) の［初期表示画面］の設定によっては、表示される画面が異なります。

参照
- ワンタッチボタンからの宛先指定は、「ワンタッチボタン」(P.77) を参照してください。

パスワード送信について

誤送信を防ぐために、パスワード送信機能が利用できます。受信側の機器に G3-ID（ファクス番号）が登録されている場合に利用できます。回線接続時に受信側から送られてくる G3-ID と、宛先の「S」以降に設定された番号を比較して、一致した場合だけ送信します。

受信側ファクス番号 + S + 受信側に登録されている G3-ID*1

「03012345678S0312345678」（11 桁比較する例）

*1 :「S」に続く文字列は、最終 1 桁の数字を含む任意の桁数。

「S」に続く部分の入力を省略した場合は、電話番号の下 6 桁を比較対象とします。

補足
- 受信側の機器に登録されている G3-ID にハイフンなど数字以外の記号が含まれている場合は、数字だけを抽出して入力します。

4. ［完了］をタップします。

5. 画面上部の （[機能リスト]）をタップして、各項目を設定します。

補足

- 設定値を初期設定に戻すときは、（[リセット]）をタップします。

参照

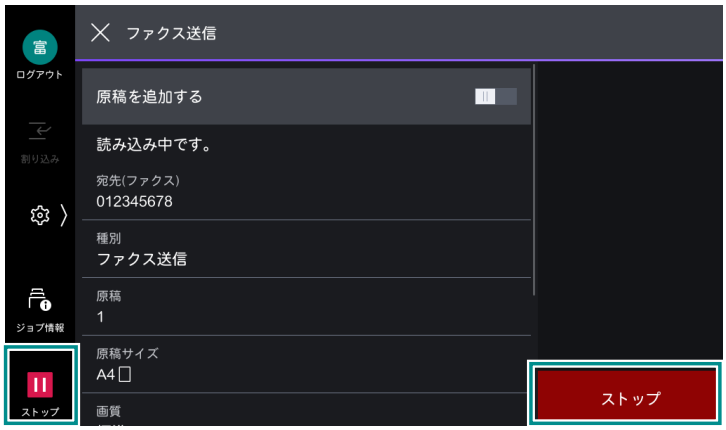
- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.88) を参照してください。

6. ［スタート］をタップします。

7. 宛先確認画面で、［スタート］をタップします。

読み込みの中止

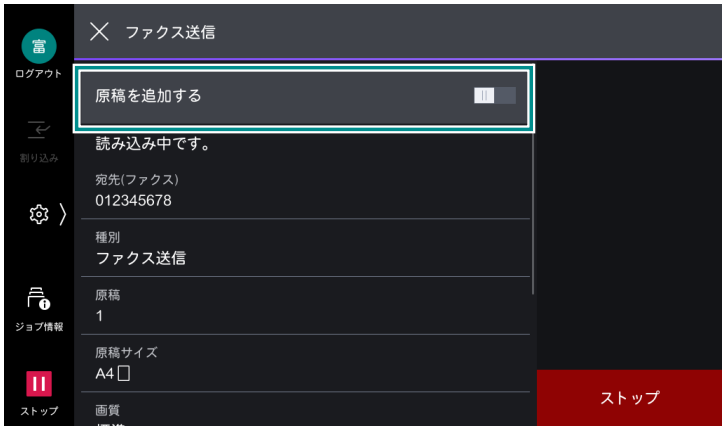
1. 、または［ストップ］をタップします。



2. ［中止］をタップします。

続けて読み込む

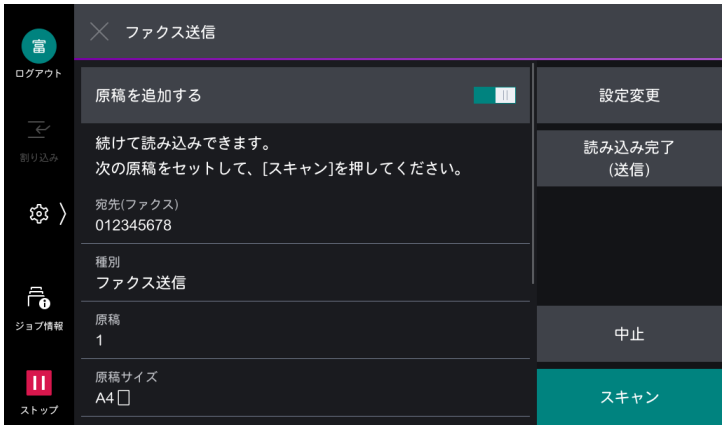
1. ［原稿を追加する］をタップします。



補足

- 機能リストで［次原稿］を有効に設定しても、原稿を続けて読み込むことができます。

2. 次の操作を選択します。



次原稿を読み込む

1) 次の原稿をセットします。

2) ［スキャン］をタップします。

次原稿の設定を変更する

1) 次の原稿をセットします。

2) ［設定変更］をタップします。

3) 機能リストの設定を変更します。

4) ［スキャン］をタップします。

3. すべての原稿を読み込んだら、［読み込み完了（送信）］をタップします。

宛先の編集

1. **宛先をタップします。**

2. **次の操作を選択します。**

項目	説明
[通信モード]	通信モードを指定します。
[宛先から削除]	宛先を削除します。
[編集]	宛先を修正します。
[アドレス帳に登録]	新しく連絡先を作成します。または、既存の連絡先に宛先を追加します。

ワンタッチボタン

あらかじめワンタッチボタンに宛先を登録しておくと、ボタンをタップするだけで宛先を指定できます。

参照

- ワンタッチボタンへの宛先の登録は、「[ワンタッチボタン設定] / [ワンタッチボタンとアドレス帳登録番号の設定] / [アドレス帳登録番号の設定]」(P.180) を参照してください。

未送信文書

送信できなかったファクス文書を、再送信できます。

補足

- [ファクス未送信文書] は、⚙ > [設定] > [アプリ設定] > [ファクス設定] > [ファクス動作制御] > [ファクス未送信時の文書保存] を有効にすると、表示されます。

1. ⚙ > [ジョブ情報] > [保存文書] > [ファクス未送信文書] をタップします。

2. 再送信、または削除する文書をタップします。

削除

1) [削除] > [はい（削除する)] をタップします。

再送信

1) [送信] をタップします。

宛先を変更して再送信

1) [宛先変更して再送信] をタップします。

2) 宛先を変更して、[スタート] をタップします。

6.2 受信

自動受信は、相手からの送信に対して、受信を開始します。

手動受信は、相手からの送信を手動で受信します。

また、G3-ID を利用して特定のファクス番号の受信や非通知番号の受信を拒否できます。拒否するファクス番号は最大 50 件まで登録できます。

- 特定ファクス番号の受信拒否：
  拒否するファクス番号として登録された中に、送信機から送られてきた G3-ID がある場合に受信を拒否します。
- 非通知番号の受信拒否：
  送信機から G3-ID が送られてこなかった場合に受信を拒否します。

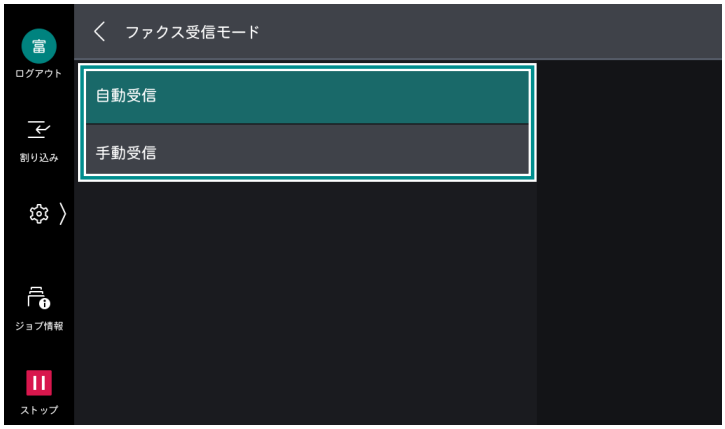
補足

- G3-ID は、ナンバーディスプレイサービスなどで通知される発信者番号ではなく、送信機で登録された電話番号などの情報です。
- IP ファクス（SIP）の場合、手動受信を利用できません。

ファクス受信モードの切り替え

1. ⚙ ＞［機械確認（メーター確認）］＞［ファクス受信モード］をタップします。

2. ［自動受信］、または［手動受信］をタップします。



手動受信

1. 呼び出し音が鳴り、着信画面が表示されたら受話器を取ります。受話器がない場合は、［オンフック］をタップします。

2. ［スタート］をタップします。

ファクス受信を開始します。

3. 受話器を使用している場合は、操作パネルのデータランプが点滅したら、受話器を戻します。

親展受信

親展受信を使用して受信した文書は、ボックスに蓄積されます。親展受信するとデータランプが点灯して、親展受信レポートがプリントされます。親展受信レポートには、ボックス No.、ボックス名称が記載されています。

なお、F コード方式を使用して親展受信する場合は、相手先に次の情報を伝えます。

F コード（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋蓄積するボックス No.

パスワード（必要に応じて）：蓄積するボックスの暗証番号

補足

- IP ファクス（SIP）では、FAX 信号方式と F コード方式が利用できます。
- IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイを経由して通信する場合は、FAX 信号方式での親展通信を利用できません。F コード方式の親展通信だけ利用できます。

6.3 インターネットファクス

電話回線を経由するファクス通信とは異なり、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信する機能です。

また、インターネットファクスダイレクトは、SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス対応機に直接送信できます。

補足

- 添付文書のファイル形式は、TIFF 形式です。
- インターネットファクスでは、通信モード、優先通信、時刻指定、送信シート、F コード通信、親展通信、ポーリング、手動送信、ボックスへの振り分け（ボックスセレクター）、ダイレクトファクスは使用できません。ただし、通信モードと F コード通信は、ファクスゲートウェイ機能を使用した場合に設定できます。
- インターネットファクスとインターネットファクスダイレクトは、両方を有効にできません。利用状況に応じて、機械管理者モードで切り替えてください。
- インターネットファクス機能は、カラー文書に対応していません。カラーのインターネットファクス文書（プロファイル：TIFF-C）を受信した場合は、モノクロに変換してプリントされます。
- インターネットファクスダイレクトは、POP 受信に対応していません。

送信

1. **原稿をセットします。**
2. **［インターネットファクス］をタップします。**

3. **以降の操作は、「基本操作」(P.73) の手順 3 以降と同じです。**

補足

- 一般のメールで使用する CC、BCC、Reply-to 機能は使用できません。
- インターネットファクスダイレクトの宛先は、次の方法で指定します。
  - ホスト名を指定
    例：local-part@device.domain.jp
    @の右側が FQDN であることが必要です。
  - IP アドレスを指定
    例：local-part@［192.0.2.1］
    @の右側に、［ ］で囲った IP アドレスを入力します。

受信

インターネットファクス対応機から本機に宛てたメールを受信すると、受信文書をプリントします。

また、「BOX123@myhost.example.com」のように、メールアドレスにボックスを指定したメールも受信できます。

補足

- プロファイルに［TIFF-S］が選択されている場合は、A4 でプリントされます。

ボックスへの送信

補足

- 受信側が SMTP 受信の場合にだけ使用できます。
- 受信側にパスワードを設定していないボックスが登録されている必要があります。

1. **［インターネットファクス］をタップします。**

2. **受信側のメールアドレスを次のように入力します。**

BOX123@myhost.example.com
(a) (b) (c)

(a)　「BOX」+3 桁のボックス番号

(b)　@ + 受信側のホスト名

(c)　「.（ドット）」+ 受信側のドメイン名

一般のファクスへの送信

特定の形式でメールアドレスを指定することによって、一般のファクス（インターネットファクス機能を持たないファクス）にファクス文書を送信できます。

インターネットファクス対応機で、受信したメールをファクス文書に変換して、指定したファクスに送信します。

補足

- ファクスゲートウェイのメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。
- ［通信モード］の指定は、ファクスゲートウェイから送信先ファクスの間の通信モードに適用されます。

1. **［インターネットファクス］をタップします。**

2. **受信側のメールアドレスを次のように入力します。**

FAX=0312345678/T33S=123@myhost.example.com

(a) (b) (c) (d) (e)

(a) 固定文字列

(b) ファクスを受信する相手先のファクス番号

(c) *1 「/T33S」+F コード

(d) @ + メールを受信してファクス送信する本機のホスト名

(e) 「.（ドット）」+ ドメイン名

*1 :F コードを指定しない場合、省略できます。

文書の転送

ボックスに蓄積されたファクス文書を、メールの添付文書として転送できます。

- ファクスを送信する側
  FAX 信号方式（弊社独自の通信手順）、F コード方式を使用して親展送信します。
- ボックスにファクスを受信して、インターネットファクスを転送する側
  転送先を指定したジョブフローを作成して、作成したジョブフローをボックスに関連づけます。

補足

- 転送できる宛先は、100 か所までです。
- 「ボックス番号」と「暗証番号」は、ファクス送信側で必要となります。設定内容を送信側に知らせてください。

6.4 IP ファクス（SIP）

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、ひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信したりできます。

- 企業内ネットワーク（イントラネット）：

  企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外に送信できます。

補足

- ［IP ファクス（SIP）］機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、キヤノン株式会社、株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。

- 次世代ネットワーク（NGN）：

  次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた情報通信ネットワークです。

補足

- 弊社、または他社の NGN 対応機種と、IP ファクス（SIP）通信が可能です。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。

送信

1. 原稿をセットします。

2. ［ファクス］をタップします。

3. ［IP ファクス］をタップします。

4. 以降の操作は、「基本操作」(P.73) の手順 3 以降と同じです。

補足

- IP ファクス（SIP）の宛先は、次の方法で指定します。
  - 電話番号の入力例：0312345678
  - IP アドレスの入力例：local-part@192.0.2.1
- 送信先のファクスの種類や IP ファクス（SIP）の接続構成によって、宛先の入力形式が異なります。

受信

受信した文書は一般のファクスのようにプリントされます。

6.5 ダイレクトファクス

アプリケーションで作成した文書を、クライアントコンピューターから直接ファクス送信できます。

補足

- この機能を利用するには、ファクスドライバーのインストールが必要です。ファクスドライバーは、弊社公式サイトから入手できます。

送信

1. **アプリケーションの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。**
2. **使用するプリンターとしてファクスドライバーを選択します。**
3. **プリンターのプロパティを開きます。**
4. **［ファクス送信］タブで、宛先を指定します。**

   補足

   - G3 増設ポートキットを取り付けて、本機の［内線設定］で内線に使用する回線を選択している場合は、［通信設定］をクリックして表示される画面で、［外線 / 内線］から［外線］、または［内線］を選択すると、外線、または内線の専用ポートが割り当てられます。
5. **必要に応じて、各項目を設定します。**
6. **［OK］をクリックします。**
7. **［印刷］ダイアログボックスで、［印刷］をクリックします。**
8. **［ファクス送信の設定 / 確認］ダイアログボックスで内容を確認して、［送信開始］をクリックします。**

宛先の指定

- 本機のアドレス帳から直接指定する

  ［宛先表から追加］＞［本体の宛先表を参照する］をクリックして、表示される宛先一覧から宛先を指定します。
- ファクス宛先表ツールで作成した宛先表から指定する

  ［宛先表から追加］＞［宛先表ファイルを参照する］をクリックして、使用する宛先表ファイル（fxt/fxt2 形式）を指定します。表示される宛先一覧から宛先を指定します。
- ファクス番号を直接入力する

  ［宛先種別］で［ファクス］を選択して、［宛先番号 / アドレス］にファクス番号を入力します。

  ［宛先種別］で［ファクス］、または［IP ファクス（SIP）］を選択して、［宛先番号 / アドレス］にファクス番号、または IP ファクスアドレスを入力します。

補足

- SOAP を起動してください。
- 認証方式が［本体認証 / 集計］の場合、あらかじめファクスドライバーに認証情報を設定しておく必要があります。

ここでは、本機に登録されているアドレス帳を直接参照して、宛先を指定する方法を説明します。

1. **ファクスドライバーの［ファクス送信］タブで、［宛先表から追加］をクリックします。**
2. **［本体の宛先表を参照する］を選択して、［OK］をクリックします。**
3. **宛先を選択して、［宛先へ追加］をクリックします。**
4. **［OK］をクリックすると、［ファクス送信］タブの［宛先の一覧］に宛先が追加されます。**

ファクス宛先表ツール

あらかじめ宛先表に作成しておくと、送信時に宛先表から宛先を選択するだけで、送信準備ができます。

- 1 つの宛先表ファイルに 9,999 件まで、宛先を登録できます。また、複数の宛先表ファイルを作成できます。必要に応じて任意の宛先表を読み込んで使用します。
- 同一原稿を一度に送信することが多い宛先をまとめて、1 つの宛先グループに登録できます。

補足

- すでに作成した宛先表に宛先を追加する場合は、［ファイル］メニューの［宛先表を開く］をクリックして、表示する宛先表ファイル（拡張子が「.fxt2」のファイル）を選択してください。
- 拡張子が「.fxt」の宛先表ファイルは読み取り専用のため、宛先を追加できません。
- インターネットサービスを使用して取り出した CSV フォーマットのファイルを編集しないでください。

起動

1. **［スタート］メニューから［FUJIFILM］＞［ファクス宛先表ツール］をクリックします。**

送信シート

送信する原稿の先頭に表紙（送信シート）を付けることができます。送信シートには、標準フォームのほかに、任意に作成したフォームを指定できます。

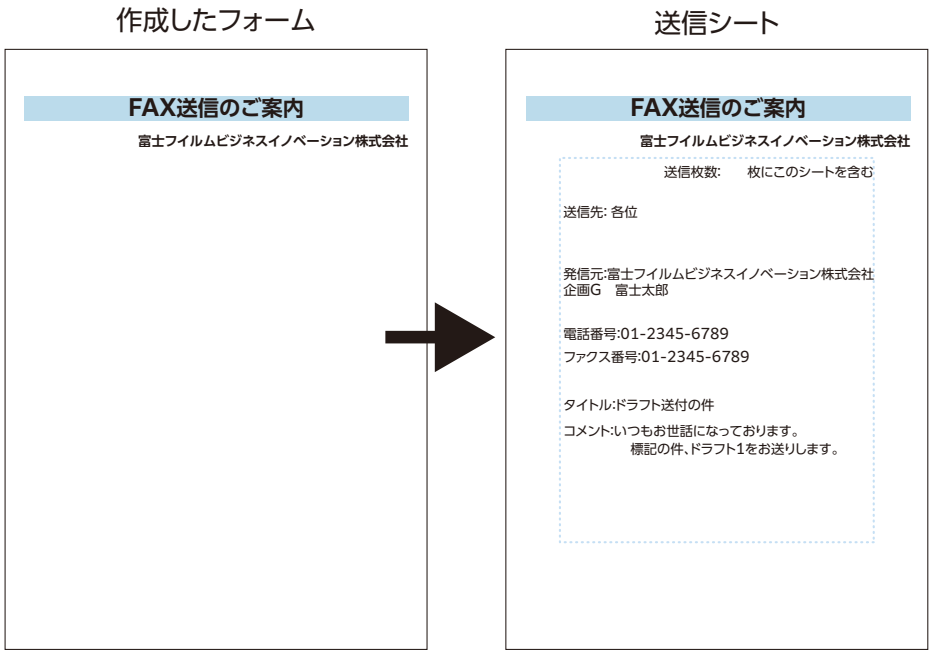
補足

- クライアントコンピューターから直接ファクスを送信するときに添付できる送信シートと、本機での設定によって添付できる送信シートは異なります。

フォームの作成

1. **［スタート］＞［設定］＞［Bluetooth とデバイス］＞［プリンターとスキャナー］から本機に該当するファクス機をクリックします。**
2. **［印刷設定］をクリックします。**
3. **［ファクス送信］タブの［送信シートを付ける］にチェックマークを付けて、［送信シート設定］をクリックします。**
4. **［送信シートの選択］で［ユーザーフォーム（アドレス表示あり）］、または［ユーザーフォーム（アドレス表示なし）］を選択して、［テスト印刷］をクリックします。**

5. テストプリントの内容と重なってプリントされることに注意して、アプリケーションでフォームの原稿を作成します。



点線内は、宛名などと重なるエリアの目安です。

フォームの登録

1. 作成したフォームを開いて、プリントを指示します。
2. プリンターの選択で本機の（ファクスドライバーではなく）プリンタードライバーを選択して、［印刷設定］を開きます。
3. ［プリントの種類］で［フォーム登録］を選択して、［編集］をクリックします。
4. ［フォーム名］と［フォルダー］を指定して、［OK］をクリックします。
5. プリンタードライバー画面を［OK］で閉じ、プリントを実行します。

シートの添付

1. ダイレクトファクスで送信する文書のプリントを指示します。
2. プリンターの選択で、本機のファクスドライバーを選択して、［印刷設定］を開きます。
3. ［ファクス送信］タブの［送信シートを付ける］にチェックマークを付けて、［送信シート設定］をクリックします。
4. ［送信シートの選択］で［ユーザーフォーム（アドレス表示あり）］、または［ユーザーフォーム（アドレス表示なし）］を選択して、［フォーム選択］をクリックします。
5. 登録したフォームを指定して、［OK］をクリックします。
6. ［送信シート］画面を［OK］で閉じます。
7. 宛先を指定して、ダイレクトファクスを送信します。

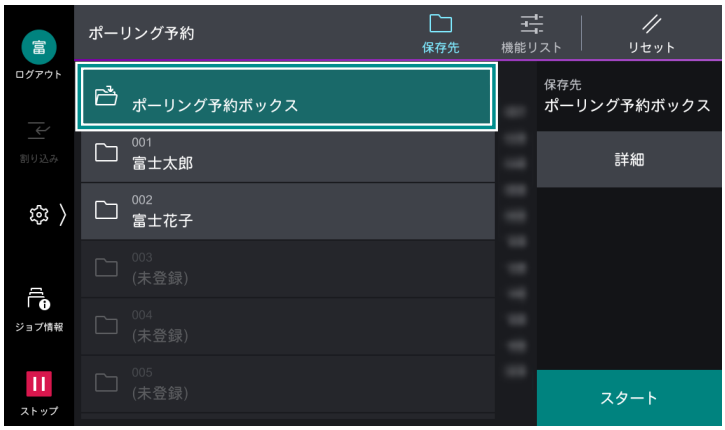
6.6 ポーリング予約

原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できます。

予約文書の蓄積

1. **［ポーリング予約］をタップします。**

2. **［ポーリング予約ボックス］をタップします。**



3. **画面上部の （［機能リスト］）をタップして、各項目を設定します。**

参照

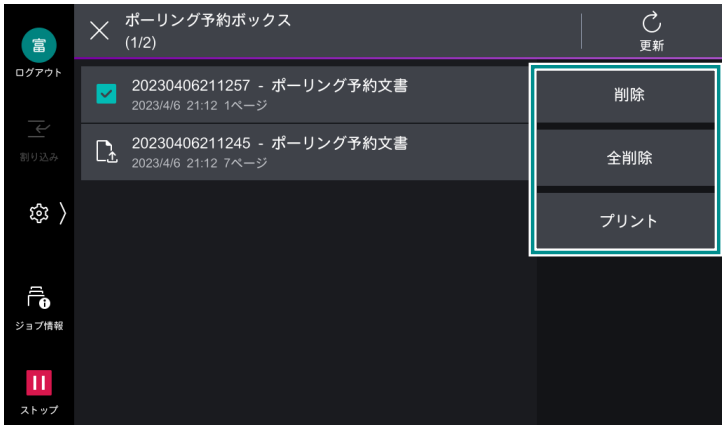
- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.88) を参照してください。

4. **［スタート］をタップします。**

予約文書のプリント / 削除

1. ［ポーリング予約］をタップします。
2. ［ポーリング予約ボックス］＞［詳細］をタップします。

3. 予約文書をタップして、チェックマークを付けます。
4. 次の操作をします。



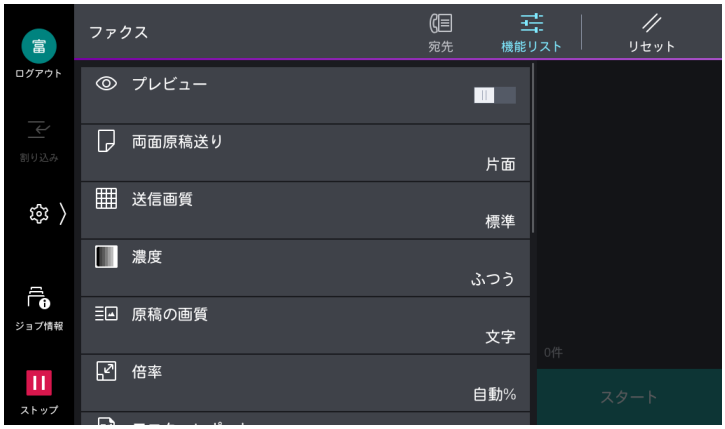
プリント

1) ［プリント］をタップします。

削除

1) ［削除］、または［全削除］をタップします。
2) ［はい（削除する）］をタップします。

6.7 機能リスト



参照

- 機能リストの使い方については、「アプリの機能リスト画面」(P.31) を参照してください。

項目	説明
[同報]	誤同報送信の抑止として、複数宛先を指定する前に同報するかの設定をします。 **補足** • 表示するには、[同報切り替えボタンの表示] の設定が必要です。詳しくは、「[ファクス動作制御]」(P.165) を参照してください。
[回線]	G3 増設ポートキット 3 を取り付けている場合には、回線（ポート）を指定して送信できます。回線ごとに自局情報を登録できるため、回線を使い分けるときに使用します。 **補足** • 宛先種別が [インターネットファクス]、または [IP ファクス（SIP)] の場合、設定は無効となります。 • 表示するには、[ファクス回線の表示] の設定が必要です。詳しくは、「[ファクス画面表示設定]」(P.165) を参照してください。 • [ファクス（回線 N)]、または [外線（回線 N)] を選択した場合は、指定したすべてのファクス宛先、または外線宛先に、選択した回線で送信されます。指定した宛先の中に、宛先種別が内線に設定された宛先がある場合は、その宛先だけが内線で送信されます。
[プレビュー]	原稿の読み込み時に、読み込んだ原稿を確認します。
[両面原稿送り]	原稿送り装置を利用する場合に有効です。読み込む原稿の面を指定します。
[送信画質]	原稿を読み取るときの解像度を設定します。
[濃度]	原稿を読み取るときの濃度を調整します。
[原稿の画質]	画質タイプを設定します。
[倍率]	読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小して送信できます。 固定の倍率から選択するか、数値を入力して指定します。
[モニターレポート]	通信が正常に終了した場合にはモニターレポートが、通信が正常に終了しなかった場合には未送信レポートがプリントされます。 インターネットファクスの送信結果を確認するには、[開封確認（MDN)]、または [配送確認（DSN)] のどちらかを使用します。[配送確認（DSN)] は、送信した原稿が、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたことを確認できます。 [開封確認（MDN)] は、送信した原稿が、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたことを確認できます。
[開封確認 (MDN)]	送信したインターネットファクスが正しく処理されたことを確認できます。

項目	説明
[配送確認(DSN)]	送信したインターネットファクスが宛先のメールボックスまで正しく送信されたことを確認できます。 補足 • [配送確認（DSN)] によってメールの到着を確認できるのは、配送確認機能に対応しているサーバーまでです。
[通信モード]	送信先の機能に応じて [通信モード] を選択します。
[G3 自動]	送信先が G3 のときに選択します。通常はこの通信モードを選択します。 送信先の受信能力に応じて、G3 Unique ECM → G3 Unique → ITU-T G3 ECM → ITU-T G3 の優先順位で切り替わります。
[4800bps]	雑音が多い、声が小さいなど、電話回線の状態が良くない地域の場合に選択します。 外国に送信する場合は、事業者識別番号（必要に応じて)、国際プレフィックス、国番号、地域番号、宛先のファクス番号を次のように入力します。 事業者識別番号 国際プレフィックス 国番号 地域番号 相手先の電話番号 補足 • 事業者識別番号については、各電話会社にお問い合わせください。
[ミックスサイズ原稿送り]	いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズの用紙に送信したり、1 つのサイズにそろえて送信したりできます。 補足 • 推奨する組み合わせは、A4□と A3□、JIS B5□と JIS B4□です。 • [読み取りサイズ] を [自動検知] に設定してください。
[発信元記録]	ファクス送信時にスキャンした送信文書に [通信開始時刻]、[発信元名]、[宛先名]、[送信ヘッダー宛先名]、[G3ID]、[枚数] を付けて送信します。インターネットファクス送信時は、日時、発信者情報、枚数 / 総ページ数を付けて送信します。 また、プレビューを表示させて発信元記録の付加位置を確認することもできます。
[読み取りサイズ]	原稿の読み取りサイズを指定して送信できます。 非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取る場合は、原稿サイズを指定します。
[ページ連写]	本などの冊子の見開きページを、別々に読み取って送信できます。
[原稿通過スタンプ]	原稿が原稿送り装置を通過するときにスタンプを付けます。読み取った面の後端に丸印（◯）を付けます。スタンプの有無によって、原稿を 1 枚ずつ読み取ったことを確認できます。
[優先通信]	優先通信をすると、すでに予約されている通信よりも、優先させて送信やポーリングができます。 補足 • 通信中に優先送信を指示した場合は、その通信が終わってから送信されます。 • 再送信となった場合は、設定しているリダイヤル間隔をとったあと、優先して送信されます。 • 同報先、または集信先の 1 つずつを、個別に優先させることはできません。
[時刻指定]	指定した時刻に通信を開始します。
[送信シート]	送信シートには、送信先、送信ヘッダ宛先名、コメント、発信元名、本機に登録されている G3ID（電話番号)、送信枚数、送信日時などが記載されます。
[並列合成送信]	複数枚の原稿を 1 枚にまとめて送信できます。たとえば、まとめる原稿の枚数を 3 枚に指定して、原稿送り装置に 12 枚の原稿をセットした場合は、4 ページとして蓄積されます。1 枚にまとめられる原稿枚数は、2 ～ 9 枚です。
[親展通信]	本機での操作で送信先のボックスに文書を送信します。送信先のボックス番号やパスワードが必要です。

項目	説明
[F コード通信]	送信先にボックスが設定されている場合に、F コード（サブアドレス）と、必要に応じてパスワードを指定すると、本機から親展送信ができます。 あらかじめ、送信先の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。 （弊社製 F コード通信対応機に対する入力例） [F コード]（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋送信先のボックス番号 [パスワード]（必要に応じて）：送信先のボックスの暗証番号
[ポーリング（相手から取り出し）]	相手先に蓄積されている文書を、本機からの操作で送信させるときに使用します。 補足 • 集信（マルチポーリング）の場合は、複数の相手先を指定します。
[オンフック（手動送信 / 受信）]	相手先の応答を確認してから手動で送信したり、ファクス情報サービスなどを、手動で受信したりするときに使用します。 補足 • IP ファクス（SIP）では、オンフックを利用できません。
[チェーンダイヤル]	アドレス帳に登録してある宛先のダイヤル番号と入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定します。
[インターネットファクス件名]	インターネットファクスの件名を指定します。
[インターネットファクスコメント]	インターネットファクスの本文を編集します。
[インターネットファクスプロファイル]	送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。 補足 • 送信先によって、処理できるプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、送信先で処理できるプロファイルを確認してください。 • プロファイルと、蓄積原稿サイズと送信画質の組み合わせで、不整合が発生した場合は、プロファイルの指定が優先されます。 • 同報送信をする場合で、宛先ごとにプロファイルが異なるときは、最も小さいサイズが最大蓄積サイズとなります。
[TIFF-S]	A4 より大きいサイズの原稿を、A4 に縮小して送信する場合に選択します。
[TIFF-F]	送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、JIS B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。
[TIFF-J]	JBIG で原稿を送信する場合に選択します。
[暗号化]	S/MIME で暗号化して、インターネットファクスを送信できます。 暗号化してインターネットファクスを送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられたメールアドレスをアドレス帳から選択します。 補足 • S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書についてはインターネットサービスのヘルプを参照してください。
[デジタル署名]	S/MIME でデジタル署名して、インターネットファクスを送信できます。 デジタル署名をすると、インターネットファクスの内容を改変されていないか、正しい送信者から送信されたインターネットファクスかなど、受信者が確認できます。 補足 • S/MIME でデジタル署名をしてインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、インターネットサービスのヘルプを参照してください。
[次原稿]	原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をファクスするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてファクスするときに設定します。

6.8 ペーパーレスファクス

補足

- ペーパーレスファクス設定画面で各項目を設定すると、親展受信レポートの自動出力が無効になります。親展受信レポートを自動で出力する場合は、⚙ > ［設定］ > ［システム設定］ > ［レポート設定］で［自動出力する］に設定してください。
- ペーパーレスファクス設定で作成されたジョブフローは、インターネットサービスや Device Setup（デバイス設定ツール）では編集できません。

ペーパーレスファクス受信時設定

ペーパーレスファクスの受信設定には、機械管理者へのログインが必要です。

1. ［ペーパーレスファクス設定］をタップします。

2. 任意の回線を選択します。

3. ［ボックス］の［(未設定)］をタップします。

4. ［ボックス番号］を指定します。

5. 未使用のボックス番号を指定した場合は、［ボックス名］を入力します。

6. ［OK］をタップします。

7. 必要に応じて、［文書取り出し後の削除］を指定します。

有効にすると、文書をプリントしたり、取り出したりしたあと、ボックスから文書が削除されます。

補足

- 有効にした場合でも、インターネットサービスから取り出したときは、文書は削除されません。
- 本機の設定によっては、文書が強制的に削除されることがあります。
- 次の場合は［文書取り出し後の削除］の設定に関係なく、文書が削除されます。
  - ⚙ > ［設定］ > ［アプリ設定］ > ［ボックス操作設定］ > ［外部取り出し後の文書削除］で［強制的に削除する］が設定されている
  - ⚙ > ［設定］ > ［アプリ設定］ > ［ボックス操作設定］ > ［ボックス文書の保存期間］で文書の保存期間が設定されていて［ボックス操作］で任意のボックスを選択して［ボックス設定］ > ［保存期間経過文書の削除］が有効になっている

8. 必要に応じて、［転送の自動実行］を指定します。

ファクス受信した文書をメールに添付したり、サーバーや共有フォルダーに転送したりする場合は、有効にします。

1) ［受信時の動作］をタップします。

2) ［動作設定名］を入力します。

3) ［転送 1］、または［転送 2］をタップしたあと、［宛先種別］をタップして、転送先を指定します。

補足

- アドレス帳は、本機の［アドレス帳］から設定できます。ペーパーレスファクス設定画面でアドレス帳から転送先を設定したあと、本機のアドレス帳を変更しても、ペーパーレスファクス設定の転送先は自動で変更されません。

4) 保存するファイルの形式を選択します。

補足

- 文字をテキストデータとして認識できる形式で保存する場合は、「OCR」が付いたメニューを選択します。

5) ［OK］をタップします。

6) 文書をプリントする場合は、［プリント］をタップして、排出先を選択します。

補足

- 自動転送の結果をメールで受け取る場合、［通知先］＞［(通知先未設定)］をタップして、通知先を指定します。

7) ［OK］をタップします。

9. ［OK］をタップします。

10. ほかの回線も設定する場合は、手順 2 ～ 9 を繰り返します。

11. ホーム画面に、ペーパーレスファクス受信用ボックスのボタンを配置する場合は、次の操作をします。

1) ［アプリ画面に配置］をタップします。

2) ボックスを配置する場所のボタンをタップします。

3) ［OK］をタップします。

12. ［保存］をタップします。

転送の停止

ファクス受信した文書のメール転送やサーバー転送を一時的に停止します。
受信した文書はボックスに蓄積されます。

1. ［ペーパーレスファクス設定］をタップします。
2. 転送を一時停止する回線をタップします。
3. ［転送の自動実行］を無効にします。
4. ［OK］をタップします。
5. ［保存］をタップします。

補足

- 転送を再開する場合は、［転送の自動実行］を有効にして、［ペーパーレスファクス設定］画面で［保存］をタップします。
- 転送を再開しても、［転送の自動実行］が無効のときにボックス内に蓄積された文書は転送されません。

ペーパーレスファクスの停止

ボックスに関連付けした回線の設定を削除します。運用を再開する場合は、再度回線を登録する必要があります。

1. ［ペーパーレスファクス設定］をタップします。
2. 運用を停止する回線をタップします。
3. ［回線 N 設定の削除］をタップします。
4. ［はい（削除する)］をタップします。
5. ［保存］をタップします。

ボックス内の文書を手動で転送する

転送エラー発生時や転送の一時停止中にボックス内に蓄積された文書は、次の手順で転送できます。

1. **文書が保存されているボックスを選択します。**
2. **転送する文書を選択します。**
3. **［ジョブフローを実行する］をタップします。**
4. **［ジョブフローを選択する］をタップし、ジョブフローを選択して［OK］をタップします。**
5. **転送をスタートします。**

7 スキャン

7.1 基本操作（メール送信）

補足

- スキャンの方法は、ほかにも［ボックス保存］、［スキャン送信］、［USB 保存］、［WSD スキャン］があります。
- メール送信をするには、本体のメール環境を設定しておく必要があります。

1. 原稿をセットします。

参照

- 原稿のセット方法については、『リファレンスガイド 本体編』の「本機の基本操作」を参照してください。

2. ［メール送信］をタップします。

3. キーボード入力、または (アドレス帳）をタップして、宛先を指定します。

補足

- 宛先の種類（To/CC/BCC）を変更するときは、 をタップします。
- 「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) の［初期表示画面］の設定によっては、表示される画面が異なります。
- キーボードの「.」（ドット）をロングタップすると、入力候補として「.net」、「.com」、「.org」が表示されます。

参照

- ワンタッチボタンからの宛先指定は、「ワンタッチボタン」(P.98) を参照してください。

4. **画面上部の （[機能リスト]）をタップして、各項目を設定します。**

補足

- 設定値を初期設定に戻すときは、（[リセット]）をタップします。

参照

- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.103) を参照してください。

5. **[スタート] をタップします。**

読み込みの中止

1. **、または [ストップ] をタップします。**

2. **[中止] をタップします。**

続けて読み込む

1. ［原稿を追加する］をタップします。

補足

- 機能リストで［次原稿］を有効に設定しても、原稿を続けて読み込むことができます。

2. 次の操作を選択します。

次原稿を読み込む

1) 次の原稿をセットします。

2) ［スキャン］をタップします。

次原稿の設定を変更する

1) 次の原稿をセットします。

2) ［設定変更］をタップします。

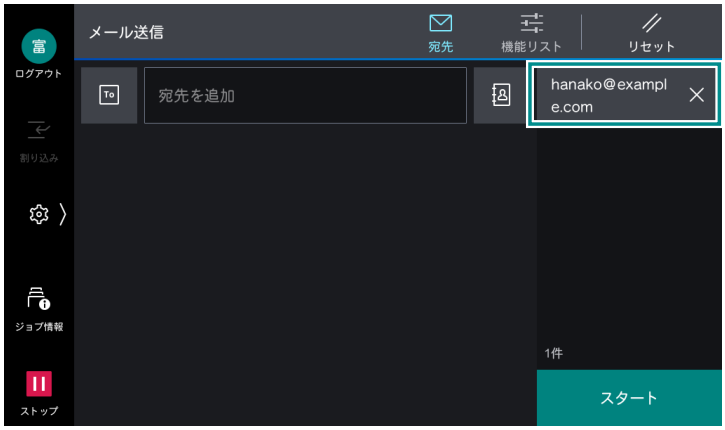
3) 機能リストの設定を変更します。

4) ［スキャン］をタップします。

3. すべての原稿を読み込んだら、［読み込み完了（送信）］をタップします。

宛先の編集

1. **宛先をタップします。**



2. **次の操作を選択します。**

項目	説明
[宛先の種類]	メール送信では、[宛先]、[CC]、[BCC] が指定できます。スキャン送信では、[宛先] だけ設定されます。
[宛先から削除]	宛先を削除します。
[編集]	宛先を修正します。
[アドレス帳に追加]	新しく連絡先を作成します。または、既存の連絡先に宛先を追加します。

ワンタッチボタン

あらかじめワンタッチボタンに宛先を登録しておくと、ボタンをタップするだけで宛先を指定できます。

参照

- ワンタッチボタンへの宛先の登録は、「[ワンタッチボタン設定] / [ワンタッチボタンとアドレス帳登録番号の設定] / [アドレス帳登録番号の設定]」(P.180) を参照してください。

7.2 ボックス保存

1. **原稿をセットします。**
2. **[ボックス保存] をタップします。**
3. **保存するボックスをタップします。**

4. **画面上部の （[機能リスト]）をタップして、各項目を設定します。**

参照

- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.103) を参照してください。

5. **[スタート] をタップします。**

7.3 スキャン送信

さまざまな方法でスキャンデータを送信できます。
同時に複数の機能を使用して送信することもできます。

1. **原稿をセットします。**

2. **[スキャン送信] をタップします。**

3. **[送信先を追加] をタップして、送信方法を選択します。**

(アドレス帳)、またはワンタッチボタンをタップして登録されている送信方法の宛先を選択することもできます。

参照

- ワンタッチボタンからの宛先指定は、「ワンタッチボタン」(P.98) を参照してください。

機能	説明
[URL 送信]	本機にスキャンしたデータを一時的に保存したあと、取り出し用と削除用の URL を記載したメールを、認証ユーザーの登録メールアドレスに送信します。送信できる宛先は、本機で認証されたユーザーだけです。

機能	説明
[SMB] / [FTP] / [SFTP]	スキャンしたデータをコンピューターに転送します。 タップすると表示される画面で、保存先の情報を設定します。ネットワーク上の保存先を検索することもできます。 参照 • 設定項目については、「各機能の詳細項目の設定」(P.121) を参照してください。
[メール送信]	スキャンしたデータをメールに添付して送信します。
[マイフォルダー保存]	「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [外部認証 / 集計] に設定しているときに利用できます。認証ユーザーに応じて、異なる転送先にスキャン文書を転送します。
[IC カードのメールアドレス]	IC カードに登録されている暗号化用証明書、または署名用証明書のメールアドレスに、スキャンしたデータを送付します。

補足
- 「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) の [初期表示画面] の設定によっては、表示される画面が異なります。
- サーバーの SMBv1 を無効にした場合は、[SMB] で保存先のコンピューターを検索できなくなります。その場合は、直接入力してください。
- インターネットサービスで SMB の NetBIOS 機能を無効にした場合は、次のことはできません。
  - [SMB] で保存先のコンピューターの検索。[保存場所] を選択して入力します。
  - [SMB] でホスト名だけを指定しての送信。

4. **表示される画面で、送信先を指定します。**

5. **画面上部の [機能リスト]) をタップして、各項目を設定します。**

参照
- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.103) を参照してください。

6. **[スタート] をタップします。**

7.4 USB 保存

1. **原稿をセットします。**

2. **USB メモリーを差し込みます。**

3. **[確認] をタップします。**

4. **[USB 保存] をタップします。**

補足
- ホーム画面の [USB] > [USB 保存]、または [USB 保存] からでも機能を利用できます。

5. **文書を保存するフォルダーを選択します。**

補足
- 保存先を指定しない場合、スキャンデータはルートディレクトリー直下に保存されます。

6. **画面上部の [機能リスト]) をタップして、各項目を設定します。**

参照
- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.103) を参照してください。

7. **[スタート] をタップします。**

7.5 WSD スキャン

スキャンしたデータを指定したクライアントコンピューターに保存できます。

補足

- スキャン時の解像度やファイル形式などは、Windows のスキャンプロファイルで設定してください。

保存

1. **原稿をセットします。**
2. **［WSD スキャン］をタップします。**
3. **用途に合わせてリストから保存先を選択します。**
4. **［スキャン］をタップします。**

リモートスキャン

ここでは、Windows 11 での操作を例に説明します。

補足

- Windows 11 でリモートスキャンを行うには、［Windows スキャン］が必要です。クライアントコンピューターにインストールされていない場合は、［Microsoft Store］からインストールします。

1. **原稿をセットします。**
2. **［スタート］メニューの［すべて］から［スキャン］（または［Windows Scan］）を選択します。**
3. **［スキャナー］に本機の機種名が表示されていることを確認します。**
4. **［読み取り元］で原稿読み取り部を選択します。**
5. **［詳細を表示］をクリックし、必要に応じて各項目を設定します。**
6. **［スキャン］をクリックします。**

7.6 ID カードスキャン

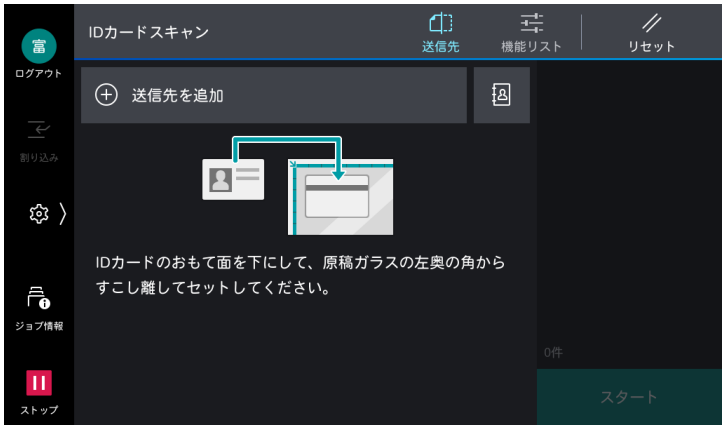
ID カードなどのおもてとうらの両面を 1 ページにまとめてスキャンします。

補足

- 通信が正常に終了しなかった場合は、未送信レポートがプリントされます。免許証などをスキャンする場合は、個人情報の保護のため、［未送信レポート］を［自動出力しない］に設定することをおすすめします。詳しくは、「［レポート設定］」(P.138) を参照してください。

1. **［ID カードスキャン］をタップします。**

2. **原稿カバーを開き、ID カードのおもて面を下にして、セットします。**



補足

- ID カードは、原稿ガラスの上端と左端から最低 5 mm 離して、セットしてください。

3. **原稿カバーを閉じます。**

4. **スキャン結果の送信先を指定します。**

参照

- 「スキャン送信」(P.99) の手順 3 ～ 4 を参照してください。

5. **画面上部の ▤ （[機能リスト]）をタップして、各項目を設定します。**

参照

- 各項目の説明は、「機能リスト」(P.103) を参照してください。

6. **[スタート] をタップします。**

7. **原稿カバーを開き、ID カードのうら面を下にしてセットします。**

8. **原稿カバーを閉じます。**

9. **[スキャン] をタップします。**

7.7 スキャンデータの取り込み

TWAIN 対応アプリケーション

TWAIN 対応アプリケーションでの取り込みには、スキャナードライバーを使用します。

補足

- スキャンした文書を TIFF ファイル形式で取り出すには、TIFF Viewer を使用します。
- セカンダリーイーサネットキットを取り付けている場合、イーサネット 2 の IP アドレスを指定しても、「ネットワークスキャナーユーティリティ 3」は動作しません。

1. **アプリケーションを起動します。**

2. **[ファイル] メニューから、スキャナー（ソース）を選択するコマンドを選択します。**

3. **[FUJIFILM Network Scanner 3 TWAIN] ＞ [選択] をクリックします。**

4. **[ファイル] メニューから、スキャナーから画像を取り込むコマンドを選択します。**

5. **表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックして、［次へ］をクリックします。**

補足

- 何も表示されない場合は、［再検索］をクリックしてください。
- スキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内にあるスキャナーだけです。ほかのネットワークにあるスキャナーを表示するには、［検索 / 表示の設定］をクリックして、IP アドレスとスキャナー名を登録してください。

6. **［ボックス番号］に取り込む文書が蓄積されているボックス番号と、［パスワード］にパスワードを入力します。**

7. **［決定］をクリックします。**

8. **リストから取り込む文書を選択して、［取り込み］をクリックします。**

DocuWorks

DocuWorks 7 以降の場合、スキャナードライバーを利用せずにスキャン文書を取り込めます。

親展ボックスビューワー

親展ボックスビューワー 3 を使用すると、アプリケーションを介さずに取り込めます。

7.8 機能リスト

参照

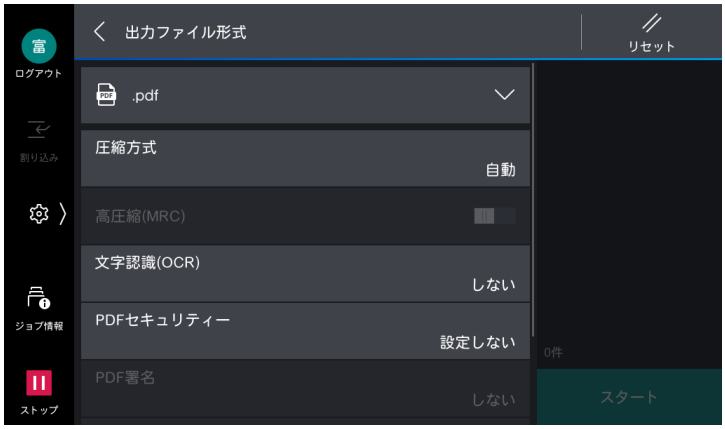
- 機能リストの使い方については、「アプリの機能リスト画面」(P.31) を参照してください。

項目	説明
［プレビュー］	スキャン結果を画面上で確認します。
［出力ファイル形式］	スキャン結果の保存形式を設定します。詳しくは、「出力ファイル形式」(P.106) を参照してください。
［カラーモード］	原稿を読み取るときのカラーモードを設定します。
［両面原稿送り］	原稿送り装置を利用する場合に有効です。読み込む原稿の面を指定します。原稿の綴じ方を設定すると、原稿のおもてとうらの天地をそろえて読み取ります。
［解像度］	原稿を読み取るときの解像度を設定します。
［原稿の画質］	画質タイプを設定します。
［原稿セット向き］	原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

項目	説明
[倍率]	読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小してスキャンします。 固定の倍率から選択するか、数値を入力して指定します。
[読み取りサイズ]	原稿の読み取りサイズを指定します。 非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取る場合は、原稿サイズを指定します。
[ミックスサイズ原稿送り]	いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにスキャンしたり、1 つのサイズにそろえてスキャンしたりできます。 **補足** • 推奨する組み合わせは、A4□と A3□、JIS B5□と JIS B4□です。 • [読み取りサイズ] を [自動検知] に設定してください。
[濃度]	原稿の読み込み濃度を調整します。
[シャープネス]	シャープさを調整します。
[PDF セキュリティー - 文書を開くパスワード]	チェックマークを付けてパスワードを設定すると、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。
[画質 / ファイルサイズ]	[カラーモード] を [フルカラー]、または [グレースケール (256 階調)] でスキャンするときの画像の圧縮率を選択します。
[印画紙スキャン]	カラーの印画紙写真原稿をスキャンする場合に設定します。
[地色除去]	新聞や下地 (背景) に色が付いている原稿の下地の色を除いてスキャンできます。
[コントラスト]	[カラーモード] が [自動]、[フルカラー]、[グレースケール (256 階調)] の場合、コントラストを調整します。
[裏写り防止]	薄紙の両面にプリントしてある原稿などをスキャンする場合、原稿の裏が写らないようにできます。 [カラーモード] が [自動]、[フルカラー]、[グレースケール (256 階調)] の場合に設定できます。
[色空間]	[色空間] を指定してスキャンします。
[標準色空間]	sYCC に準拠した色表現の基準 (色空間) でスキャンされます。
[デバイス色空間]	独自の色表現の基準 (色空間) でスキャンします。カラーを忠実に再現するために高度な色処理をする場合に使用します。 **補足** • 色を専門に扱うアプリケーションで、[デバイス色空間] を指定してスキャンしたデータに、特別な加工をするときなどに、ICC プロファイルが有効です。デバイス色空間の ICC プロファイルは、弊社公式サイトからダウンロードできます。
[自動正立]	原稿の向きを自動で判別するかを設定します。 同時に原稿の文字を判別する言語を設定します。
[スキュー補正]	画像の傾きを補正するかを設定します。
[白紙除去]	読み取ったページが白紙の場合、スキャンデータから除外するかを設定します。
[ページ連写]	本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順でスキャンします。
[わく消し]	原稿カバーを開いたままスキャンしたり、冊子になっている原稿をスキャンしたりするときに、スキャンの周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してスキャンできます。 **補足** • 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面には同じわく消し量が設定されます。 • [倍率] を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。

項目	説明
[ファイル名] / [文書名]	送信 / 保存するファイルの名前を入力します。
[ファイル名重複時の処理]	指定された保存先に、すでに同じ名前のファイルが存在しているときの処理を設定できます。
[件名（URL 送信)]	URL 送信時の件名を入力します。
[本文（URL 送信)]	URL 送信時の本文を入力します。
[件名]	メールの件名を入力します。
[送信者]	送信者のメールアドレスを表示します。
[返信先アドレス]	アドレスの入力エリアをタップして、返信先のアドレスを設定します。[送信アドレスを設定] をタップすると、送信者に設定されているアドレスが、返信先のアドレスに入力されます。
[本文]	メールの本文を入力します。
[分割送信]	メール送信機能を使用する場合、添付するデータの量が大きいときに、設定されたページ単位、または一定のデータ量単位で分割して送信できます。
[ページの区切りで分割]	データをページ単位で分割します。 補足 • [出力ファイル形式] で [.pdf] と [.xdw（DocuWorks)] のどちらかを選択したとき、または [.tif] で [1 ページずつ分割する] にチェックマークを付けていないときだけ設定できます。
[データサイズ単位で分割]	データを一定のデータ量ごとに分割します。 補足 • [データサイズ単位で分割] は、受信者が message/partial に対応している場合に選択してください。
[開封確認（MDN)]	メール送信機能を使用する場合、メールの送信結果を相手がメールで知らせてくれるように設定できます。相手が MDN 機能に対応している必要があります。 補足 • [分割送信] で複数のメールが送信された場合は、各メールに対して開封確認の要求をします。
[暗号化]	S/MIME で暗号化して、メール送信できます。暗号化してメール送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられたメールアドレスをアドレス帳から選択します。 補足 • S/MIME で暗号化してメール送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、インターネットサービスのヘルプを参照してください。
[デジタル署名]	S/MIME でデジタル署名して、メール送信できます。 デジタル署名をすると、メールの内容を改変されていないか、正しい送信者から送信されたメールかなど、受信者が確認できます。
[次原稿]	原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をスキャンするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてスキャンするときに設定します。

7.9 出力ファイル形式



補足

- 設定できる項目は、選択したファイル形式によって異なります。
- [.tif/.jpg（自動選択）] を選択すると、自動フルカラーとグレースケールの画像は［.jpg］が、白黒画像は［.tif］がページごとに設定されます。

項目	説明
[圧縮方式]	スキャンしたあとの画像データの圧縮方式を設定します。
[高圧縮（MRC）]	PDF ファイル、または DocuWorks ファイルを高圧縮形式で保存します。
[文字認識（OCR）]	PDF ファイル、または DocuWorks ファイルに、文字認識するか、しないかを設定します。 同時に、文字認識する言語を設定します。
[PDF セキュリティー]	PDF ファイル形式で保存したデータにセキュリティを設定して、不正なアクセスを防ぎます。
[PDF 署名]	ファイルに署名を付けます。
[DocuWorks セキュリティー]	DocuWorks ファイル形式で保存したデータにセキュリティを設定して、不正なアクセスを防ぎます。
[DocuWorks 署名]	ファイルに署名を付けます。
[少数色で圧縮]	色数の少ない原稿に圧縮して保存します。ファイルサイズは［高圧縮（MRC）］を選択して保存した場合よりも小さくなります。
[1 ページずつ分割する]	1 ページずつ 1 ファイルにして、指定したファイル形式で保存します。
[Web 表示用に最適化する]	Web ブラウザーで PDF を表示するとき、ページが表示されるまでの時間を短くできます。
[サムネールを付加]	DocuWorks 形式を選択した場合、スキャンデータにサムネールをつけることができます。
[ページ向き]	DOC 形式、または XLS 形式で保存するとき、セットした原稿と同じ向きでファイルを保存するか、文字認識（OCR）で認識された文字が読める向きでファイルを保存するかを設定します。
[画像部分の形式]	DOC 形式、または XLS 形式で保存するとき、ファイル内の画像を、［オートシェイプ］として保存するか、［図オブジェクト］として保存するかを設定します。
[文字認識（OCR）する言語]	DOC 形式、または XLS 形式で保存するとき、文字認識の対象にする言語と、保存するときに使用するフォントを設定します。

7.10　スキャンオートの操作

原稿をセットして［スタート］をタップするだけでスキャンできる機能です。

スキャンデータは、PDF ファイル、または DocuWorks ファイルとして、指定したメールアドレス宛てに送信できます。また、スキャン送信機能でスキャンデータをコンピューターに保存できます。

補足

- 認証モードがカスタム認証の場合、インターネットサービスで［外部認証の設定］＞［認証システム］を［Authentication Agent］に設定すると、スキャンの利用を制限していても、「スキャンオート」が利用できます。
- LDAP や Microsoft Entra ID による外部認証では、ユーザーごとにスキャン機能の利用を制限することはできません。
- PaymentKit などの機器を接続している場合の動作は保証しません。

項目		説明
［スキャン設定］		画質やファイルサイズに合った設定を選択できます。
［ファイル名］		ファイル名を設定できます。 補足 • ［ファイル名］を表示させるには、機械管理者の設定が必要です。 • 複数のボタンを選択することで、項目を組み合わせたファイル名を設定できます。
	ユーザー名	認証ユーザーが利用している場合、ユーザー名が表示されます。タップすると、ユーザー名がファイル名として設定されます。
	［YYYY_MMDD_HHMMSS］	日付が表示されます。タップすると、日付がファイル名として設定されます。 補足 • 「YYYY_MMDD_HHMMSS」は、スキャン開始時の年月日時分秒です。
	［日付の設定］	日付の形式を設定できます。
	［自動設定］	有効にすると、自動でファイル名がスキャン開始時の日付に設定されます。

スキャンする

補足

- スキャンした原稿が片面原稿で、白紙除去をしない場合、PDF や DocuWorks 文書に変換したときに横向きと縦向きの白紙が交互に並ぶことがあります。向きを揃えるときは、原稿の向きを 90°　変えてスキャンしてください。

1. **本機が認証モードで運用されているときは、認証情報を入力してログインします。**

補足

- 認証モード運用時でも、管理者の設定で未認証時の使用が許可されているときは、認証情報を入力しなくてもスキャンオートを使用できます。

2. **［スキャンオート］をタップします。**

3. **キーボード入力、(アドレス帳)、または (履歴) をタップして、宛先を指定します。**

メールアドレスを設定している認証ユーザーの場合、または管理者が送信先メールアドレスを固定で設定している場合は、メールアドレスが表示されます。

補足

- と は、管理者の設定によっては表示されません。

4. **必要に応じて、各項目を設定します。**

5. **画面に表示されているイラストに合わせて原稿をセットし、スキャンをスタートします。**

補足

- 本機能の利用中は、ジョブの割り込みはできません。

管理者設定

送信先アドレスの初期値や、ファイルの送付方法、文書の保存期間などを設定できます。

管理者設定を行うには、機械管理者、または管理者権限のある認証ユーザーへのログインが必要です。

補足

- インターネットサービスからも管理者を設定できます。設定方法についてはインターネットサービスのヘルプを参照してください。

1. **[スキャンオート] をタップします。**

2. **画面左部の をタップし、[管理メニュー] をタップします。**

3. **設定する項目を選択し、設定します。**

4. **[保存] をタップします。**

設定できる項目

項目	説明
[送信先アドレスの初期値]	送信先アドレスの初期値を設定します。
[送信履歴の削除]	[はい (削除する)] を選択すると、送信済みの宛先の履歴をすべて削除します。
[メール送信時の送付方法]	メール送信時のファイルの送付方法を設定します。 補足 • ファイアウォールを使った環境では、[本体に一時保存 (URL 送信)] に設定してスキャンデータを送信した場合、外部のネットワークに接続されたコンピューターで、指定された URL からスキャンデータの閲覧と取り出しができません。[自動切り替え (添付 /URL 送信)] に設定すると、スキャンデータがメールに添付され、取得できますが、ネットワークの接続方法によっては、スキャンデータのセキュリティーが保護されないことがあります。 • 200 MB までのファイルをメール添付できます。
[URL 送信時の文書保存期間]	本機に一時的に保存される文書の保存期間を設定できます。
[ジョブ実行後の設定値の保持]	[する] を選択すると、ジョブが終了したあとも前回のスキャンオートでの設定を保持します。
[[ファイル名] ボタンの表示]	[スキャンオート] 画面に [ファイル名] を表示させるかどうかを設定します。
[ファイル名の定型文字列]	[ファイル名] 画面のファイル名ボタンに表示する定型文字列を変更できます。

項目	説明
[[スキャン設定] ボタンの初期値]	[スキャン設定] の初期値を設定します。
[自動正立]	原稿の向きを自動で判別するかを設定します。 補足 • [言語切り替え Language] の設定をもとに、原稿の文字を判別します。適切な言語に設定してください。
[原稿セット向き]	原稿をセットする方向を設定します。
[両面原稿送り]	両面原稿送りをするかを設定します。
[出力ファイル形式]	ファイル形式を設定します。
[傾き補正]	[傾き補正] の初期値を設定します。
[未認証時の使用]	認証情報を入力しなくてもスキャンオートの操作ができるように設定できます。 補足 • 以下の条件をすべて満たすときに設定できます。 - 認証モードが [本体認証 / 集計]、[ネット認証 / 集計] のどちらか - ⚙ > [設定] > [認証 / 集計管理] > [認証 / セキュリティー設定] > [認証の設定] > [アクセス制御] で、[サービスへのアクセス] > [ボックス保存] と [機能の制限] > [ボックスからの外部取り出し] がどちらも [制限しない] になっている

8 ボックス

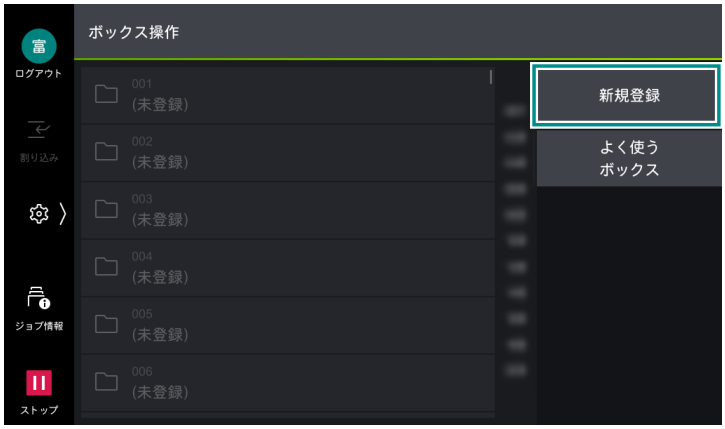
ボックスとは、読み込んだスキャン文書や、ファクス文書、クライアントコンピューターから指示したプリント文書を保存する場所です。

また、ボックスに格納された文書を確認、メール送信、プリントしたり、クライアントコンピューターから取り出したりできます。

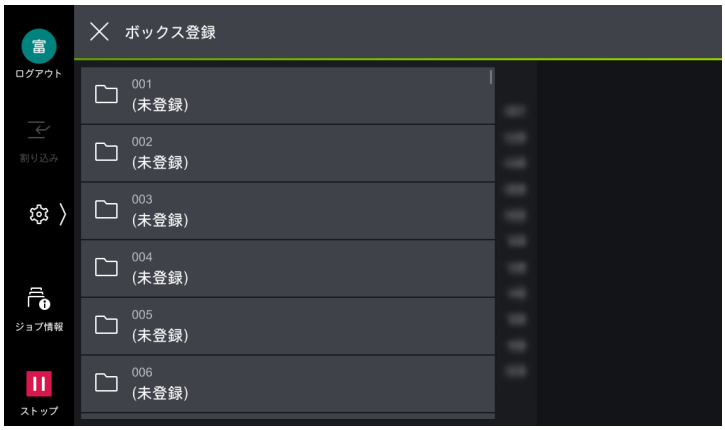
個人ボックスや共有ボックスを登録し使い分けることもできます。

8.1 ボックスの登録

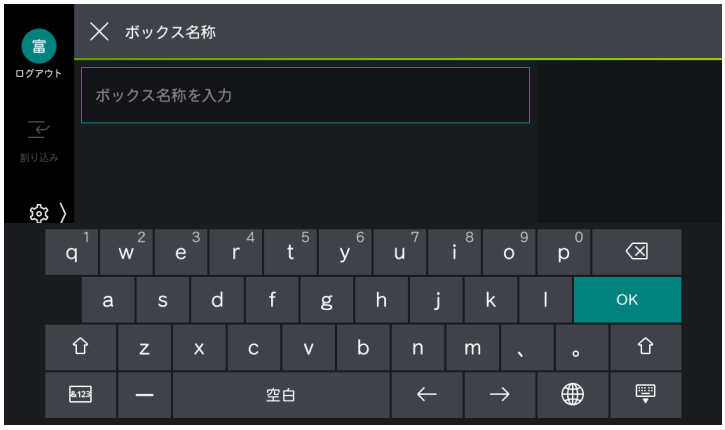
1. ［ボックス操作］をタップします。
2. ［新規登録］をタップします。



3. 登録するボックスをタップします。



4. ボックス名称を入力します。

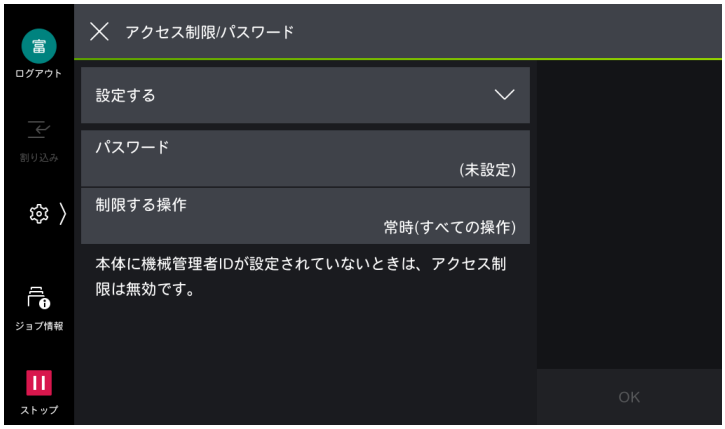


5. [OK] をタップします。

6. ボックスにアクセス制限を設定する場合は、次の操作をします。

1) [アクセス制限 / パスワード] > [設定する] をタップします。

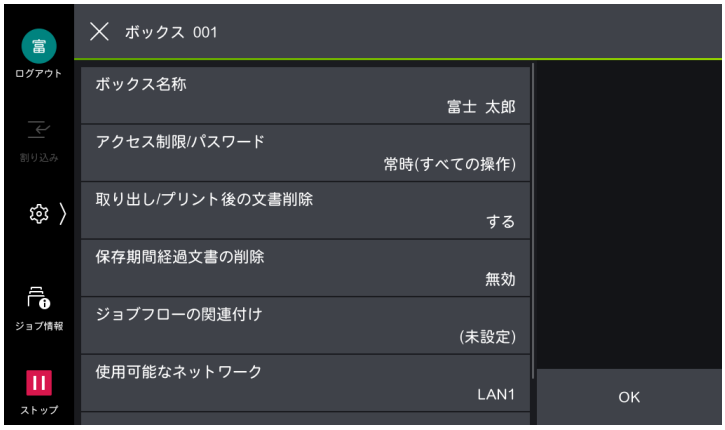
2) 必要に応じて、各項目を設定します。



項目	説明
[パスワード]	ボックス利用時のパスワードを設定します。
[制限する操作]	ボックス利用時にパスワードが必要な操作を指定します。

3) [OK] をタップします。

7. **必要に応じて、各項目を設定します。**



項目	説明
[取り出し / プリント後の文書削除]	文書の取り出し、またはプリントしたあとに、文書を削除するかどうかを設定します。
[保存期間経過文書の削除]	ボックス内に保存されている文書が保存期間経過後に削除されます。
[ジョブフローの関連付け]	ジョブフローをボックスに関連付けできます。一連の作業内容を登録したジョブフローを関連付けることにより、ボックス内に保存されている文書の処理方法を設定できます。
[使用可能なネットワーク]	文書の保存や取り出しに使用されるネットワークを設定します。ボックスに文書が保存されている場合は、設定を変更できません。
[よく使うボックスに表示]	有効にすると［ボックス操作］画面の［よく使うボックス］に表示されます。設定できるのは、最大 10 個です。

8. **[OK] をタップします。**

8.2 ボックスの操作

1. **［ボックス操作］をタップします。**

2. **ボックスをタップします。**

補足

- ジョブフローが関連づけられているボックスには が表示されます。自動実行が設定されているボックスには が表示されます。

参照

- ジョブフロー関連の操作については、「ジョブフローの実行」(P.117) を参照してください。

3. **必要に応じて、画面右上の ··· をタップして、文書一覧の表示方法や表示順を切り替えます。**

［表示切り替え］で［サムネール］を選択した場合

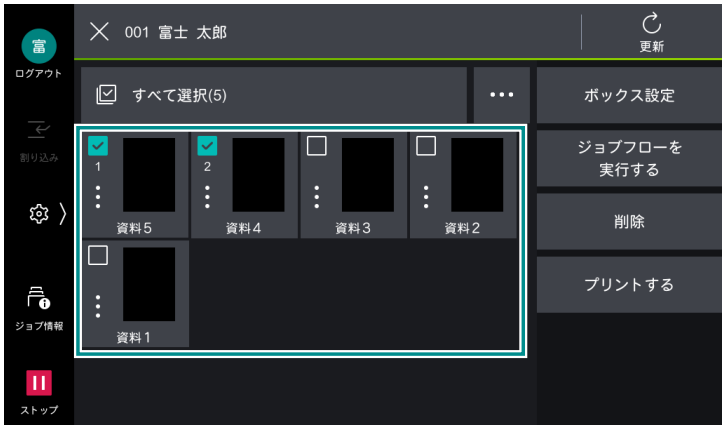
［表示切り替え］で［リスト］を選択した場合

アイコン	説明
	スキャン文書を表します。
	プリンタードライバーから保存した文書を表します。
	ポーリング予約文書を表します。
	ファクス親展受信文書、IP ファクス（SIP）親展受信文書を表します。
	インターネットファクス親展受信文書を表します。
	タップすると、文書の詳細や、プレビューを確認できます。

補足

- ［ボックス設定］をタップすると、ボックスの設定変更と削除ができます。

4. 操作する文書をタップして、チェックマークを付けます。



5. 選択した文書に対する操作を実行します。

削除

1) [削除] をタップします。

2) [はい（削除する)] をタップします。

プリント

1) [プリントする] をタップします。

2) 必要に応じて、各項目を設定します。

項目	説明
[個別 / 束ねプリント]	複数の文書を選択した場合に、[個別プリント]、または [束ねプリント] にするかを設定します。束ねプリントを設定すると、1 つの文書としてプリントできます。文書は、選択した順番に結合されます。100 文書まで束ねられます。 **補足** • 複数の文書を束ねた結果、サイズの異なる原稿が混在すると、意図しない向きでプリントされることがあります。

補足

- そのほかの項目は、該当する機能の機能リストを参照してください。

3) [スタート] をタップします。

4) [はい（プリントする)] をタップします。

9 ジョブフロー

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。1,000 件まで登録できます。

ボックスにジョブフローを関連付けて、蓄積された文書をプリントしたり、送信先を指定して送信したりできます。

ボックスを起点とするジョブフローは、本機で作成します。スキャンを起点とするジョブフローは、Device Setup（デバイス設定ツール）を使用して作成します。

ジョブフローを実行するには、次の方法があります。

- ボックスに文書が蓄積された時点で自動で実行
- ボックスに保存されている文書を選択して、関連付けされているジョブフローを手動で実行
- ボックスに保存されている文書とジョブフローを選択して、手動で実行
- Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを選択して、手動で実行

9.1 Device Setup（デバイス設定ツール）の利用設定

TCP/IP

参照

- 「[プロトコル設定]」(P.191) を参照してください。

[SOAP]

[SOAP - ポート] を [起動] に設定します。詳しくは、「[SOAP]」(P.189) を参照してください。

[SNMP]

[SNMP - ポート] を [起動] に設定します。詳しくは、「[SNMP]」(P.184) を参照してください。

ソフトウェア

Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社の会員制ポータルサイト「富士フイルム BI ダイレクト」からダウンロードします。

参照

- Device Setup（デバイス設定ツール）のマニュアルを参照してください。

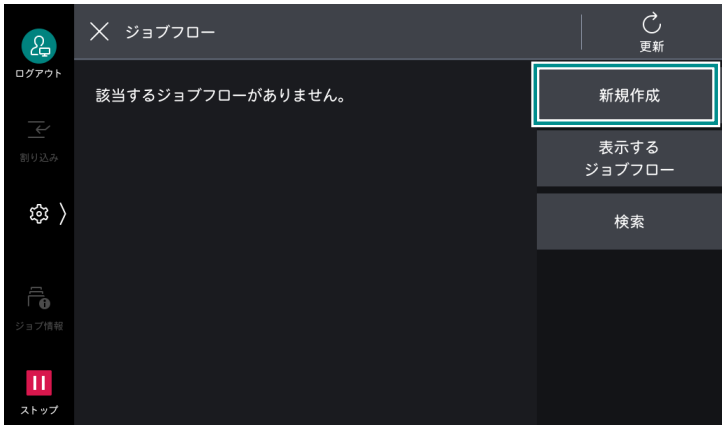
9.2 ジョブフローの作成

1. ⚙ > [設定] > [アプリ設定] > [ジョブフロー設定] > [ジョブフロー登録] をタップします。

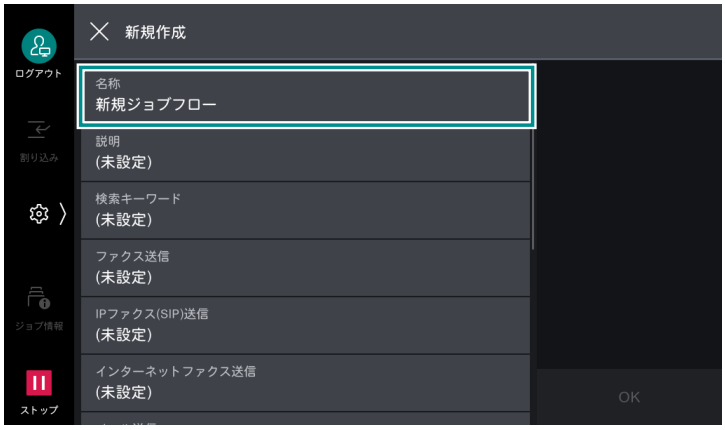
補足

- [ボックス操作] から作成したジョブフローは、ジョブフローを作成したボックスだけで利用できます。ほかのボックスでは使用できません。

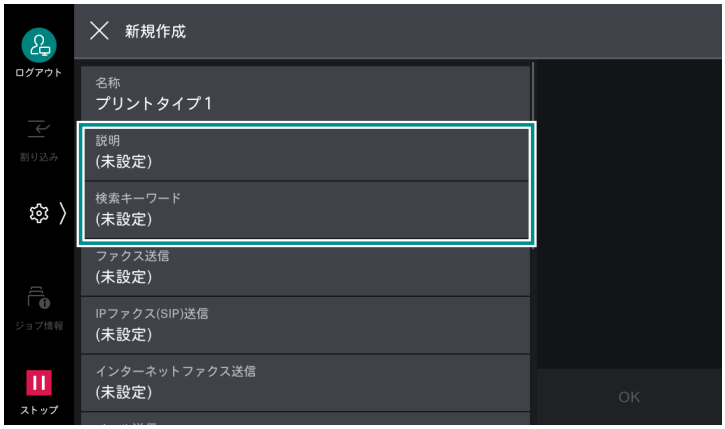
2. ［新規作成］をタップします。



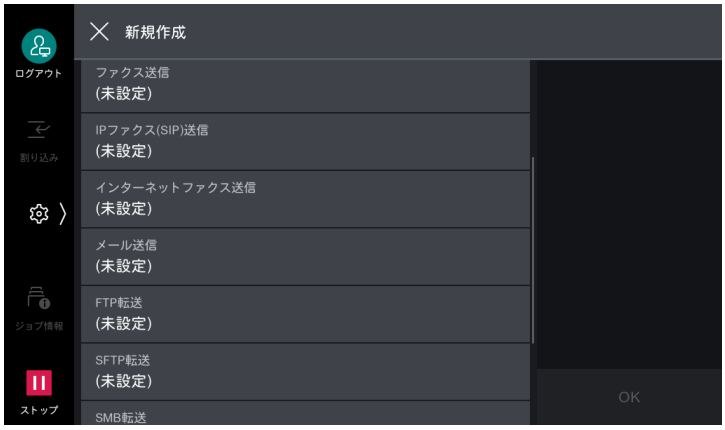
3. ［名称］にジョブフロー名を入力します。



4. 必要に応じて、［説明］、［検索キーワード］を設定します。



5. ジョブフローの機能をタップします。



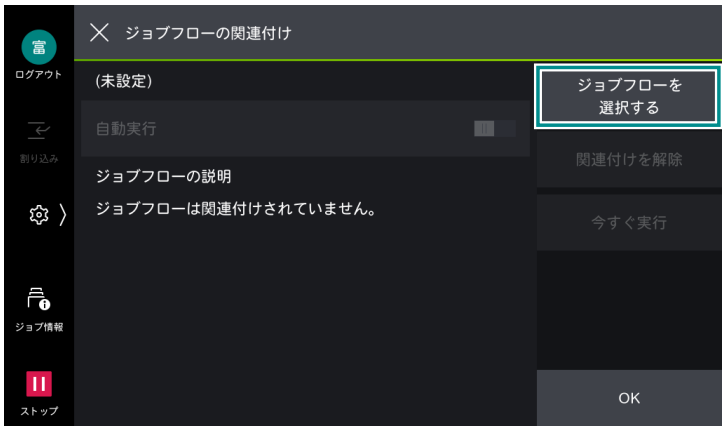
6. 各項目を設定します。
7. ［OK］をタップします。

9.3 ジョブフローの実行

自動実行

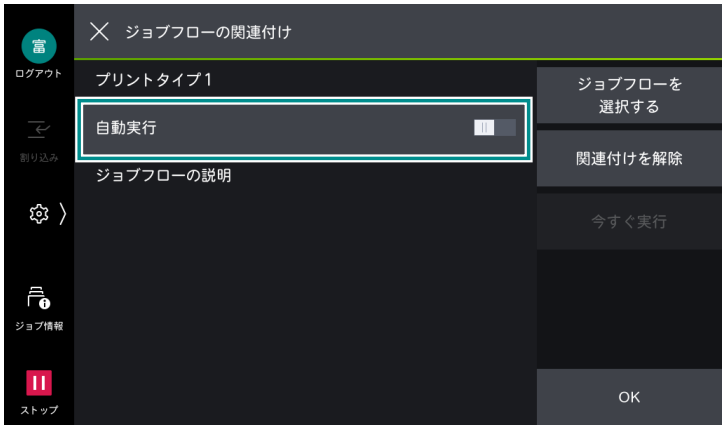
ボックスにジョブフローを関連付けて、自動で実行します。

1. ［ボックス操作］をタップします。
2. ボックスをタップします。
3. ［ボックス設定］＞［ジョブフローの関連付け］をタップします。
4. ［ジョブフローを選択する］をタップします。



5. 使用するジョブフローをタップします。
6. ［OK］をタップします。

7. ［自動実行］をタップして、有効にします。



8. ［OK］をタップします。

9. ボックスの確認画面で［OK］をタップします。

補足

- ボックスに自動実行が設定されると が表示されます。

手動実行

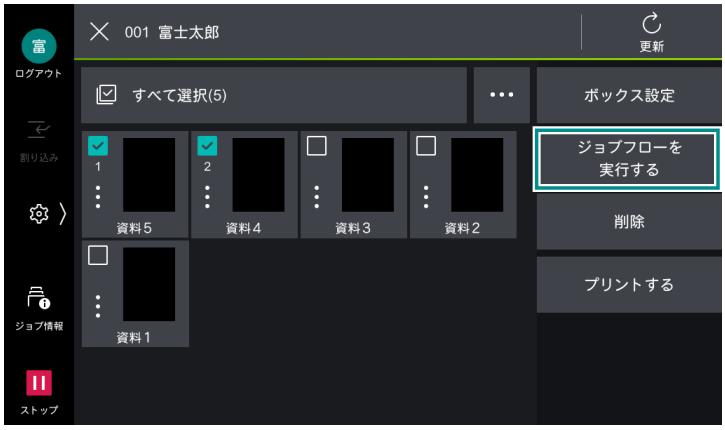
文書を選択して、ジョブフローを手動で実行します。

1. ［ボックス操作］をタップします。

2. ボックスをタップします。

3. 実行する文書をタップして、チェックマークを付けます。

4. ［ジョブフローを実行する］をタップします。



5. ボックスにジョブフローが関連付けされていない場合は、使用するジョブフローを選択し、［OK］をタップします。

6. ［スタート］をタップします。

Device Setup（デバイス設定ツール）

Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを選択して実行します。

1. **原稿をセットします。**
2. **［ジョブフロー］をタップします。**
3. **使用するジョブフローをタップします。**
4. **［OK］をタップします。**
5. **ジョブフローの設定を一時的に変更する場合は、次の操作をします。**

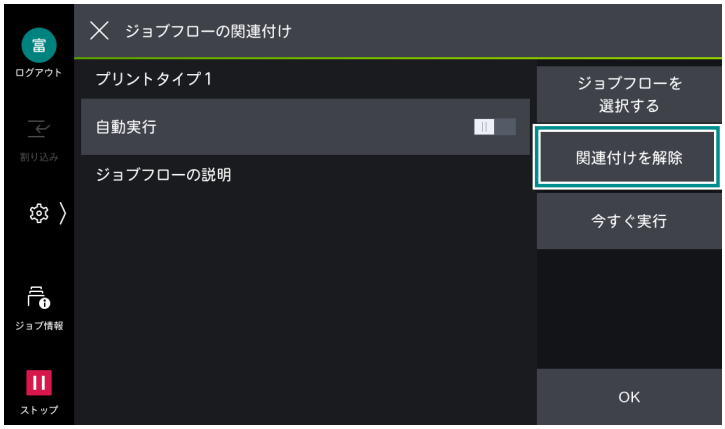
   1) **［設定の一時変更］をタップして、項目を変更します。**

   2) **［OK］をタップします。**
6. **［スタート］をタップして、ジョブフローを実行します。**

ボックスとの関連付けの解除

ボックスに関連付けされているジョブフローを解除します。

1. **［ボックス操作］をタップします。**
2. **ジョブフローを解除するボックスをタップします。**
3. **［ボックス設定］＞［ジョブフローの関連付け］をタップします。**
4. **関連付けられているジョブフローを確認して、［関連付けを解除］をタップします。**



5. **［はい（解除する）］をタップします。**

10 アドレス帳

アドレス帳に登録すると、メールやファクス、スキャン機能の宛先や転送先を、アドレス帳から簡単に指定できます。また、アドレス帳の宛先からアプリを起動させて、送信できます。

10.1 連絡先の登録

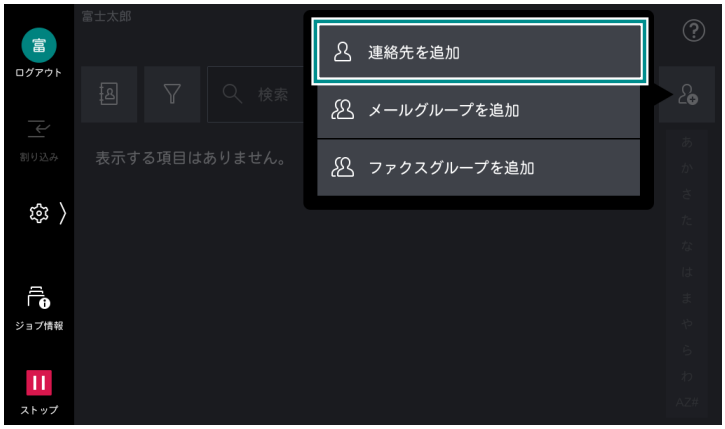
本体アドレス帳には、5,000 件の連絡先を登録できます。1 件の連絡先には、メール、ファクス、サーバー、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の宛先をそれぞれ 1 件ずつ登録できます。

補足

- インターネットサービスを使用して、大量のアドレス情報を CSV フォーマットで一度に登録できます。

1. ［アドレス帳］をタップします。

2. ＞［連絡先を追加］をタップします。

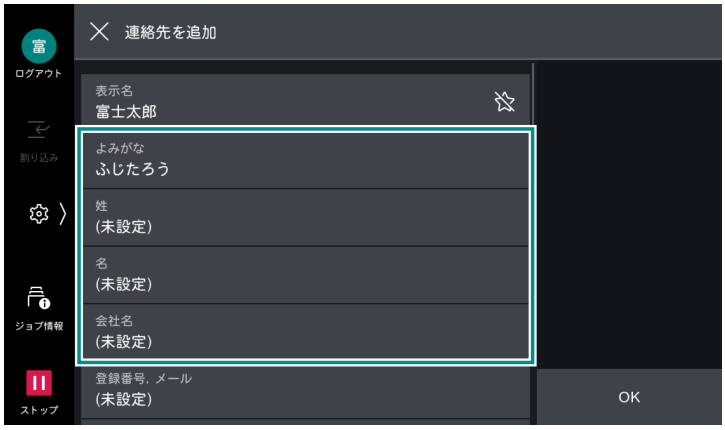


3. ［表示名］をタップして、表示名を入力します。

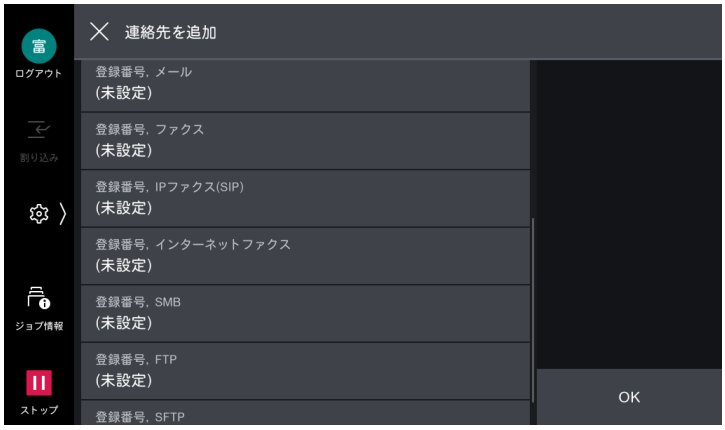
補足

- ［お気に入り］に登録する場合は、 をタップします。

4. 必要に応じて、［よみがな］を修正したり、［姓］、［名］、および［会社名］を入力したりします。



5. 各機能をタップして、宛先を入力します。



6. ［OK］、または［完了］をタップします。

7. 各機能の詳細項目を設定して、［OK］をタップします。

8. ［OK］をタップします。

10.2　各機能の詳細項目の設定

項目	説明
［登録番号］	宛先の登録番号を設定します。 ［ワンタッチボタンの表示］が有効な場合、1 ～ 72 の番号に変更すると、宛先がワンタッチボタンとして設定されます。 **補足** • 登録番号は、宛先種別ごとに個別の番号を設定します。 • ［登録番号］は、「［アドレス帳設定］」(P.174) の［登録番号の表示］が［する］の場合に表示されます。
電話番号、事業所、部署	各項目を入力します。 項目名は、「［LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定］」(P.204) の［補助項目 1 の属性名］～［補助項目 3 の属性名］で変更できます。

項目	説明
[S/MIME 用証明書]	S/MIME 用証明書の関連付けができます。あらかじめ、証明書を作成しておく必要があります。 証明書を関連付ける場合は、[証明書の関連付け] をタップして、表示された画面で証明書を選択します。関連付けを解除する場合は、[関連付けを解除] をタップします。 **補足** • [設定] > [リセット] > [工場出荷時の設定に戻す] や証明書の削除により、アドレス帳の S/MIME 用証明書に関連付けられていた証明書が削除されると、S/MIME 用証明書の関連付けは無効になります。関連付けした S/MIME 用証明書を再度登録した場合には、アドレス帳の S/MIME 用証明書の関連付けを手動でやり直してください。 • 本機に登録されている証明書が多い場合は、証明書の関連付けに時間がかかることがあります。 **参照** • インターネットサービスのヘルプを参照してください。
[サーバー]	転送先の [サーバー名]、または IP アドレスを入力します。
[共有名]	SMB フォルダーに設定されている共有名を入力します。 **補足** • 共有名の先頭には、「/」を使用しないでください。
[ポート番号]	転送先のポート番号を指定します。
[保存場所]	文書を保存するためのディレクトリーを入力します。SMB の場合は、UNC 形式で入力します。 • FTP/SFTP 転送の場合 例）ログイン時のルートディレクトリーにある、aaa ディレクトリーの bbb ディレクトリーに保存する場合 aaa/bbb • SMB 転送の場合 例）指定したボリュームの aaa ディレクトリーにある、bbb ディレクトリーに保存する場合 aaa¥bbb
[ユーザー名]	転送先のサーバーからユーザー名の入力を求められる場合は、ユーザー名を設定します。 • UPN 形式の場合 ユーザー名 @ ドメイン名 入力例：fuji@example.com（fuji：ユーザー名、example.com：ドメイン名） • NetBIOS 形式の場合 ドメイン名 ¥ ユーザー名 入力例：example¥fuji（example：ドメイン名、fuji：ユーザー名） • ワークグループの場合 ローカルユーザー名 入力例：Fuji-Taro
[パスワード]	転送先のサーバーからパスワードの入力を求められる場合は、パスワードを設定します。
[ネットワーク参照]	ネットワークを参照して、指定できる保存先の一覧を表示します。
[内線 / 外線]	指定された宛先に内線、または外線で送信するように設定します。
[送信ヘッダー宛先名]	送信ヘッダーに表示される宛先名を設定します。
[通信モード]	通信モードを設定します。
[送信画質]	送信するときの画質を設定します。
[送信シート]	送信シートを添付して送信できます。添付する場合は、送信シートに入れる送信先と発信元のコメントを指定します。

項目	説明
[最大蓄積サイズ]	相手先の受信紙サイズや処理できるプロファイルに合わせて、最大蓄積サイズを選択します。
[時刻指定]	時刻指定送信できます。
[親展通信]	親展通信ができます。なお、親展通信をする場合は、あらかじめ相手先のボックスの番号と暗証番号が必要です。
[課金情報（昼間料金)]、[課金情報（夜間料金)]、[課金情報（深夜料金)]	時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間（単位通信時間）を設定します。
[F コード]	送信先にボックスが設定されている場合に、F コード（サブアドレス）と、必要に応じてパスワードを指定すると、本機から親展送信ができます。 あらかじめ、送信先の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。 (弊社製 F コード通信対応機に対する入力例) [F コード]（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋送信先のボックス番号 [パスワード]（必要に応じて）：送信先のボックスの暗証番号
[インターネットファクスプロファイル]	インターネットファクスのプロファイル形式を設定します。 プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。
[TIFF-S]	A4 より大きいサイズの原稿を、A4 に縮小して送信する場合に選択します。
[TIFF-F]	送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、JIS B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。
[TIFF-J]	JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

10.3　宛先グループの登録

同報送信する宛先をまとめて宛先グループとして登録できます。

なお、宛先グループに登録する宛先は、あらかじめアドレス帳に登録しておく必要があります。

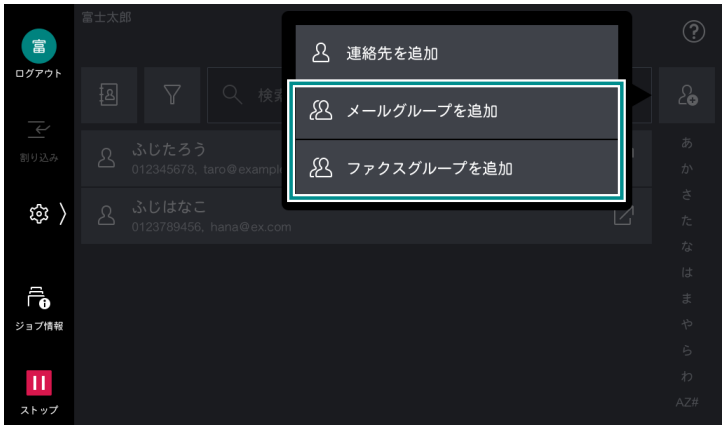
宛先グループは、メールとファクスの宛先に指定できます。

補足

- 宛先グループは、最大 500 件（メールグループ 250 件、ファクスグループ 250 件）を登録できます。
- メールグループでは、1 グループあたり宛先を 100 件登録できます。
- ファクスグループでは、1 グループあたり宛先を 600 件登録できます。

1. **[アドレス帳] をタップします。**

2. > ［ファクスグループを追加］、または［メールグループを追加］をタップします。

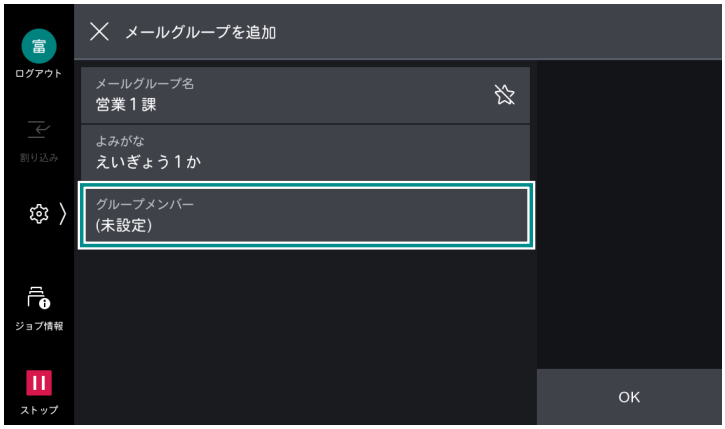


3. ［ファクスグループ名］または［メールグループ名］と、［よみがな］を入力します。

補足

- ［お気に入り］に登録する場合は、 をタップします。

4. ［グループメンバー］をタップします。



5. ［編集］をタップします。

6. 登録するメンバーをタップして、チェックマークを付けます。

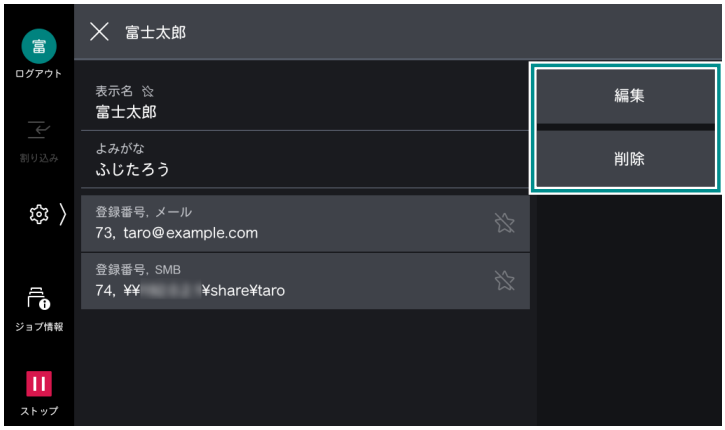
7. ［OK］をタップします。

8. グループメンバーを確認して、［OK］をタップします。

9. ［OK］をタップします。

10.4　連絡先の修正 / 削除

1. ［アドレス帳］をタップします。
2. 連絡先をタップします。
3. ［編集］、または［削除］をタップします。
   ［編集］をタップした場合、以降の操作は、「連絡先の登録」(P.120) の手順 4 以降と同じです。



10.5　連絡先の表示切り替え

アドレス帳の切り替え

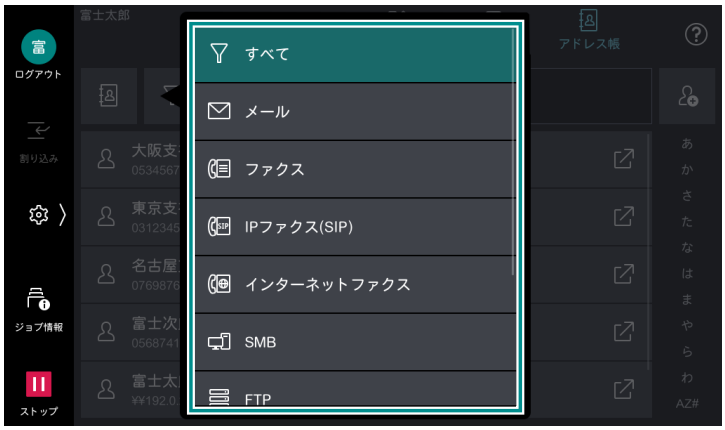
をタップすると、使用するアドレス帳の種類を切り替えることができます。

フィルター

をタップすると、一覧に表示する宛先種別を絞り込むことができます。

補足

- フィルター機能は、［本体アドレス帳］、または［登録番号付きアドレス帳］を表示している場合だけ使用できます。



文字列検索

［検索］入力ボックスをタップして、検索する文字列を入力すると、入力した文字列を含んだ連絡先が一覧に表示されます。

補足

- ［登録番号付きアドレス帳］を使用しているときに、入力ボックスに［表示開始番号］が表示されている場合、文字列検索はできません。「［アドレス帳設定］」(P.174) の［登録番号表示時の宛先検索］を［する］に設定すると、文字列検索ができるようになります。

インデックス検索

任意の索引文字をタップすると、［よみがな］の登録内容に従って、一覧の表示開始位置を切り替えます。

ロングタップすると、該当する行の文字を選択するモードになります。たとえば、「あ」をロングタップすると、「あ、い、う、え、お」を選択できます。

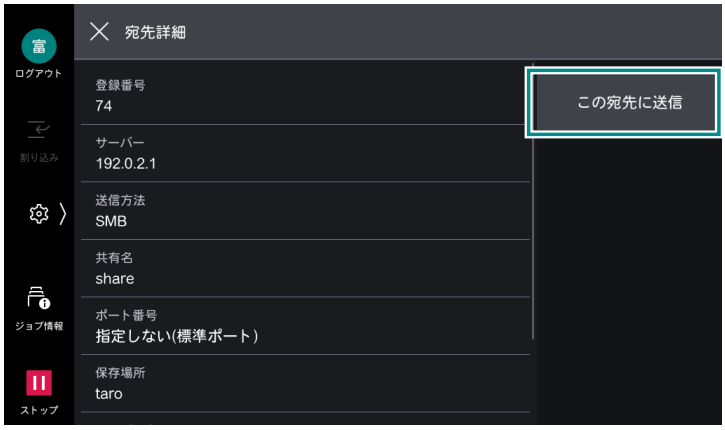
10.6　連絡先からアプリ起動

アドレス帳に登録されている連絡先から利用するアプリを起動して、直接、送信の操作ができます。

宛先の詳細を確認してアプリ起動

1. **［アドレス帳］をタップします。**
2. **連絡先をタップします。**
3. **使用する宛先をタップします。**

4. ［この宛先に送信］をタップします。



使用するアプリの送信画面が表示されます。

5. 各項目を設定します。

6. ［スタート］をタップします。

宛先の種類を選択してアプリ起動

1. ［アドレス帳］をタップします。

2. 連絡先の をタップします。

3. 複数の宛先が登録されている場合は、送信する宛先の種類をタップします。

使用するアプリの送信画面が表示されます。

4. 各項目を設定します。

5. ［スタート］をタップします。

11 設定

ホーム画面で ⚙ ＞［設定］をタップすると、［設定］画面を表示できます。本機のさまざまな機能は、ここから設定します。

補足

- 機械管理者モードでだけ操作できる項目も含めて記載しています。

11.1 ［用紙トレイ設定］

トレイ番号をタップして、セットされている用紙を設定します。

[共通設定]

項目	説明
[ユーザー用紙属性の名称設定]	ユーザー用紙に名称を付けられます。
[用紙選択画面の補助属性表示]	用紙トレイの自動サイズ検知の設定有無、または［自動選択条件］の指定内容が用紙選択画面に表示されます。
[トレイセット時の用紙変更画面表示]	用紙をセットすると、用紙設定画面が表示されます。
[用紙種類の優先順位]	自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合に、使用する用紙種類がセットされた用紙トレイの優先順位を設定します。 各トレイに設定した［トレイの優先順位］より優先されます。 ただし、異なる用紙種類に同じ優先順位を設定した場合は、［トレイの優先順位］によって、選択される用紙が決まります。また、［自動トレイ選択しない］に設定した用紙種類がセットされているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。
[自動トレイ動作制御]	選択しているトレイの用紙がなくなったときに、切り替える条件や対象を設定します。
[自動トレイ切り替え]	自動切り替えの条件を設定します。 • [常に切り替える] 用紙選択が［自動］以外でも常に切り替えます。 • [[自動］選択時切り替える] 用紙選択が［自動］のときに切り替えます。 • [同一用紙種類 / 色で切り替える] 用紙種類、色が同じトレイを切り替え対象として常に切り替えます。
[対象用紙種類（コピー)]	トレイを自動選択するときの用紙種類の扱いを設定します。 • [優先順位に従う] [用紙種類の優先順位］に従って動作します。 • [指定用紙種類のみ] 用紙の種類を指定します。
[対象用紙色（コピー)]	トレイを自動選択するときの用紙色の扱いを設定します。 • [すべての用紙色を対象] すべての用紙色を対象にします。 • [指定用紙色のみ] 用紙色を指定します。
[用紙種類別画質処理]	用紙種類ごとに、画質の処理方法を設定します。 参照 • 「用紙種類と設定値」(P.131) を参照してください。

用紙種類と設定値

用紙種類	設定値	坪量（g/m^2）
[普通紙の画質処理]	[普通紙（A)]	64 ～ 70
	[普通紙（B)]	71 ～ 82
	[普通紙（S)]	カスタム設定用です。
[上質紙の画質処理]	[上質紙（A)]	83 ～ 90
	[上質紙（B)]	91 ～ 105
[再生紙の画質処理]	[再生紙（A)]	64 ～ 70
	[再生紙（B)]	71 ～ 82
	[再生紙（C)]	83 ～ 90
	[再生紙（D)]	91 ～ 105
[うら紙の画質処理]	[うら紙（A)]	64 ～ 70
	[うら紙（B)]	71 ～ 82
	[うら紙（S)]	カスタム設定用です。
[穴あき紙の画質処理]	[普通紙（A)]	64 ～ 70
	[普通紙（B)]	71 ～ 82
	[普通紙（S)]	カスタム設定用です。
[厚紙 1 の画質処理]	[厚紙 1（A)]	106 ～ 135
	[厚紙 1（B)]	136 ～ 157
	[厚紙 1（C)]	158 ～ 176
	[厚紙 1（S)]	カスタム設定用です。
[厚紙 1（うら面）の画質処理]	[厚紙 1（A）（うら面)]	106 ～ 135
	[厚紙 1（B）（うら面)]	136 ～ 157
	[厚紙 1（C）（うら面)]	158 ～ 176
	[厚紙 1（S）（うら面)]	カスタム設定用です。
[厚紙 2 の画質処理]	[厚紙 2（A)]	177 ～ 220
	[厚紙 2（S)]	カスタム設定用です。
[厚紙 2（うら面）の画質処理]	[厚紙 2（A）（うら面)]	177 ～ 220
	[厚紙 2（S）（うら面)]	カスタム設定用です。
[厚紙 3 の画質処理]	[厚紙 3（A)]	221 ～ 256
	[厚紙 3（B)]	257 ～ 300
	[厚紙 3（S)]	カスタム設定用です。
[厚紙 3（うら面）の画質処理]	[厚紙 3（A）（うら面)]	221 ～ 256
	[厚紙 3（B）（うら面)]	257 ～ 300
	[厚紙 3（S）（うら面)]	カスタム設定用です。

用紙種類	設定値	坪量（g/m^2）
［コート紙 1 の画質処理］	［コート紙 1（A）］	106 ～ 135
	［コート紙 1（B）］	136 ～ 157
	［コート紙 1（C）］	158 ～ 176
［コート紙 1（うら面）の画質処理］	［コート紙 1（A）（うら面）］	106 ～ 135
	［コート紙 1（B）（うら面）］	136 ～ 157
	［コート紙 1（C）（うら面）］	158 ～ 176
［コート紙 3 の画質処理］	［コート紙 3（A）］	221 ～ 256
	［コート紙 3（B）］	257 ～ 300
［コート紙 3（うら面）の画質処理］	［コート紙 3（A）（うら面）］	221 ～ 256
	［コート紙 3（B）（うら面）］	257 ～ 300
［はがきの画質処理］	［厚紙 1（A）］	106 ～ 135
	［厚紙 1（B）］	136 ～ 157
	［厚紙 1（C）］	158 ～ 176
	［厚紙 2（A）］	177 ～ 220
［封筒の画質処理］	［封筒］	106
	［厚紙 1（A）］	106 ～ 135
	［厚紙 1（B）］	136 ～ 157
	［厚紙 1（C）］	158 ～ 176
	［厚紙 2（A）］	177 ～ 220
	［厚紙 3（A）］	221 ～ 256
	［厚紙 3（B）］	257 ～ 300
［ユーザー用紙 1 の画質処理］～［ユーザー用紙 5 の画質処理］	［普通紙（A）］	64 ～ 70
	［普通紙（B）］	71 ～ 82
	［普通紙（S）］	カスタム設定用です。
	［上質紙（A）］	83 ～ 90
	［上質紙（B）］	91 ～ 105

11.2　[音の設定]

操作時、エラー時に出力される音の種類と音量を設定します。

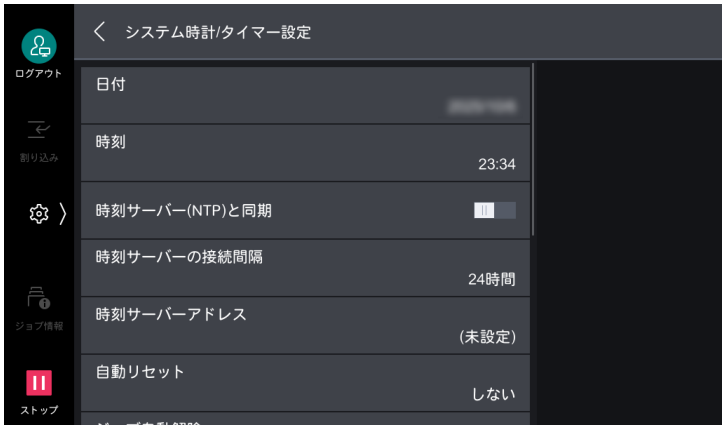
また、[警告音の繰り返し] では、エラー時の警告音を繰り返すかどうか設定します。有効にすると、エラーが解除されるか、ユーザーが操作パネルを操作するまで警告音が鳴り続けます。

補足

- [一般ユーザーの操作制限] を有効にした場合、機械管理者のみに本項目が表示されます。

11.3　[システム設定]

[システム時計 / タイマー設定]



項目	説明
[日付]	本機のシステム時計の日付を設定します。
[時刻]	本機のシステム時計の時刻を設定します。
[時刻サーバー（NTP）と同期]	時刻サーバー（NTP：Network Time Protocol）の時刻と同じになるように、サーバーから時刻を取得し、本機の時刻を合わせます。
[時刻サーバーの接続間隔]	時刻サーバーに何時間ごとに接続するかを設定します。
[時刻サーバーアドレス]	時刻サーバーのサーバー名、または IP アドレスを設定します。

項目	説明
[自動リセット]	何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、自動リセットされるかを設定します。[する] を選択した場合は、時間を設定します。 補足 • [しない] に設定しても、ジョブの中断中に操作を 1 分間しないと、自動リセットされ、ジョブが再開されることがあります。自動リセットしたあとのジョブの動作は、ジョブ一時停止後の処理で設定します。ジョブ一時停止後の処理については、「[その他の設定]」(P.146) を参照してください。
[ジョブ自動解除]	コピーやスキャン中に、エラー（用紙の補給、原稿詰まり、用紙詰まりなど）が発生したとき、現在のジョブを解除して、次のジョブを実行できるまでの時間を設定します。
[プリント起動]	タッチパネルディスプレイ（[スタート] は除きます）を操作したあと、プリントができるまでの時間を設定します。
[プリント禁止の設定]	コントロールメニューに [自動プリントの許可 / 禁止] を表示するかを設定します。 [手動で禁止する] に設定すると、[コントロールメニューの機能配置] で [自動プリントの許可 / 禁止] をコントロールメニューに表示できるようになります。 補足 • インターネットサービスで、特定の時間帯をプリント禁止に設定することもできます。
[タイムゾーン]	GMT を基準に、-12 時間から +12 時間の範囲で設定します。
[サマータイム]	サマータイムを設定します。設定した期間は、現在の時刻に 1 時間加えた時刻になります。
[暖機モード動作]	本機内部の結露を防止、または軽減する暖機モードに移行できます。 • [する] を選択し、[開始時刻] と [継続時間] を設定すると、設定した時間で暖機モードが有効になります。 • [自動的に動作する] に設定すると、[しない] / [する] にかかわらず、結露状況を予測して結露時期になると、暖機モード動作が有効になります。設定した [開始時刻] になると、暖機モードに移行します。 • [自動的に停止する] に設定すると、結露しない状態が一定期間続いたときに、暖機モード動作が無効になります。 • [結露注意の表示] を有効にすると、本機が結露発生の可能性を感知したときに、メッセージを表示します。 補足 • 製品によっては、カストマーエンジニアの設定が必要です。
[オンデマンド印刷の有効時間]	外部アクセスを使用してプリントする場合の有効時間を設定します。プリントを指示したあと、ここで設定した時間以内に外部接続先からプリントデータを受信しないと、プリント指示が無効になります。

[節電モードの設定]

項目	説明
[節電モード移行時間]	モードごとに、移行する時間を入力します。
[自動プリント後の節電モード移行]	クライアントコンピューターからのプリントやファクスなどの受信プリントが完了したあとに、節電モードに移行するタイミングを設定します。
[スリープモード設定]	スリープモード中の動作を、[省電力優先] にするか [復帰時間優先] にするかを設定します。
[節電解除の制御]	節電状態を解除するときに、使用する部分だけを解除できます。

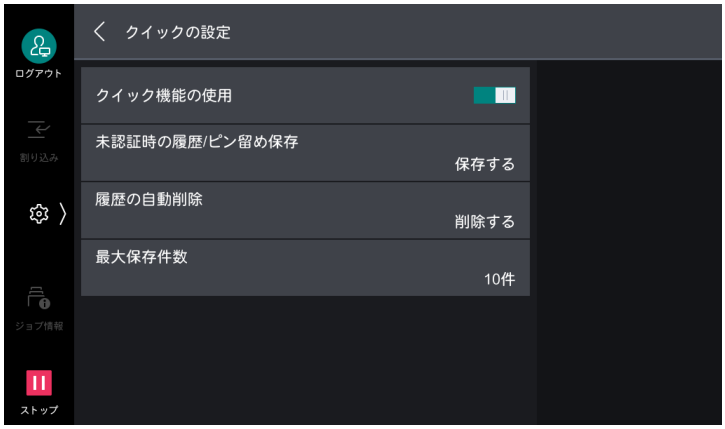
項目	説明
[Smart WelcomEyes]	Smart WelcomEyes が稼働するかを設定します。
[時刻指定電源オフ]	設定した時刻になると電源が切れるように設定します。

[画面 / ボタンの設定]

項目	説明
[初期表示画面]	電源を入れたり、節電状態を解除したりしたときに表示する画面を設定します。
[自動リセット後の画面]	自動リセットしたあとに表示する画面を設定します。
[ホームの初期表示画面]	ホーム画面で最初に表示するホームタブを設定します。
[コントロールメニューの機能配置]	コントロールメニューに配置する機能を設定します。
[機能リストの［その他の機能］の表示]	機能リストに［その他の機能］ボタンを表示するかどうかを設定します。 **参照** • ［その他の機能］については、「アプリの機能リスト画面」(P.31) を参照してください。
[スタートボタンの操作]	コピーやスキャンなどを実行する［スタート］ボタンの操作種類を設定します。
[認証画面の自動表示]	認証機能を利用している場合、電源を入れたり、節電状態を解除したりしたときに、認証画面を表示できます。
[ログインボタンのユーザー名]	認証情報の表示エリアのボタン上に表示するユーザー名の長さを設定します。 **補足** • ［長く表示］に設定しても、ユーザー名をすべて表示できないことがあります。
[ワンタッチボタンの表示]	［スキャン送信］、［ファクス］、［メール送信］、［インターネットファクス］で、ワンタッチボタンから宛先を指定できるようにします。 **補足** • ワンタッチボタンへの宛先の割り当ては、［ワンタッチボタン設定］で行います。 **参照** • 「［ワンタッチボタン設定］/［ワンタッチボタンとアドレス帳登録番号の設定］/［アドレス帳登録番号の設定］」(P.180) を参照してください。
[画面のテーマ]	画面のテーマ（ライト / ダーク）を切り替えます。

項目	説明
[初期表示言語]	電源を入れたときに表示される言語とキーボードのレイアウトを切り替えます。
[画面輝度調整]	タッチパネルディスプレイの明るさを調整します。
[宛先確認 - メール]	メール送信時に宛先を確認する画面を表示できます。
[宛先確認 - ファクス / インターネットファクス]	ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の宛先指定時や送信時に、宛先を確認する画面を表示できます。
[消耗品情報画面の表示]	消耗品の交換が必要になったときに、情報を表示するタイミングを設定します。
[USB メモリー検出時の画面表示]	USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、画面表示を切り替えるかを設定します。また、切り替える場合の画面を設定します。 補足 • [機能選択画面] に設定すると、USB メモリー挿入時に [USB 保存]、[文書プリント] を選択する画面が表示できます。
[USB メモリー検出時の警告画面表示]	USB を差し込むと、確認画面が表示されます。
[キーボード入力制限]	本機で表示されるキーボードの入力可能文字を ASCII だけに制限できます。
[アップダウンボタンの操作]	機能リストなどで値を増減する + / − ボタンの長押しを許可するかを設定します。
[セキュリティー警告 - 機械管理者設定]	機械管理者モードでのログイン時、セキュリティの警告が表示されます。
[セキュリティー警告 - SNMP 設定]	
[セキュリティー警告 - グローバル IP アドレス]	
[通知メッセージの抑制]	ポップアップで表示されるメッセージを少なくします。表示されなかったメッセージは、[機械確認（メーター確認）] の [通知] で確認できます。
[通知メッセージの表示時間]	メッセージの表示時間を選択します。
[プレビュー時のフットスイッチ]	プレビュー画面で、フットスイッチを押したときに動作するボタンを設定します。

[クイックの設定]



項目	説明
[クイック機能の使用]	ホームタブにある［クイック］機能の使用を設定します。
[未認証時の履歴 / ピン留め保存]	ジョブの種類ごとに、認証していないユーザーがジョブ履歴やアプリの設定を［クイック］に保存できるようにするかを設定します。
[履歴の自動削除]	一定期間経過したら、［クイック］に保存されているジョブ履歴を自動で削除するように設定します。
[最大保存件数]	［クイック］に保存できる最大件数を設定します。

[画質の設定]

項目	説明
[文字 / 写真分離レベル]	［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーする場合、原稿を読み取るときに、文字か写真かを判別するレベルを設定します。
[白黒 / カラー分離レベル]	［カラーモード］を［自動］に設定したときに、原稿が白黒かカラーかを判別するレベルを設定します。
[写真部分再現レベル（カラーコピー）]	［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーするとき、写真と判別した画像の色再現を調整できます。 ［文字より］に設定すると、画像の高濃度部が強調され、はっきりとしたコピー結果になります。 ［写真より］に設定すると、淡い色の再現が向上し、画像の写真部分の階調が滑らかになります。
[地色除去方式（カラーコピー）]	カラーでコピーするときの地色除去の方式を設定します。

項目	説明
[地色除去方式（白黒コピー）]	白黒でコピーするときの地色除去の方式を設定します。
[地色除去方式（スキャナー）]	スキャンするときの地色除去の方式を設定します。
[イメージエンハンス]	コピーとファクスで印字するイメージを、滑らかに見えるように処理します。
[画質セットアップの自動実行]	画質セットアップを定期的に実行するように設定すると、プリント開始までの時間を削減できます。

[レポート設定]

[レポート / リストの出力] の内容を機械管理者モード以外のときに表示させるかと、各レポートを自動でプリントするかを設定します。

[複製管理]

複製管理とは、書類の複製を抑止するために、用紙の背景全体に文字列や背景パターンを印字する機能です。

補足

- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されないことがあります。

項目	説明
[印字する日付の形式]	日付の形式を設定します。 ここで設定した値は、[アノテーション]、[複製管理]、[強制アノテーション] に適用されます。
[隠し印刷初期値]	複製管理の隠し印字の初期値を設定します。

項目	説明
[文字列の大きさ]	複製管理で印字される文字の大きさを設定します。
[背景パターン]	隠し印字で使用する文字列を埋め込むための、背景パターンを設定します。
[印刷の色]	複製管理の隠し印字の文字の色を設定します。
[印刷の濃度]	複製管理で印字される文字の濃度を設定します。
[文字 / 背景コントラスト]	複製管理で印字される文字 / 背景のコントラストを設定します。 [サンプルリストの出力] でプリントしたサンプルを参考にして設定できます。
[強制複製管理 - コピー]	コピーするときに、強制的に複製管理するかを設定します。[する] に設定すると、コピー機能の [複製管理] が [する] に固定され、変更できなくなります。 印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、コピー日時です。
[強制複製管理 - クライアントプリント]	クライアントコンピューターからプリントするときに、強制的に複製管理するかを設定します。 本機の設定を優先する場合は [本体の設定を優先] を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウェアの設定を優先する場合は、[クライアントの設定を優先] を選択します。 [本体の設定を優先] を選択した場合は、ユーザー情報、またはユーザー管理番号、本機の ID、印字日時が印字されます。 **補足** • [強制ペーパーセキュリティー] の [クライアントプリント] と共通です。強制ペーパーセキュリティーについては、「[ペーパーセキュリティー]」(P.140) を参照してください。
[強制複製管理 - ボックスプリント]	ボックスからプリントをするときに、強制的に複製管理するかを設定します。 印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、プリント日時です。
[強制複製管理 - メディアプリント]	文書プリントするときに、強制的に複製管理するかを設定します。 印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、プリント日時です。
[文字列登録 1] ～ [文字列登録 3]	複製管理で印字される文字列を登録します。
[サンプルリストの出力]	背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントサンプルをもとに、[文字 / 背景コントラスト] を設定できます。

[ペーパーセキュリティー]

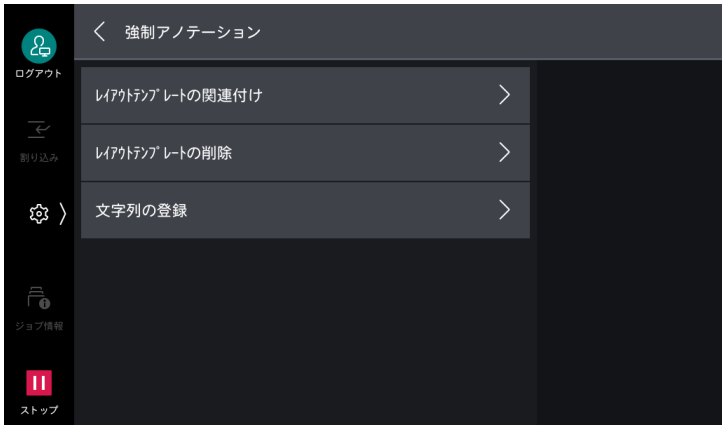
原稿に埋め込まれている複製制限コードを検出するかを設定します。複製制限コードが埋め込まれた原稿を読み込むと、ジョブは強制的に中止されます。

項目	説明
[ペーパーセキュリティーの動作制御]	原稿に埋め込まれている複製制限コードを、検出するかを設定します。
[デジタルコードの設定]	文書に埋め込むデジタルコードの解析パスワードと文字列を設定します。 **補足** • デジタルコードの解析には、弊社ソフトウェアの PaperSecurity Analyzer（別売）が必要です。 • [解析パスワード] を設定すると、文書のデジタルコードを解析するアプリケーション使用者を限定できます。
[強制ペーパーセキュリティー]	ジョブの種類ごとに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかを設定します。 **補足** • [クライアントプリント] で本機の設定を優先する場合は [本体の設定を優先] を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウェアの設定を優先する場合は、[クライアントの設定を優先] を選択します。 • [クライアントプリント] の設定は、強制複製管理 - クライアントプリントと共通です。強制複製管理 - クライアントプリントについては、「[複製管理]」(P.138) を参照してください。
[ペーパーセキュリティーの初期値]	複製制限コードを埋め込むかを設定します。 **補足** • 埋め込まれた複製制限コードは、ファクス操作とスキャン操作でも同様の制限になります。
[隠し印字の設定]	隠し文字を設定すると、コピー / プリントする文書に隠し文字が埋め込まれます。隠し文字が埋め込まれた文書をコピーすると、埋め込まれた隠し文字が白抜きになります。
[文字列初期値]	ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を設定します。
[背景パターン]	ペーパーセキュリティーの隠し印字の背景パターンを設定します。
[印刷の色]	ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字の色を設定します。
[文字 / 背景コントラスト]	ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字 / 背景のコントラストを設定します。 [サンプルリストの出力] でプリントしたサンプルを参考にして設定できます。
[文字列登録 1] ～ [文字列登録 3]	ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を登録します。

項目		説明
	[サンプルリストの出力]	背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントしたサンプルをもとに、[文字 / 背景コントラスト] を設定できます。

[強制アノテーション]

ジョブの種類ごとに関連づけられたレイアウトテンプレートに従い、ユーザー名や日付などの文字列（アノテーション）を強制印字する機能です。



[preset1]

印字位置：右下

印字項目：文書名、クライアントコンピューターの IP アドレス、ユーザー名、カード ID、ユーザー ID、年月日時

[preset2]

印字位置：左下

印字項目：文書名、クライアントコンピューターの IP アドレス、ユーザー名、カード ID、ユーザー ID、年月日時

[preset3]

印字位置：右下

印字項目：ユーザー ID、年月日時

[preset4]

印字位置：左下

印字項目：ユーザー ID、年月日時

[preset5]

印字位置：左上

印字項目：識別 ID（UUID）

縁消し：上端 6 mm

補足

- [preset5] に設定した場合、元原稿に印字された UUID 部分は縁消しにより消去され、新しい UUID を上書きします。ただし、縁消しの範囲は UUID 以外の原稿部分も消えるため利用時はご注意ください。

[UUID 印字]

データごとにジョブを特定できるように、識別 ID（UUID）を印字できます。

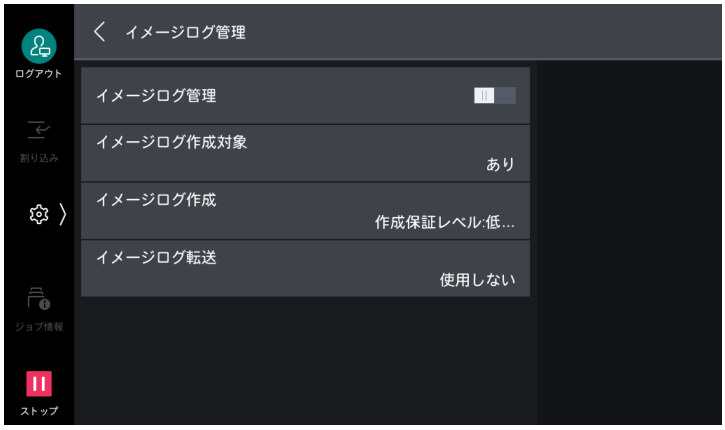
弊社商品（別売）で、ログ管理やイメージログ管理機能を利用すると、UUID をキーとしてログを検索し、ジョブごとに「いつ」、「誰が」、「コピー、プリント、スキャンしたか」などの情報を確認できます。

補足

- ［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合は、設定しているテンプレートの上に、ここで設定する文字が印字されます。
- 微調整値は、用紙の端を 0 mm として、値を大きくすると用紙中央方向に移動します。ただし、［印字位置］で［中央上］、または［中央下］を選択する場合、よこ方向の調整値は用紙の中央を 100 mm としています。［印字位置］で［中央上］、または［中央下］を選択する場合は、微調整値をいったん 100 mm に設定してから調整をしてください。

[イメージログ管理]

イメージログ管理は、本機で実行されたジョブの文書を画像データとして保存し、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのデータと共に、ログとして蓄積 / 管理する機能です。文書が漏えいしたときに、対象文書に対してジョブを実行したユーザーを特定するための情報を保存します。



補足

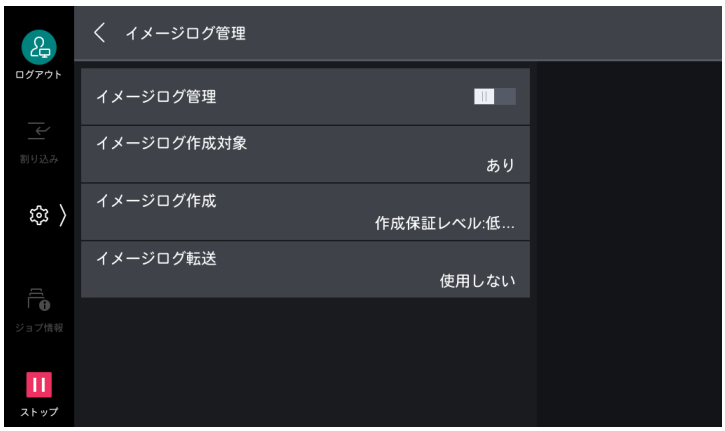
- イメージログ管理機能の起動後に実行されたジョブだけが、イメージログ管理機能の対象になります。
- ［イメージログ作成］の［解像度］の設定にかかわらず、入力イメージよりも解像度が高いイメージは作成されません。入力イメージの解像度が、［イメージログ作成］の［解像度］よりも低い場合は、入力イメージと同じ解像度でイメージが作成されます。
- ファクス送受信のジョブは、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定にかかわらず、常に［作成保証レベル］を［低］として動作します。
- イメージは、最大 8,191 ページまで作成できます。
- 格納できるイメージログの最大数は、2,000 件です。

解像度と目安

解像度	読み取り可能な文字サイズ		一般文書での目安
	カラージョブの場合	白黒ジョブの場合	
200 dpi	6 pt	6 pt	一般文書では問題ないレベルです。
100 dpi	10 pt	14 pt	大きめの文字がわかるレベルです。
72 dpi	12 pt	18 pt	タイトルの文字がわかるレベルです。
50 dpi	16 pt	24 pt	文字はわかりません。プレビュー用に適しています。
25 dpi	24 pt	32 pt	文字はわかりません。サムネール用に適しています。

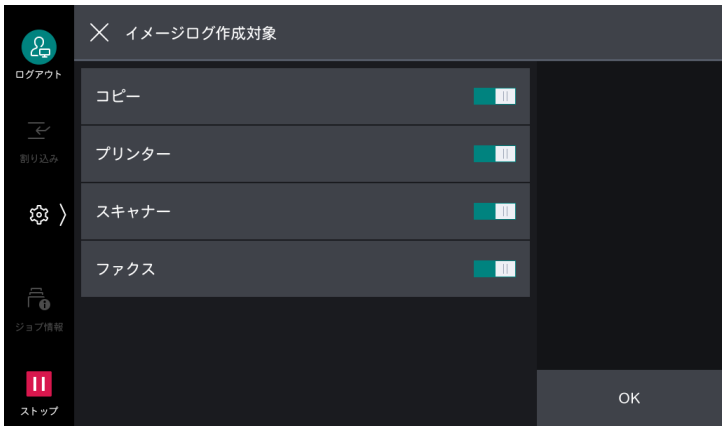
[イメージログ管理]

イメージログ管理を利用できます。



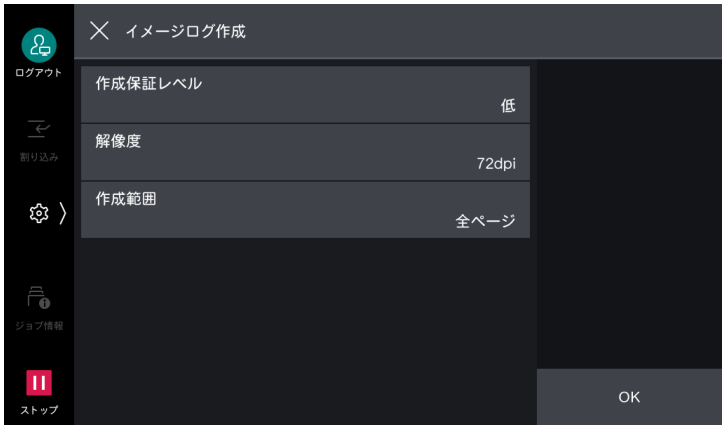
[イメージログ作成対象]

ジョブの種類ごとに、イメージログを作成できます。



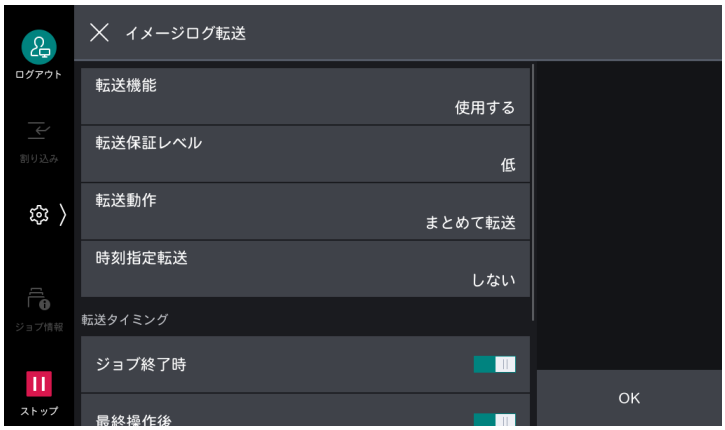
[イメージログ作成]

ログとして管理する画像データについて設定します。画像データは、ジョブ 1 つに対して、1 ファイル（PDF 形式）作成されます。



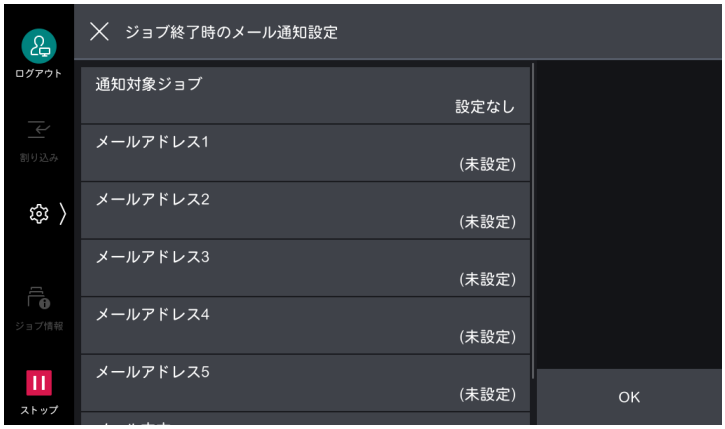
[イメージログ転送]

作成したイメージログは、ログ管理サーバーに転送して、保存 / 管理できます。



項目	説明
[転送機能]	転送機能を使用して、イメージログをログ管理サーバーに転送できます。
[転送保証レベル]	作成したイメージログが、ログ管理サーバーに転送されるか保証するレベルを設定します。 • [高] イメージログが転送できなかった場合、本体に 2,000 件まで未送信ログとして保存され、2,000 件を超えると次のジョブは実行できなくなります。 • [低] 次のジョブは実行され、2,000 件を超えた古いジョブから削除されます。
[転送動作]	本機からログ管理サーバーに、イメージログを自動転送できます。
[時刻指定転送]	[転送動作] で [まとめて転送] に設定すると表示されます。 毎日決まった時刻にイメージログを転送できます。
[転送タイミング]	[転送動作] で [まとめて転送] に設定すると表示されます。 本機からログ管理サーバーに、イメージログを転送するタイミングを設定します。

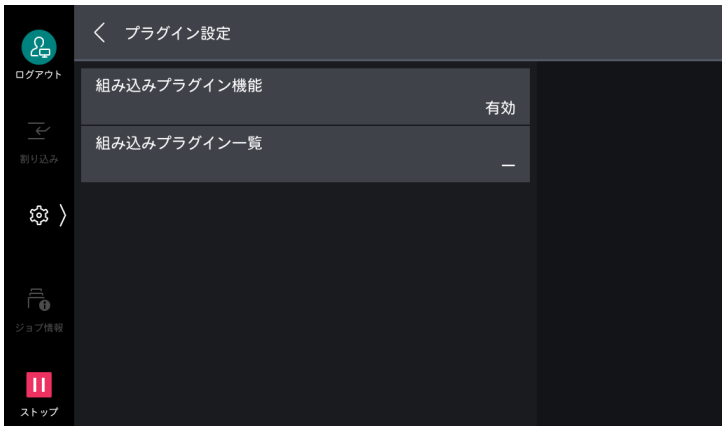
[ジョブ終了時のメール通知設定]



項目	説明
[通知対象ジョブ]	ジョブの実行結果を通知するサービスと、通知するタイミングを設定します。通知対象ジョブが 1 つ以上設定されている場合は、[設定あり] が表示されます。 [ファクス] を通知対象ジョブとして選択した場合、[ファクス送信原稿の添付] を設定できます。ここで設定されたページ数に応じて、PDF 化されたファクス送信原稿が通知メールに添付されます。
[メールアドレス 1] ～ [メールアドレス 5]	メールの通知先を設定します。
[メール本文]	メールに付加されるコメントを入力できます。

[プラグイン設定]

利用できるプラグインの一覧表示とプラグイン切り替えの設定をします。



[その他の設定]

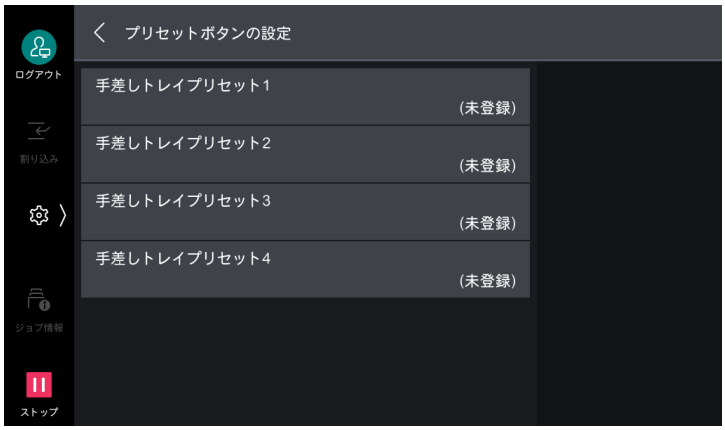
項目	説明
[オフセット排出]	区切りがわかるように用紙の排出位置を交互にずらして排出する設定をします。 [セット単位] に設定すると部数単位で、[ジョブ単位] に設定するとジョブ（プリント指示）単位で、オフセット排出をします。
[折り目あり分割製本のオフセット]	分割単位でのオフセットの有無を設定します。 [オフセット排出（フィニッシャートレイ)] を [セット単位] に設定している場合だけ有効です。ただし、製本の設定を [折り目 + ホチキス] に設定した場合は、オフセットしません。
[プリントジョブの追い越し]	本機が何らかの原因で実行開始できない（コピーやプリントを開始しようとしたときに、用紙トレイの用紙がなくなったなど）場合、ほかに実行開始できるジョブがあるときに、ジョブの追い越しを許可できます。
[プリント用紙サイズ初期値]	レポート / リストをプリントするときに使用する用紙サイズを設定します。
[奇数ページ文書の両面処理]	文書のページ数が奇数のときに、最終ページを両面処理するかどうかを設定します。
[サイズ検知切り替え]	定形サイズの原稿と用紙を検知するときの、用紙サイズグループを設定します。
[ミリ / インチ切り替え]	画面に表示される単位を設定します。
[封筒トレイの使用]	封筒 / はがきトレイを取り付けたときに設定します。
[データの暗号化]	保存されているアドレス帳、認証情報、蓄積文書などのデータを暗号化します。また、コピー、スキャン、およびプリントしたデータを書き込むときに、暗号化されます。
[秘密情報の暗号化キー]	機械管理者のパスワードやボックスのパスワードなどの秘密情報を暗号化するための暗号化キーを設定します。 **補足** • 暗号化キーは、工場出荷時には機械管理者の ID の初期値に設定されています。機械管理者の ID の初期値は『取扱説明書』を参照してください。

項目	説明
[カストマーエンジニアの操作制限]	カストマーエンジニアのなりすましによって、本機のセキュリティの設定が変更されないように、カストマーエンジニアの操作を制限できます。カストマーエンジニアが本機の保守作業をするときには、保守パスワードの入力が必要になります。保守パスワードを 4 ～ 12 桁の英数字で設定します。 **補足** • 制限項目の変更や保守作業をするには、電子基板の交換が必要になります。電子基板の交換には、代金と交換手数料が必要になるため、機械管理者のユーザー ID、パスワード、および保守パスワードは忘れないようにしてください。
[ソフトウェアダウンロード]	ソフトウェアダウンロードを許可できます。この項目は、カストマーエンジニアが設定します。
[原稿送り装置の静音制御]	原稿送り装置で、原稿を読み取るときの動作音を軽減するかを設定します。 動作音を軽減させるときは、[静音動作] を選択します。
[原稿ガイド位置の確認]	原稿送り装置のガイド位置を 8.5″ にセットして読み込みを開始したときに、確認画面が表示されます。
[原稿の重送検知]	重送を検知するかどうかを設定します。
[針指定なし時のホチキス]	針あり、または針なしを指定せずにホチキス留めを指示した場合、どちらのホチキスを使用するかを設定します。
[カラーモード自動時の印刷動作]	カラーモードを自動に設定したジョブの、原稿の種類による印字モードの切り替え方式を設定します。 • [標準] 最初のカラーページまではモノクロで印字し、カラーページ以降はカラーで印字します。 • [速度を優先] カラーで印字します。
[状態表示ランプ（緑)]	ジョブの実行中など、本機がなんらかの動作をしているときに点灯 / 点滅するランプが有効になります。
[データランプの点灯パターン]	データランプの点灯パターンを設定します。
[センタートレイのお知らせライト]	用紙が排出中、または排出された用紙がトレイに残っていることを知らせるライトが有効になります。
[原稿送り装置のお知らせライト]	原稿送り装置にセットし、スキャンしたあとに排出された原稿の取り忘れ防止機能を設定します。
[原稿ガラスの原稿残り検知]	原稿ガラスにセットした原稿の取り忘れ防止機能を設定します。 [有効] に設定すると、メッセージ、状態表示ランプ、音でお知らせします。
[ジョブ一時停止後の処理]	起動したジョブの操作を途中で止め、[自動リセット] で指定した時間が経過するまで放置したあとの処理方法を設定します。
[割り込み機能の設定]	割り込み機能の有効 / 無効を設定します。[無効] に設定すると、コントロールメニューの [割り込み] が消去されます。
[転写装置の待機状態]	カラープリントと白黒プリントのどちらの状態で待機しておくかを設定します。
[一般ユーザーの調整機能操作]	画質や紙折り位置の調整が一般ユーザーでも可能になります。 **参照** • 画質の調整については、「[画質調整]」(P.234) を参照してください。 • 紙折り位置の調整については、「[フィニッシャーの調整]」(P.246) を参照してください。

11.4 ［アプリ設定］

［コピー設定］

［プリセットボタンの設定］



項目	説明
［手差しトレイプリセット 1］～［手差しトレイプリセット 4］	［用紙選択］のトレイ 5（手差し）の画面に表示するプリセットを登録します。

［コピー動作制御］

項目	説明
［メモリーオーバーフローの処理］	原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、原稿の読み込みを中断します。 中断してから何も操作をしない状態で一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。
［最大蓄積ページ数］	コピー原稿の最大蓄積ページ数を設定します。
［自動解除時のトレイ］	［コピー］画面にある、［用紙選択］の［自動］が解除されたときに選択されるトレイを設定します。

項目	説明
[異サイズ原稿の裏面コピー]	両面コピーでおもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、自動用紙選択でおもて面とうら面で異なるサイズの用紙が選択されたとき、うら面をコピーする用紙を設定します。
[しない（新しい用紙にコピー)]	うら面として選択されたサイズの新しい用紙のおもて面にコピーします。
[する]	用紙サイズを変更しないで、そのままおもて面と同じ用紙のうら面にコピーします。
[等倍微調整]	等倍（100%）でコピーするときの倍率を微調整します。設定値は、[コピー] 画面の倍率 [100%] に反映されます。
[地色除去レベル（文字 / 写真)]	カラーコピーをするときの、地色除去レベルを設定します。[原稿の画質] で [文字 / 写真] を選択する場合に有効な設定です。数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。
[地色除去レベル（文字)]	カラーコピーをするときの、地色除去レベルを設定します。[原稿の画質] で [文字] を選択する場合に有効な設定です。 数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。
[文字 / 写真（印刷写真）の原稿]	[原稿の画質] で [文字 / 写真] の [印刷写真] を選択したときの原稿の種類を設定します。
[標準]	標準の画質でコピーします。
[インクジェット原稿]	インクジェットプリンターでプリントされた原稿をコピーするときに選択します。インクジェット原稿の色識別を向上させることができます。
[蛍光ペン原稿]	蛍光ペンでマーキングされた原稿をコピーするときに選択します。蛍光ペンの色識別（オレンジ色 / 緑色）を向上させます。
[原稿の画質 - うす紙原稿]	[原稿の画質] で [文字] を選択したときに、[うす紙原稿] を表示できます。
[アノテーション - スタンプの透過度]	アノテーションで印字されるスタンプの透過度を設定します。
[スタンプ位置微調整 - 左上] ～ [スタンプ位置微調整 - 右下]	アノテーションのスタンプをプリントする位置を調整します。
[日付位置微調整 - 左上] ～ [日付位置微調整 - 右下]	アノテーションの日付をプリントする位置を調整します。
[ページ位置微調整 - 左上] ～ [ページ位置微調整 - 右下]	アノテーションのページ番号をプリントする位置を調整します。
[文字付ページ位置調整 - 左上] ～ [文字付ページ位置調整 - 右下]	アノテーションの文字付きページ番号をプリントする位置を調整します。
[アノテーション - スタンプ - 1 の編集] ～ [アノテーション - スタンプ - 8 の編集]	アノテーションのスタンプとして印字する文字列の登録や変更を、ユーザーに許可できます。 [禁止] に設定すると、機械管理者を含むすべてのユーザーが、文字列を編集できなくなります。
[コピー部数の制限]	コピー部数を設定します。ここで設定した数を超える部数は、設定できなくなります。

[原稿サイズボタン]

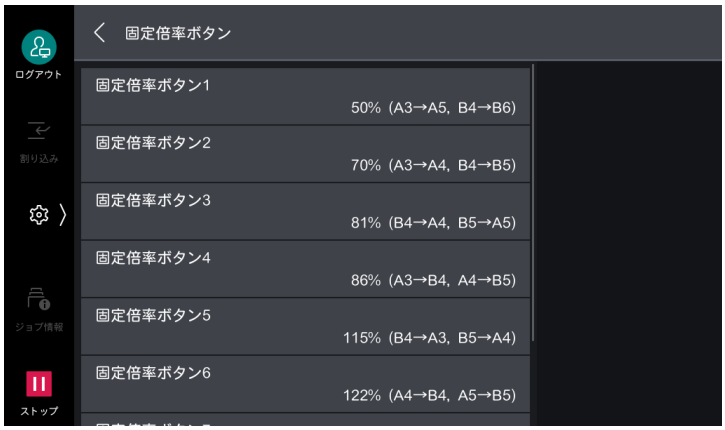
機能リストの［原稿サイズ］＞［自動 / 定形サイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

定形外サイズの原稿を頻繁にコピーするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、コピーのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

[固定倍率ボタン]

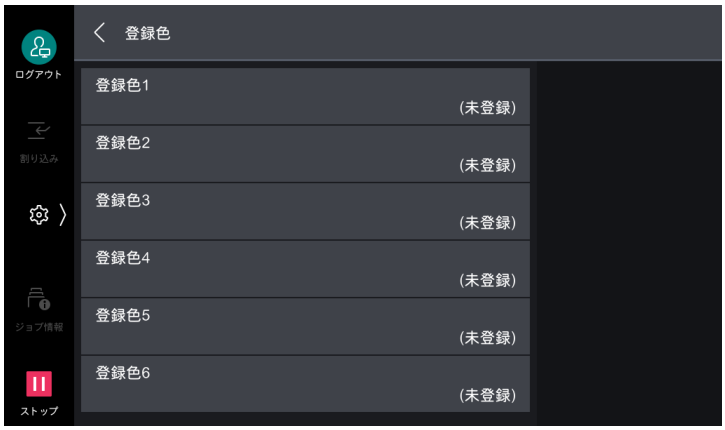
機能リストの［倍率］＞［定形変倍 / ズーム］に表示する倍率を設定します。

［100%］と［自動 %］以外のボタンに割り当てる倍率を変更できます。



[登録色]

［カラーモード］の［2 色カラー］のコピー色と［単色カラー］で使用するユーザー登録色を設定します。



[ID カードコピー設定]

［コピー動作制御］の［ID カードコピー選択時の倍率］以外の設定は、［コピー設定］と共通です。

参照

- 各項目については、「[コピー設定]」(P.148) を参照してください。

[コピー動作制御]

項目	説明
[ID カードコピー選択時の倍率]	ID カードコピーをするときの倍率を設定します。 **補足** • 初期値を保存しているユーザーには、本項目の設定が反映されないことがあります。初期値の保存については、「アプリの表示カスタマイズ」(P.47) を参照してください。

[プリンター設定]

[メモリー設定]

プリンターモードごとに使用するメモリー容量を設定します。

注記

- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。

補足

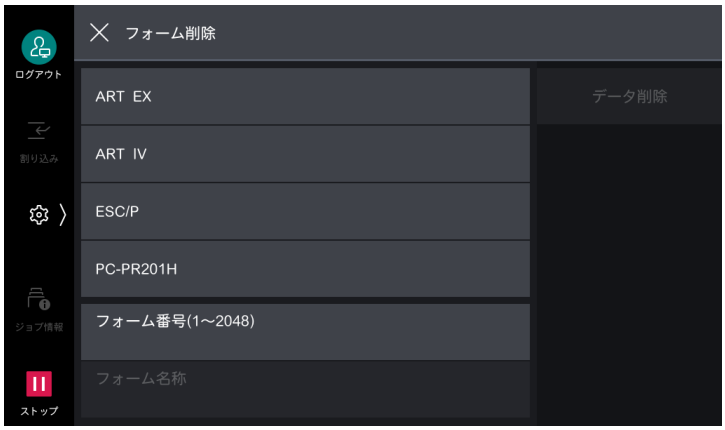
- 受信バッファ（クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所）の容量は、使用状況と目的に応じてインターフェイスごとに変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなることがあります。

項目	説明
[PostScript 使用メモリー]	PostScript の使用メモリー容量を指定します。
[ART EX フォームメモリー]	ART EX でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。 **補足** • ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。
[ART IV,ESC/P,201H フォームメモリー]	ART IV、ESC/P、201H でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。 **補足** • ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。
[ART IV ユーザー定義用メモリー]	ART IV のユーザーが定義するデータ（外字、フォーム、線パターンフォームなど）を格納するメモリー容量を指定します。
[HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー]	HP-GL/2 のオートレイアウト機能を使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。 **補足** • ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。
[ジョブチケット用メモリー]	ジョブチケット（ジョブの出力部数や後処理などを記述したもの）の処理に使用するメモリー容量を指定します。

項目	説明
[受信バッファー - LPD]	スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。 **補足** • [スプールしない] に設定すると、LPD プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。 • [LPD のプリント順序] の設定により、[受信バッファー - LPD] が変更できないことがあります。[LPD のプリント順序] については、「[その他の設定]」(P.156) を参照してください。
[受信バッファー - IPP]	スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。 **補足** • [スプールしない] に設定すると、IPP プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。

[フォーム削除]

登録されたフォームを個別に削除します。プリンターモードごとのフォーム番号を入力して、表示されたフォーム名称を確認してから削除します。

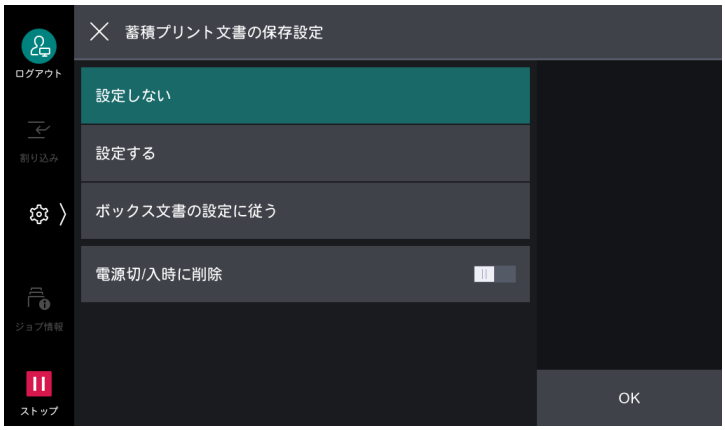


[ボックス文書の保存期間]

ボックス内の文書の保存期間が経過したときに削除するかを設定します。設定すると、保存期間が経過したあと、[削除時刻] で設定した時刻になると、文書は削除されます。すべてのボックスに共通の設定となります。

[蓄積プリント文書の保存設定]

蓄積プリント文書の削除方法を設定します。

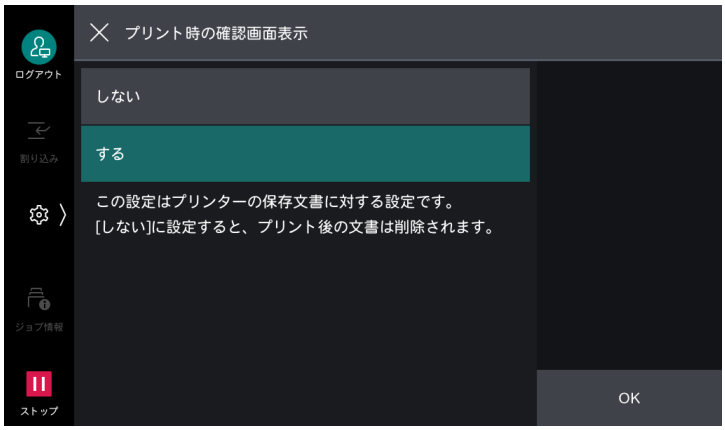


[プリント文書一覧の初期表示]

蓄積プリント文書の一覧を［リスト表示］、または［サムネール表示］に設定します。

[プリント時の確認画面表示]

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリントしたあとの文書削除に関する確認画面を表示できます。
［しない］に設定すると、プリントしたあとに文書は削除されます。



[プレビューイメージの作成]

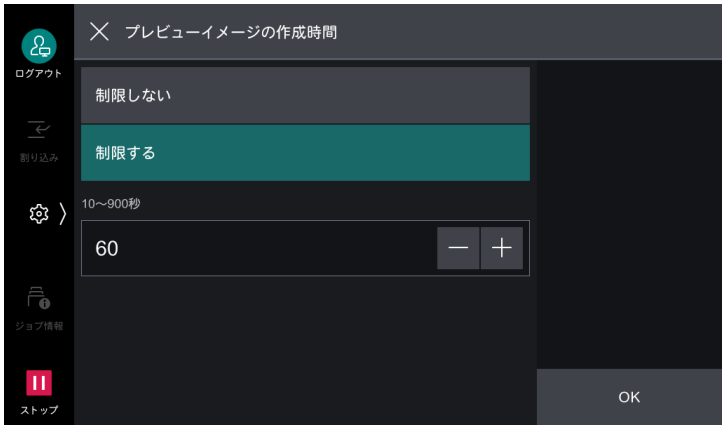
蓄積プリント文書の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成できます。

補足

- プレビューイメージを作成するかはプリンタードライバーから設定することもできます。

[プレビューイメージの作成時間]

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限できます。[制限する] に設定すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージだけが表示されます。



[蓄積時の暗証番号最小桁数]

セキュリティープリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を設定します。

[全文書選択時のプリント順]

蓄積プリント文書の全文書を選択した場合のプリントの順番を設定できます。

[その他の設定]

項目	説明
[プリント可能領域]	印字可能領域を拡張します。
[用紙の置き換え]	指定された用紙サイズの用紙が、トレイにセットされていない場合の処理を設定します。 **補足** • ART IV、PC-PR201H、ESC/P、HP-GL/2 などのエミュレーションを使用してプリントする場合は、ここでの設定にかかわらず、用紙補給のメッセージが表示されます。
[用紙補給を表示]	置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。
[大きいサイズを選択]	指定されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に、等倍でプリントします。
[近いサイズを選択]	指定されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙にプリントします。 用紙の長さ、または幅が画像のサイズに足りないときは、縮小してプリントされます。
[近いサイズを選択（等倍）]	指定されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙にプリントします。 画像が収まらない場合でも縮小は行われません。
[近いサイズを選択（使用できないサイズを含む）]	指定されている用紙サイズが本機で出力できないサイズでも、最も近いサイズの用紙にプリントします。 用紙の長さ、または幅が画像のサイズに足りないときは、縮小してプリントされます。

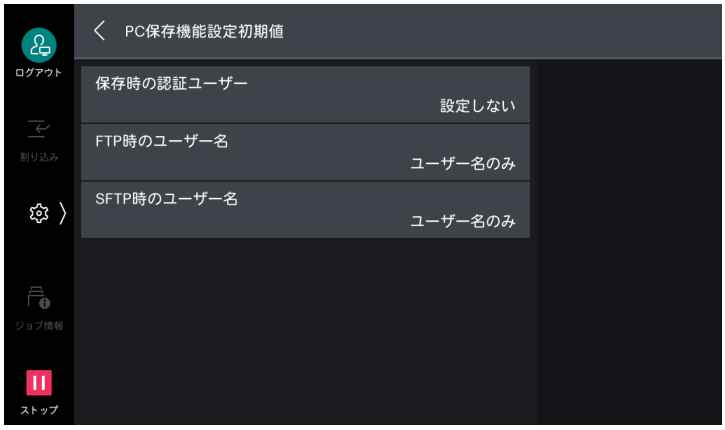
項目	説明
[近いサイズを選択（等倍 / 使用できないサイズを含む)]	指定されている用紙サイズが本機で出力できないサイズでも、最も近いサイズの用紙にプリントします。 画像が収まらない場合でも縮小は行われません。
[トレイ 5（手差し）を選択]	指定されている用紙サイズでトレイ 5（手差し）からプリントします。 サイズが異なる用紙がセットされていた場合は、選択されているサイズの用紙をセットするようにメッセージが表示されます。
[AB 系 / インチ系置き換え]	AB 系サイズの用紙と、インチ系サイズの用紙を置き換えてプリントします。 置き換え可能な組み合わせは次のとおりです。 • A5 と 5.5×8.5″ • A4 とレター（8.5×11″ ） • A3 と 11×17″
[用紙種類不一致時の処理]	プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類と、用紙トレイにセットされている用紙種類が一致しない場合の処理を設定します。
[プリントする]	用紙トレイに設定されている用紙の種類でプリントされます。
[確認画面を表示する]	プリント続行の確認画面が表示されます。 プリントする場合は、プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類の指定は無効となり、[トレイの優先順位] や用紙サイズ、[用紙の置き換え] の設定に従ってプリントされます。
[設定変更画面を表示する]	用紙トレイの設定を変更する画面が表示されます。 画面の指示に従って、用紙トレイの用紙を入れ替えたあと、[スタート] をタップすると、用紙トレイに設定されていた用紙種類が、画面に表示された用紙種類の設定に変更されて、プリントされます。
[手差しトレイの優先選択]	プリンタードライバーで [用紙トレイ選択] を [自動] に設定しているときに、トレイ 5（手差し）を最優先で選択できます。 **補足** • プリントジョブで指定している用紙サイズと用紙種類がセットされている用紙と一致するときに、トレイ 5（手差し）から給紙されます。
[手差しプリントの確認]	トレイ 5（手差し）の用紙にプリントするときに、セットされている用紙を確認する画面を表示できます。
[未登録フォーム指定時の処理]	フォームデータファイル（オーバーレイ印字）にプリント指示されたフォームが、プリンターで未登録だった場合の処理方法を設定します。 [プリントする] に設定した場合、指定したフォームがないため、データだけがプリントされます。
[異常終了後のプリント処理]	エラーなどでプリントジョブがキャンセルされるときに、以降のジョブの再開方法を設定します。
[自動的に再開する]	ジョブをキャンセルし、以降のジョブのプリントを再開します。
[ユーザー操作で再開する]	ジョブがキャンセルされる前に、確認画面を表示します。 **補足** • ジョブキャンセル時に、後続のプリントジョブを制限するため、オフライン状態になります。オンラインに戻すと、以降のジョブのプリントが再開されます。
[紙づまり発生時のプリント処理]	プリント実行中に紙詰まりなどのエラーが発生した場合のプリント処理方法を設定します。
[紙づまり除去後再開する]	紙詰まりの処置が終了すると、正常に排出された次のページから、プリントを再開します。
[プリントを中止する]	プリントを中止して、そのプリントジョブを削除します。

項目	説明
[ID 印字]	プリンタードライバーを使用してプリントする場合、用紙にユーザー ID を印字できます。ユーザー ID の先頭 64 文字が印字されます。 補足 • ID 印字機能を使用するには、あらかじめプリンタードライバーで、ユーザー ID の設定が必要です。
[バナーシート出力]	本機を複数のユーザーで使用している場合など、ユーザーごとのジョブを区分けして、プリント物が混在しないようにバナーシートをプリントします。 バナーシートには、日付、時間、ユーザー名、ファイル名などがプリントされます。
[バナーシートのオフセット出力]	仕分け用の用紙（バナーシート）をプリントするときにオフセット排出できます。
[バナーシートトレイ]	仕分け用の用紙（バナーシート）を給紙するトレイを設定します。 トレイ 5（手差し）は設定できません。
[PostScript のカラーモード初期値]	PostScript のカラーモードの初期値を設定します。
[PostScript の用紙選択]	用紙選択時に、PostScript の遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にできます。遅延媒体選択機能を有効にする場合は［自動］に、無効にする場合は［用紙トレイから選択］に設定します。 プリンタードライバー以外が生成する PostScript データをプリントするときに、PostScript データの記述方法によっては、意図どおりにトレイが選択されないことがあります。その場合は［用紙トレイから選択］に設定します。
[PS フォント未搭載時の処理]	ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合の処理を設定します。［フォントを置換えてプリントする］に設定したときに、指定されたフォントがなかった場合は、Courier に置き換えられます。 日本語フォントに置き換えられた場合は正しくプリントされません。日本語フォントでプリントする場合は［PostScript のフォント置き換え］を［ATCx を使用する］に設定します。
[PostScript のフォント置き換え]	ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合、フォントの置き換えで ATCx を使用できます。 ATCx 機能は、ジョブで指定されたフォントが本機に搭載されていない日本語フォントの場合に、本機に搭載されている日本語の PostScript フォントに置き換えてプリントする機能です。
[XPS PrintTicket 処理]	XPS 文書内に記述されたプリント設定（PrintTicket）を読み込むときの本機の動作を設定します。
[無効]	PrintTicket 処理をしません。
[標準モード]	PrintTicket 処理を標準モードで行います。
[準拠モード]	PrintTicket で記述されたプリント設定を、Microsoft の仕様に準拠した動作で行います。
[LPD のプリント順序]	LPD のプリントの順番を設定します。
[受け付けと同時にプリント]	データを受信したあと、すぐに印刷されます。
[データ処理順]	データを受信したあと、プリント可能な状態になった順序で印刷されます。 複数の文書を連続して印刷した場合、データ処理に時間がかかるデータを先に受け付けても、データ処理が終了したデータが先にプリントされることがあります。
[受け付け順]	lpr のプリントを受け付けた順番でプリントされます。

項目	説明
[OCR フォントのグリフ(0x5C)]	OCR フォントを使用するときに、「0x5C」の文字をバックスラッシュ(\)と円記号(¥)のどちらで印字するかを設定します。

[スキャン送信設定]

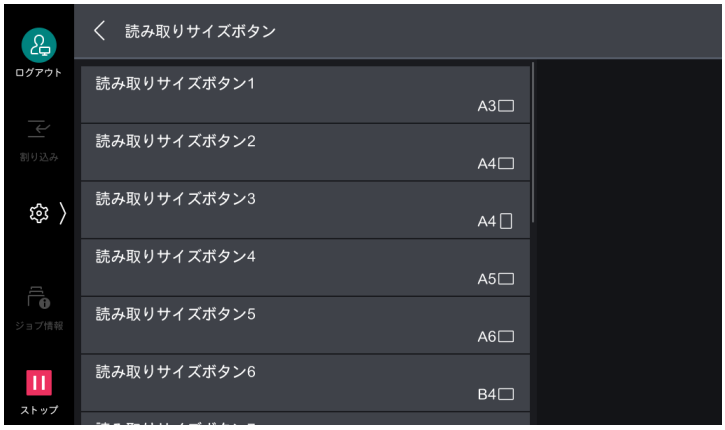
[PC 保存機能設定初期値]



項目		説明
[保存時の認証ユーザー]		SMB/FTP/SFTP 送信でクライアントコンピューターにログインするとき、外部認証したユーザーを利用できます。
[FTP 時のユーザー名]		FTP 送信で外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用するとき、認証ユーザーのドメイン部分を使用できます。
	[ユーザー名のみ]	認証ユーザー名のユーザー名部分(「@」の前)だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。
	[ドメインを付加する]	認証ユーザー名のドメイン名(「@」の後ろ)も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。
[SFTP 時のユーザー名]		SFTP 送信で外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用するとき、認証ユーザーのドメイン部分を使用できます。
	[ユーザー名のみ]	認証ユーザー名のユーザー名部分(「@」の前)だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。
	[ドメインを付加する]	認証ユーザー名のドメイン名(「@」の後ろ)も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。

[読み取りサイズボタン]

機能リストの［読み取りサイズ］＞［自動 / 定形サイズ］、または［定形サイズ］に表示する原稿サイズを設定します。［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。



[出力サイズボタン]

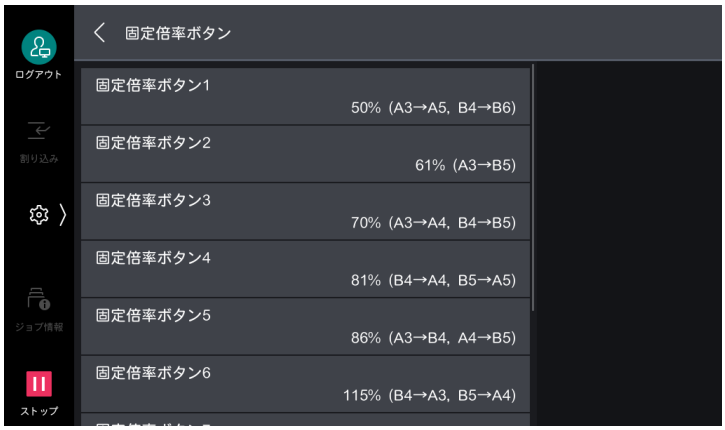
機能リストの［倍率］＞［自動（出力サイズ指定）］に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズを割り当てることができます。

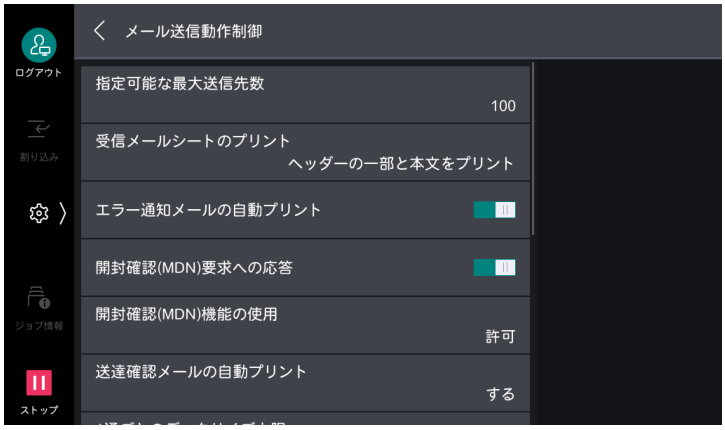
[固定倍率ボタン]

機能リストの［倍率］＞［定形変倍 / ズーム］に表示する倍率を設定します。

［100%］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。



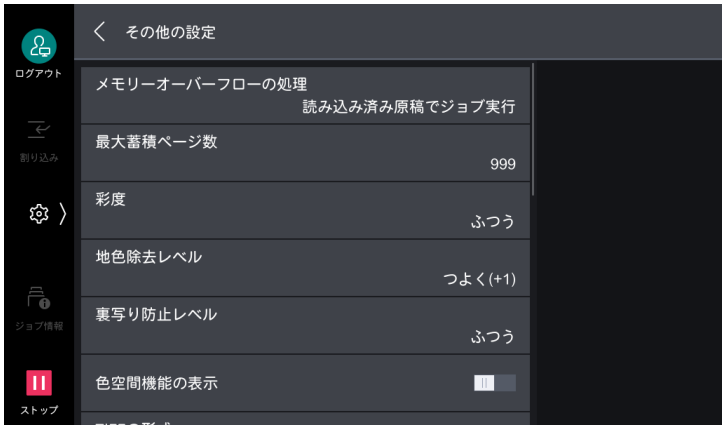
[メール送信動作制御]



項目	説明
[指定可能な最大送信先数]	メールを送信するときの最大宛先アドレス数を設定します。 宛先アドレス数は、To/CC/BCC の合計です。 最大宛先アドレス数を超えた場合は、メールの送信は中止されます。
[受信メールシートのプリント]	本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリントについて設定できます。
[エラー通知メールの自動プリント]	間違ったアドレスを設定した場合や、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラー通知メールをプリントできます。
[開封確認（MDN）要求への応答]	開封確認（MDN）を要求するメールを開封したときに、開封したことを送信元に知らせることを設定します。
[開封確認（MDN）機能の使用]	本機からメールを送信するときに、開封確認機能を使用できます。
[送達確認メールの自動プリント]	送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）をプリントできます。
[1 通ごとのデータサイズ上限]	メール 1 通ごとのデータサイズの上限を設定します。
[合計データサイズ上限]	メールのデータサイズの上限を設定します。 **補足** • メールにファイルを添付する場合、実際のデータサイズが、メールソフトなどで表示されるサイズよりも大きくなることがあります。
[分割送信時の分割数上限]	メール分割時の分割数の上限を設定します。
[送信者アドレスの変更]	メール送信時に機能リストの［送信者］で、送信者アドレスを変更できます。
[取得失敗時のメール送信制限]	認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、メール送信の利用を制限できます。
[ユーザーのアドレスを宛先に追加]	送信者のアドレスを宛先に追加できます。 **補足** • ［スキャン送信］利用時に、送信者のアドレスが宛先に追加されます。 ［メール送信］利用時の設定は、［メール送信設定］＞「[メール送信動作制御]」(P.164) で変更してください。

項目	説明
[メール送信先の編集]	一般ユーザがメールの送信先（To/CC/BCC）を編集、または追加できるようにするかを設定します。 **補足** • [メール送信先の編集] を [禁止] に設定した場合は、メールの宛先の編集 / 追加ができなくなります。[メール送信] を利用するには、[ユーザーのアドレスを宛先に追加] の設定を有効にしてください。

[その他の設定]

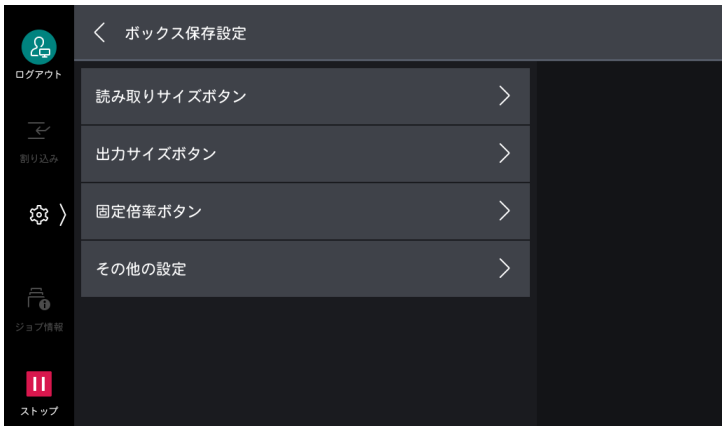


項目	説明
[メモリーオーバーフローの処理]	原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、原稿の読み込みを中断します。 中断してから何も操作をしない状態で一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。
[最大蓄積ページ数]	スキャン原稿の最大蓄積ページ数を設定します。
[彩度]	フルカラー原稿をスキャンするときの彩度を設定します。スキャンをするときに、ここで設定した値に従って調整されます。
[地色除去レベル]	地色除去レベルを設定します。
[裏写り防止レベル]	裏写り防止レベルを設定します。
[色空間機能の表示]	機能リストに、[色空間] を表示できます。
[TIFF の形式]	スキャンデータを読み込むときの、TIFF の形式を設定します。
[文字認識の方式]	文字認識（OCR）するときの処理精度を設定します。
[文字認識時のページ向き]	文字認識（OCR）して原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理できます。
[文字認識と自動正立の方式]	文字認識（OCR）して原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理する機能の精度を設定します。
[転送中画面の表示]	原稿を読み込んだあとに、転送画面を表示できます。
[ファイル名の形式]	スキャンした文書のファイル名の形式を設定します。
[メールに添付するファイル名の日付]	[メール送信] を使用する場合、送信する文書のファイル名に日付やページ番号を付加できます。
[URL 送信の文書保存期間]	URL 送信の文書の保存期間を設定します。
[URL 送信の URL 生成方法]	URL 送信で送信する URL の生成方法を設定します。
[URL 送信の最大蓄積サイズ]	URL 送信の文書の最大蓄積サイズを設定します。

項目	説明
[認証ユーザー名の記載(PDF)]	本体認証、外部認証などを利用して PDF 形式でスキャンした場合、保存した PDF 文書の属性情報の「作成者」に、認証ユーザー名を記載できます。
[スタート後の設定値リセット]	ジョブ実行後に宛先を含む送信設定をリセットするかどうかと、リセットしない場合のメッセージの表示有無を設定します。
[SMB/FTP/SFTP 保存先の編集]	一般ユーザーが SMB/FTP/SFTP の送信先を編集、または追加できるようにするかどうかを設定します。

[ボックス保存設定]

[スキャン送信設定] と共通です。



参照

- 各項目については、「[スキャン送信設定]」(P.159) を参照してください。

[メール送信設定]

[メール送信動作制御] の [ユーザーのアドレスを宛先に追加] と [ユーザーのアドレスを CC に追加] 以外の設定は、[スキャン送信設定] と共通です。

参照

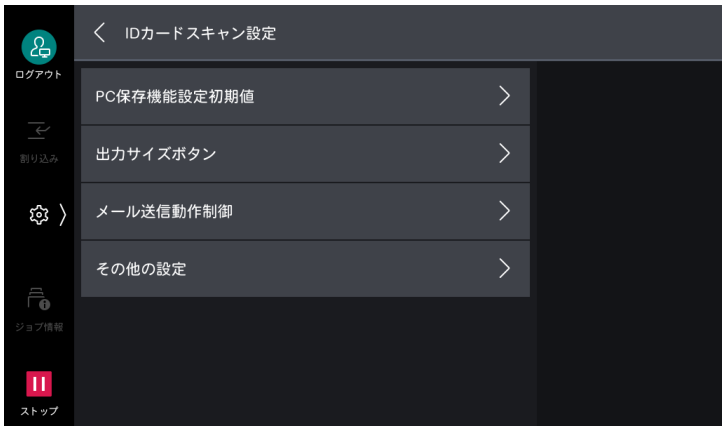
- 各項目については、「[スキャン送信設定]」(P.159) を参照してください。

[メール送信動作制御]

項目	説明
[ユーザーのアドレスを宛先に追加]	送信者のアドレスを宛先に追加できます。
[ユーザーのアドレスを CC に追加]	送信者のアドレスを CC に追加できます。

[ID カードスキャン設定]

[出力サイズボタン] 以外の設定は、[スキャン送信設定] と共通です。



参照

- 各項目については、「[スキャン送信設定]」(P.159) を参照してください。

[出力サイズボタン]

機能リストの [出力サイズ] に表示するサイズを設定します。

[ファクス設定]

[ファクス画面表示設定]

項目	説明
[送信中画面の表示]	送信状態が表示されます。
[ファクス回線の表示]	機能リストに［回線］が表示されます。

[ファクス動作制御]

項目	説明
[内線設定]	ファクスを内線で使用する場合に、どの回線で使用するかを設定します。
[宛先の再入力]	ファクス、IP ファクス（SIP）の誤送信を避けるため、宛先を指定したあとに、宛先の再入力を必要とするかを設定します。 [する］に設定した場合、ダイヤル入力を使用して宛先を指定すると、再度宛先を指定する画面が表示されます。1 回目に指定した宛先と一致する場合だけ、送信できます。
[再入力時の同報指示]	同報送信を許可するかを設定します。
[再入力時の連絡先指示]	アドレス帳の宛先を指定したときに、確認画面が表示されます。
[再入力時のグループ宛先指示]	グループの宛先を指定したときに、確認画面が表示されます。
[ファクス / インターネットファクス宛先の表示]	ファクスとインターネットファクスからアドレス帳を表示したときに、ファクスとインターネットファクスの両方の宛先を混在表示するか、アドレス帳の起動元アプリの宛先のみを表示するかを設定します。
[同報切り替えボタンの表示]	機能リストに［同報］が表示されます。

項目	説明
[チェーンダイヤル]	アドレス帳に登録してある宛先のダイヤル番号と入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できます。
[手動リダイヤル宛先保存数]	リダイヤル宛先として保存される件数を設定します。
[手動リダイヤル対象宛先]	リダイヤル宛先として保存される宛先の種別を設定します。 すべての種別を無効にすると、リダイヤル機能なしになります。
[発信元記録 / 送信シートの宛先]	発信元記録と送信シートの相手欄に印字する送信先の項目を設定します。 登録されている文字列から、先頭の 18 文字が印字されます。 **補足** • アドレス帳で［送信ヘッダー宛先名］が設定されている宛先に送信する場合は、［送信ヘッダー宛先名］に設定された文字列が優先して印字されます。
[ポーリング予約の発信元記録]	ポーリング予約した文書に発信元記録を付けることを設定します。
[ポーリング予約文書の自動削除]	ポーリング予約した文書を、送信したあとに削除できます。
[相手機からのポーリング / 蓄積]	次の機能の使用を許可できます。 • ポーリング予約（相手用蓄積） • 相手機からの指示によるポーリング予約文書の送信 • ファクス親展受信
[自動回転送信]	原稿の向きを回転するかを設定します。
[G3-ID の送出 - ファクス]	G3 通信時に、G3-ID を相手先に通知できます。
[G3-ID の送出 - IP ファクス (SIP)]	G3 通信時に、G3-ID を IP ファクス（SIP）の相手先に通知できます。
[リダイヤル回数]	リダイヤルする回数を設定します。
[リダイヤル間隔]	リダイヤルする間隔を設定します。
[ファクス未送信時の文書保存]	ファクスが送信できなかった場合に、文書を保存できます。有効にした場合、［ジョブ情報］の［保存文書］画面に［ファクス未送信文書］が表示されます。［ファクス未送信文書］画面から、送信できなかった文書を選択して再送信できます。
[ファクス送信強制終了時の文書]	強制的にファクス送信を終了した文書を保存対象にできます。
[ファクス保存文書の自動削除]	保存された文書を 24 時間後に削除できます。
[通信インターバル]	1 つの通信が終わったあと、次に送信を始めるまでの時間を設定します。 通信インターバルが長いほど、同報送信などにかかる全体の時間は長くなりますが、待機時間中に受信できます。
[同一宛先一括送信]	複数の送信が予約されている場合に同一の宛先があるとき、1 回の通信で同一の宛先の文書を送信できます。
[手動送受信初期値]	オンフック、またはオフフックを使用した場合、タッチパネルディスプレイに最初に表示される状態を手動受信か、手動送信に設定します。
[ファクス自動受信時の受信方式]	自動受信時の受信方式を設定します。
[指定時間後に受信]	電話がかかってきてからファクス通信を開始するまでの時間を設定します。 相手が電話なら、設定時間内にハンドセットや外付け電話を取って会話ができます。ファクス通信なら手動受信ができます。
[ファクス識別信号検知後に受信]	ファクス識別信号が検知されると、ファクス通信が開始されます。

項目	説明
[ファクス受信モード]	本機が起動したときのファクス受信モードの初期値を設定します。 相手からの送信を自動で受信するか手動で受信するかを選択します。
[ページ分割しきい値]	受信文書の長さが用紙サイズより長い場合、どの長さでページを分割するかを設定します。
[自動縮小受信]	受信文書の長さが、ページ分割しきい値以内で用紙の長さを超える場合、用紙に収まるように画像を縮小できます。 無効にした場合、用紙の長さを超えた部分の画像は切り捨てられます。
[受信紙宣言]	ファクスの受信側から送信側に、受信文書をプリントする用紙を知らせる方法を設定します。
[トレイモード]	ファクスの受信文書をプリントするために使用する用紙トレイを設定します。ここで設定した用紙トレイだけが、受信文書をプリントするために使用されます。手差しトレイを除く、すべての用紙トレイを複数設定できます。ここで指定した用紙トレイでプリントできないときは、手差しトレイに用紙をセットするよう促すメッセージが表示されます。
[ユーザーモード]	プリントする用紙サイズを指定し、トレイにセットされていることに関係なく、指定したサイズの用紙だけを対象にします。用紙サイズは、複数選択が可能です。
[ページ合成受信]	2 ページを 1 ページに合成して受信するように設定します。
[両面プリント]	ファクス受信文書を用紙の両面にプリントできます。
[上下わく消し量]	原稿の上下方向のわく消し量を設定します。
[左右わく消し量]	原稿の左右方向のわく消し量を設定します。
[8.5×11″ □ 原稿の A4 □ 縮小]	[倍率] が [自動 %] の場合で、レターサイズの原稿を読み取るときに、A4 に縮小できます。
[写真画質の擬似階調方式]	写真原稿の階調表現方式を設定します。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。[誤差拡散]、または [ディザー] から設定できます。 変更すると、スキャン機能のカラーモード（2 階調）の写真原稿の階調表現方式も変更になります。
[回線 1 付加サービス] ～ [回線 3 付加サービス]	回線 1 ～ 3 で電話会社が提供しているサービスを利用しているかを設定します。 ナンバー・ディスプレイ契約をしている場合は、[発信電話番号] を有効に、ダイヤルイン契約をしている場合は、[ダイヤルイン] を有効に設定します。サービスを利用していない場合は、無効に設定します。
[回線 SIP 付加サービス]	次世代ネットワーク（NGN）を使用するときに、電話会社が提供しているサービスを利用しているかを設定します。 企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）利用時は、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得する場合は、[発信電話番号] を有効に、自局の電話番号を取得する場合は [ダイヤルイン] を有効に設定します。
[電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター]	電話番号 /G3-ID 別ボックスセレクター機能を使用できます。 受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3-ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに、指定したボックスに振り分けて蓄積できます。
[ボックスセレクター優先度]	電話番号 /G3-ID 別ボックスセレクター機能を使用する場合に、送信した相手の電話番号（発信者電話番号）や G3-ID、受信した自局の電話番号（ダイヤルイン）に優先度を設定してボックスに受信文書を振り分けます。
[受信回線別ボックスセレクター]	受信回線別ボックスセレクター機能を使用できます。 受信回線別ボックスセレクター機能を使用すると、受信文書を受信した回線ごとに、指定したボックスに振り分けて蓄積できます。

項目	説明
[ボックス保存時のファイル名形式]	ファクス文書をボックスに保存するときのファイル名の形式を設定します。
[メモリーオーバーフローの処理]	原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、原稿の読み込みを中断します。 中断してから何も操作をしない状態で一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。
[最大蓄積ページ数]	ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。
[ミックスサイズ原稿読み取りモード]	原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。
[親展受信情報の表示優先順 1] ～ [親展受信情報の表示優先順 5]	親展受信した文書のファクス情報を表示するための優先順位を設定します。
[ダイレクトファクスの使用]	クライアントコンピューターからファクスドライバーで指示されたファクスの送信を許可できます。
[受信制限番号]	ファクス受信を拒否する G3-ID（電話番号）を設定します。
[非通知番号の受信制限]	送信先からの G3-ID が非通知の場合に受信を制限するかを設定します。
[1300Hz 無鳴動受信]	ファクシミリ通信網からの 1300 Hz 無鳴動受信ができます。 有効に設定すると、[ファクス受信モード] が [手動受信] の場合でも、ファクスが受信されます。

[受信文書の保存先 / 排出先]

受信文書のボックスへの振り分け方法と受信プリント時の排出先を設定します。

補足

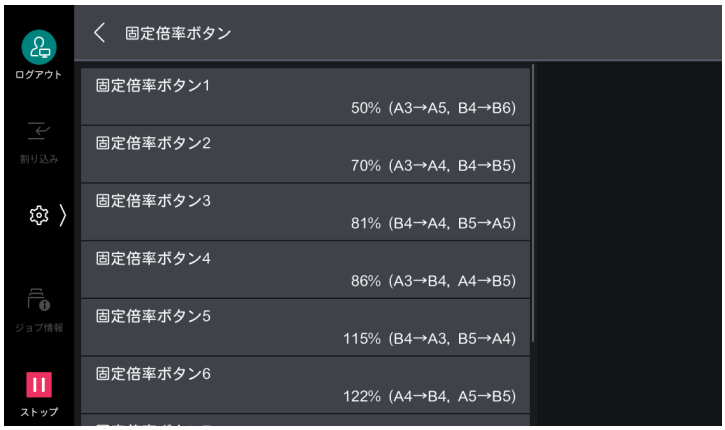
- [電話番号 /G3ID 別 ボックスセレクター] と [受信回線別 ボックスセレクター] の両方を使用する場合は、[電話番号 /G3ID 別 ボックスセレクター] の振り分けが優先されます。

項目	説明
[電話番号 /G3ID 別 ボックスセレクター]	受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3-ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに各ボックスに振り分けて蓄積できます。
[受信回線別 ボックスセレクター]	受信した文書を受信した回線ごとに、指定したボックスに振り分けて蓄積します。
[受信回線別排出先]	受信回線別の排出先などを設定します。
[回線 1 の排出先] ～ [回線 3 の排出先]	各回線の排出トレイを設定します。
[回線 SIP の排出先]	IP ファクス（SIP）の排出トレイを設定します。

項目		説明
	［ポーリング予約ボックスの排出先］	ポーリング予約ボックスの排出トレイを設定します。
	［ファクス / インターネットファクスの排出先］	［専用化する］を選択すると、［受信回線別排出先］で指定された各排出先は、ファクス / インターネットファクス専用のトレイになります。 **補足** • すべての排出トレイを受信回線別の排出先として指定している場合、排出トレイによってはファクスだけでなくコピーやプリントの文書も排出されることがあります。

［固定倍率ボタン］

機能リストの［倍率］に表示する倍率を設定します。［100%］と［自動 %］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

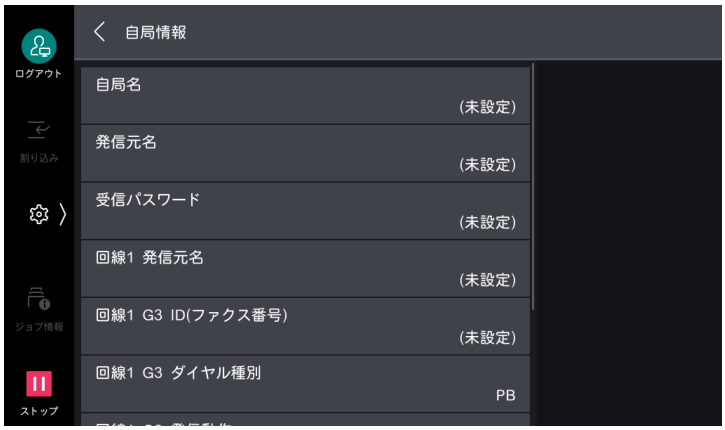


［読み取りサイズボタン］

機能リストの［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

[自局情報]

自局名や発信元名など自局に関する設定をします。



項目	説明
[自局名]	自局の名前を自局名として登録します。 自局名は、相手側のディスプレイや通信管理レポートに表示されます。 ただし、相手機によっては表示されないことがあります。
[発信元名]	発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。
[受信パスワード]	受信パスワードは、ファクスを送信してくる相手を制限するときに設定します。 受信パスワードを設定すると、F コードで正しい受信パスワードを指定して送ってくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けます。F コード機能を持っていないファクスなどからは、受信できなくなります。
[回線 1 発信元名] ～ [回線 3 発信元名]	回線 1 ～ 3 の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。
[回線 1 G3 ID（ファクス番号)] ～ [回線 3 G3 ID（ファクス番号)]	回線 1 ～ 3 の G3 通信をする場合の G3-ID の登録をします。G3-ID には、通常、自局のファクス番号を設定します。
[回線 1 G3 ダイヤル種別] ～ [回線 3 G3 ダイヤル種別]	回線 1 ～ 3 のダイヤル種別を設定します。
[回線 1 G3 発信動作] ～ [回線 3 G3 発信動作]	回線 1 ～ 3 の発信動作を設定します。 **補足** • 工場出荷時は [トーン検知する] が設定されています。通常は変更しないでください。
[トーン検知する]	NTT、または PBX で発信する場合に設定します。 一般電話回線や構内交換回線などを使用していて、ダイヤルトーンを検出したら発呼させたい場合に選択します。
[トーン検知しない]	NTT、または PBX 設定で発信できない場合に選択します。
[回線 SIP 発信元名]	IP ファクス（SIP）の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。
[回線 SIP G3 ID]	IP ファクス（SIP）をする場合の相手局に送信する G3-ID を登録します。

[コメント登録]

送信シートに付けるコメントを登録します。

[インターネットファクス設定]

[ファクス動作制御]、[固定倍率ボタン]、[読み取りサイズボタン]、[自局情報] は、[ファクス設定] と共通です。

参照

- 各項目については、「[ファクス設定]」(P.165) を参照してください。

[インターネットファクス画面表示設定]

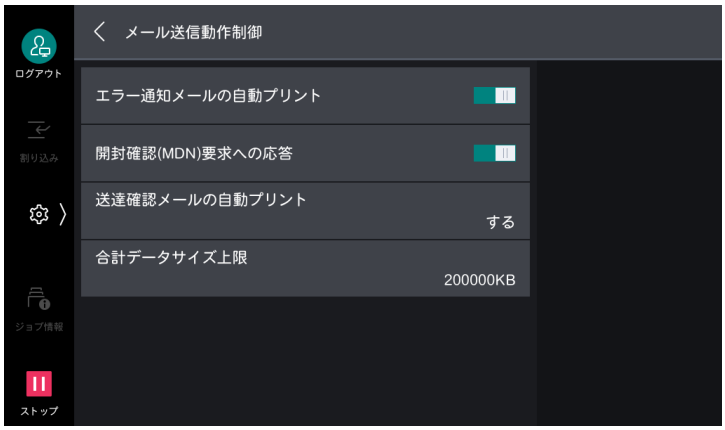
項目	説明
[送信中画面の表示]	送信状態が表示されます。

[インターネットファクス動作制御]

項目	説明
[送信経路]	
[メールサーバー経由]	SMTP サーバーを経由してメールを送信します。
[ダイレクト（P2P）]	SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス対応機に直接送信します。
[同報時のプロファイル]	インターネットファクスの同報送信で、宛先ごとにプロファイルが異なる場合に選択されるプロファイルの値を設定します。
[TIFF-S]	A4 より大きいサイズの原稿を、A4 に縮小して送信する場合に選択します。
[TIFF-F]	送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、JIS B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。
[TIFF-J]	JBIG で原稿を送信する場合に選択します。
[送達確認方式]	インターネットファクス送信したメールが、受信側に届いたことを確認する方法を設定します。 送信結果をプリントするには、[メール送信動作制御] ＞ [送達確認メールの自動プリント] を [する] に設定します。
[配送確認（DSN）]	インターネットファクス送信したメールが、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかを確認できます。
[開封確認（MDN）]	インターネットファクス送信したメールが、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかを確認できます。
[受信メールシートのプリント]	インターネットファクス対応機から本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。
[受信文書の排出先]	インターネットファクス受信文書の排出トレイを設定します。
[アドレス帳によるファクス転送制限]	SMTP 形式でインターネットファクス受信したメールを、アドレス帳に登録されていないファクスに転送しないように制限します。
[ファクス転送時の発信元記録]	受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときに、発信元記録（通信開始時刻、発信元名、宛先名、G3-ID、枚数など）を付けることを設定します。
[ファクス転送時の上限データサイズ]	受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときの、最大データサイズを設定します。

[メール送信動作制御]

[スキャン送信設定] の [メール送信動作制御] と共通です。



参照

- 各項目については、「[メール送信動作制御]」(P.161) を参照してください。

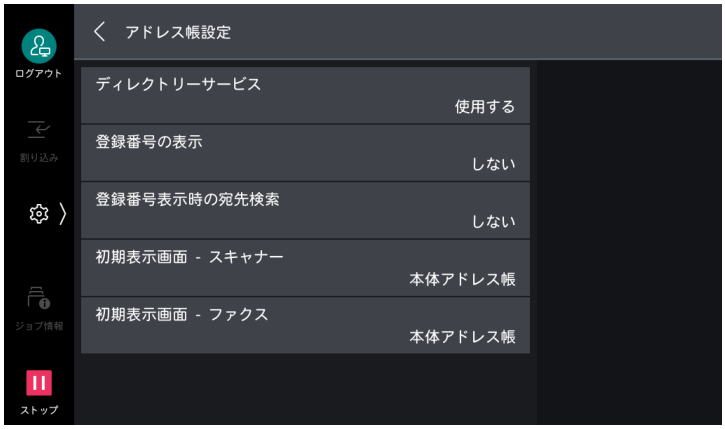
[ポーリング予約設定]

[ファクス設定] と共通です。

参照

- 各項目については、「[ファクス設定]」(P.165) を参照してください。

[アドレス帳設定]



項目	説明
[ディレクトリーサービス]	ディレクトリーサーバーに保存されているアドレス帳を利用できます。
[登録番号の表示]	アドレス帳に登録番号を表示するかを設定します。
[登録番号表示時の宛先検索]	[登録番号付きアドレス帳] で文字列検索を可能にするかを設定します。
[初期表示画面 - スキャナー]	メール送信とスキャン送信からアドレス帳を表示するときに、最初に表示するアドレス帳の種類を設定します。
[初期表示画面 - ファクス]	ファクスとインターネットファクスからアドレス帳を表示するときに、最初に表示するアドレス帳の種類を設定します。

[ボックス操作設定]

ボックスに保存された文書の処理方法を設定します。

項目	説明
[ボックス操作時のアクセス制限]	パスワードの入力を必須にできます。
[外部取り出し後の文書削除]	ボックス内に保存されている文書がクライアント側から取り出された場合に、文書を削除できます。
[ボックス文書の初期表示]	ボックス内の文書一覧画面を開いたときの表示方法を設定します。
[プリント文書保存時の向き指定]	非定形サイズの文書を保存するときの向きを設定します。[たて] を指定していても、用紙トレイにセットできない向きのプリント文書が保存されると強制的に [よこ] で保存されます。

項目	説明
[プリント時の削除確認画面表示]	ボックス内の文書をプリントしたあとに、文書を削除する確認画面を表示できます。
[非定形文書転送時の定形化]	ボックス内のファクス / インターネットファクス受信文書、親展ポーリング予約文書などを転送するときに、非定形サイズを定形サイズに変更できます。
[定形化時のサイズしきい値]	[非定形文書転送時の定形化] を有効にしているとき、非定形サイズを定形サイズに変更するための、しきい値を設定します。
[インターネットファクス受信文書転送 - 1]	インターネットファクス受信文書をインターネットファクスで転送できるようにするかどうかを設定します。
[インターネットファクス受信文書転送 - 2]	インターネットファクス受信文書をメールで転送できるようにするかどうかを設定します。
[取り出し時の画質 / ファイルサイズ]	ボックスから文書を高圧縮して取り出す場合の、ファイル画質とファイルサイズを設定します。
[ボックス文書の保存期間]	ボックス内の文書の保存期間を設定します。保存期間を過ぎると削除されます。すべてのボックスに共通の設定になります。

[ジョブ情報設定]

[プリンター設定] と共通です。

参照

- 各項目については、「[プリンター設定]」(P.152) を参照してください。

[ジョブフロー設定]

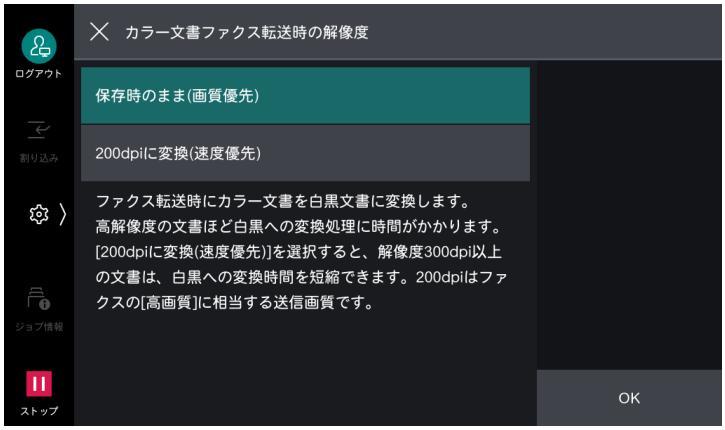
[表示するジョブフローの初期値]

ホーム画面の［ジョブフロー］をタップしたときに表示される、所有者、起点の初期値を設定します。

項目	説明
[所有者]	機械管理者と機械管理者以外のジョブフローを表示できます。 **補足** • 認証有りの場合、共有と個人のジョブフローを表示するかどうかを設定します。
[起点]	スキャンのジョブフローを表示できます。

[カラー文書ファクス転送時の解像度]

ジョブフローを使用して、カラー文書をファクス送信するときの解像度を設定します。

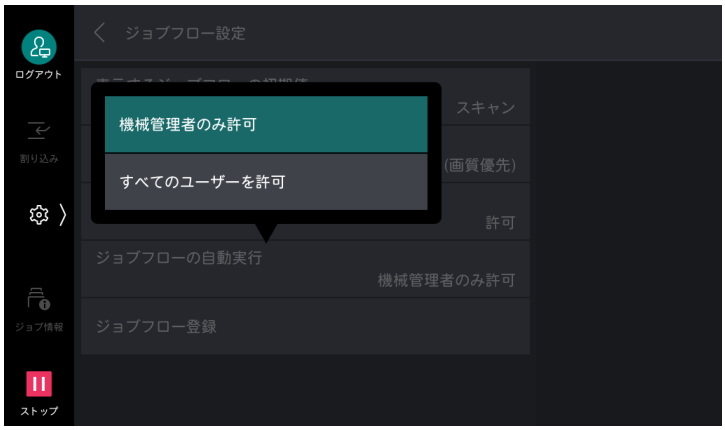


[ジョブフローの関連付けと実行]

ボックスの［ジョブフローの関連付け］を無効にするかを設定します。［禁止］に設定した場合は、ボックスからのジョブフローの手動実行もできなくなります。

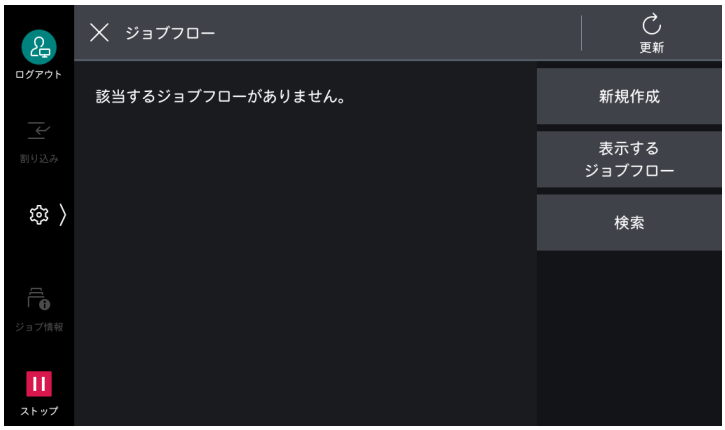
[ジョブフローの自動実行]

ジョブフローを実行できるユーザーを設定します。



[ジョブフロー登録]

ジョブフローを新規に登録したり、内容を変更したりできます。



参照

- 「ジョブフローの作成」(P.115) を参照してください。

[USB 設定]

［スキャン送信設定］と共通です。

参照

- 各項目については、「[スキャン送信設定]」(P.159) を参照してください。

[外部アクセス設定]

本機と連携した外部サービスをタッチパネルディスプレイに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選択して直接プリントしたりする機能です。

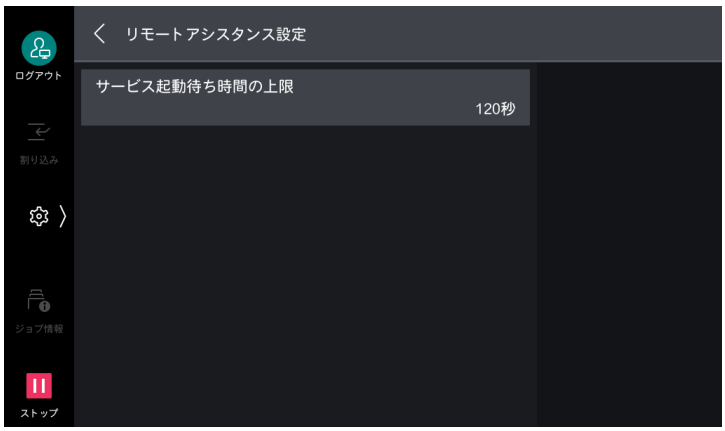
項目	説明
［接続先の登録］	外部アクセスの接続先を登録します。
［その他の設定］	
［認証情報送信時の確認画面］	本機でユーザー認証をしたときのユーザー情報（認証したユーザー ID、パスワード、メールアドレス、サービス制限など）を外部アクセスの接続先サーバーに送信するときに、確認画面を表示できます。

[Web ブラウザー設定]

項目	説明
[外部アクセスバージョンの選択]	外部アクセスに使用する Web ブラウザーのバージョンを設定します。
[終了時の永続 Cookie 削除]	外部アクセス終了時に永続（期限付き）Cookie を削除できます。
[終了時のキャッシュ削除]	外部アクセス終了時にキャッシュを削除できます。
[キャッシュの使用]	キャッシュを使用できます。
[Cookie の使用]	Cookie を使用できます。
[SSL 証明書検証失敗時の動作]	SSL サーバー証明書の検証に失敗した場合に、サーバーへのアクセスを中止するか、アクセス確認画面を表示するかを設定します。
[ファイルプリント機能の使用]	ファイルプリント機能を使用できます。ファイルプリント機能とは、外部 Web サーバーから取得したプリント可能なファイルを直接プリントできる機能です。
[機能コード]	使用する外部アクセス連携サービスに対して、必要に応じて設定します。

[リモートアシスタンス設定]

リモートアシスタンスのサービス起動待ち時間の上限を設定します。



[ワンタッチボタン設定] / [ワンタッチボタンとアドレス帳登録番号の設定] / [アドレス帳登録番号の設定]

アドレス帳に登録されている宛先をアドレス帳登録番号に割り当てます。

[ワンタッチボタンの表示] が有効な場合、1 ～ 72 の番号はワンタッチボタンに表示されます。1 ～ 36 は、ファクスワンタッチボタンからも操作できるボタンです。

各番号の ⋮ をタップして、宛先の設定や詳細の確認を行います。

補足

- [表示開始番号] をタップして、先頭に表示する番号を指定できます。
- [ワンタッチボタンのみプリント] / [プリント] をタップすると、ワンタッチボタンに割り当てられている宛先の一覧をプリントできます。
- [すべてプリント] をタップすると、すべての宛先の一覧をプリントできます。ただし、登録されている件数によっては、大量にプリントされることがあります。
- アドレス帳登録番号を設定するには、「[アドレス帳設定]」(P.174) で [登録番号の表示] を [する] に設定します。
- ワンタッチボタンを使用するには、「[画面 / ボタンの設定]」(P.135) で [ワンタッチボタンの表示] を有効に設定します。

11.5　[ネットワーク設定]

補足

- LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信、SIP、プライマリーサーバー、セカンダリーサーバーは、ほかのポートと同じポート番号を使用しないでください。
- HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WSD）は、LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信と同じポート番号を使用しないでください。
- 次のポート番号を設定した場合、ポートの設定状況によっては正常に動作しなくなることがあります。
  - 25
  - 139
  - 427
  - 445
  - 631
  - 15000

[ポート設定]

クライアントに接続されている本機のインターフェイスの設定をします。

[USB]

項目	説明
[USB - ポート]	USB を使用するときは［起動］に設定します。
[USB - プリントモード指定]	使用するプリント言語の種類を設定します。［自動］に設定すると、ホスト装置から受信したデータが、どの言語で記述されているかを判断し、データに合わせて適切にプリント処理します。
[USB - PJL スイッチ]	PJL（Printer Job Language）コマンドとは、実際のプリントジョブの先頭に付加されたデータです。通常は、［有効］のままで使用します。
[USB - 自動排出時間]	本機にデータが送られなくなってから、用紙を排出するまでの時間を設定します。
[USB - Adobe 通信プロトコル]	
[標準]	プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式のときに設定します。
[バイナリー]	プリンタードライバーの出力プロトコルが BCP 形式のときに設定します。
[TBCP]	プリンタードライバーの出力プロトコルが TBCP 形式のときに設定します。

項目	説明
[RAW]	プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式、またはバイナリ形式のときに設定します。 Adobe 通信プロトコルの制御を受けないで、データをそのまま出力します。
[USB - PS 印刷待ちタイムアウト]	データをプリントしている場合の接続を切断するまでの時間は、[無効] に設定したときは [USB - 自動排出時間] に従います。 また、[有効] に設定したときは PostScript のタイムアウトに従います。 **補足** • [USB - Adobe 通信プロトコル] を [RAW] に設定してください。

[LPD]

項目	説明
[LPD - ポート]	LPD を使用するときは [起動] に設定します。
[LPD - ポート番号]	LPD で使用するポート番号を設定します。
[LPD - セッション数]	本機に LPD で同時に接続できるクライアントの最大数を設定します。

[SMB クライアント]

項目	説明
[SMB クライアント - ポート]	SMB を使用するときは [起動] に設定します。[スキャン送信] で SMB 転送する場合に設定します。

[IPP]

項目	説明
[IPP - ポート]	IPP を使用するときは［起動］に設定します。 IPP（Internet Printing Protocol）を使用して、インターネット経由でプリントするときに設定します。
[IPP - 追加ポート番号]	標準のポート番号以外で IPP を受け付けるポート番号を設定します。

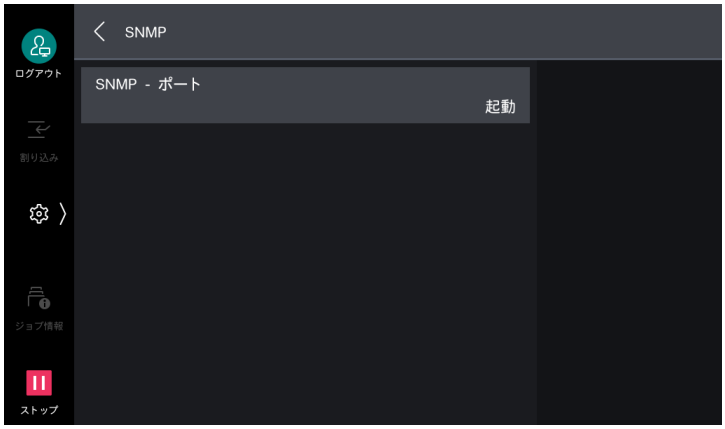
[Bonjour]

項目	説明
[Bonjour - ポート]	Bonjour を使用するときは［起動］に設定します。

[Port9100]

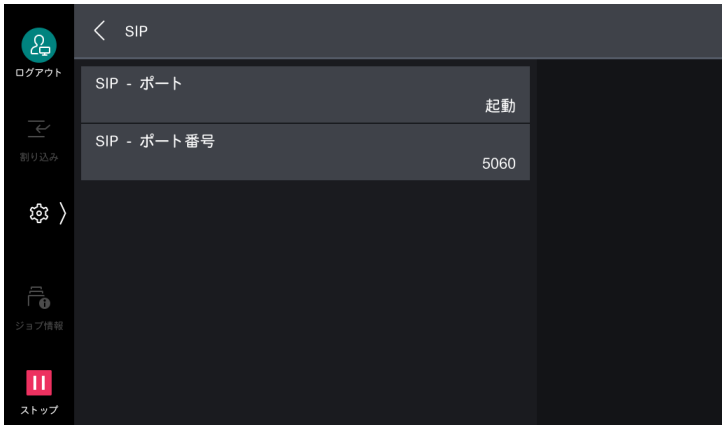
項目	説明
[Port9100 - ポート]	Port9100 を使用するときは［起動］に設定します。 Windows の標準 TCP/IP ポートモニターで Raw プロトコルを使用する場合に設定します。
[Port9100 - ポート番号]	Port9100 で使用するポート番号を設定します。

[SNMP]



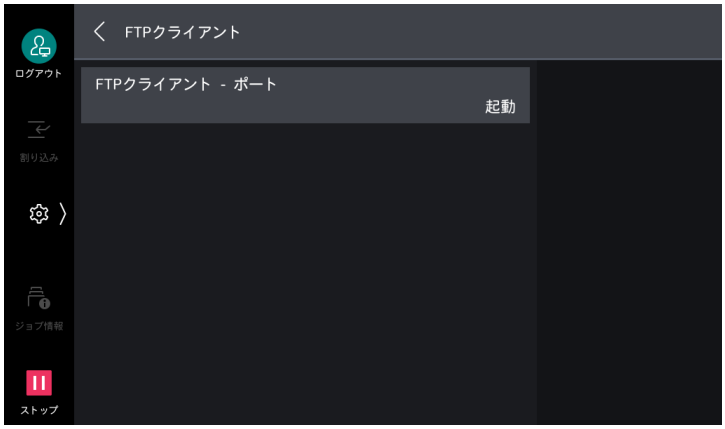
項目	説明
[SNMP - ポート]	SNMP を使用するときは［起動］に設定します。本機をネットワークを使用して、管理する弊社製アプリケーションを使用するときに設定します。

[SIP]



項目	説明
[SIP - ポート]	IP ファクス（SIP）を使用するときは［起動］に設定します。
[SIP - ポート番号]	IP ファクス（SIP）で使用するポート番号を設定します。

[FTP クライアント]



項目	説明
[FTP クライアント - ポート]	FTP を使用するときは［起動］に設定します。 **補足** • スキャンした画像を FTP 通信で送信するときの通信モードは、インターネットサービスで設定します。

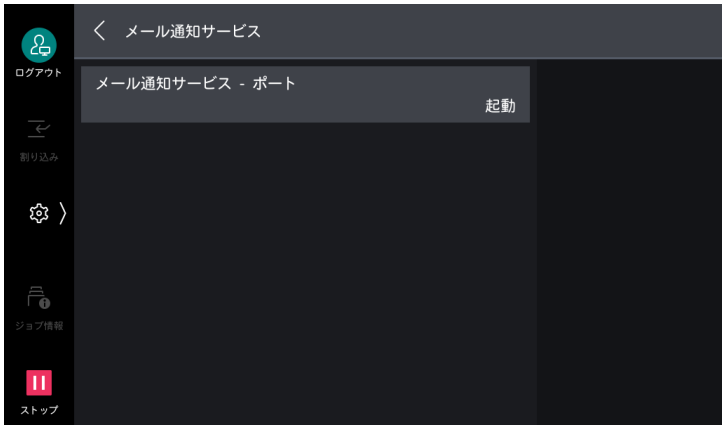
[メール受信]

項目	説明
[メール受信 - ポート]	メールやインターネットファクスを受信するときは［起動］に設定します。

[メール送信]

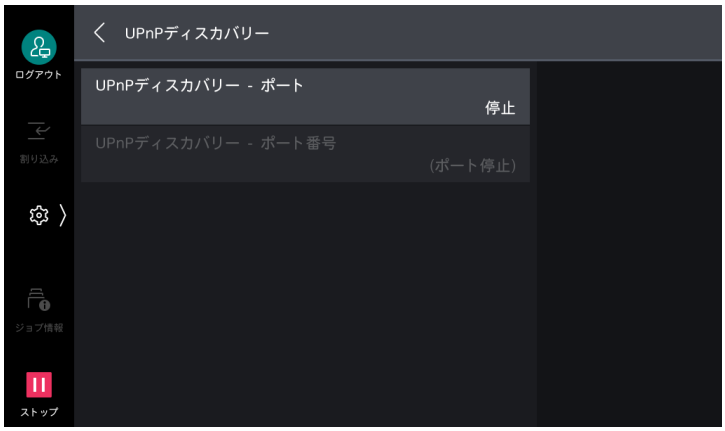
項目	説明
[メール送信 - ポート]	メールやインターネットファクスを送信するときは［起動］に設定します。

[メール通知サービス]



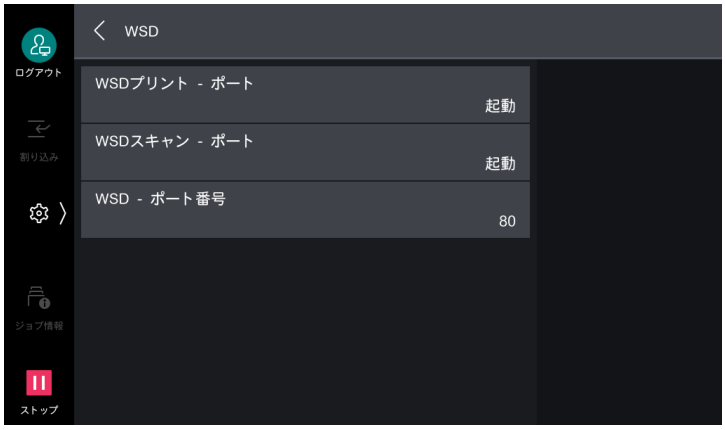
項目	説明
[メール通知サービス - ポート]	メール通知サービス、または［ジョブ終了時のメール通知設定］を使用するときは［起動］に設定します。 通知される本機の状態は、「消耗品の状態」、「交換部品の状態」、「用紙の状態」、「排出先の状態」、「ジャム状態」、「インターロック状態」、「フォルトの通知」です。 **補足** • メール通知サービスは、インターネットサービスで設定します。

[UPnP ディスカバリー]



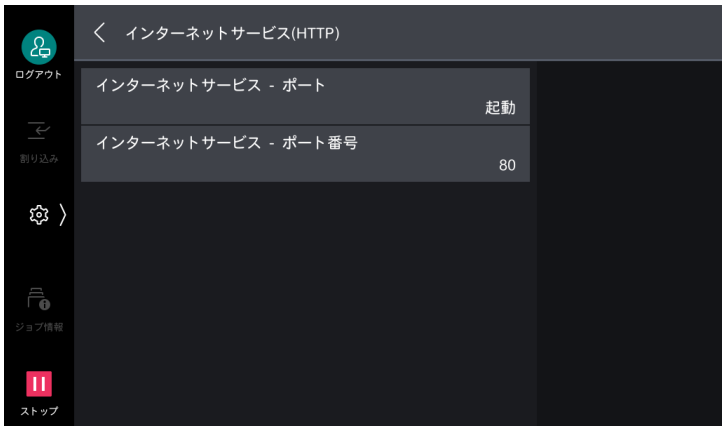
項目	説明
[UPnP ディスカバリー - ポート]	UPnP を使用するときは［起動］に設定します。
[UPnP ディスカバリー - ポート番号]	UPnP の通信で使用するポート番号を設定します。

[WSD]



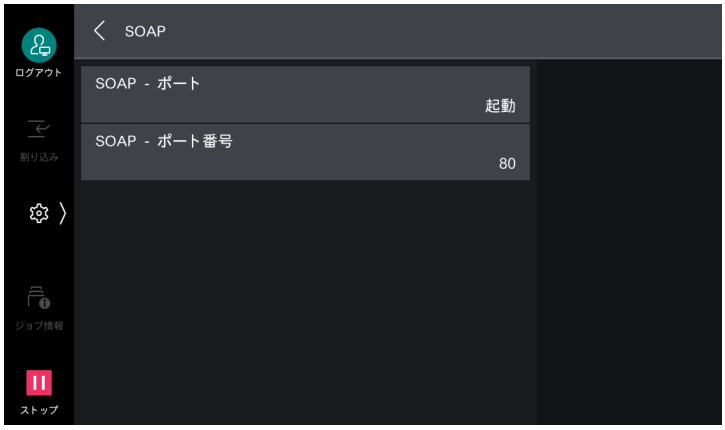
項目	説明
[WSD プリント - ポート]	WSD プリントを使用するときは［起動］に設定します。 Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。
[WSD スキャン - ポート]	WSD スキャンを使用するときは［起動］に設定します。 Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。
[WSD - ポート番号]	WSD の通信で使用するポート番号を設定します。

[インターネットサービス（HTTP)]



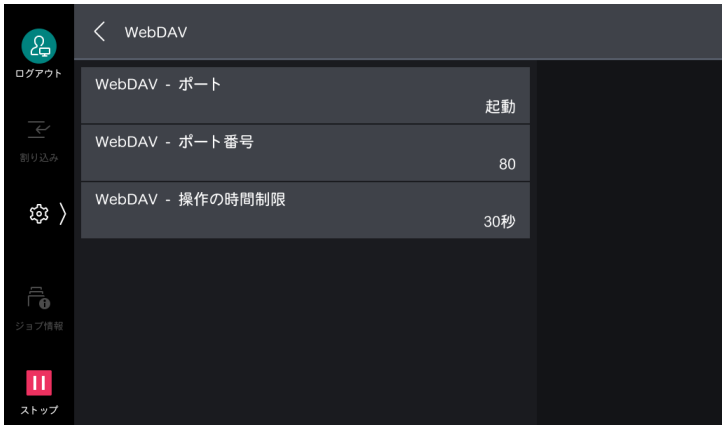
項目	説明
[インターネットサービス - ポート]	インターネットサービスを使用するときは［起動］に設定します。
[インターネットサービス - ポート番号]	インターネットサービスで使用するポート番号を設定します。

[SOAP]



項目	説明
[SOAP - ポート]	SOAP ポートを使用するときは［起動］に設定します。 Device Setup（デバイス設定ツール）などのアプリケーションを使用するときに設定します。
[SOAP - ポート番号]	SOAP で使用するポート番号を設定します。

[WebDAV]

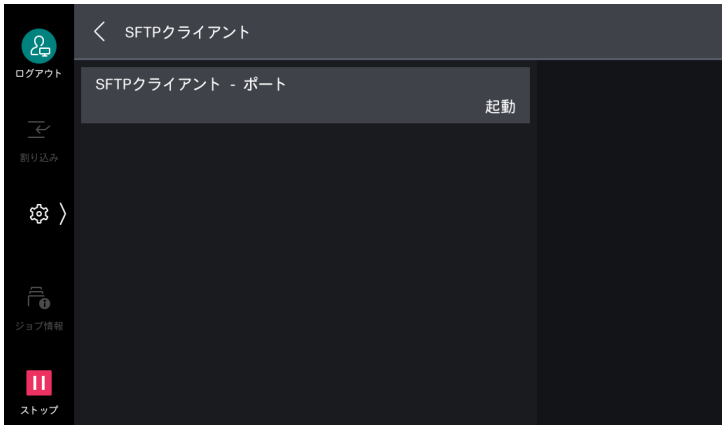


項目	説明
[WebDAV - ポート]	WebDAV を使用するときは［起動］に設定します。アプリケーションを使用して本機のボックスにアクセスするときに設定します。
[WebDAV - ポート番号]	WebDAV で使用するポート番号を設定します。
[WebDAV - 操作の時間制限]	タイムアウトの時間を設定します。

[ThinPrint]

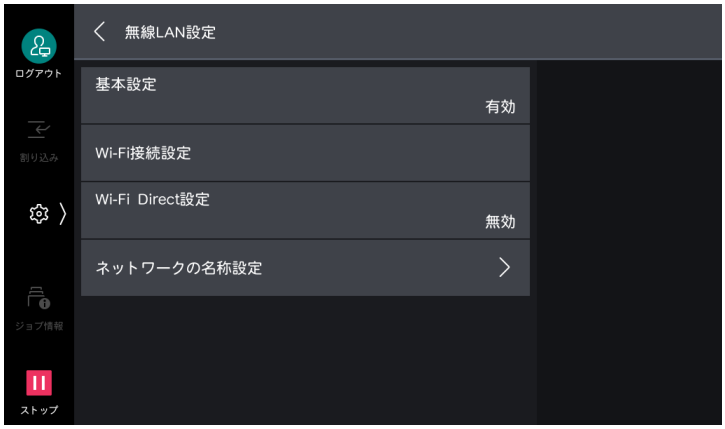
項目	説明
[ThinPrint - ポート]	ThinPrint を使用する場合は、[起動] に設定します。 本機は、ThinPrint 環境でのプリントに対応しています。サーバー（Windows Server）から圧縮して送られたデータを解凍してプリントします。
[ThinPrint - ポート番号]	ThinPrint で使用するポート番号を設定します。 **補足** • 通信プロトコルが IPv4 で動作しているときに利用できます。 • 同時に接続できる最大接続数は、3 です。

[SFTP クライアント]



項目	説明
[SFTP クライアント - ポート]	SFTP を使用するときは [起動] に設定します。

[無線 LAN 設定]



参照

- 「無線ネットワークの利用」(P.4) を参照してください。

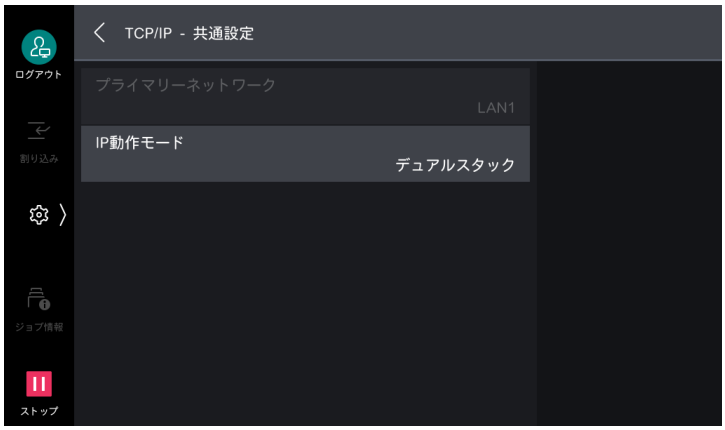
[プロトコル設定]

通信に必要な条件を設定します。

[Ethernet 設定]

項目	説明
[Ethernet - ネットワークの名称] / [Ethernet1 - ネットワークの名称] / [Ethernet2 - ネットワークの名称]	Ethernet インターフェイスを 2 回線利用する場合に、それぞれの名称を設定します。
[Ethernet - 速度設定] / [Ethernet1 - 速度設定] / [Ethernet2 - 速度設定]	Ethernet インターフェイスの通信速度を設定します。接続するネットワーク環境に合わせて、自動検知、または固定の速度を選択します。
[Energy Efficient Ethernet]	Ethernet インターフェイスの省電力機能を有効にできます。

[TCP/IP - 共通設定]



項目	説明
[プライマリーネットワーク]	複数のインターフェイスを使用している場合、プライマリーネットワークとして動作するネットワークの名称が表示されます。 **補足** • プライマリーネットワークは、インターネットサービスで設定します。
[IP 動作モード]	TCP/IP の動作モードを設定します。 **補足** • 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、[IPv4 モード]、または [デュアルスタック] に設定します。

[TCP/IP - ネットワーク設定]

補足

- 複数のインターフェイスを使用している場合、この項目は［TCP/IP 設定（Ethernet1）］/［TCP/IP 設定（Ethernet2）］/［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］となります。
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］に同じ IP アドレスを設定することはできません。
- セカンダリーネットワークで使用できるポートは、LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP）、Bonjour、IPP、ThinPrint、WSD、AirPrint、Mopria です。そのほかのポートを使用するアプリケーションで、セカンダリーネットワークのインターフェイスを設定しても動作しないことがあります。

項目	説明
［IPv4 - IP アドレス取得方法］	IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの取得方法を設定します。 **補足** • 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP/AutoIP から取得］、または［DHCP から取得］に設定します。
［IPv4 - IP アドレス］	IP アドレスを指定します。
［IPv4 - サブネットマスク］	サブネットマスクを指定します。
［IPv4 - ゲートウェイアドレス］	ゲートウェイアドレスを指定します。
［IPv4 - DNS 設定］	DNS サーバーを設定します。
［DHCP からのアドレス取得］	DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得できます。
［DNS サーバーアドレス 1］～［DNS サーバーアドレス 3］	DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。
［IPv4 - 受付 IP アドレス制限］	本機への接続を IPv4 アドレスで制限できます。 **補足** • ［IPv4 - 受付 IP アドレス制限］は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（ボックススキャン）、インターネットサービス、外部アクセスなどです。 • ［IPv4 - 受付 IP アドレス制限］を有効に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。FTP 通信モードの切り替えは、インターネットサービスで設定できます。 • 接続を受け付ける IPv4 アドレスは、インターネットサービスの［受付 IP アドレス制限］で登録します。
［IPv6 - アドレスの手動設定］	IPv6 アドレスを手動で設定できます。

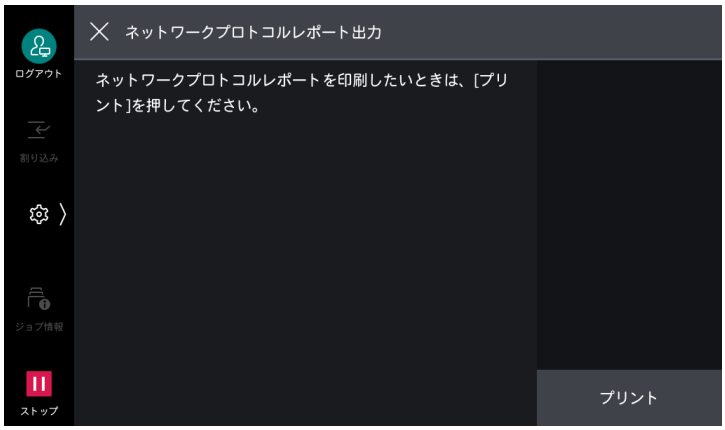
項目	説明
[IPv6 - 手動設定 IP アドレス]	IPv6 アドレスを設定します。
[IPv6 - 手動設定 IP アドレスプレフィクス]	プレフィクス長を設定します。
[IPv6 - 手動設定ゲートウェイアドレス]	ゲートウェイアドレスを設定します。
[IPv6 - DNS 設定]	DNS サーバーを設定します。
[DHCP からのアドレス取得]	DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得できます。
[DNS サーバーアドレス 1] ～ [DNS サーバーアドレス 3]	DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。
[IPv6 - 自動設定アドレス]	設定された IP アドレスを表示します。 **補足** • 手動で IP アドレスを設定している場合、ステートレス自動設定で割り当て可能なアドレスは 2 つまでです。
[IPv6 - 受付 IP アドレス制限]	本機への接続を IPv6 アドレスで制限できます。 **補足** • [IPv6 - 受付 IP アドレス制限] は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（ボックススキャン）、インターネットサービス、外部アクセスなどです。 • [IPv6 - 受付 IP アドレス制限] を有効に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず [Active モード] に切り替えてください。FTP の通信モードは、インターネットサービスで設定できます。 • 接続を受け付ける IPv6 アドレスは、インターネットサービスの [受付 IP アドレス制限] で登録します。

[Ping 接続確認]

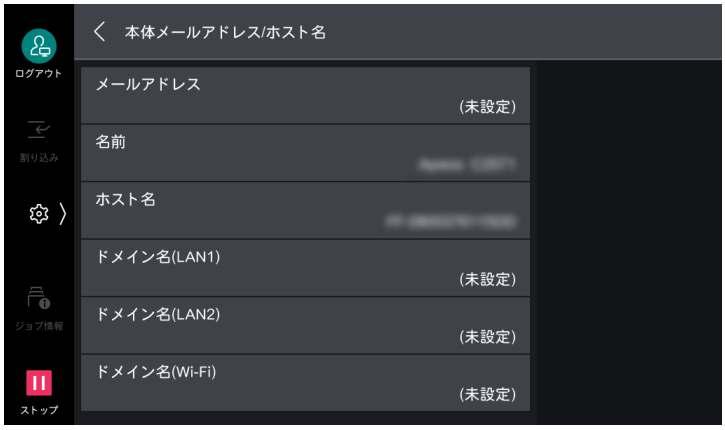
設定した条件で本機とクライアントコンピューターが正しく通信できるかを確認できます。

[ネットワークプロトコルレポート出力]

プライマリーインターフェイスのプロトコル設定をレポート出力します。



[本体メールアドレス / ホスト名]



[メールアドレス]

本機のメールアドレスを、128 文字以内で入力します。

SMTP 受信の場合

アカウント（@マークの左側）は、任意の名称を設定できます。アドレス部（@マークの右側）には、ホスト名とドメイン名を組み合わせたものを設定します。エイリアスは設定できません。

たとえば、

- アカウント名：mymail
- ホスト名：myhost
- ドメイン名：example.com

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

POP3 受信の場合

メールの受信に使用するメールアドレスを設定します。

[名前]

本機の名前を 32 文字以内で入力します。

[ホスト名]

ホスト名を半角 32 文字以内で入力します。

補足

- SMB で通信する場合、先頭から半角 15 文字をホスト名として使用します。本機を正しく識別するためには、ホスト名を半角 15 文字以内で設定してください。

[ドメイン名]

ドメイン名を 255 文字以内で入力します。

[プロキシサーバー一覧]

外部アクセスを使用するときに設定します。

補足

- プロキシ設定が必要なサービスを使用する場合だけ、設定を変更してください。

[プロキシサーバー設定]

ネットワーク環境に応じて、インターフェイスごとのプロキシサーバー設定ができます。

補足

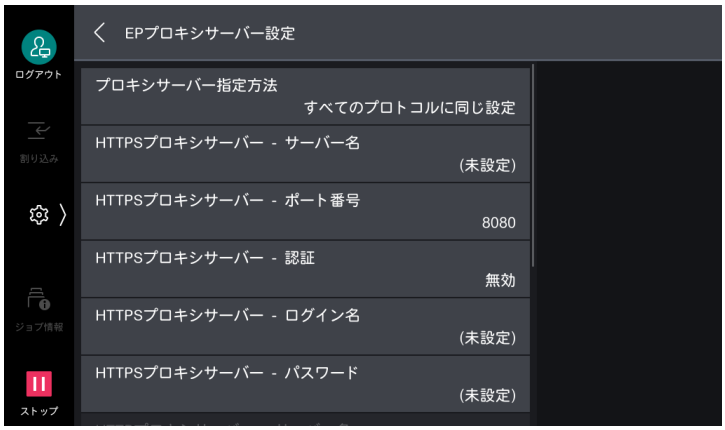
- 複数のインターフェイスを使用している場合、この項目は［プロキシサーバー設定 - Ethernet1］/［プロキシサーバー設定 - Ethernet2］/［プロキシサーバー設定 - Wi-Fi］となります。
- SFTP サーバーとの接続にも適用されます。

項目	説明
[プロキシサーバーの使用]	プロキシサーバーを使用できます。
[プロキシサーバー指定方法]	プロキシサーバーの指定方法を設定します。 • [すべてのプロトコルに同じ設定] HTTP プロキシサーバーの設定が、HTTPS プロキシサーバーの設定としても反映されます。 • [プロトコルごとに設定] HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。 • [PAC ファイルを指定] HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーの設定に PAC ファイルを使用して設定します。 • [自動検出] HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーの設定を検出します。

項目	説明
[PAC ファイルの URL]	[プロキシサーバー指定方法] を [PAC ファイルを指定] に設定した場合に、URL を指定します。
[プロキシを使用しないアドレス]	プロキシサーバーを使用しないアドレスを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、および FQDN 形式で指定できます。また、「*」(ワイルドカード) を使用した指定もできます。
[HTTP プロキシサーバー - サーバー名] / [HTTPS プロキシサーバー - サーバー名]	サーバー名、または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、および FQDN 形式で指定できます。
[HTTP プロキシサーバー - ポート番号] / [HTTPS プロキシサーバー - ポート番号]	HTTP プロキシサーバーと HTTPS プロキシサーバーのポート番号を指定します。
[HTTP プロキシサーバー - 認証] / [HTTPS プロキシサーバー - 認証]	HTTP プロキシサーバーと HTTPS プロキシサーバーに接続する場合に認証が必要なときは、[有効] に設定します。
[HTTP プロキシサーバー - ログイン名] / [HTTPS プロキシサーバー - ログイン名]	ログイン名を入力します。
[HTTP プロキシサーバー - パスワード] / [HTTPS プロキシサーバー - パスワード]	パスワードを入力します。

[EP プロキシサーバー設定]

インターネットを使用して EP-BB 複合機管理サービスの EP システムを利用する場合の、EP 通信用のプロキシサーバーについて設定します。



参照

- EP-BB 複合機管理サービスについては、弊社公式サイトを参照してください。

項目	説明
[プロキシサーバー指定方法]	プロキシサーバーの指定方法を設定します。 • [すべてのプロトコルに同じ設定] HTTPS プロキシサーバーの設定が、HTTP プロキシサーバーの設定としても反映されます。 • [プロトコルごとに設定] HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。

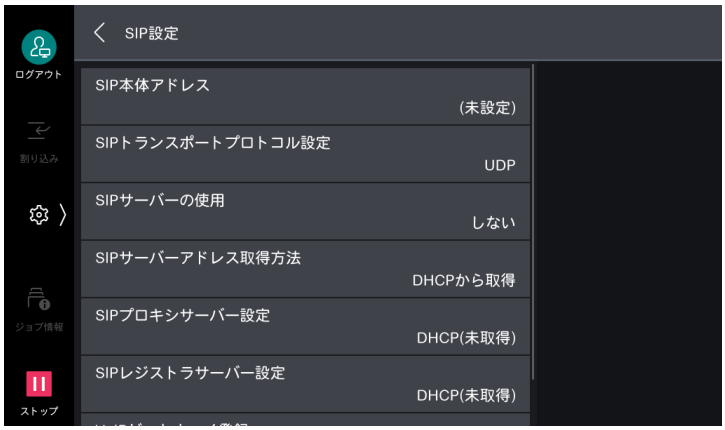
項目	説明
[HTTPS プロキシサーバー - サーバー名] / [HTTP プロキシサーバー - サーバー名]	サーバー名、または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、および FQDN 形式で指定できます。
[HTTPS プロキシサーバー - ポート番号] / [HTTP プロキシサーバー - ポート番号]	HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーのポート番号を指定します。
[HTTPS プロキシサーバー - 認証] / [HTTP プロキシサーバー - 認証]	HTTPS プロキシサーバーと HTTP プロキシサーバーに接続する場合に認証が必要なときは、[有効] に設定します。
[HTTPS プロキシサーバー - ログイン名] / [HTTP プロキシサーバー - ログイン名]	ログイン名を入力します。
[HTTPS プロキシサーバー - パスワード] / [HTTP プロキシサーバー - パスワード]	パスワードを入力します。

[次世代ネットワーク（NGN）設定]

項目	説明
[次世代ネットワーク（NGN）接続]	次世代ネットワーク（NGN）を利用できます。 **補足** • IP ファクス（SIP）が利用可能な状態で、TCP/IP の動作モードを [IPv4 モード]、または [デュアルスタック] 設定時に利用できます。
[発信者 ID 通知]	発信者 ID を通知できます。
[発信者 ID]	発信者 ID として登録されている電話番号を確認できます。
[IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅]	IP ファクスに使用する最大使用帯域幅を設定します。 **補足** • 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。
[ファクスによる自動再送信]	送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 ファクスが利用できる場合に、G3 で再送信できます。

[SIP 設定]

IP ファクス（SIP）を使用するときの設定をします。



項目	説明
[SIP 本体アドレス]	本機の SIP 本体アドレスを設定します。 **補足** • SIP サーバーを使用していない場合には、@以後に、本機の IP アドレスを指定してください。 • Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する [SIP 本体アドレス] では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。IPv6 アドレス文字列、FQDN 文字列、および SIP ドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
[SIP トランスポートプロトコル設定]	SIP トランスポートプロトコルを設定します。 **補足** • Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、[UDP] を設定してください。
[SIP サーバーの使用]	SIP サーバーを使用できます。
[SIP サーバーアドレス取得方法]	SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレス取得方法を指定します。 **補足** • [DHCP から取得]、[DHCPv6 から取得] の場合でも、SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーのポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、種別は手動で設定する必要があります。 • [DHCP から取得] に設定して IP アドレスを自動取得する場合は、本機の TCP/IP 設定で、[IPv4 - IP アドレス取得方法] を [DHCP から取得]、または [DHCP/AutoIP から取得] に設定してください。 • IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に、自動取得した同じ IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用する場合は、手動で設定してください。 • 複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番目のアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番目のアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番目以降のアドレスは使用されません。 • IP アドレスを自動取得した場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。 • 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、[DHCP から取得] に設定してください。

項目	説明
[SIP プロキシサーバー設定]	SIP プロキシサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。 **補足** • 利用できる SIP プロキシサーバーは 2 台までです。
[SIP レジストラサーバー設定]	SIP レジストラーサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。 **補足** • 利用できる SIP レジストラーサーバーは 2 台までです。
[VoIP ゲートウェイ登録]	VoIP ゲートウェイ 1 ～ 50 を設定します。 相手先の電話番号によって、別々の VoIP ゲートウェイが設定できます。 **補足** • 固定の VoIP ゲートウェイを使用する場合には、VoIP ゲートウェイ 1 に、識別番号を登録しないで、アドレスだけを設定してください。 • IPv6 ネットワークでは、使用できません。
[VoIP ゲートウェイ 1] ～ [VoIP ゲートウェイ 50]	
[識別番号]	相手先の電話番号を特定する数字を設定します。 たとえば「03」と設定した場合、0312345678、0312345679 など「03」で始まる電話番号には、この VoIP ゲートウェイが使用されます。 **補足** • 特定の電話番号を指定する場合には、「0312345678」などの電話番号全体を設定してください。
[アドレス]	VoIP ゲートウェイの IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、および FQDN 形式で指定します。

[T.38 設定]

IP ファクス（SIP）を使用するときの、T.38 について設定します。通常、変更する必要はありません。

[メール送受信設定]

[POP3 サーバー設定]

補足

- インターネットサービスを使用して、OAuth2.0 認証を使用する Exchange Online/Outlook.com の POP3 サーバーの設定ができます。
- POP3 サーバーは 1 つしか設定できません。あとから設定した内容が有効になります。
- OAuth2.0 認証を使用する Exchange Online/Outlook.com の POP3 サーバーを設定した場合、本項目の設定内容は使用されません。

項目	説明
[POP3 サーバー - サーバー名 / アドレス]	POP3 サーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
[POP3 サーバー - ポート番号]	POP3 サーバーのポート番号を設定します。
[POP3 サーバー - 受信間隔]	POP3 サーバーへのメールの確認間隔を設定します。
[POP3 サーバー - ログイン名]	POP3 サーバーにログインするための名前を入力します。
[POP3 サーバー - パスワード]	POP 受信用のパスワードを設定します。
[POP 受信パスワードの暗号化]	パスワードを暗号化できます。

[SMTP サーバー設定]

[接続確認] をタップし、本機から指定したメールアドレスにテストメールを送信することで、本機と SMTP サーバーとの接続状況を確認できます。また、[接続確認] > [SMTP 通信レポート出力] を選択すると、本機が送信 / 受信した SMTP 通信のプロトコルの内容を表すレポートがプリントされます。

補足

- インターネットサービスを使用して、OAuth2.0 認証を使用する Exchange Online/Outlook.com の SMTP サーバーの設定ができます。
- SMTP サーバーは 1 つしか設定できません。あとから設定した内容が有効になります。
- OAuth2.0 認証を使用する Exchange Online/Outlook.com の SMTP サーバーを設定した場合、本項目の設定内容は使用されません。

項目	説明
[SMTP サーバー - サーバー名 / アドレス]	SMTP サーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
[SMTP サーバー - ポート番号]	SMTP サーバーのポート番号を設定します。
[送信時の認証方式]	SMTP 送信時の認証方法を設定します。 **補足** • 認証方式は、AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応しています。
[送信時の認証ユーザー]	送信時の認証ユーザーを設定します。 [外部認証のユーザー] に設定した場合、ジョブの実行前に本機で外部認証していれば、外部認証のユーザー名 / パスワードで SMTP サーバーに認証します。また、認証に失敗した場合の動作を選択できます。外部認証を利用しない場合は、本機に設定したユーザー名 / パスワードが使用されます。
[SMTP AUTH - ログイン名]	SMTP サーバーのログイン名を設定します。
[SMTP AUTH - パスワード]	SMTP サーバーの認証用パスワードを設定します。

[外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定]

[認証システムの設定]

項目	説明
[認証システム]	認証するためのシステムを選択します。 **補足** • 弊社商品（別売）を外部認証先として使用する場合は、[Authentication Agent] を選択してください。 • Microsoft Entra ID は、インターネットサービスで設定します。
[認証応答待ち時間の上限]	認証の応答の待ち時間の上限を設定します。
[ユーザー情報検索時間の上限]	ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を設定します。

[Kerberos サーバー設定]

項目	説明
[Kerberos サーバー 1（標準）] ～ [Kerberos サーバー 5]	Kerberos サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。 Kerberos サーバー 1 に設定した内容が、認証時の初期値として使用されます。
[プライマリーサーバー - 名前 / アドレス]	プライマリーサーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
[プライマリーサーバー - ポート番号]	プライマリーサーバーのポート番号を入力します。

項目		説明
	[セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス]	セカンダリーサーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
	[セカンダリーサーバー - ポート番号]	セカンダリーサーバーのポート番号を入力します。
	[認証先（レルム名)]	サーバーとして、Windows Server のアクティブディレクトリーを使用する場合は、アクティブディレクトリーのドメイン名を認証先に設定します。 **補足** • 認証先名は、必ず大文字で設定してください。小文字で設定すると認証エラーになります。
[サーバー証明書の検証]		サーバー証明書を検証できます。

[LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定]

LDAP 認証と LDAP によるアドレス帳検索を利用する場合、ディレクトリーサーバーや認証方式、検索のための属性や範囲などについて設定します。

[接続確認] をタップすることで、サーバーとの接続を確認できます。

項目		説明
[プライマリーサーバー - 名前 / アドレス]		プライマリーサーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
[プライマリーサーバー - ポート番号]		プライマリーサーバーのポート番号を入力します。
[セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス]		セカンダリーサーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。 プリマリーサーバーがメンテナンス中などで通信不能の場合に、代替サーバーに接続します。
[セカンダリーサーバー - ポート番号]		セカンダリーサーバーのポート番号を入力します。 プリマリーサーバーがメンテナンス中などで通信不能の場合に、代替サーバーに接続します。
[認証方式]		
	[直接認証]	入力したユーザー ID とパスワードで、LDAP サーバーに認証します。
	[ユーザー属性認証]	特定の属性情報を基に、LDAP サーバーに認証します。[入力ユーザー名の属性] に属性名を設定します。

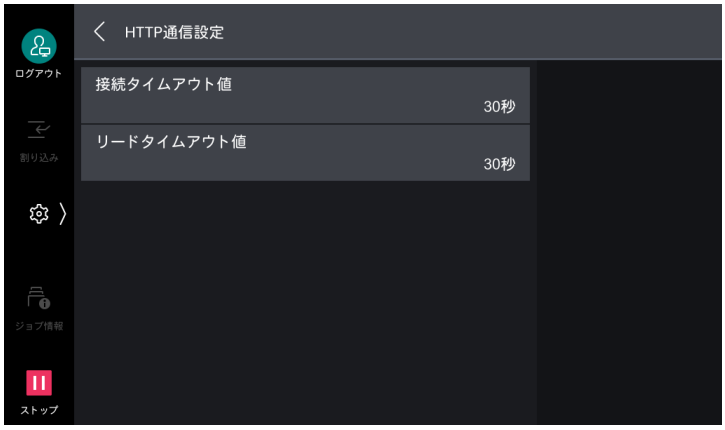
項目	説明
［入力ユーザー名の属性］	LDAP 認証の認証方式が［ユーザー属性認証］の場合に、属性名を設定します。 特定の属性情報を基に、LDAP サーバーに認証します。［入力ユーザー名の属性］に属性名を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。 補足 • ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
［認証用ユーザー名の属性］	ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力します。 補足 • ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。 • 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。 • 認証方式が［直接認証］の場合、操作パネルから認証時に入力するユーザー ID の属性と同じものを設定してください。
［ユーザー名追加文字列の使用］	タッチパネルディスプレイから認証情報を入力するときに、［ユーザー名の追加文字列］で入力した情報を自動で付加できます。
［ユーザー名の追加文字列］	［ユーザー名追加文字列の使用］で［使用する］を設定した場合にその固定文字列を入力します。 たとえば、メールアドレス（user@myhost.example.com）を使用して認証する場合、「@myhost.example.com」を設定にしておくと、「user」だけの入力でログインできます。
［IC カード認証に使用する属性］	IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、カード ID の検索属性を設定します。
［ネットワーク用ユーザー ID 属性］	IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、IC カードのカード ID で検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、外部サービスに通知する認証情報として使用されます。
［検索用の認証ユーザー］	検索のときに使用するユーザーを設定します。
［検索用ログイン名］	アドレス帳検索と［ユーザー属性認証］方式の LDAP 認証で、ディレクトリーサーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービス認証が必要なときだけの設定です。 補足 • 基本的には DN 形式で入力してください。ただし、Active Directory の場合、表示名などの属性値を指定することもできます。詳しくは、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。
［検索用パスワード］	［検索用ログイン名］で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。
［検索起点エントリー（DN）］	検索の起点となる文字列を入力します。 補足 • ここで指定したエントリーがユーザー検索の基準になります。ログインするユーザーが含まれる階層のエントリーを指定してください。ただし、エントリー以下の階層に含まれるユーザーやグループの数が多すぎると、本機へのログインに時間がかかることがあります。
［起点からの検索範囲］	起点からの検索範囲を設定します。
［検索対象のオブジェクトクラス］	検索のためのオブジェクトクラスを入力します。
［リフェラルの使用］	接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続できます。
［リフェラルのホップ数上限］	リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを設定します。

項目	説明
[サーバーのソフトウェア]	ディレクトリーサーバーで使用されるソフトウェアを設定します。
[名前の検索条件 - 宛先名]	名前を検索キーとして検索する場合に、宛先名の属性型を検索条件として使用できます。
[名前の検索条件 - 姓]	名前を検索キーとして検索する場合に、姓の属性型を検索条件として使用できます。
[名前の検索条件 - 名]	名前を検索キーとして検索する場合に、名の属性型を検索条件として使用できます。
[宛先名の属性型]	宛先名の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、宛先名として使用するフィールドの属性名を入力できます。Windows の場合は、宛先名として使用する属性名に「cn」を入力します。
[姓の属性型]	送信先の姓の属性型を設定します。
[名の属性型]	送信先の名の属性型を設定します。
[メールアドレスの属性型]	メールアドレスの属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、メール情報として使用するフィールドの属性名を設定します。Windows の場合は、メール情報として使用する属性名に「mail」を入力します。
[ファクス番号の属性型]	ファクス番号の属性型を設定します。
[IP ファクス（SIP）番号の属性型]	使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の IP ファクス（SIP）番号を、使用するフィールドの属性名として設定します。
[インターネットファクスアドレスの属性型]	インターネットファクスアドレスの属性型を設定します。
[補助項目 1 の属性型] ～ [補助項目 3 の属性型]	補助項目 1 ～ 3 の LDAP 属性型を設定します。[宛先名の属性型]、または [メールアドレスの属性型] 以外に、検索の対象の LDAP サーバーに登録されたユーザー属性を任意で指定できます。
[補助項目 1 の属性名] ～ [補助項目 3 の属性名]	補助項目 1 ～ 3 に割り当てる属性名を設定します。
[証明書の属性型]	証明書の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、証明書として使用するフィールドの属性名を入力します。 Windows の場合は、証明書の属性名に「userCertificate;binary」を入力します。この情報は、ディレクトリサービスを使用して宛先を選択し、S/MIME で暗号化してメール送信する場合に、S/MIME の証明書として使用します。 **補足** • 暗号化通信する場合は、本機に使用する証明書のパスに登録されている信頼されたルート証明機関、中間証明機関すべての登録が必要です。
[検索結果の最大表示数]	検索条件に合ったアドレスを表示する件数を設定します。検索結果が上限数を超えた場合は、それ以上の検索処理は中断します。
[検索時間の上限]	検索のタイムアウト時間を設定します。

[デバイスのクラウド連携設定]

[HTTP 通信設定]

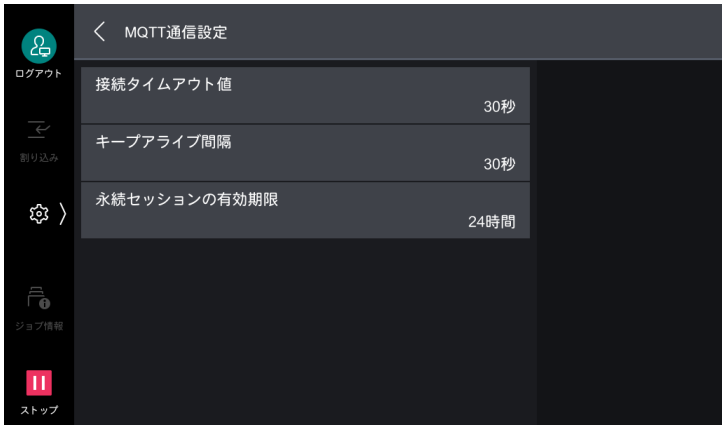
クラウドサービスとの通信に使用する HTTP プロトコルを設定します。



項目	説明
[接続タイムアウト値]	クラウドサービス接続時のサーバーからの応答を待つ時間を設定します。
[リードタイムアウト値]	クラウドサービスからのデータ読み出し時の応答を待つ時間を設定します。

[MQTT 通信設定]

クラウドサービスとの通信に使用する MQTT プロトコルを設定します。



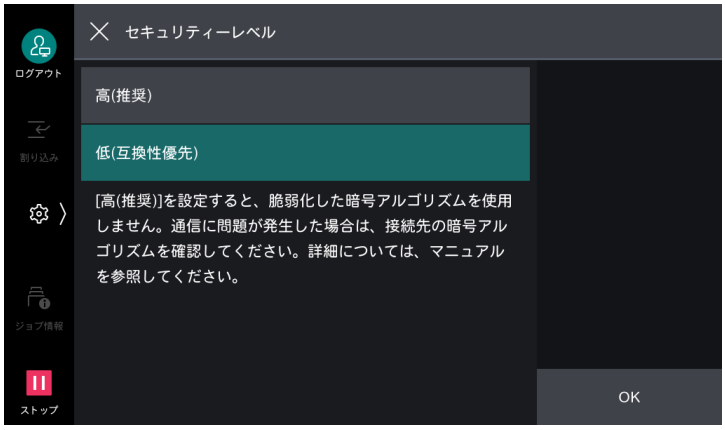
項目	説明
[接続タイムアウト値]	クラウドサービス接続時のサーバーからの応答を待つ時間を設定します。
[キープアライブ間隔]	クラウドサービスとの接続確認の通信間隔を設定します。
[永続セッションの有効期限]	クラウドサービスとの接続が切断された場合でも、未着信メッセージを保持する期限を設定します。

[セキュリティー設定]

[セキュリティーレベル]

ネットワーク通信のセキュリティーレベルを設定します。

[高（推奨)］に設定すると、署名機能に SHA1 アルゴリズムが使用されなくなります。

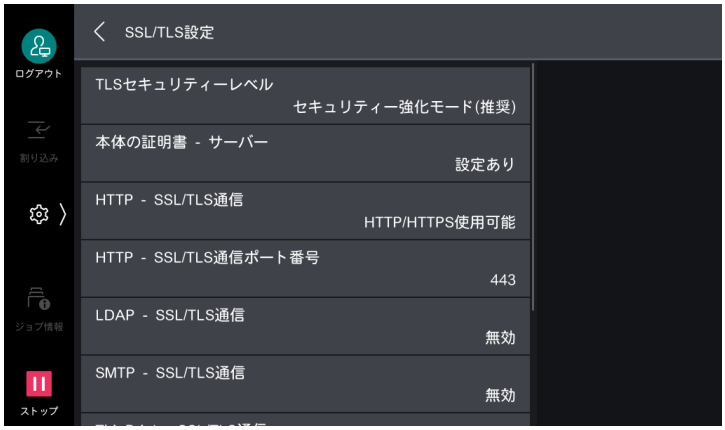


補足

- [高（推奨)］に設定した場合、接続先によっては通信できなくなることがあります。その場合は、接続先で TLS や IPsec の署名に SHA1 アルゴリズムが設定されていないかを確認します。
- 無線 LAN の暗号化を［WEP］/［WPA/WPA2 Personal］/［WPA/WPA2 Enterprise］に設定して利用中の場合、[高（推奨)］に変更したときは暗号化設定のやり直しが必要です。詳しくは、「手動設定」(P.7) を参照してください。

[SSL/TLS 設定]

サーバーやクライアントコンピューターと本機との通信を暗号化するときに設定します。



項目	説明
[TLS セキュリティーレベル]	暗号化通信のモードを設定します。
[本体の証明書 - サーバー]	SSL/TLS 通信するための、サーバー証明書を設定します。
[HTTP - SSL/TLS 通信]	SSL/TLS 通信だけを使用可能にできます。 **補足** • [HTTPS のみ使用可能］に設定すると、[UPnP ディスカバリー]、[WSD] の各ポートは停止されます。
[HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号]	SSL/TLS 通信のポート番号を指定します。

項目	説明
[LDAP - SSL/TLS 通信]	認証や検索などのアクセスに SSL/TLS 通信できます。 SSL 通信を有効にした場合には、[LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定] の [プライマリーサーバー - ポート番号] と [セカンダリーサーバー - ポート番号] を変更する必要があります。LDAP のディレクトリーサーバーの SSL 通信のポート番号は、通常、636 になります。
[SMTP - SSL/TLS 通信]	SSL/TLS 通信について設定します。 補足 • インターネットファクスダイレクト（P2P）には、対応していません。
[無効]	SSL/TLS 通信しません。
[STARTTLS 接続（利用可能時）]	証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、SSL/TLS 通信しません。
[STARTTLS 接続]	証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、通信できません。
[SSL/TLS 接続]	SSL/TLS 通信します。
[ThinPrint - SSL/TLS 通信]	SSL/TLS 通信を有効にできます。
[本体の証明書 - クライアント]	SSL/TLS 通信するための、クライアント証明書を設定します。
[相手サーバーの証明書の検証]	本機を SSL クライアントとして動作させるときに、相手サーバーの証明書を検証できます。

[S/MIME 設定]

メールやインターネットファクスを暗号化、または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

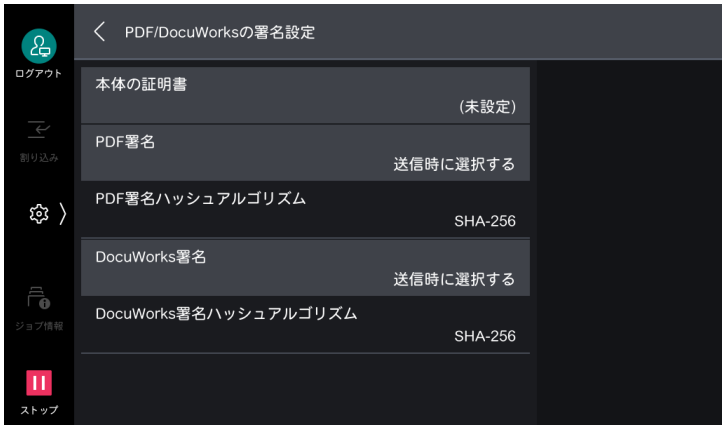
参照

• 暗号化と署名機能については、『リファレンスガイド 付録編』の「暗号化と署名機能」を参照してください。

項目	説明
[本体の証明書 - S/MIME]	S/MIME 通信で使用する証明書を設定します。
[S/MIME 通信]	S/MIME 通信を有効にできます。
[信頼できないメール]	[受信しない] に設定すると、次のメールは受信できません。 • [S/MIME 通信] を有効にした場合の S/MIME 以外のメール • 署名 / 検証に失敗したメール • 期限切れの証明書が添付されたメール

項目	説明
[信頼できないインターネットファクス]	[受信しない] に設定すると、次のインターネットファクスは受信できません。 • [S/MIME 設定] を有効にした場合の S/MIME 以外のインターネットファクス • 署名 / 検証に失敗したインターネットファクス • 期限切れの証明書が添付されたインターネットファクス
[メッセージダイジェスト方式]	メールをメッセージダイジェストと呼ばれるハッシュ値に変換するときに使用する暗号方式を設定します。 **補足** • 証明書の公開鍵が RSA 512 ビットの場合、[SHA512] に設定すると不完全なメールが送信されることがあります。
[本文の暗号化方式]	本文の暗号化方式を設定します。
[暗号化メール分割送信]	暗号化メールを送信先ごとに分割送信できます。
[暗号化インターネットファクス分割送信]	暗号化したインターネットファクスを送信先ごとに分割送信できます。
[署名 - メール送信]	メールを送信するときに、常にデジタル署名をするか、送信するときに選択するかを設定します。
[署名用証明書（メール)]	メール送信の [デジタル署名] で使用する証明書を指定します。
[署名 - インターネットファクス送信]	本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするか、送信するときに選択するかを設定します。
[証明書の自動取得]	アドレス帳に登録されているメールアドレスから S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したときに、証明書を保存できます。

[PDF/DocuWorks の署名設定]



参照

• 署名機能については、『リファレンスガイド 付録編』の「暗号化と署名機能」を参照してください。

項目	説明
[本体の証明書]	署名に使用する証明書を設定します。
[PDF 署名]	PDF 文書に署名できます。
[PDF 署名ハッシュアルゴリズム]	PDF 署名をするときのハッシュアルゴリズムを設定します。
[DocuWorks 署名]	DocuWorks 文書に署名できます。
[DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム]	DocuWorks 署名をするときのハッシュアルゴリズムを設定します。

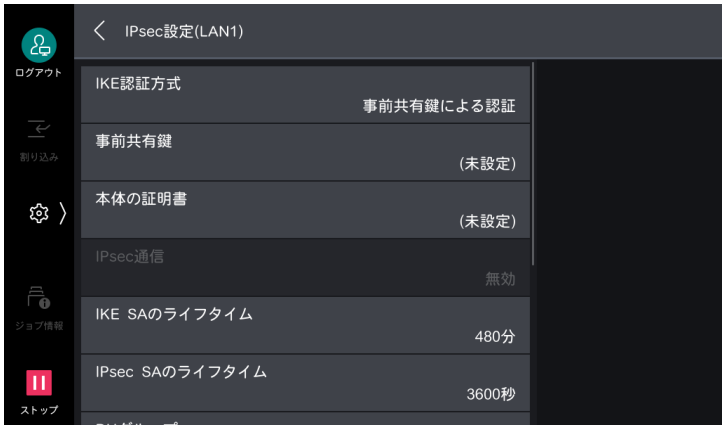
項目	説明
[署名用証明書]	スキャナーの PDF/DocuWorks 署名で使用する証明書を設定します。

[IPsec 設定]

ネットワークをパケット単位で暗号化して安全に通信するように設定します。

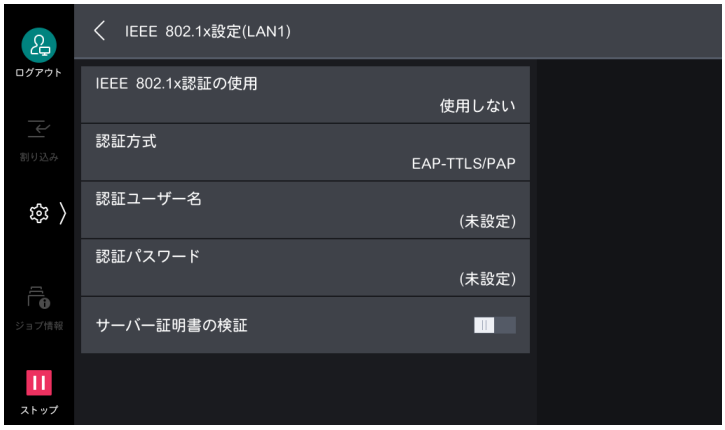
補足

- セカンダリーイーサネットキット、または無線キットを取り付けている場合、この項目はプライマリーネットワークにだけ指定できます。
- [IKE 認証方式]、[事前共有鍵]、[DH グループ]、[PFS 設定] についてはネットワーク管理者に確認してください。



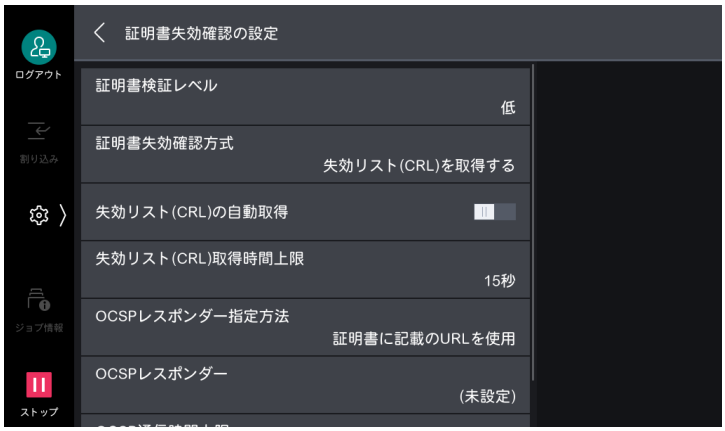
項目	説明
[IPsec 設定] / [IPsec 設定 (Ethernet1)] / [IPsec 設定 (Ethernet2)] / [IPsec 設定 (Wi-Fi)]	
[IKE 認証方式]	IKE 認証方式を設定します。
[事前共有鍵]	事前共有鍵を入力します。 [IKE 認証方式] が [事前共有鍵による認証] の場合に設定します。
[本体の証明書]	IPsec 通信で使用する証明書を設定します。 [IKE 認証方式] が [デジタル署名による認証] の場合に設定します。 ここでは、インターネットサービスで作成した自己証明書は使用できません。
[IPsec 通信]	IPsec 通信を有効にできます。
[IKE SA のライフタイム]	IKE SA の有効期間を設定します。
[IPsec SA のライフタイム]	IPsec SA の有効期間を設定します。
[DH グループ]	DH グループを設定します。
[PFS 設定]	PFS を有効にできます。
[相手アドレス - IPv4]	通信を許可する相手先の IPv4 アドレス、または範囲を設定します。
[相手アドレス - IPv6]	通信を許可する相手先の IPv6 アドレス、または範囲を設定します。
[非 IPsec 通信]	相手アドレスで設定した以外のアドレスの、IPsec に対応していない機器に対して、通信ができます。

[IEEE 802.1x 設定]



項目	説明
[IEEE 802.1x 設定] / [IEEE 802.1x 設定（Ethernet1)]、[IEEE 802.1x 設定（Ethernet2)]	
[IEEE 802.1x 認証の使用]	IEEE 802.1x 認証を使用できます。
[認証方式]	IEEE 802.1x の認証方式を設定します。
[認証ユーザー名]	認証ユーザー名を 128 文字以内で入力します。 **補足** • [認証方式] を [EAP-TLS] に設定している場合は、クライアント証明書のユーザー名を使用します。
[認証パスワード]	認証パスワードを 1 ～ 128 バイト以内で入力します。 **補足** • [認証方式] を [EAP-TLS] に設定している場合は、認証にパスワードは使用しません。
[サーバー証明書の検証]	[認証方式] が [PEAP/MS-CHAPv2] の場合に、サーバー証明書を検証できます。

[証明書失効確認の設定]



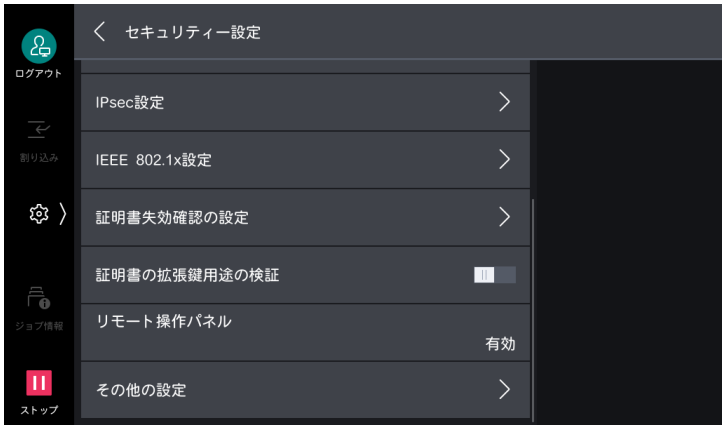
項目	説明
[証明書検証レベル]	証明書の検証レベルを設定します。

項目	説明
[証明書失効確認方式]	証明書失効確認の方式を設定します。 本機が検証局から失効リスト（CRL）を取得して照合する場合は、[失効リスト（CRL）を取得する] に設定します。証明書の有効性を確認できる OCSP（Online Certificate Status Protocol）を使用して認証局や検証局に問い合わせて確認する場合は、[OCSP で問い合わせる] に設定します。
[失効リスト（CRL）の自動取得]	失効リスト（CRL）を自動取得できます。
[失効リスト（CRL）取得時間上限]	失効リスト（CRL）を取得する時間の上限を設定します。
[OCSP レスポンダー指定方法]	OCSP レスポンダーの指定方法を指定します。 [証明書に記載の URL を使用]、[本体で設定した URL を使用] から設定できます。
[OCSP レスポンダー]	[OCSP レスポンダー指定方法] で [本体で設定した URL を使用] を選択した場合は、問い合わせ先の URL を設定します。
[OCSP 通信時間上限]	OCSP レスポンダーとの通信時間の上限を設定します。

[証明書の拡張鍵用途の検証]

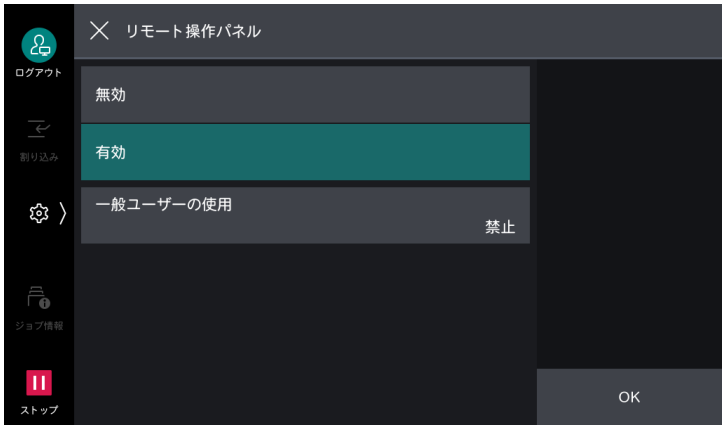
証明書を検証する際に、以下も同時に検証します。

- サーバー証明書を検証する場合は、証明書の拡張鍵用途に「サーバー認証」が含まれていること
- OCSP を使用して証明書の失効確認をする場合は、OCSP レスポンダー証明書の拡張鍵用途に「OCSP 署名」が含まれていること



[リモート操作パネル]

本機の操作パネルをネットワーク接続されたクライアントコンピューターから操作できるようにするかどうかを設定します。クライアントコンピューターから本機を操作している場合、本機の操作パネルにはリモート操作中であることを示すメッセージが表示されます。このとき、本機の操作パネルは使用できません。



補足

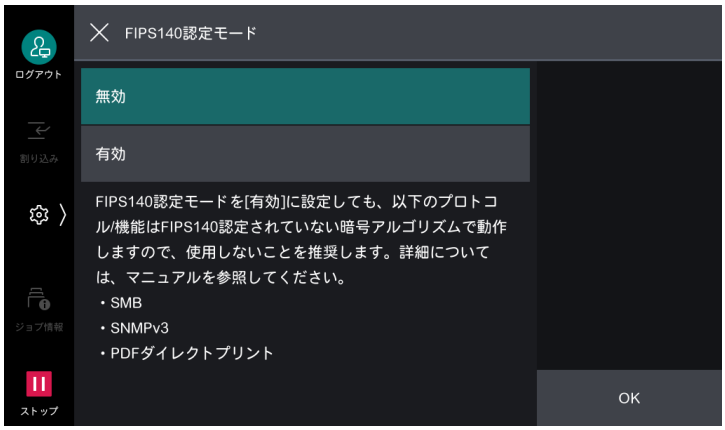
- 本機の操作パネルの操作中は、リモート操作パネル機能を使用できません。
- リモート操作中、本機の操作パネルにはクライアントコンピューターで操作している画面が表示されるため、第三者に読み取られることがあります。

[その他の設定]

[FIPS140 認定モード]

FIPS140（Federal Information Processing Standard 140）とは、暗号モジュールに関するセキュリティ要件の仕様を規定する米国連邦標準規格です。

FIPS140 認定モードを［有効］に設定することによって、セキュリティをより強化できます。



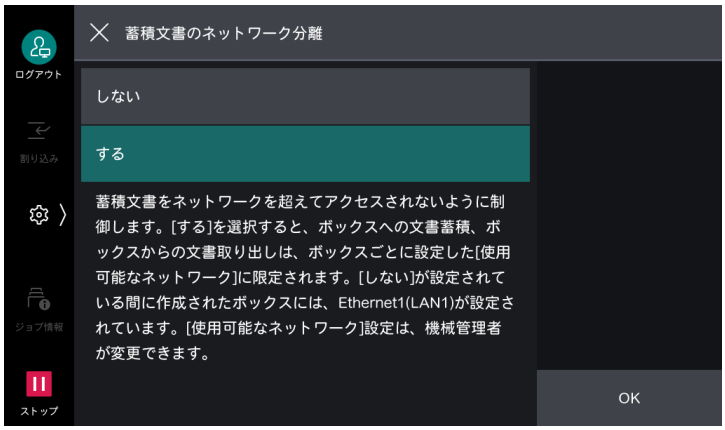
次の機能は FIPS140 認定されていない暗号アルゴリズムで動作します。FIPS140 に対応した環境での運用をおすすめします。

- SMTP 認証
- HTTP 認証
- SMB 転送
- ボックス保存
- DocuWorksダイレクトプリント
- LDAP 認証
- Kerberos 認証
- 802.1x 認証
- メール送信
- PDF ダイレクトプリント

メール送信は S/MIME、SMTP AUTH を使用した場合に該当します。

[蓄積文書のネットワーク分離]

ボックスでの文書の蓄積や、取り出しに使用するネットワークを限定できます。



[CSRF 対策]

本機への不正リクエストを受理しないようにします。

外部からアクセスしているユーザーが別のサイトも閲覧している場合に発生するリスクを低減できます。

[その他の設定]

ネットワークに関するそのほかの設定をします。

項目	説明
[メール受信プロトコル]	使用環境に合わせて設定します。

項目	説明
[認証ユーザー名へのドメイン付加]	ユーザー名にドメイン名を付加できます。
[メールプリントの排出先]	メール受信プリントの排出先を設定します。[自動] に設定すると、排出先の初期設定値に設定されている排出先が選択されます。
[送受信ドメインの制限]	メール、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の送受信を許可、または禁止するドメインを設定します。
[制限方法]	[送受信許可ドメインの指定] に設定すると、送受信を許可するドメインを指定できます。[送受信拒否ドメインの指定] に設定すると、送受信を禁止するドメインを指定できます。
[ドメイン 1] ～ [ドメイン 50]	[制限方法] を [送受信許可ドメインの指定]、または [送受信拒否ドメインの指定] に設定した場合に、送受信ドメイン名を指定できます。
[USB ポート ID 固定機能]	USB インターフェイスで通知する ID として、シリアル番号を使用するか固定値を使用するかを設定します。

11.6 [認証 / 集計管理]

[ユーザー情報の設定]

[パスワード変更]

認証ユーザーが自分のパスワードを変更できます。

参照

- 「登録ユーザーのパスワードの変更」(P.272) を参照してください。

[集計管理]

本機を利用するユーザーの登録や、認証と集計の方式を設定します。

参照

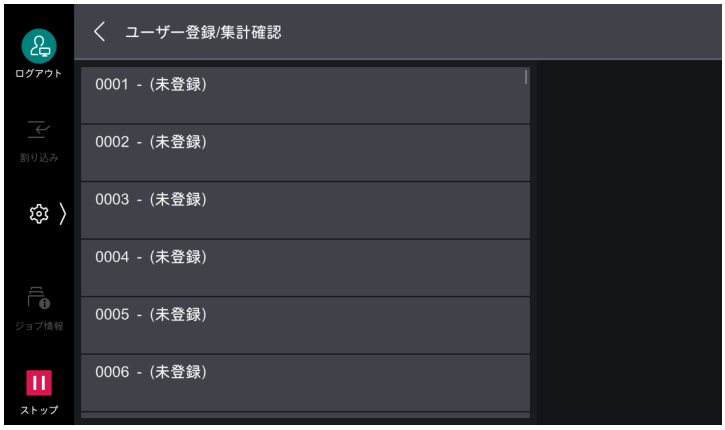
- 「認証と集計管理機能」(P.252) を参照してください。

[ユーザー登録 / 集計確認]

集計管理を有効にする場合、登録したユーザーの認証に使用するユーザー ID とユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。

[認証 / セキュリティー設定] > [認証の設定] の [ユーザー登録 / 集計確認] と共通です。



補足

- ユーザー登録は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) で、使用する集計管理モードを設定してから行ってください。
- この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [ネット認証 / 集計]、[外部認証 / 集計]、または [カスタム認証] に設定しているときは表示されません。
- プライベートプリントを蓄積している登録ユーザーの「ユーザー ID」を変更した場合、蓄積文書は削除されます。

[登録内容の削除 / 集計リセット]

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートをプリントして、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

[認証 / セキュリティー設定] > [認証の設定] の [登録内容の削除 / 集計リセット] と共通です。

補足

- この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [ネット認証 / 集計] に設定しているときは表示されません。

項目	説明
[全ユーザーの登録内容]	ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。また、上限ページ数、累積ページ数、プリンター集計データなどのデータもすべて削除します。
[全ユーザーの機能制限]	全ユーザーの機能制限をすべて削除します。
[全ユーザーの上限ページ数]	全ユーザーの上限ページ数を初期値にリセットします。
[全ユーザーの集計管理データ]	機械管理者を含む、全ユーザーのすべての集計管理データをリセットします。ページ数も、「0」にリセットされます。
[全ユーザーの権限グループ]	全ユーザーのすべての権限グループをリセットします。
[プリンター集計データ]	すべてのプリンター集計データをリセットし、自動登録されたジョブオーナー名を削除します。プリントした集計枚数も、「0」にリセットされます。 **補足** • [プリンター集計データ] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。
[全機能の集計管理レポート]	全機能の集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。
[プリンター集計レポート]	プリントの集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。 **補足** • [プリンター集計レポート] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。
[削除 / リセット]	選択した項目のデータを削除 / リセットします。

[機械管理者のコピー集計確認]

機械管理者モードから使用したコピーの累積ページ数を、画面で確認 / リセットできます。

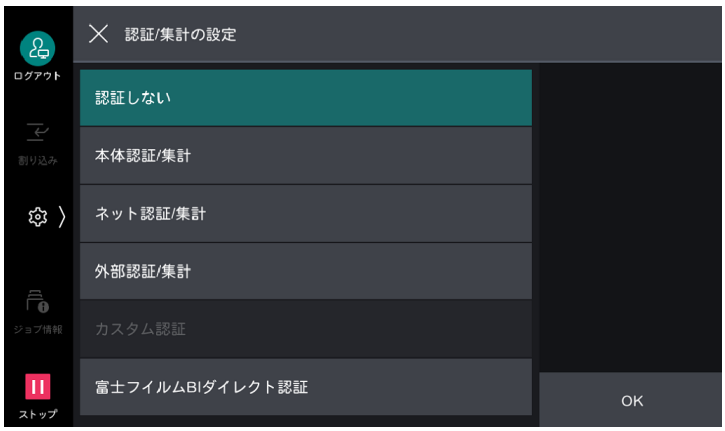
補足

- この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を［ネット認証 / 集計］に設定しているときは表示されません。

[認証 / 集計の設定]

認証と集計の方式を設定します。

［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］の［認証 / 集計の設定］と共通です。



項目	説明
[認証しない]	認証や集計機能を利用しません。
[本体認証 / 集計]	本機に登録されたユーザー情報を、認証と集計に使用します。 **補足** • ［本体認証 / 集計］から、[認証しない]、または［外部認証 / 集計］に変更した場合、本機に登録されているユーザー情報がすべて削除されます。
[ネット認証 / 集計]	外部サービスで管理されているユーザー情報を本機に登録して認証と集計に使用します。 **補足** • 集計が必要なサービスを利用しようとしたときに表示される認証画面で、「Account ID」を入力できます。

項目	説明
[外部認証 / 集計]	外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を認証に使用します。 **補足** • 外部認証に使用したユーザー情報は、本機に保存されます。外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。 • 外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存させない場合は、[外部認証情報の本体保存] を [しない] に設定してください。[外部認証情報の本体保存] については、「[認証の設定]」(P.222) を参照してください。 • [認証システム] が [Authentication Agent] の場合、認証サーバーで集計管理ができます。
[カスタム認証]	認証カスタマイズコンテンツやプラグインなどを使用する場合に設定します。
[富士フイルム BI ダイレクト認証]	富士フイルム BI ダイレクトに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。 **補足** • 本機能を利用するには FUJIFILM IWpro の契約が必要です。 • 複合機がインターネットにつながる環境が必要です。
[各機能の集計]	サービスごとに集計管理機能を使用できます。 **補足** • 表示される項目は、搭載しているサービスによって異なります。 • [Client Scan] とは、AirPrint などを使用したクライアントコンピューターから操作するスキャンのことです。

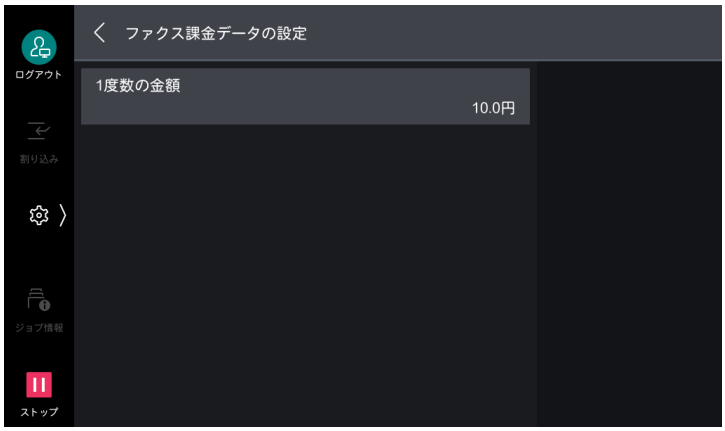
[集計管理情報の設定]

項目	説明
[User ID の代替表記]	タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリア（ログインボタン）をタップしたときに表示される認証画面の、「ユーザー ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。
[User ID の入力表示]	ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定します。

項目	説明
[Account ID の代替表記]	タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリア（ログインボタン）をタップしたときに表示される認証画面の、「Account ID」と表示されている表記を、「AccountName」や「Number」のように必要に応じて変更します。 **補足** • この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [ネット認証 / 集計] に設定しているときに表示されます。
[Account ID の入力表示]	Account ID を入力したときの文字列の表示方法を設定します。 **補足** • この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [ネット認証 / 集計] に設定しているときに表示されます。
[認証時の集計情報表示]	認証直後に、ユーザー別の集計情報を表示できます。 **補足** • この項目は、「[認証 / 集計の設定]」(P.219) を [本体認証 / 集計] に設定しているときに表示されます。

[ファクス課金データの設定]

ファクス課金の単位料金を設定します。



補足

• 時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間は、[課金情報（昼間料金)]、[課金情報（夜間料金)]、[課金情報（深夜料金)] で設定してください。詳しくは、「各機能の詳細項目の設定」(P.121) を参照してください。

[認証 / セキュリティー設定]

本機を利用するユーザーの登録、認証、およびセキュリティの設定ができます。

参照

- 「認証と集計管理機能」(P.252) を参照してください。

[機械管理者情報の設定]

項目	説明
[機械管理者 ID]	機械管理者のユーザー ID を設定します。
[機械管理者パスワード]	機械管理者のパスワードを設定します。
[機械管理者情報のリセット]	機械管理者のユーザー ID とパスワードを［認証］画面からリセットできるように設定できます。 ［許可］にする場合は、［リセットコードの通知先］にリセットコードを送信するメールアドレスを設定します。

[認証の設定]

項目	説明
[認証 / 集計の設定]	認証 / 集計方式を設定します。 「[認証 / 集計の設定]」(P.219) と共通です。
[認証に使用するカスタムサービス]	認証に使用するカスタムサービスを設定します。

項目	説明
[アクセス制御]	認証モードでは、本機と各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。 補足 • 外部認証時（弊社商品（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得した利用可能なサービスへのアクセス許可情報に基づきます。
[設定へのアクセス]	機械管理者以外の本機の設定変更を制限できます。
[デバイスへのアクセス]	本機のタッチパネルディスプレイのボタンの操作を制限できます。
[サービスへのアクセス]	本機の各サービスを制限できます。 補足 • サービスを［制限する（非表示）］に設定すると、ホーム画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。
[機能の制限]	
[カラーコピーの使用]	カラーコピーを制限できます。
[ボックスからのプリント]	ボックス文書のプリントを制限できます。
[ボックスからの外部取り出し]	ボックス文書の送信や転送を制限できます。
[宛先指示方法の制限]	ファクス / インターネットファクス、またはメール送信で、アドレス帳に登録されていない宛先への送信を制限できます。 ［登録宛先のみ許可］に設定すると、キーパッドやキーボードからは、宛先を入力できなくなります。送信できるのは、アドレス帳に登録された宛先に制限されます。
[アドレス帳登録 / 変更の制限]	一般ユーザーによるアドレス帳への宛先の登録、変更を制限できます。
[ユーザー登録 / 集計確認]	認証を有効にする場合、登録したユーザーの認証に使用するユーザー ID とユーザー名を登録します。 本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。 「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.217) と共通です。
[登録内容の削除 / 集計リセット]	全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートをプリントして、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。 「[登録内容の削除 / 集計リセット]」(P.218) と共通です。
[権限グループ登録]	機械管理者は認証ユーザーに対して、本来利用できない機能を利用できる「権限」を与えることができます。権限グループを登録しておくと、ユーザーを権限ごとにグループ化して管理できます。
[認証情報の設定]	認証するときに必要な情報を設定します。
[User ID の代替表記]	タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリア（ログインボタン）をタップしたときに表示される認証画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。
[User ID の入力表示]	ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティの強化など、必要に応じて設定します。 ［そのまま表示する］に設定すると、ユーザー ID を入力したときに、入力した文字列で表示します。［隠す］に設定すると、［*****］のように表示します。

項目		説明
	[認証失敗の記録]	不正なアクセスを検知するための、認証回数を設定します。所定時間（10 分）以内に、ここで設定した回数の認証に失敗したときに、エラーとして記録します。
	[認証解除時の確認画面表示]	認証解除時に確認画面を表示できます。
	[認証時の User ID 文字種]	認証時、ユーザー ID の文字種を設定します。 [大文字小文字を区別する] に設定すると、登録したまま（大文字小文字を含む）のユーザー ID で認証します。[大文字小文字を区別しない] に設定すると、ユーザー ID に大文字小文字が混在していても、大文字小文字を区別しないで認証します。
	[IC カード接続時の認証]	本体認証の場合、本機に IC カードリーダーが接続されているときに、ユーザー ID 認証を有効にできます。 [IC カードのみ] に設定すると、ユーザー ID 認証は使用できません。 [IC カードまたはパネル入力] に設定すると、IC カード認証とユーザー ID 認証の両方が使用できます。
	[ゲストの使用]	外部認証の場合、ゲストのユーザーを使用できます。
	[IC カード認証時のユーザー登録]	本体認証で登録されていないユーザーが、IC カードリーダーに IC カードをかざしたとき、ユーザー登録できます。 [しない] に設定すると、ユーザー登録はされません。[自動登録する] に設定すると、ユーザーが登録されます。
	[IC カードの使用]	本機に IC カードリーダーが接続されているときに、IC カードを使用できます。 [する] に設定すると、IC カードでジョブを制御するかを、機能ごとに設定できます。 [する（PKI のみ）] は、認証やジョブ制御には IC カードを使用せず、セキュリティ機能だけを制御する場合に設定します。
	[IC カード連携モード]	外部認証の場合、IC カード認証時に、パスワードの入力を要求できます。
	[非接触型 IC カード設定]	非接触型 IC カード認証時に、認証の解除方法を設定します。 [カードが離れると認証解除] に設定すると、IC カードを IC カードリーダーから離すことで認証が解除されます。[パネル指示で認証解除] に設定すると、タッチパネルディスプレイの操作で認証が解除されます。
	[外部認証情報の本体保存]	外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存できます。[する] に設定すると、外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。 **補足** • [IC カード連携モード] を [パスワード入力不要] に設定していて、IC カードで認証したユーザーだけが対象です。 • 本機に保存されたユーザー情報を利用して認証されたユーザーは、[（保存済み外部認証情報での動作時の権限）] に設定されます。
	[保存済み外部認証情報削除]	本機に保存した外部認証のユーザー情報を削除できます。 **補足** • IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

項目	説明
[不正使用防止の設定]	なりすましによる不正な操作が行われないようにするための機能です。同一のユーザー ID の認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、[連続失敗回数] にアクセスを拒否するまでの回数を設定します。 補足 • 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。 • 設定する場合は、[認証回数制限 - 機械管理者]、または [認証回数制限 - 一般ユーザー] を [する] に設定してください。 • アクセス拒否状態を解除するときは、本機を再起動してください。 • 一般ユーザーの認証回数制限は、本体認証の場合に設定できます。
[パスワードの運用]	
[パスワード使用 - パネル入力時]	ユーザーが本機を使用するときに、パスワードを入力できます。 [する] に設定すると、[ユーザー登録 / 集計確認] の [パスワード] が有効になります。 [しない] に設定すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。
[パスワード使用 - IC カード認証時]	本体認証の場合、機械管理者とユーザーが IC カード認証をするときに、パスワードを入力できます。
[パスワードの最小桁数]	パスワードの最小桁数を指定します。
[パスワードの最大桁数]	パスワードの最大桁数を指定します。
[リモートからの認証]	本機のパスワードのセキュリティー強度の設定（パスワードの最小文字数 / 最大文字数の設定、ユーザー ID を含むパスワードの許可 / 禁止の設定、パスワードの必須文字の設定）を変更した結果、すでに設定されているパスワードが条件を満たさなくなった場合に、プリントジョブなどのログイン操作を伴わない認証を受け付けるかどうかを設定します。
[認証 / プライベートプリントの設定]	認証プリント、またはプライベートプリントの制御について設定します。
[受信時の PJL 命令制御]	外部機器からのプリント受信を制御します。クライアントコンピューターからプリント指示した認証プリント、またはプライベートプリントジョブを、[ジョブ情報] の [認証プリント]、または [プライベートプリント] に保存する場合は、[する] に設定します。
[出力時の PJL 命令制御]	外部機器からのプリントジョブのプリントを制御します。[ジョブ情報] の [認証プリント]、または [プライベートプリント] に保存された文書をプリントするときに、用紙、両面などをジョブの指示どおりの設定でプリントする場合は、[する] に設定します。
[受信制御]	受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。
[プリンターの認証に従う]	認証 / 集計機能を利用し、[サービスへのアクセス] の [プリンター] を [制限する] に設定しているときに、[認証成功のジョブ]、[認証が不正のジョブ]、[User ID なしのジョブ]、それぞれについてジョブの扱いを設定します。
[プライベートプリントに保存]	認証機能を利用しているいないにかかわらず、ユーザー ID が付いたジョブをすべてプライベートプリントに保存します。また、[User ID なしのジョブ]、[PJL 命令なしのジョブ]、それぞれについてジョブの扱いを設定できます。
[認証プリントに保存]	認証機能を利用しているいないにかかわらず、受信したジョブをすべて認証プリントに保存します。

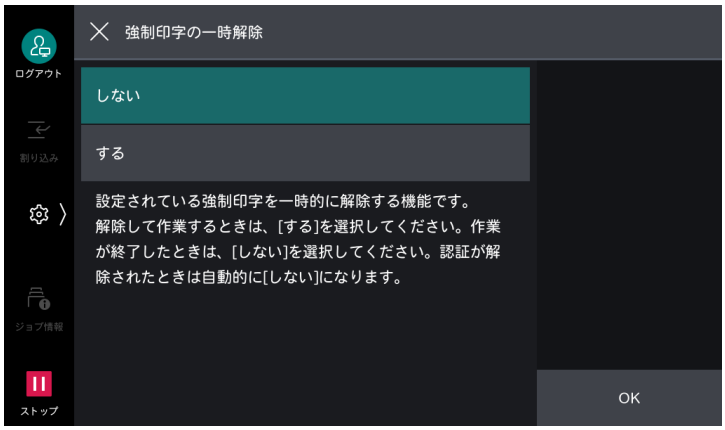
[強制印字の一時解除]

強制印字をするが、特定の出力物だけ強制印字なしでプリントする場合などに使用します。

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されていても、一時的に強制印字を解除できます。

[する] に設定した状態で、コピー、親展プリント、ボックスプリント、文書プリントを実行すると、一時解除の対象となります（ファクス、通常のプリント、レポート / リストは対象となりません）。

認証ユーザーの属する権限グループの [強制印字の一時解除] が [許可する] に設定されている場合だけ表示されます。

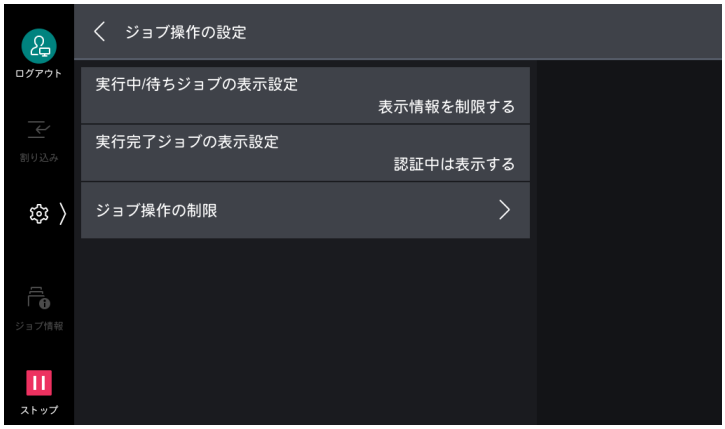


補足

- ジョブフローを使用してボックス内の文書を選択し、手動で実行する場合でも、強制印字を一時解除できます。
- 管理者権限のユーザーは権限グループにかかわらず設定可能です。
- TrustMarkingBasic（別売）やコピーでユーザーが指定した複製管理に関しては解除対象となりません。

[ジョブ操作の設定]

実行中や実行待ちジョブやログの表示制限ができます。認証していないユーザーやジョブオーナーでないユーザーに対して、プライバシー保護、情報漏えいの抑止になります。

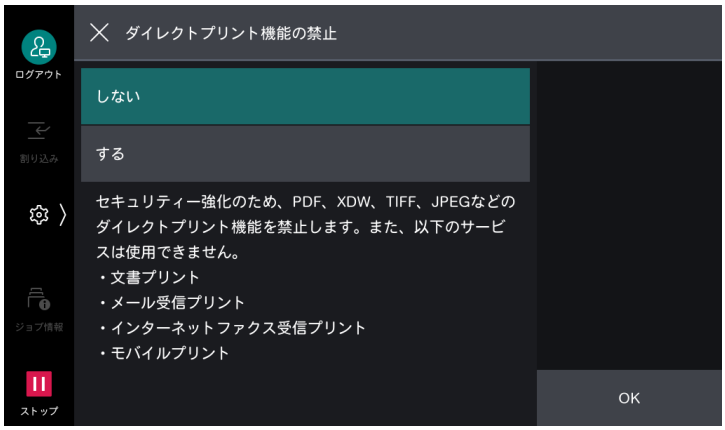


項目		説明
[実行中 / 待ちジョブの表示設定]		実行中 / 実行待ちジョブの情報表示を制限できます。
[実行完了ジョブの表示設定]		
	[常に表示する]	認証にかかわらず、すべての完了ジョブを確認できます。ジョブの詳細情報の表示を制限できます。
	[認証中は表示する]	本機に認証中のユーザーだけが完了ジョブを確認できます。確認できるジョブを認証ユーザーのジョブだけにすること、ジョブの詳細情報の表示を制限できます。

項目	説明
［表示しない］	認証にかかわらず、すべての完了ジョブを非表示にします。
［ジョブ操作の制限］	操作の種類ごとに、ジョブ操作を許可するユーザーの範囲を設定します。

［ダイレクトプリント機能の禁止］

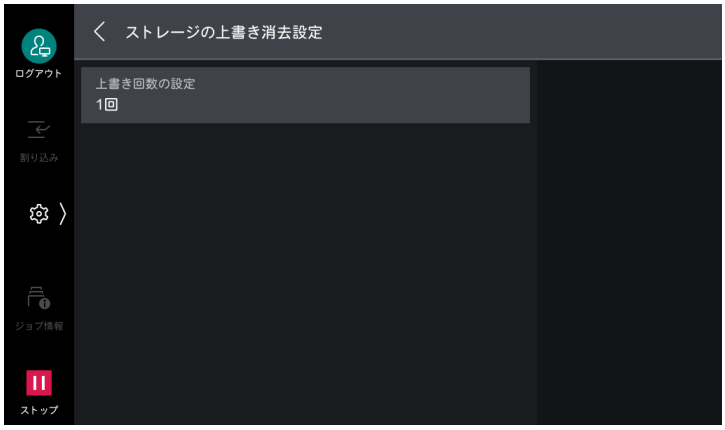
［する］に設定した場合、文書プリント、メール受信プリント、インターネットファクス受信プリント、モバイルプリントなどのダイレクトプリント機能が使用できなくなります。



［ストレージの上書き消去設定］

データ削除時の上書き消去回数を設定します。

データが記録されていた領域に情報を持たないデータを上書きすることで、データの不正な取り出しや復元を防ぐことができます。

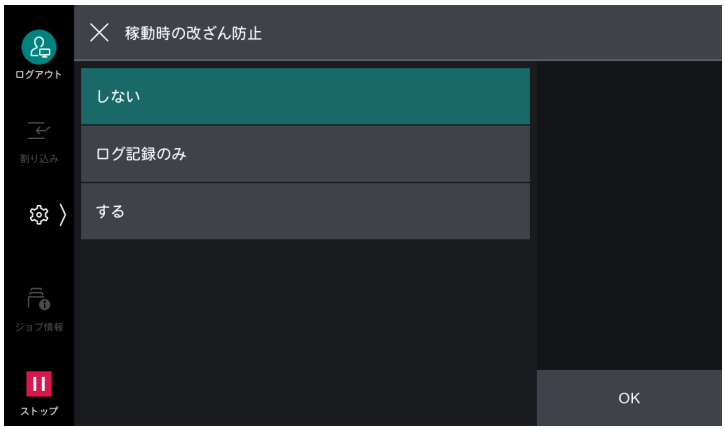


[稼動時の改ざん防止]

本機の稼動時に、許可されていないファイルへのアクセスと実行を検知するかを設定します。

[する] に設定すると、ファイルの書き込みや実行を拒否して、アクセス内容を監査ログに記録します。

[ログ記録のみ] に設定すると、監査ログには記録しますが、ファイルへのアクセスは拒否されません。



補足

- 監査ログに記録するには、監査ログ機能を有効に設定する必要があります。詳しくは、「[監査ログ設定]」(P.228) を参照してください。

11.7 [監査ログ設定]

監査ログの設定と Syslog 送信（Syslog プロトコルを使用して監査ログをネットワーク上のほかのクライアントコンピューターに送信）に関する設定をします。

監査ログとは、いつ、誰が、どのような作業を本体で行ったかを記録したものです。監査ログ機能を使用すると、本体の不正使用や不正使用の試みを監視できます。

補足

- 監査ログを取り出すには、インターネットサービスを使用します。

参照

- 監査ログの記録項目については、『監査ログリファレンスガイド』を参照してください。

項目	説明
[監査ログの記録]	監査ログを記録するかどうかを設定します。 監査ログ機能が有効になると、本体に監査ログが記録されます。 ログは最大で 15,000 件まで記録され、15,000 件を超えると日付の古いログから削除されます。

項目	説明
[監査ログの Syslog 送信]	監査ログを Syslog サーバーに送信するかどうかを設定します。
[Syslog - サーバー名 / アドレス]	Syslog サーバーのサーバー名、または IP アドレスを入力します。
[Syslog - UDP/TCP ポート番号]	Syslog サーバーの UDP、または TCP のポート番号を入力します。
[Syslog - TLS ポート番号]	Syslog サーバーの TLS ポート番号を入力します。
[Syslog - トランスポートプロトコル]	Syslog に送信するときのトランスポートプロトコルを設定します。
[Syslog - ファシリティ]	Syslog に送信する監査ログのファシリティ番号を入力します。
[Syslog - タイムアウト値]	Syslog 送信時の送信タイムアウト値を入力します。
[送信エラー時の対応方式]	デバイス内の監査ログが Syslog 未送信のまま最大記録件数に達したときの動作を設定します。
[稼動優先]	日付の古いログから上書きされます。上書きされた監査ログは、Syslog 送信できません。
[監査優先]	システムエラーとなり、本機が停止します。復帰するには、本体と Syslog サーバーを接続できる状態にしてから、再起動します。

11.8 [保守]

[保守レポートの出力]

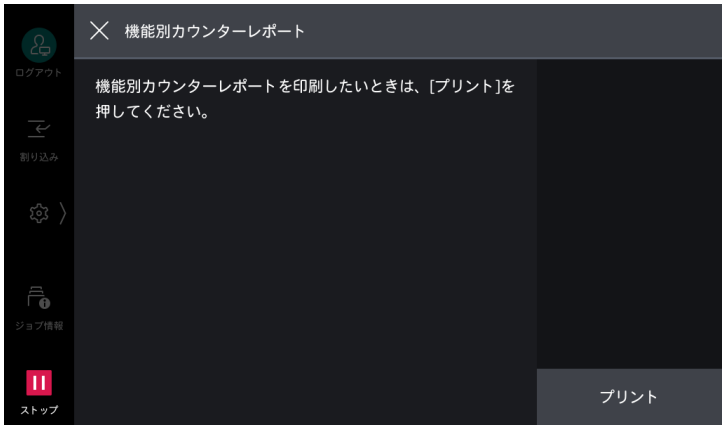
補足

- [ショートカット作成] をタップすると、コントロールメニューの [ショートカット一覧] に本項目のショートカットを登録できます。

[ボックス登録リスト]

指定した番号の範囲のボックスに設定されている内容と、ボックス保存時の処理方法を表形式でプリントします。

[機能別カウンターレポート]



参照

- 機能別カウンターレポートについては、「[レポート / リストの出力]」(P.41) を参照してください。

[ユーザー別集計管理]

ユーザー別の集計管理レポートをプリントできます。集計管理機能を有効にしているかどうかで、出力できるレポートが異なります。

[認証 / 集計の設定] が [本体認証 / 集計] 以外に設定されている場合

次の画面が表示され、プリンター集計レポートをプリントできます。クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。

補足

- [プリンター集計] は、データを初期化した時点からのカウントになります。

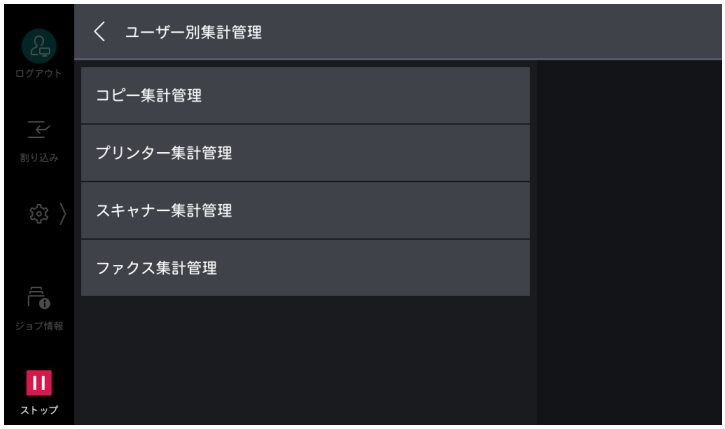
[認証 / 集計の設定] が [本体認証 / 集計] に設定されている場合

[ユーザー別集計管理] 画面が表示されます。集計管理機能を [集計する] に設定している機能の、ユーザー別の集計管理レポートを、機能ごとにプリントできます。

参照

- 「[集計管理]」(P.217) を参照してください。

集計管理レポートをプリントするには、各集計管理レポートを選択し、ユーザー番号の範囲を指定します。



補足

- レポートに表示される「No.」は、[集計管理]、[認証 / セキュリティー設定] で、ユーザー登録した No.（ユーザー管理番号）です。

項目	説明
[コピー集計管理]	本機でコピーした総ページ数、プリントページ数を確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。[コピー集計管理レポート] は、データを初期化した時点からのカウントになります。
[プリンター集計管理]	クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。[プリンター集計管理] は、データを初期化した時点からのカウントになります。 **補足** • [認証 / 集計の設定] の [各機能の集計] で [プリンター] を [集計しない] に設定している場合は、[プリンター集計管理] ではなく、[プリンター集計] が表示されます。
[スキャナー集計管理]	本機でスキャンした総ページ数を機能別に確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。[スキャナー集計管理] は、データを初期化した時点からのカウントになります。
[ファクス集計管理]	通信回数、送信原稿枚数などのデータをユーザー別に確認できます。

[使用済み製品回収情報シート]

使用済みの本機の回収を依頼する場合に、情報シートをプリントできます。お客様から弊社のカストマーコンタクトセンターに本機の情報を通知していただくことにより、本機の回収経路が決定します。

[GS1-128 バーコードサンプル]

GS1-128 バーコードサンプルをプリントできます。

バーコードモードを有効にした場合と無効にした場合のバーコードのプリント状態を確かめることができます。

[機械の詳細設定の変更履歴レポート]

［機械の詳細設定］で変更した履歴をプリントできます。

[EP 設置] / [EP 診断 / 修理依頼]

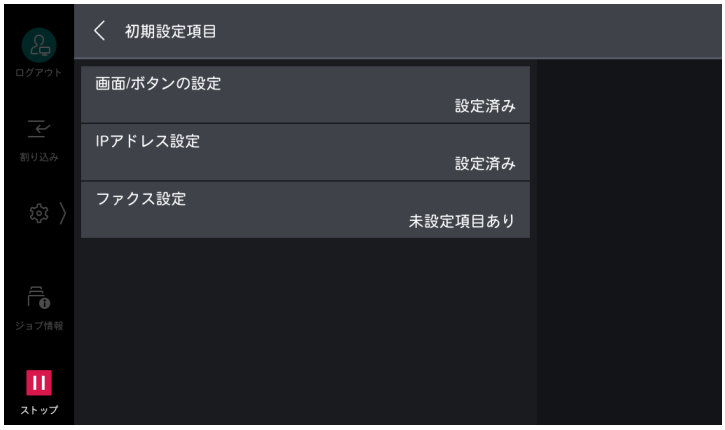
点検や修理が必要になったときに、弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。

[EP リモートメンテナンスの即時処理]

弊社のカストマーコンタクトセンターからの操作で本機の診断データなどを取得することを許可します。不具合や故障の問い合わせがあったときに対応が効率化されます。

[初期設定項目]

本機を使用するための初期設定が完了していることを確認します。初期設定されてない項目は、ここから設定画面を起動できます。



[EP 通信確認]

EP-BB 複合機管理サービスの通信が正常に行われるかを確認します。

参照

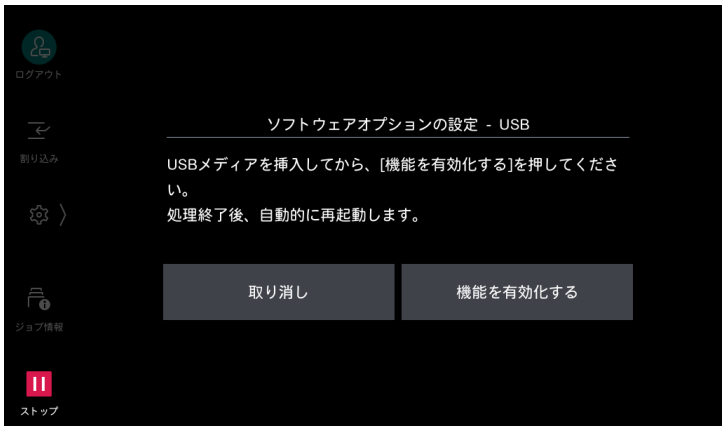
- EP-BB 複合機管理サービスについては、弊社公式サイトを参照してください。

[ソフトウェアオプションの設定]

カストマーエンジニアが設定します。

[ソフトウェアオプションの設定 - USB]

USB ドングルを取り付けてオプション機能を使用できます。



[ソフトウェアバージョンアップ]

ソフトウェアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウェアを更新するための機能です。

注記

- ソフトウェアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。途中で電源を切ると、ソフトウェアが不完全な状態となり、本機が起動できなくなることがあります。

補足

- ソフトウェアがダウンロードされると、再起動して、ソフトウェアを更新します。再起動し、ホーム画面が表示されたらソフトウェアバージョンアップは終了です。

[機械起動時のプログラム診断]

本機の電源を入れたときに、プログラム診断ができます。

プログラム診断で意図的なプログラムの書き換えなどの異常が見つかった場合は、起動を停止し、監査ログに記録します。

[IC カード情報の確認]

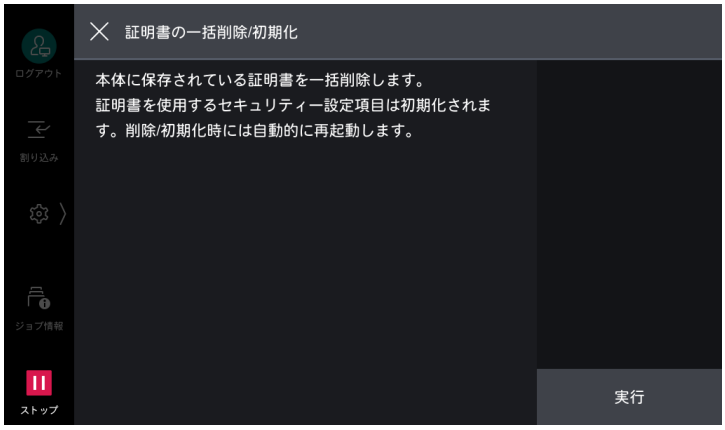
[IC カード情報の確認] を選択し、ご利用の IC カードを IC カードリーダーにタッチすると、IC カードの情報がタッチパネルディスプレイに表示されます。

補足

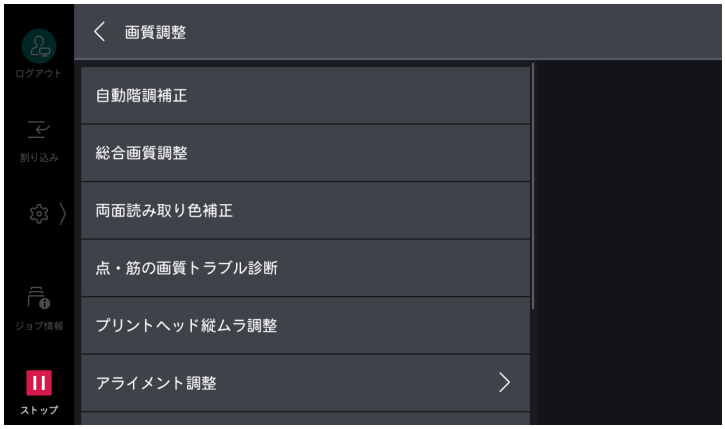
- 認証に使用する情報は、インターネットサービスで設定します。

[証明書の一括削除 / 初期化]

証明書を一括削除し、初期化します。[ネットワーク設定] > [セキュリティー設定] の [SSL/TLS 設定] で証明書を使用するように設定しているにもかかわらず、証明書ファイルの異常などが原因で、証明書データが使用できなくなった場合に使用します。



[画質調整]



補足

- 以下の項目は、ボックスの総容量に空きがある場合にだけ使用できます。調整前に、「[レポート / リストの出力]」(P.41) の [蓄積文書リスト] でボックスに空きがあることを確認してください。
  - [総合画質調整]
  - [点・筋の画質トラブル診断]
  - [プリントヘッド縦ムラ調整]
  - [自動アライメント調整]
  - [転写出力調整]
  - [自動面内ムラ調整]
- 画面右上に [ショートカット作成] が表示されている項目は、コントロールメニューの [ショートカット一覧] に本項目のショートカットを登録できます。
- 「[その他の設定]」(P.146) で [一般ユーザーの調整機能操作] を [許可] に設定すると、以下の項目を一般ユーザーが調整できるようになります。一般ユーザーが調整する場合は、コントロールメニューの [ショートカット一覧] から調整してください。
  - [面内ムラ調整]
- 画質調整を定期的に実行しても状況が改善しない場合は、弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

項目	説明
[自動階調補正]	プリント画質の色階調がずれた場合に、階調を補正します。補正することによって、本機のプリント画質を一定の品質に保てます。 補足 • 自動階調補正実行前に、コピーの機能リストをリセットしてください。 • [コピー用スクリーン 1] [原稿の画質] の、[文字]、または [地図] に使用されるスクリーンの階調を補正します。 • [コピー用スクリーン 2] [原稿の画質] の、[文字 / 写真]、または [写真] に使用されるスクリーンの階調を補正します。 • [プリンター用スクリーン 1] ART EX プリンタードライバーの場合 - [グラフィックス] タブで設定される機能（[印刷モード]、[画質調整]、[おすすめ画質タイプ]）のすべてに使用されるスクリーンの階調を補正します。 - [グラフィックス] タブの [スクリーン] で [自動]、[精細度優先]、[標準] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。 PostScript プリンタードライバーの場合 - [グラフィックス] タブの [スクリーン] で [精細度優先]、[標準] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。 - [グラフィックス] タブの [印刷モード] で [高画質]、または [高精細（文字 / 線)] を選択し、かつ [スクリーン] で [自動] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。 • [プリンター用スクリーン 2] ART EX プリンタードライバーの場合 - [グラフィックス] タブの [スクリーン] で [階調優先] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します（[印刷モード] で [高精細（文字 / 線)] を選択しているときは例外です)。 - [詳細設定] タブで [ページ印刷モード] を [する] に設定したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。 PostScript プリンタードライバーの場合 - [グラフィックス] タブの [スクリーン] で [階調優先] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。 - [グラフィックス] タブの [印刷モード] で [高速] を選択し、かつ [スクリーン] で [自動] を選択したときに使用されるスクリーンの階調を補正します。
[総合画質調整]	コピーやプリントの画質が悪くなった場合に、画質を自動的に調整します。 [自動階調補正]、[点・筋の画質トラブル診断]、[自動面内ムラ調整] がまとめて実行されます。
[両面読み取り色補正]	原稿送り装置から原稿を読み込むときの、おもて面とうら面の色の差異を補正します。 補足 • 適切なプリント結果を得られるよう、事前に自動階調補正を行ってください。
[点・筋の画質トラブル診断]	出力物に点や筋状の不良がある場合に、不良の原因を診断します。 診断結果は本機には表示されませんが、EP システムへの接続がある場合に、[EP 診断] をタップすることで、弊社のカストマーコンタクトセンターに送信されます。

項目	説明
[プリントヘッド縦ムラ調整]	周期的な縦方向の濃度ムラを調整します。 補足 • 210×279.4 mm 以上の普通紙をセットしてください。
[アライメント調整]	用紙にプリントするイメージの位置を調整します。 補足 • 182×182（mm）以上のサイズの用紙を使用してください。 • イメージのばらつきを考慮して、調整用チャートは 3 枚以上プリントすることをおすすめします。 • [自動アライメント調整] イメージ位置を自動調整します。 • [手動アライメント調整] 調整値を入力してイメージ位置を調整します。 参照 • 詳しくは、「[自動アライメント調整]」(P.236)/「[手動アライメント調整]」(P.239) を参照してください。
[転写出力調整]	トナー画像が用紙に最適な状態で転写されない場合に、用紙種類に最適な転写電圧を設定できます。サンプルプリントを用いて調整します。
[面内ムラ調整]	用紙にプリントするイメージの濃度のムラを調整します。 • [手動面内ムラ調整] 調整値を入力してイメージのムラを調整します。 • [自動面内ムラ調整] イメージのムラを自動調整します。 参照 • 詳しくは、「[自動面内ムラ調整]」(P.243)/「[手動面内ムラ調整]」(P.244) を参照してください。
[カラーレジ補正]	印刷結果に色ずれが発生した場合に、カラーレジストレーションを補正します。 補足 • 本機の性能に影響が出るおそれがありますので、[カラーレジ補正] を連続して実行しないでください。

[自動アライメント調整]

出力イメージの位置を用紙トレイごとに自動で調整します。

用紙の伸縮、断裁精度、用紙の保管状態などによって、出力イメージの位置がずれたときなどに調整してください。

補足

- 原稿ガラスでは、背景用シートを用いて調整します。背景用シートは、『リファレンスガイド 付録編』の巻末にある「SIQA_sheet」をプリントしておきます。

調整用チャートのプリント

1. 調整するトレイに、調整する用紙をセットします。

補足

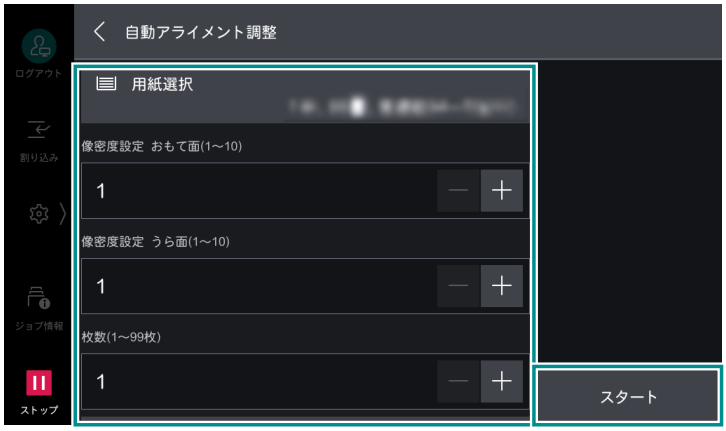
- 調整用チャートをプリントするときは、182×182 mm 以上のサイズの用紙をセットしてください。

2. 機械管理者モードにログインします。

3. ⚙ > [設定] > [保守] > [画質調整] > [アライメント調整] をタップします。

4. [自動アライメント調整] をタップします。

5. 各項目を設定して、［スタート］をタップします。



［用紙選択］

手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択します。

［像密度設定 おもて面］/［像密度設定 うら面］

調整用チャートにプリントする濃度を設定します。

［枚数］

プリントするチャートの枚数を設定します。ばらつきの平均値を算出するため、3 枚以上プリントすることをおすすめします。

［調整チャートの出力］

すでに調整用チャートをプリントしていて、読み込みだけする場合は、オフに設定します。

補足

- 一度に複数の用紙トレイを調整するときは、［用紙選択］で用紙トレイを選択し直して、再度プリントします。

6. プリントされた調整用チャートを読み込みます。

参照

- 「原稿ガラスの調整」(P.237)
- 「原稿送り装置の調整」(P.238)

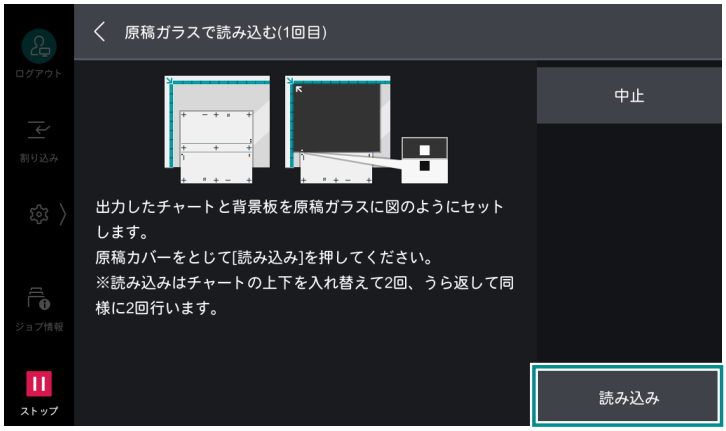
原稿ガラスの調整

原稿ガラスで調整用チャートを読み込んで調整します。

1. ［原稿ガラスで読み込む］をタップします。

2. **画面の指示に従って、調整用チャートと背景用シートを原稿ガラスにセットし、［読み込み］をタップします。**

背景用シートの四角マークと調整用チャートの四角マークを合わせて、おもて面で 2 回、うら面で 2 回、読み込みます。



補足

- 調整用チャートの四角マーク上部にある線と、背景用シートの下辺を合わせてください。

3. **調整用チャートを複数枚プリントしている場合は、［次のチャートをセットする］をタップして、調整用チャートの枚数だけ読み込みを繰り返します。**

4. **調整用チャートの読み込みが完了したら、［調整を開始する］をタップします。**

5. **［確認プリント］でサンプルをプリントして、調整結果を確認します。**

6. **調整を反映する場合は、［確定］をタップします。**

補足

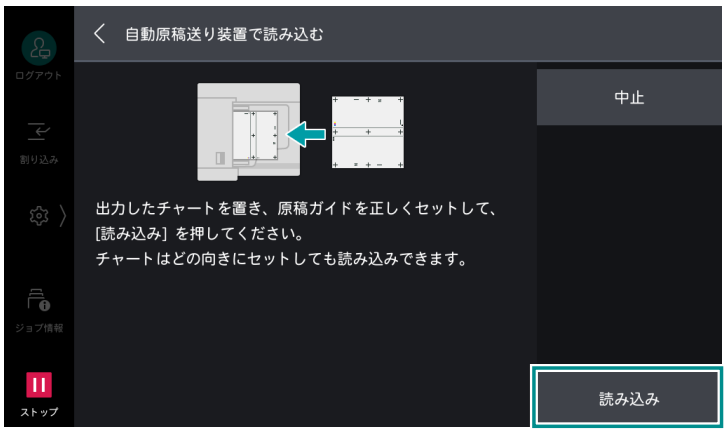
- 再調整が必要な場合は、画面左上の［×］をタップして調整を中止し、調整をやり直してください。

原稿送り装置の調整

原稿送り装置で調整用チャートを読み込んで調整します。

1. **［自動原稿送り装置で読み込む］をタップします。**

2. **画面の指示に従って、調整用チャートを原稿送り装置にセットし、［読み込み］をタップします。**



補足

- 複数枚の調整用チャートを同時に読み込むことができます。異なる用紙トレイの場合も、自動でトレイ情報を読み込みます。
- サイズが異なる調整用チャートは、一緒にセットしないでください。

3. ［確認プリント］でサンプルをプリントして、調整結果を確認します。

4. 調整を反映する場合は、［確定］をタップします。

補足

- 再調整が必要な場合は、画面左上の［×］をタップして調整を中止し、調整をやり直してください。

［手動アライメント調整］

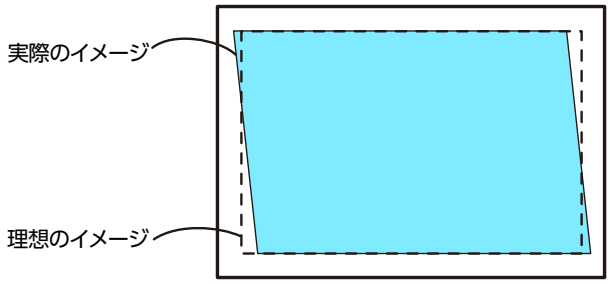
手動アライメント調整では、より正確にアライメントが調整できます。長尺用紙は、自動調整ができませんので、手動アライメント調整します。

調整可能項目

調整は次の順に行います。

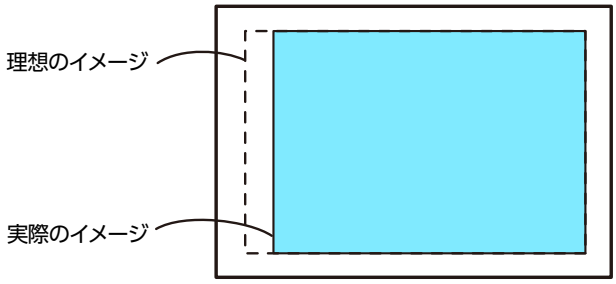
■ ［直角度］

副走査方向（用紙送り方向）のイメージの歪み（平行四辺形）を調整します。



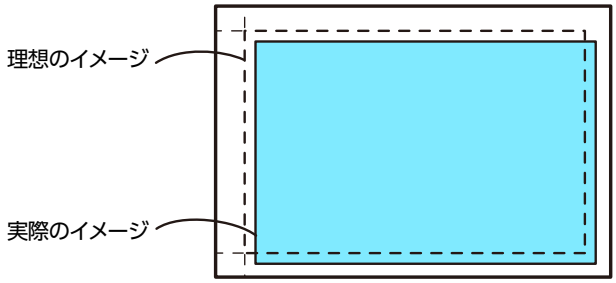
■ ［副走査方向倍率］

副走査方向（用紙送り方向）のイメージの倍率を調整します。



■ ［リード / サイドレジ］

副走査方向（用紙送り方向）、主走査方向（用紙送り方向に対して垂直方向）のイメージの位置を調整します。



調整手順

1. **調整するトレイに、調整する用紙をセットします。**

補足

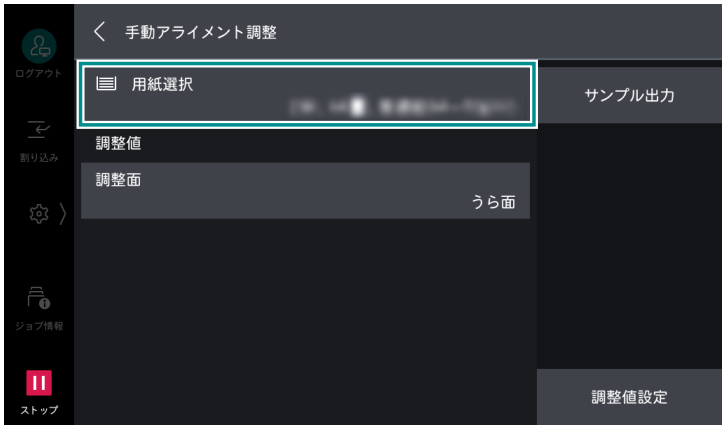
- 調整のためのサンプルチャートをプリントするときは、A3□、A4□、11×17″ □、レター□のどれかの用紙をセットしてください。

2. **機械管理者モードにログインします。**

3. **⚙ ＞［設定］＞［保守］＞［画質調整］＞［アライメント調整］をタップします。**

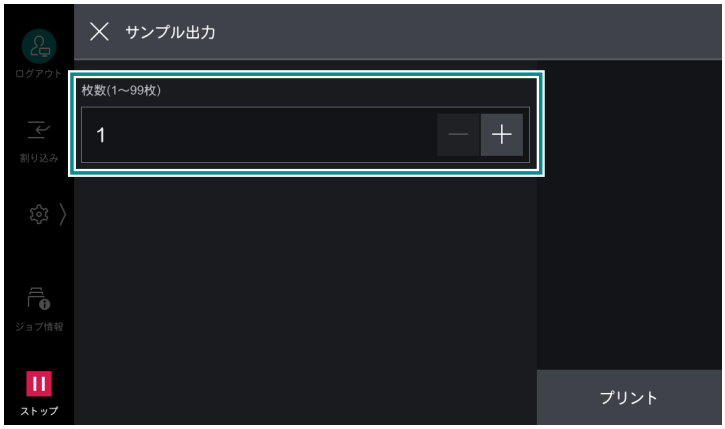
4. **［手動アライメント調整］をタップします。**

5. **［用紙選択］をタップして、手順 1 で用紙をセットしたトレイ選択します。**



6. **［調整面］で調整する印字面を選択します。**

7. **［サンプル出力］をタップし、サンプルのプリント枚数を指定します。**

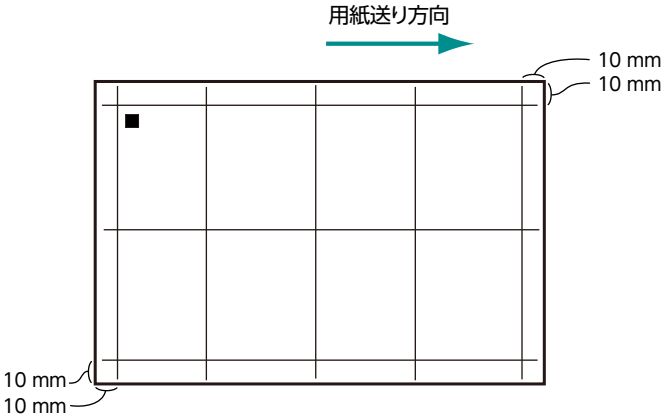


補足

- イメージのばらつきを考慮して、サンプルは 3 枚程度プリントすることをおすすめします。

8. **［プリント］をタップします。**

9. **プリントされたサンプルを確認し、調整値を入力します。**



補足

- 用紙送り方向を示すため、用紙の後端には黒の四角マークがプリントされます。おもて面には黒の四角マークが 1 つ、うら面には 2 つプリントされます。

参照

- 「[直角度] の調整」(P.241)
- 「[副走査方向倍率] の調整」(P.242)
- 「[リード / サイドレジ] の調整」(P.242)

10. **[調整値設定] をタップします。**

調整値が反映されます。

11. **[サンプル出力] > [プリント] をタップします。**

入力した調整値を反映したサンプルが出力されます。

[直角度] の調整

補足

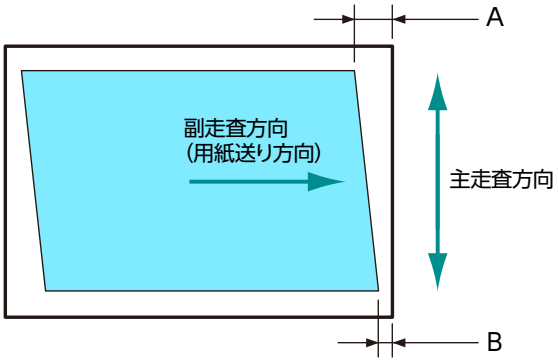
- トレイ / 調整面ごとの調整はできません。

1. **[直角度] をタップします。**

2. **調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ =0.1 mm）。**

補足

- 調整量（mm）= 傾き量（A - B）（mm）×400÷（用紙の主走査方向幅（mm）-20）
- 自動調整後の微調整を行う場合は、次の式で計算します。
  調整量（mm）= 傾き量（A - B）（mm）×400÷（用紙の主走査方向幅（mm）-30）



3. **[OK] をタップします。**

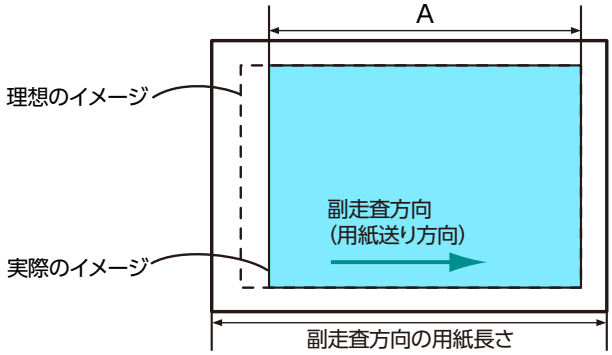
[副走査方向倍率] の調整

1. **[副走査方向倍率] をタップします。**

2. **調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ = 0.025%）。**

補足

- 調整量（%）=（副走査方向の用紙長さ（mm）- 20 - A）÷（副走査方向の用紙長さ（mm）-20）× 100
- 自動調整後の微調整を行う場合は、次の式で計算します。
  調整量（%）=（副走査方向の用紙長さ（mm）- 30 - A）÷（副走査方向の用紙長さ（mm）-30）× 100



3. **[OK] をタップします。**

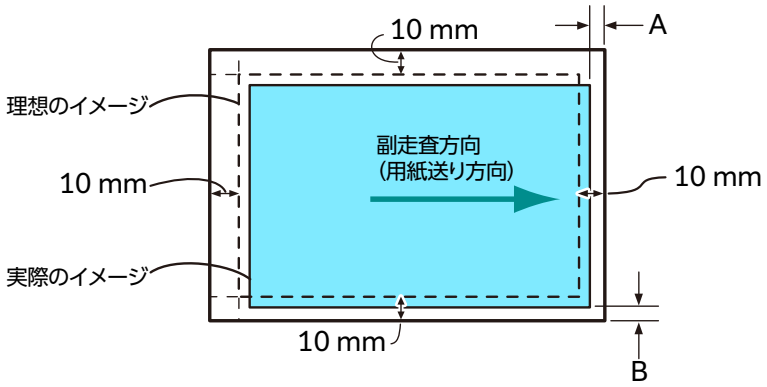
[リード / サイドレジ] の調整

1. **[リード / サイドレジ] をタップします。**

2. **調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ =0.1 mm）。**

補足

- [リードレジ（L）]
  調整量（mm）=10 - A（mm）
  - 自動調整後の微調整を行う場合は、次の式で計算します。
    調整量（mm）=15 - A（mm）
- [サイドレジ（S）]
  調整量（mm）=10 - B（mm）
  - 自動調整後の微調整を行う場合は、次の式で計算します。
    調整量（mm）=15 - B（mm）



3. **[OK] をタップします。**

[自動面内ムラ調整]

出力イメージの濃度ムラを自動で調整します。

1. 調整するトレイに、調整する用紙をセットします。

補足

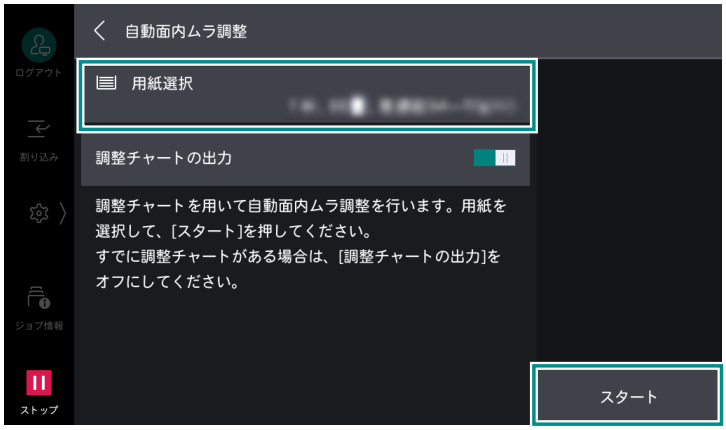
- 調整用チャートをプリントするときは、210×210 mm 以上のサイズの用紙をセットしてください。

2. 機械管理者モードにログインします。

3. ⚙ > [設定] > [保守] > [画質調整] > [面内ムラ調整] > [自動面内ムラ調整] をタップします。

4. [用紙選択] で手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択して、[スタート] をタップします。

CMYK チャートが 1 枚目に、RGB チャートが 2 枚目にプリントされます。



補足

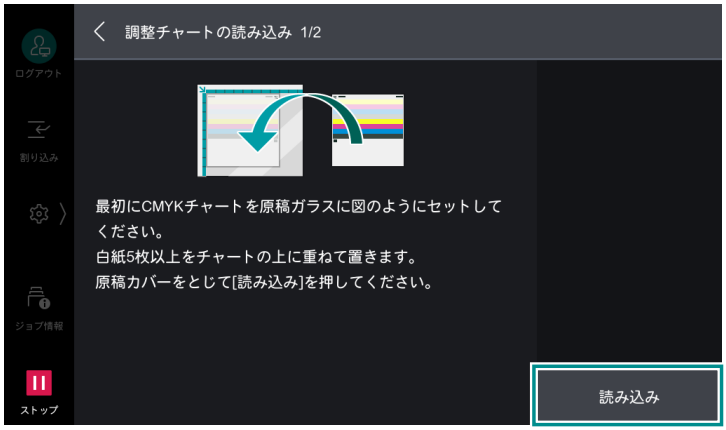
- すでに調整用チャートをプリントしていて、読み込みだけする場合は、[調整チャートの出力] をオフに設定します。

5. CMYK チャートを原稿ガラスにセットします。

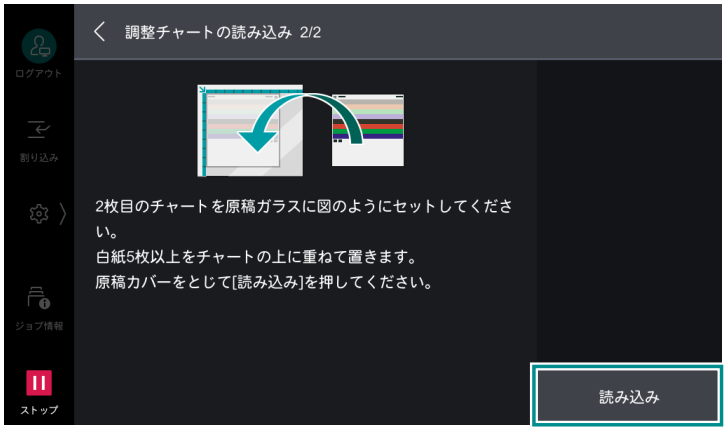
プリント面を下に向け、黒いマークがある辺を原稿ガラスの奥に合わせてください。

6. チャートと同じサイズの白紙を 5 枚以上、チャートの上に重ねて置きます。

7. 原稿カバーを閉じて、[読み込み] をタップします。



8. **手順 5 ～ 7 を繰り返して、RGB チャートも読み込みます。**



9. **［確認プリント］でサンプルをプリントして、調整結果を確認します。**

10. **調整を反映する場合は、［OK］をタップします。**

補足

- 再調整が必要な場合は、画面左上の［×］をタップして調整を中止し、調整をやり直してください。

［手動面内ムラ調整］

［手動面内ムラ調整］では、より正確に面内ムラが調整できます。長尺用紙は、自動調整ができませんので、手動で調整します。

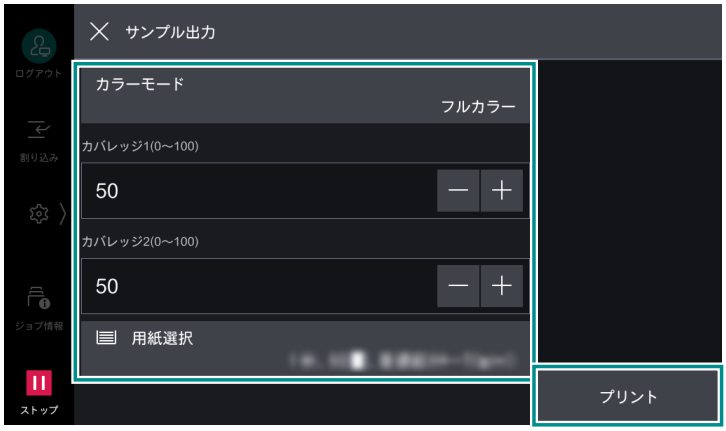
1. **調整するトレイに、調整する用紙をセットします。**

2. **機械管理者モードにログインします。**

3. **⚙ ＞［設定］＞［保守］＞［画質調整］＞［面内ムラ調整］＞［手動面内ムラ調整］をタップします。**

4. **［サンプル出力］をタップします。**

5. 各項目を設定して、［プリント］をタップします。



［カラーモード］

すべての色の濃度とバランスを確認するときは［フルカラー］を選択し、特定の色に限定して濃度を確認するときは［単色］を選択します。

［単色］を選択した場合は、［手動面内ムラ調整］画面の［カラー］で、プリントする色を［イエロー］、［マゼンタ］、［シアン］、［ブラック］から選択します。

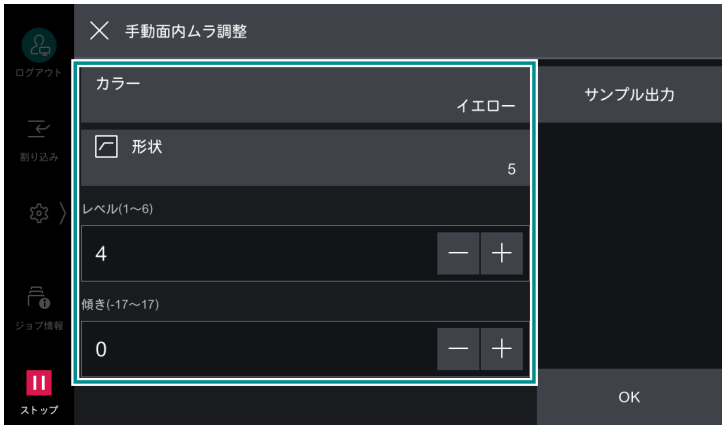
［カバレッジ 1］/［カバレッジ 2］

プリントサンプルにプリントする濃度を、イエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの色ごとに、2 種類設定できます。

［用紙選択］

手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択します。

6. プリントサンプルを確認し、ムラが発生している場合は、濃度を調整します。



［カラー］

調整する色を選択します。

［形状］

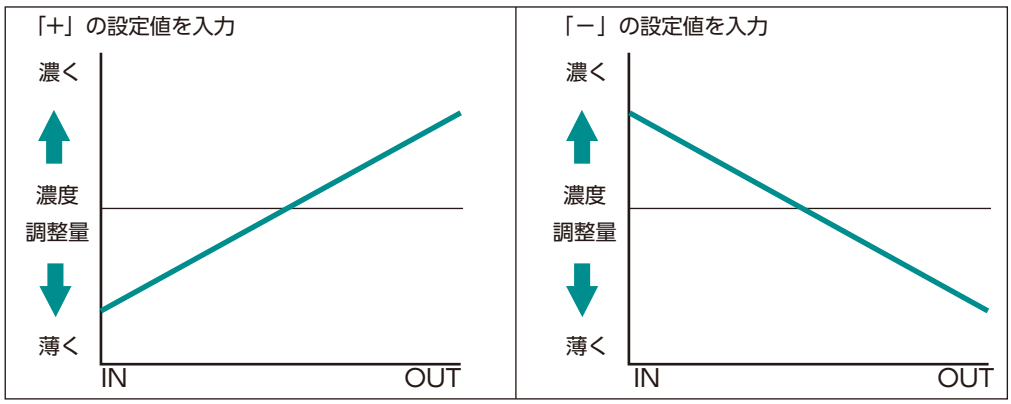
プリントサンプルへの濃度分布調整量を形状 1 ～ 6 のうちから選択します。

［レベル］

プリントサンプルの濃度差のレベルを 1 ～ 6 のうちから選択します。レベル 1 は調整量がないことを表し、値が大きいほど調整量が大きいことを表します。

[傾き]

プリントサンプルに対して、濃度分布を次のように調整します。調整量を -17 ～ 17 の範囲で設定します。値が大きいほど調整量が大きいことを表します。



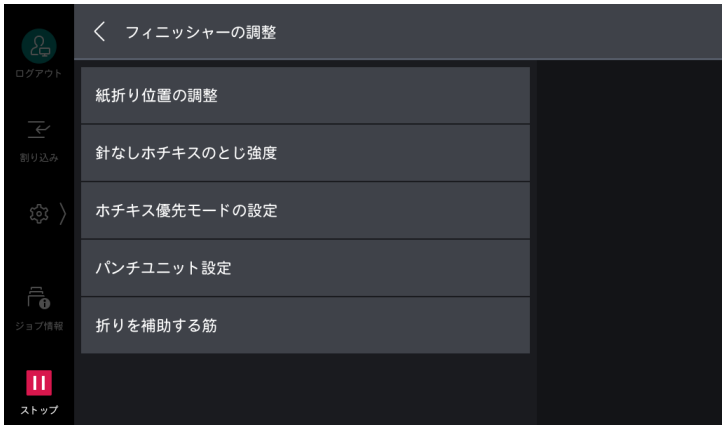
補足

- 濃度分布がこれらのパターンとは異なるときは、[形状]、[レベル] を使用して調整してください。

7. **調整したあと、再度 [サンプル出力] でプリントサンプルをプリントして、調整結果を確認します。**

8. **正しく調整できたら、[OK] をタップします。**

[フィニッシャーの調整]



補足

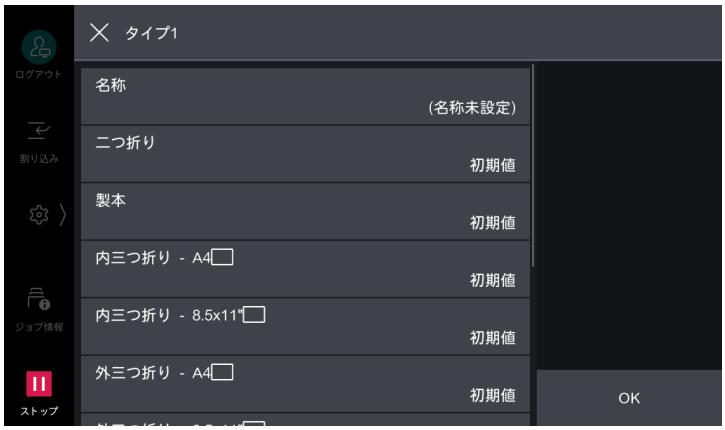
- 表示される項目は、機器の構成によって異なります。

項目	説明
[製本折り位置の調整]	製本折り位置を、JIS B4 未満 / 以上の場合でそれぞれ設定します。 **参照** • 製本折り位置の調整方法については、『リファレンスガイド 付録編』の「製本折り位置の調整」を参照してください。
[パンチ位置の調整]	パンチ位置を、JIS B4 未満 / 以上の場合でそれぞれ設定します。

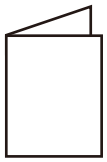
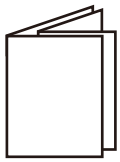
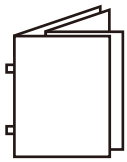
項目	説明
[紙折り位置の調整]	用紙種類や枚数に応じた折り位置の調整値を登録できます。 登録した補正値は、用紙トレイに割り当てることができます。 **補足** • [ショートカット作成] をタップすると、コントロールメニューの [ショートカット一覧] に本項目のショートカットを登録できます。 • 一般ユーザーが本項目を調整できるように設定できます。「[その他の設定]」(P.146) で [一般ユーザーの調整機能操作] を [許可] に設定します。一般ユーザーが調整する場合は、コントロールメニューの [ショートカット一覧] から調整してください。 **参照** • 詳しくは、「[紙折り位置の調整] のタイプの設定」(P.247) を参照してください。
[針なしホチキスのとじ強度]	針なしホチキスを使用する場合のとじ強度を設定します。
[ホチキス優先モードの設定]	針あり、または針なしのどちらを優先するかを設定します。 **補足** • [針なし専用] に設定しても、中とじ用のホチキスは使用できます。
[パンチユニット設定]	パンチユニットを設定します。
[折りを補助する筋]	中とじ時の膨らみを抑えるための折り目をつける（筋入れする）ことができます。筋の本数を増やすほど、膨らみは軽減されますが、排出速度は遅くなります。

[紙折り位置の調整] のタイプの設定

タイプごとに名前をつけて、二つ折り、製本、内三つ折り、外三つ折り、Z 折りの折り位置の調整値を画面の指示に従って、設定します。



紙折り

二つ折り	製本	製本＋ホチキス
		

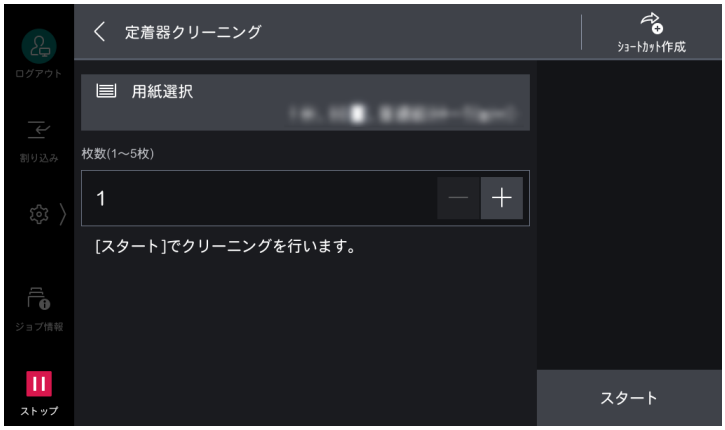
内三つ折り	外三つ折り	Z 折り

参照

- 紙折り位置の調整方法については、『リファレンスガイド 付録編』の「紙折り位置の調整」を参照してください。

[定着器クリーニング]

定着ロールに付着した汚れをクリーニングすることで、黒点と黒線状の汚れを改善できます。
セットした用紙を使用してクリーニングを行います。



補足

- A4□、またはレター□以上のサイズの用紙をセットしてください。
- [ショートカット作成] をタップすると、コントロールメニューの [ショートカット一覧] に本項目のショートカットを登録できます。

[機械の詳細設定]

本機の動作の詳細を設定します。

設定可能な主な機能

設定番号	説明	設定値
740-290	センタートレイに用紙がある場合に、センタートレイのお知らせライトが点灯するかどうかを設定します。	0：無効 1：有効（初期値）
740-291	インナー排出トレイに用紙がある場合に、センタートレイのお知らせライトが点灯するかどうかを設定します。	0：無効 1：有効（初期値）
740-292	サイドトレイに用紙がある場合に、センタートレイのお知らせライトが点灯するかどうかを設定します。	0：無効 1：有効（初期値）
785-070	原稿詰まりや原稿の重送検知時に、すべての原稿を再セットするか、読み取り済みの原稿以外を再セットするかを設定します。	1：最初の原稿からやり直し 2：詰まった原稿から再開（初期値）

[機械の詳細設定] の設定値を変更する

1. 機械管理者モードにログインします。

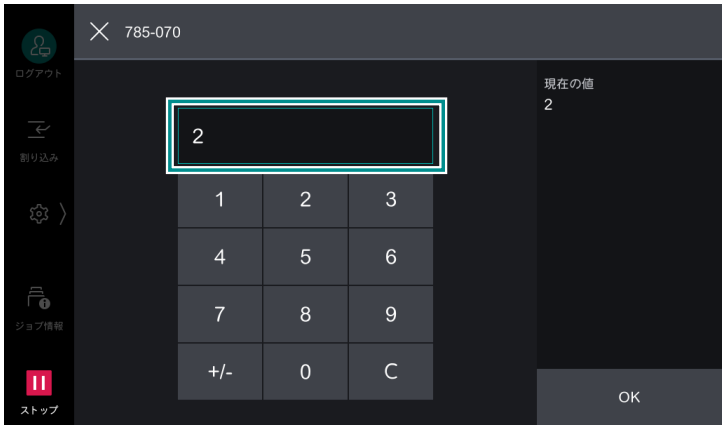
2. ⚙ > [設定] > [保守] > [機械の詳細設定] をタップします。

3. [設定番号] に設定番号を入力します。

入力した設定番号の現在の設定値が [現在の値] に表示されます。

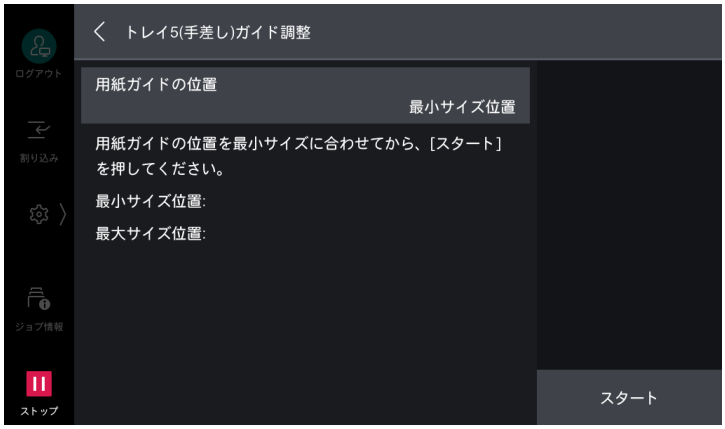
4. ［変更］をタップします。

5. 変更する設定値を入力し、［OK］をタップします。

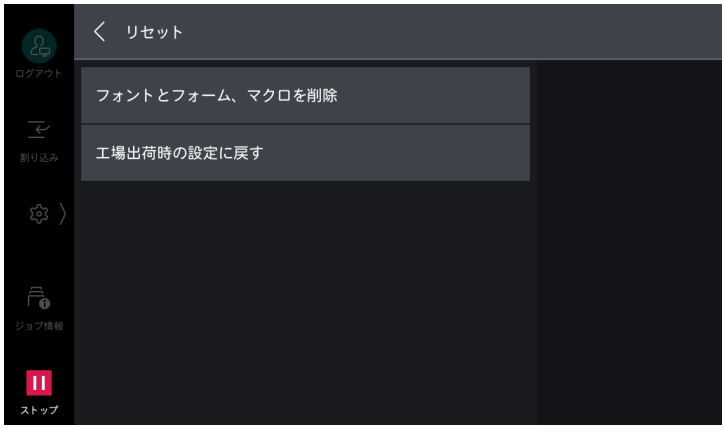


［トレイ 5（手差し）ガイド調整］

［トレイ 5（手差し）］のガイド幅の検知精度を補正します。



11.9　[リセット]



[フォントとフォーム、マクロを削除]

本機内にダウンロードされたフォントデータ、フォームデータ、マクロデータをすべて消去します。

[工場出荷時の設定に戻す]

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。

12 認証と集計管理機能

12.1 概要

認証機能を利用すると、本機自体の利用を制限したり、サービスごとに利用を制限したりできます。また、サービスの使用状況をユーザーごとに集計して管理することもできます。

ユーザーの種類

認証機能を利用しているときは、次のユーザーに分けられます。

機械管理者

使用環境に合わせてシステムの設定値を登録 / 変更できるユーザーです。

機械管理者は、機械管理者 ID という特別に定義されたユーザー ID を使用します。

認証ユーザー

本機、または外部のサーバーに登録されているユーザーです。それぞれのユーザー ID を使用して認証します。

認証ユーザーのユーザー ID には、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。1 つのユーザー ID には、最大 10 個のサブユーザー ID を関連づけできます。

補足

- 登録するユーザー ID は 32 文字以内で設定してください。
- サブユーザーを利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

認証未登録ユーザー

登録されていないユーザーです。

認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。

管理の権限と権限グループ

本機でユーザーごとに管理の権限や権限グループを設定できます。

外部認証先に弊社商品（別売）を利用している場合は、弊社商品（別売）で設定します。外部認証先に LDAP、または Microsoft Entra ID を利用している場合は、インターネットサービスで設定します。

管理の権限

認証ユーザーごとに機械管理や集計管理の権限を設定できます。

機械管理の権限

機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、次の操作はできません。

- ボックスの操作
- ジョブフローの操作
- 機械管理者パスワードの変更

集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー情報の登録、削除、変更（パスワードだけ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- User ID の代替表記 /User ID の入力表示の変更
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

権限グループ

利用制限に対する操作を許可する権限をグループ分けして、認証ユーザーを登録できます。権限グループに属したユーザーは、機械管理者と同様に操作を実行できます。

参照

- 「権限グループ」(P.261) を参照してください。

利用制限

全体での利用制限

認証モードでは、本機と各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要です。

参照

- アクセス制御については、「[認証の設定]」(P.222) を参照してください。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限、上限ページ数、ジョブフロー、ボックスの作成、編集、利用を制限できます。

参照

- 「認証 / 集計モードで利用制限や集計管理ができるサービス」(P.257)、「ジョブフローとボックスの認証」(P.258) を参照してください。

認証の種類と認証方法

認証の種類

本体認証

本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理します。

認証 / 集計モードを［本体認証 / 集計］/［ネット認証 / 集計］に設定したときに「本体認証」になります。

補足

- クライアントコンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアントコンピューターのプリンタードライバーで設定した認証情報と、本機に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。
- ［ネット認証 / 集計］に設定したときは、外部サービスで管理しているユーザー情報を本機に登録して認証に使用します。

外部認証

外部の認証サーバー（LDAP、Kerberos、弊社商品（別売）、または Microsoft Entra ID が使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して認証します。本機にユーザー情報は登録しません。

認証 / 集計モードを［外部認証 / 集計］に設定したときに「外部認証」になります。

補足

- 外部認証キットが必要です。
- 外部認証時（弊社商品（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得したアクセス許可情報に基づき、本機のタッチパネルディスプレイから利用可能なサービスを利用できます。

認証方法

ユーザー ID 認証

ユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機、または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、本機のタッチパネルディスプレイから直接ユーザー ID やパスワードを入力して認証します。

カード認証

カードに登録されているカード番号、またはユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機、または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、カードを使用して認証します。

カード認証とユーザー ID 認証の併用

ユーザー ID 認証とカード認証を併用できます。

補足

- 本体認証でカード認証とユーザー ID 認証を併用する場合、[IC カード接続時の認証］で［IC カードまたはパネル入力］に設定します。IC カード接続時の認証については、「[認証の設定]」(P.222) を参照してください。

集計管理機能

集計管理モードの種類

本体集計管理

本機にあらかじめ登録されている認証ユーザー情報を利用して、ユーザー別に集計管理します。

認証 / 集計モードを［本体認証 / 集計］に設定したときに「本体集計管理」になります。

補足

- ユーザー別集計管理レポートは、次のユーザーがプリントできます。
  - 機械管理者
  - 機械管理の権限が設定されているユーザー
  - 集計管理の権限が設定されているユーザー

ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

認証 / 集計モードを［ネット認証 / 集計］に設定したときに「ネット集計管理」になります。

補足

- 外部サービスで管理されているユーザー情報は、外部サービスから本機に送られてきて、本機に登録されます。外部サービスで管理されているユーザー情報が更新された場合は、外部サービスからユーザー情報を本機に送信する必要があります。

認証サーバーによる集計管理

認証サーバーを使用して集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

認証 / 集計モードを［外部認証 / 集計］に設定し、［認証システム］が［Authentication Agent］の場合に「認証サーバーによる集計管理」になります。

補足

- ［認証システム］が［Authentication Agent］以外の場合、認証サーバーでは集計をしません。

本体集計管理で集計できるサービス

サービスごとのジョブで、集計管理できる情報について説明します。

プリント

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
通常プリント	本機用プリンタードライバー	認証ユーザー	プリント面数 / 枚数
	本機用プリンタードライバー以外 *1	認証未登録ユーザー	
セキュリティープリント	文書のプリント	認証ユーザー	
サンプルプリント			
ボックスからのプリント			
時刻指定プリント			
認証プリント			
プライベートプリント			
メール受信プリント *1		認証未登録ユーザー	

*1 :インターネットサービスで、［認証 / 集計 / 権限］＞［権限設定］＞［アクセス制御設定］＞［ユーザー指定なしプリント］を［制限しない］にした場合にプリントできます。

スキャナー

対象サービス	集計対象ユーザー	管理項目
メール送信	認証ユーザー	スキャン読み取り、メール送信
ボックス保存		スキャン読み取り
スキャン送信		スキャン読み取り、ファイル転送
USB 保存		スキャン読み取り

ファクス

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
ファクス送信	自動送信	認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
	手動送信（発呼、着呼）		

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
ファクス受信、プリント	自動受信プリント	_ *1	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	手動受信プリント（発呼、着呼）		
ファクス親展受信	自動親展受信	_ *1	受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数
ファクスポーリング	自動送信（親展送信）	認証未登録ユーザー	ファクス送信回数 / 面数
	自動受信プリント	認証ユーザー	ポーリング回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	予約文書確認プリント（ボックス、ポーリングボックス）	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数
ダイレクトファクス送信		認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
インターネットファクス送信		認証ユーザー	インターネットファクス送信回数 / 面数
インターネットファクス受信、プリント	自動受信プリント	_ *3	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	自動親展受信		受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数
インターネットファクス受信、ファクス転送	ファクス自動送信（転送）	_ *4	ファクス送信回数 / 面数、通信度数

*1 :ファクス受信として集計されます。
*2 :［ボックスからのプリント］が［制限しない］に設定している場合は、認証未登録ユーザーで集計されます。［ボックスからのプリント］については、「［認証の設定］」(P.222) を参照してください。
*3 :インターネット受信として集計されます。
*4 :インターネット受信ファクス転送として集計されます。

■ ファクスの集計管理をするときの注意制限事項

- 別々のユーザーから同じ宛先に送信しても、一括送信の対象になりません。
- 通信度数は、本機内の独立したタイマーで計算しています。このため、通信度数から計算した通信料金が、電話会社などからの料金請求と若干の差異を生じることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ページ分割をして受信したときは、プリントした枚数ではなく、受信した面数でカウントします。
- 通信度数は、次の通信時には集計されません。
  - キーパッドでの番号入力、またはオンフック / オフフックを使用したとき
  - 課金情報が登録されていない宛先を使用したとき
  - 通話をしたとき（通信前に通話をしたときも含みます）

■ ファクスでの課金

次の場合、課金されません。

- キーパッドから番号を入力してダイヤルしたとき
- 課金情報が登録されていない宛先に通信したとき
- 手動受信、手動送信、手動ポーリングしたとき
- 通話をしたとき

認証 / 集計モードで利用制限や集計管理ができるサービス

利用制限できるサービスと集計管理できるサービスは次のとおりです。

認証 / 集計モードが［本体認証 / 集計］のとき

○：できる、×：できない

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計
	機能別利用制限	上限ページ数	
[コピー]	○	○	○
[プリント]	○	○	○
[スキャン]	○	○	○
[ファクス]	○	×	○

認証 / 集計モードが［ネット認証 / 集計］のとき

○：できる、×：できない

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
[コピー]	○	×	○
[プリント]	○	×	○
[スキャン]	○	×	○
[ファクス]	○	×	○

*1 ：弊社商品（別売）で利用制限できます。
*2 ：弊社商品（別売）で集計できます。

認証 / 集計モードが［外部認証 / 集計］のとき

○：できる、×：できない

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
[コピー]	○	×	○
[プリント]	○	×	○
[スキャン]	○	×	○
[ファクス]	○	×	○

*1 ：弊社商品（別売）で利用制限できます。
*2 ：弊社商品（別売）で集計できます。

12.2　ジョブフローとボックスの認証

ジョブフローとボックスの利用条件

- 外部認証、または本体認証利用時に、認証ユーザーが作成したジョブフローとボックスは、認証方式を変更すると削除されます。
- 次の場合、認証方式を変更しても、ジョブフローとボックスは削除されません。
  - 機械管理者が作成したもの
  - 認証機能を利用していないときに一般ユーザーが作成したもの

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、ボックスやジョブフローを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証 / 集計］、または［ネット認証 / 集計］設定時、認証されたユーザーと機械管理者
  - ［外部認証 / 集計］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー

ボックスの作成

認証機能を利用しているときに、ボックスを作成 / 利用できるボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書プリント、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての認証未登録ユーザー *2/ すべての認証ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *1、設定変更 *1、文書表示、文書削除、文書登録、文書プリント、ジョブフロー関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

*1 :機械管理者だけ操作できます。
*2 :機械管理者モードの認証機能の運用設定で、ボックスの操作を許可している場合に利用できます。

［ボックス操作］画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者、利用できるユーザー、および利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集 *1、表示、複製 *2、削除 *1、選択、実行、ボックスへの関連づけ

*1 :機械管理者だけ操作できます。
*2 :複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

［ジョブフロー登録］からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者、利用できるユーザー、および利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集 *1、表示、複製 *2、削除 *1、選択、実行

*1 :機械管理者だけ操作できます。
*2 :複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

認証機能を利用していない場合

ボックスの作成

ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書プリント、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *1、設定変更 *1、文書表示、文書削除、文書登録、文書プリント、ジョブフロー関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

*1 :機械管理者だけ操作できます。

補足

- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を利用しての文書登録、文書プリントは認証の対象外です。

[ボックス操作] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者、利用できるユーザー、および利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集 *1、表示、複製 *2、削除 *1、選択、実行、ボックスへの関連づけ

*1 :機械管理者だけ操作できます。
*2 :複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

[ジョブフロー登録] からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者、利用できるユーザー、および利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集、複製、削除、選択・実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集 *1、複製 *2、削除 *1、選択・実行

*1 :機械管理者だけ操作できます。
*2 :複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

12.3　ユーザー認証機能の有効化

本体認証をする場合、次の順に設定します。

- 「認証と集計方式」(P.260)
- 「アクセス制御」(P.260)
- 「権限グループ」(P.253)
- 「ユーザー登録（本体認証）」(P.263)

外部認証をする場合、次の順に設定します。

- 「認証と集計方式」(P.260)
- 「アクセス制御」(P.260)
- 「認証システムの設定（外部認証）」(P.265)

補足

- 認証時にパスワードの入力を必須にするには、[パスワード使用 - パネル入力時]、または［パスワード使用 - IC カード認証時］を［する］に設定します。詳しくは、「[認証の設定]」(P.222) を参照してください。
- ここでの設定は、機械管理者モードへのログインが必要です。

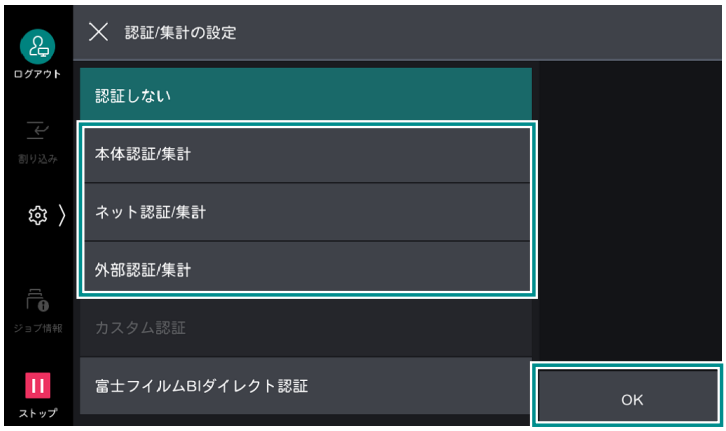
認証と集計方式

補足

- ［集計管理］の［認証 / 集計の設定］でも認証と集計の方式を設定できます。

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［認証 / 集計の設定］をタップします。

2. [本体認証 / 集計]、または［外部認証 / 集計］を選択し、[OK］をタップします。



アクセス制御

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［アクセス制御］をタップします。

2. ［デバイスへのアクセス］をタップし、[制限しない]、または［制限する］を選択します。

3. ［サービスへのアクセス］をタップします。

4. **操作に認証が必要かをサービスごとに設定します。**

補足

- ［制限する（表示）］に設定すると、認証していない状態でホーム画面の機能ボタンをタップしたときに、認証画面が表示されます。
- ［制限する（非表示）］に設定すると、認証していない状態ではホーム画面に該当する機能ボタンが表示されません。

5. **［<］をタップします。**

6. **［機能の制限］をタップします。**

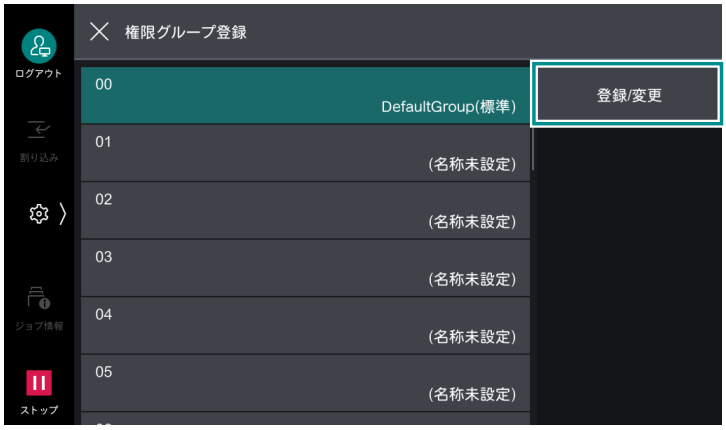
7. **変更する機能で［制限しない］、または［制限する］を選択します。**

権限グループ

ユーザーに割り当てる権限グループを登録します。

1. **⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［権限グループ登録］をタップします。**

2. 登録する権限グループ No. を選択し、［登録 / 変更］をタップします。



補足

- 次のユーザーは、No.00 の［DefaultGroup（標準）］（デフォルト権限グループ）に属します。
  - 新規作成したユーザー
  - 認証する前のユーザー
  - 外部認証で［認証システム］が［Authentication Agent］以外の認証ユーザー
- デフォルト権限グループもほかの権限グループと同様に変更できます。

3. ［グループ名］をタップし、名称を入力して［OK］をタップします。

4. 変更する権限をタップし、設定を選択します。

［宛先指示方法の制限］

アドレス帳に登録されていない宛先への送信が制限されているときに、制限を解除できます。

［アドレス帳登録 / 変更の制限］

アドレス帳の編集が制限されているときに、制限を解除できます。

［強制印字の一時解除］

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されているときに、強制印字を一時的に解除できます。

［複製制限コード検出時の動作］

ジョブ禁止コードが埋め込まれていることを検知した場合に、一時的にジョブを継続することを許可できます。

ユーザー登録（本体認証）

本体認証を設定したときの認証ユーザーを本機に登録します。
ユーザーごとに管理権限、サービスの利用制限や上限ページ数を設定できます。

補足

- ［集計管理］の［ユーザー登録 / 集計確認］でもユーザーを登録できます。

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［ユーザー登録 / 集計確認］をタップします。

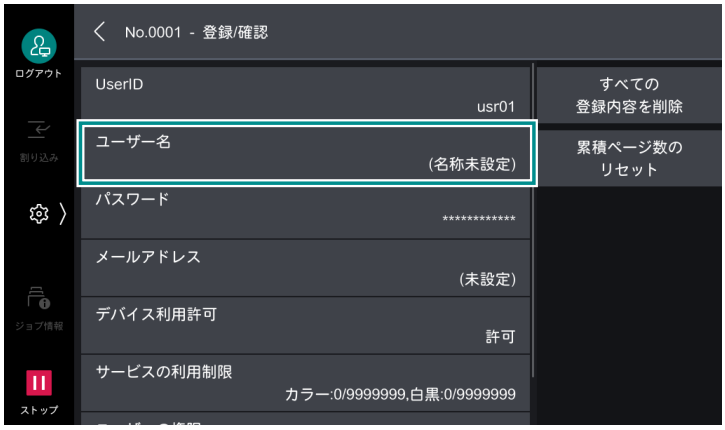
2. ユーザーを登録する欄をタップします。

補足

- ユーザーの登録欄には 4 桁の固有番号（ユーザー登録番号）が振られています。

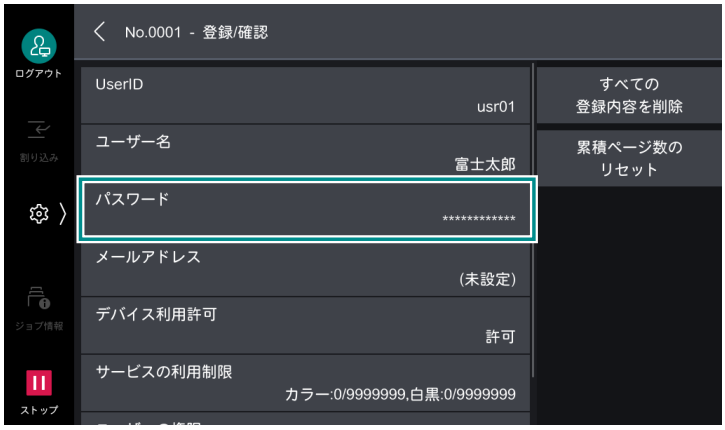
3. ユーザー ID を入力し、［OK］をタップします。

4. ［ユーザー名］をタップします。



5. ユーザーの表示名を入力し、［OK］をタップします。

6. ［パスワード］があるときは、パスワードを設定します。

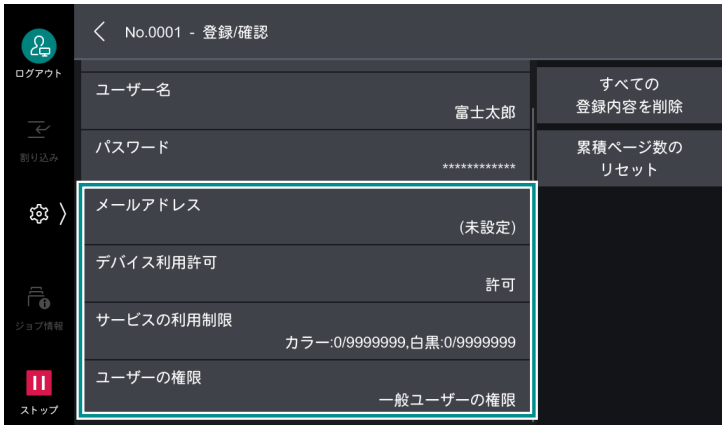


7. ［パスワードを入力］をタップし、パスワードを入力します。

8. ［次へ］をタップし、同じパスワードを入力します。

9. ［OK］をタップします。

10. **必要に応じて利用制限や権限を設定します。**



[メールアドレス]

認証時にメール送信での［送信者］の初期値に使用されます。

[デバイス利用許可]

本機の利用を許可できます。

補足

- IC カードリーダーが接続されている場合、許可することを認証方法ごとに設定できます。

[サービスの利用制限]

サービスごとに利用制限や上限ページ数を指定します。サービスを選択してから［機能制限］、または［上限ページ数］を設定し、［OK］をタップします。

[ユーザーの権限]

ユーザーに権限を与えることができます。権限グループは［権限の追加設定］で設定します。

- ［一般ユーザーの権限］
  管理権限を持たない通常のユーザー権限です。
- ［機械管理の権限］
  機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、ボックス / ジョブフローの操作、機械管理者のパスワード変更はできません。
- ［集計管理の権限］
  集計管理に関する次の権限が与えられます。
  - ユーザー情報の登録 / 変更（一部）/ 削除
  - 集計管理の登録 / 変更 / 削除
  - User ID の代替表記 /User ID の入力表示の変更
  - Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
  - ユーザー別集計管理レポートのプリント

登録ユーザーの削除（本体認証）

補足

- 削除するユーザーがオーナーになっているジョブフロー、ボックス、およびボックス内の文書も削除されます。

ユーザーを個別に削除する

1. **⚙ >［設定］>［認証 / 集計管理］>［認証 / セキュリティー設定］>［認証の設定］>［ユーザー登録 / 集計確認］をタップします。**

2. **削除するユーザー登録番号を選択します。**

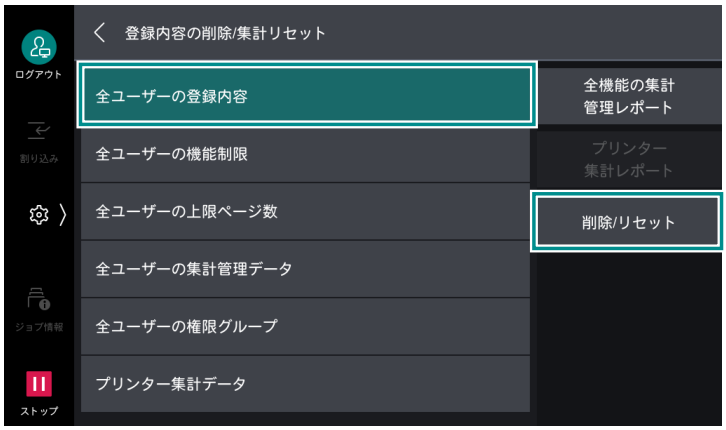
3. ［すべての登録内容を削除］をタップします。

4. ［はい（削除する）］をタップします。

すべてのユーザーを削除する

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［登録内容の削除 / 集計リセット］をタップします。

2. ［全ユーザーの登録内容］＞［削除 / リセット］をタップします。



3. ［はい（削除する）］をタップします。

認証システムの設定（外部認証）

外部認証サーバーを本機に登録します。

1. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［認証システムの設定］＞［認証システム］をタップします。

2. 外部認証サーバーの種類を選択し、［OK］をタップします。

補足

- 弊社商品（別売）を外部認証先として使用する場合は、［Authentication Agent］を選択します。

3. ［Authentication Agent］以外を選択した場合は、［<］をタップしてから認証サーバーの情報を登録します。

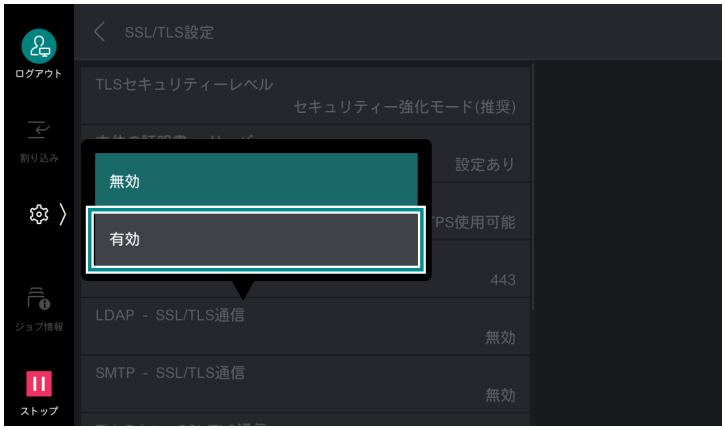
参照

- Microsoft Entra ID の設定については、インターネットサービスのヘルプを参照してください。

そのほかの設定事例（LDAP）

本機と LDAP サーバー間の通信の暗号化

1. ⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［セキュリティー設定］＞［SSL/TLS 設定］をタップします。
2. ［LDAP - SSL/TLS 通信］を［有効］に設定します。



3. ［<］を 2 回タップします。
4. ［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］をタップします。
5. ［LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［プライマリーサーバー - ポート番号］をタップします。

6. LDAPS が稼働するポート番号を入力し、［OK］をタップします。

補足

- 通常は 636 番ポートが使われますが、確認のうえ設定してください。

Active Directory で信頼関係を構築した LDAP サーバーのユーザーでのログイン

次の条件を満たしている場合を例に、信頼関係先のドメインサーバー上のユーザーで本機にログインするための手順を説明します。

- ドメイン名に「w2k8adtest.local」が設定されている。
- ［Active Directory ドメインと信頼関係］で信頼関係が構築されている。

参照

- ［Active Directory ドメインと信頼関係］については、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

1. **⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定］をタップします。**

2. **［リフェラルの使用］を［使用する］に設定します。**

3. **必要に応じて、［リフェラルのホップ数上限］を設定します。**

補足

- 接続するサーバー数の上限は［リフェラルのホップ数上限］で設定された数値までです。「5」と設定した場合、5 つの信頼関係先まで接続し、それ以上は接続しません。
- ［検索用の認証ユーザー］について、信頼関係先の LDAP サーバーにもアクセス資格が必要になります。
- セキュリティ機能の観点から、LDAPS が設定されている場合、非暗号の信頼関係先には接続しません。

ログインに時間がかかり、同じユーザーでログインに成功したり、失敗したりする場合

次の原因が考えられます。

- LDAP サーバーの検索範囲が大きすぎる
- 検索範囲に含まれるエントリー数が多すぎる

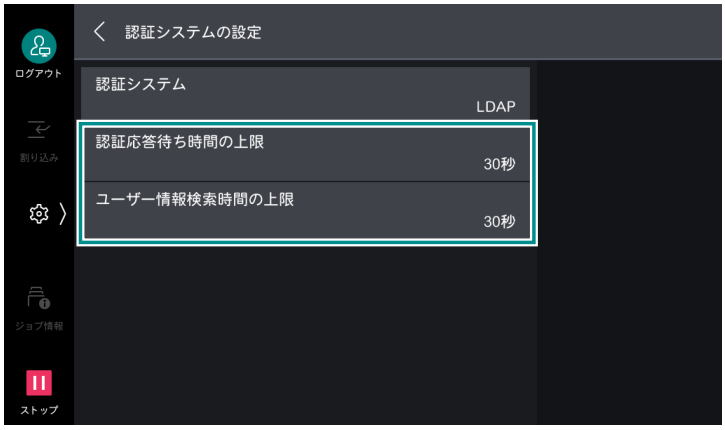
［検索起点エントリー（DN）］と［起点からの検索範囲］を見直します。詳しくは、「［LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定］」(P.204) を参照してください。

また、本機の LDAP サーバーへの通信時の待ち時間を十分長い時間に設定することでログインの失敗を回避できることがあります。ただし、ログインにかかる時間は短縮されないため、あくまでも暫定的な回避方法です。

次の手順で通信時の待ち時間を設定できます。

1. **⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［認証システムの設定］をタップします。**

2. 次の設定を確認し、必要に応じて変更します。



[認証応答待ち時間の上限]

LDAP サーバーに認証要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。ネットワークへの負荷が疑われる場合には、この値を変更します。

[ユーザー情報検索時間の上限]

LDAP サーバーに検索要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。LDAP サーバーへの負荷が疑われる場合には、この値を変更します。

12.4 IC カードの登録

補足

- 仮登録ユーザーでジョブを実行している間は、IC カードの登録、再登録をしないでください。
- IC カード登録を操作中に、メニューボタンなどで設定画面を閉じたり、放置して自動リセットが動作したりした場合は、仮登録ユーザーが残ることがあります。その場合は、機械管理者が操作パネル、または Device Setup（デバイス設定ツール）で削除できます。仮登録ユーザーのユーザー名は［IC カード認証時のユーザー登録］の初期値に設定されています。

新規登録

Active Directory アカウントを持つユーザーの場合（外部認証）

1. 未登録の IC カードを本機の IC カードリーダーにかざします。

2. Active Directory の ID とパスワードを入力して、［登録］をタップします。

Active Directory アカウントを持つユーザーの場合（本体認証）

1. 未登録の IC カードを本機の IC カードリーダーにかざし、［仮登録ユーザー］として認証します。

2. ［IC カード登録］をタップします。

3. **認証先に［ActiveDirectory® サーバー］を選択し、Active Directory の ID とパスワードを入力して、［登録］をタップします。**

補足

- サービスの利用をユーザーごとに制限したい場合は、機械管理者が設定してください。
- この手順で入力したパスワードが、本機のパスワードとして登録されます。Active Directory のパスワードを変更しても、本機のパスワードは自動で更新されません。Active Directory のパスワードを変更する場合は、本機の操作パネルでパスワードを変更してください。

Active Directory アカウントを持たないユーザー（本体ユーザー）の場合

1. **事前にユーザー情報（ID・パスワード）が登録されていることを、機械管理者に確認します。**
2. **未登録の IC カードを本機の IC カードリーダーにかざし、［仮登録ユーザー］として認証します。**
3. **［IC カード登録］をタップします。**
4. **認証先に［本体］を選択し、機械管理者から通知された ID とパスワードを入力して、［登録］をタップします。**

カードの再登録

カードを再発行する場合など、今まで使用していたカードとは異なるカードを上書き登録する場合は、次のように設定します。

1. **「新規登録」(P.268) と同じ操作をします。**
2. **次の画面が表示されたら、［はい（登録する）］をタップします。**
3. **［確認］をタップします。**

12.5　IC カードリーダーで認証するための設定

IC カードに登録した情報によって認証したり、IC カードに登録した情報と本機に登録したユーザー情報を照合したりして、本機の利用制限やジョブなどの集計管理ができます。

Step1　IC カードとパスワードの併用を設定する

外部認証で、IC カードを使用して本機にログインするときに、パスワードの入力を求めるかを設定します。

1. **⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［認証情報の設定］をタップします。**

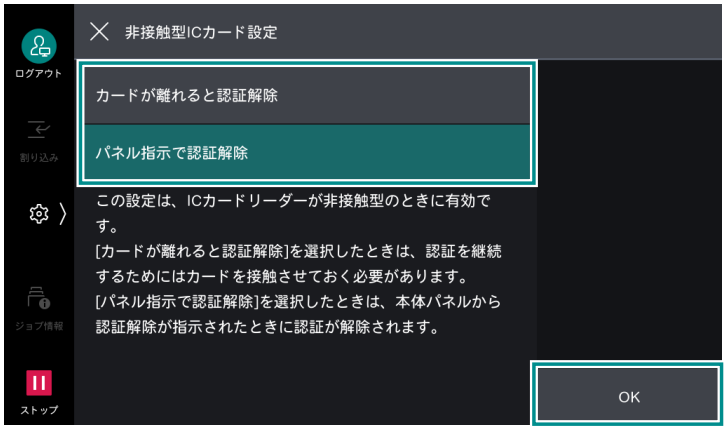
2. ［IC カード連携モード］＞［パスワード入力必要］をタップします。

Step2　IC カード使用時の認証解除を設定する

IC カード使用時の認証解除方法を設定します。

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［認証 / セキュリティー設定］＞［認証の設定］＞［認証情報の設定］＞［非接触型 IC カード設定］をタップします。

2. 認証の解除方法を選択し、［OK］をタップします。



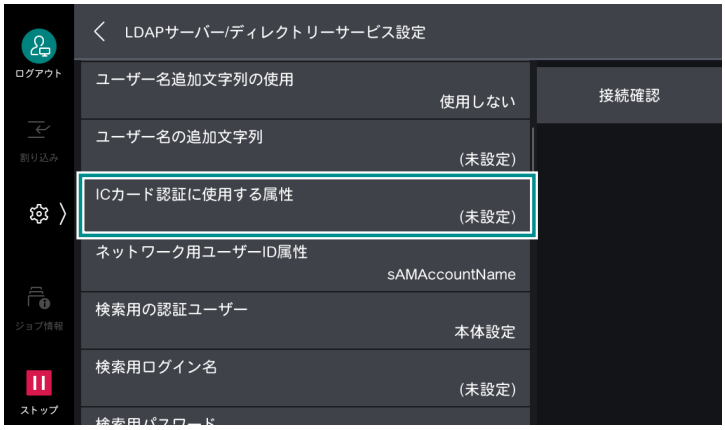
Step3　IC カード情報を登録する

機械管理者は、インターネットサービスを使用して、IC カード情報と認証に使用する情報を設定します。

Step4　LDAP サーバー（外部認証）の設定をする

IC カードの ID と対応させる属性と、認証したあとにユーザーの識別に使用する属性を設定します。

1. **⚙ ＞［設定］＞［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［LDAP サーバー / ディレクトリーサービス設定］＞［IC カード認証に使用する属性］をタップします。**



2. **IC カードの ID と対応させる属性名を入力し、［OK］をタップします。**

補足

- 属性にはあらかじめ IC カードの ID が登録されている必要があります。
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。

3. **［ネットワーク用ユーザー ID 属性］をタップします。**

4. **IC カードで認証したときに、ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力し、［OK］をタップします。**

補足

- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
- 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。

12.6　ユーザー認証の操作

登録ユーザーの認証

登録ユーザーを認証するには、本機のタッチパネルディスプレイを操作して認証する方法と、IC カードを IC カードリーダーにタッチして認証する方法があります。

登録ユーザーのパスワードの変更

登録ユーザーが、タッチパネルディスプレイ、またはインターネットサービスを使用して、パスワードの設定や変更ができます。

1. ⚙ ＞［設定］＞［認証 / 集計管理］＞［ユーザー情報の設定］＞［パスワード変更］をタップします。
2. 現在のパスワードを入力し、［OK］をタップします。
3. ［パスワードを入力］をタップし、新しいパスワードを入力します。
4. 新しいパスワードを入力し、［次へ］をタップし、同じパスワードを入力します。
5. ［OK］をタップします。

Microsoft Entra ID 利用時のユーザー認証

参照

- 「認証モードへのログイン」(P.34) を参照してください。